

上境旭台貝塚2

中根・金田台特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ

平成24年3月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第364集

かみ ざかい あさひ だい
上境旭台貝塚 2

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

平成 24 年 3 月

独立行政法人都市再生機構茨城地域支社
財団法人茨城県教育財団



上境旭台貝塚全景（南から）



第1号貝層・東部包含層断面（北東から）

序

茨城県では、つくば市を日本における科学技術の研究開発の中核都市として、さらには国際交流の拠点としてふさわしい街にすることを目指して整備を進めております。

この新しい街づくりの一環として、つくば市と独立行政法人都市再生機構茨城地域支社では、「つくばエクスプレス」の沿線開発を進める土地区画整理事業を計画的に推進しています。しかしながら、この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である上境旭台貝塚が所在することから、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から開発区域内における埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、平成19年4月から平成22年12月までの間に計5回にわたりこれを実施しました。平成19年4月から平成20年1月までに実施したA・B・C・D区の一部の調査成果については、『茨城県教育財団文化財調査報告』第325集として刊行したところであります。

本書は、平成21年度に調査を実施したB・D・F区の調査成果を取録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、委託者であります独立行政法人都市再生機構茨城地域支社から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木欣一

例 言

- 1 本書は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社の委託により、財団法人茨城県教育財団が平成21年10月から12月に発掘調査を実施した、茨城県つくば市栄字毘沙門439番地の1ほかに所在する上境 旭 台貝塚かみぎのいそとひたいの発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査	平成21年10月1日～12月31日
整理	平成23年4月1日～11月30日
- 3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	白田正子
主任調査員	小野政美 酒井雄一 飯田浩彦 小川貴行
調査員	作山智彦 大久保隆史
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、調査員江原美奈子が担当した。
- 5 石器・石製品の石材については、独立行政法人産業技術総合研究所地質標本館青木正博氏、下川浩一氏に御指導いただいた。貝塚から出土した動物遺体については、調査時に大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館考古研究部教授西本豊弘氏を講師として招聘し、取り上げ方法などについて御指導を頂いた。また同定についても同氏に依頼し、結果は本文中に観察表として掲載するとともに、考察は付章として巻末に掲載した。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅷ区座標に準拠し、 $X = + 12160 \text{ m}$ 、 $Y = + 26280 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」「B2区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」「B2b2区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP-炉跡 HG-遺物包含層 P-ピット PG-ピット群 R-流路跡 SE-井戸跡
SI-竪穴住居跡 SK-土坑 SM-貝層 SN-粘土採掘坑

遺物 B-骨・骨角製品 DP-土製品 P-土器 Q-石器・石製品 S-貝製品 TP-拓本記録土器
土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩		炉・火床面
	灰・粘土範囲		煤
	土器		土製品
	石器・石製品		骨・骨角製品
	貝製品		

ただし、第3章第3節(7)(8)(9)についてはこの限りではなく、個々に凡例を示した。

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量で記述した。

- 5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、kg、gである。なお、現存値は()を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E)。

- 7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にした遺構名は以下のとおりである。

変更 SI 6→PG 4 SI 7→SI 4 SI10→ローム土・遺物集中地点 SI11→第2号焼成遺構

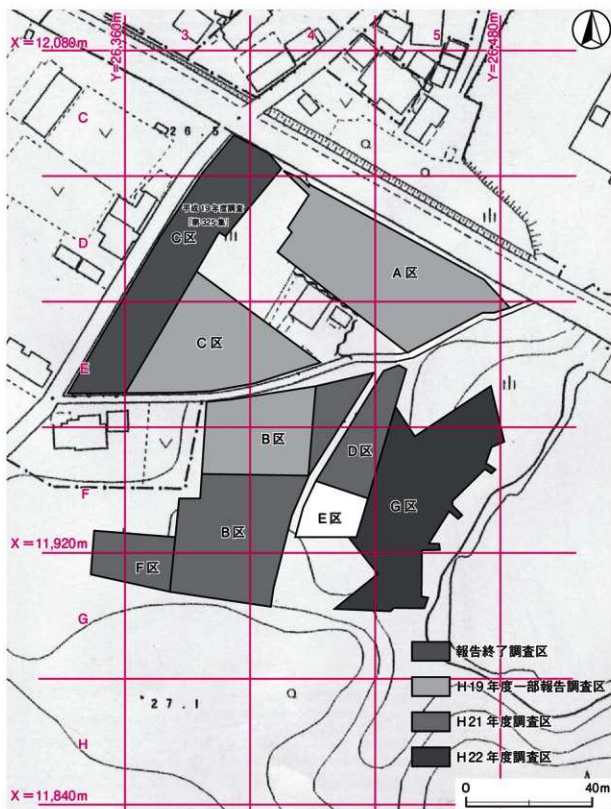
SK100→SN 1 HG 1→西部包含層 HG 2→西部包含層 HG 3→東部包含層

SX 1→SN 2 FP 1→FP 3

欠番 SI 6・7・9・10・11 SK100・102・112・123・168・172・186

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 竪穴住居跡	11
(2) 炉跡	41
(3) 粘土探掘坑	42
(4) 土坑	44
(5) ビット群	76
(6) 流路跡	81
(7) 斜面貝層	82
(8) 遺物包含層	110
(9) 焼成遺構	149
2 中世・近世の遺構と遺物	152
(1) 井戸跡	152
(2) 粘土探掘坑	153
第4節 まとめ	154
付 章 上境旭台貝塚の動物遺体	159
写真図版	PL1～PL16
抄 録	
付 図	

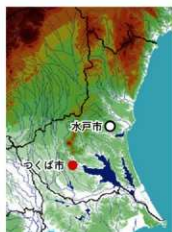


第1図 上境旭台貝塚調査区設定図（「つくば市都市計画基本図」1/2500から作成）

かみざかい ぬりひ だい かい づか 上境旭台貝塚の概要

遺跡の位置と調査の目的

上境旭台貝塚は、つくば市の東部、桜川右岸の標高約24～27mの台地斜面部に位置しています。今回の調査は土地区画整理事業に伴うもので、茨城県教育財団が、平成21年10月～12月の3か月間で、2,898㎡の面積を調査しました。



調査の内容

今回の調査では、縄文時代後期後葉（約3,000年前）から晚期中葉（約2,600年前）の竪穴住居跡5軒、炉跡2基、墓坑1基、土坑78基のほか、斜面貝層2か所、遺物包含層1か所などを確認しました。主な出土遺物は、大量の縄文土器や土製品（土偶など）、石器（やじり 鎌・いしざら 石皿・すりいし 磨石など）、石製品（まがたま 勾玉・せきけん 石剣など）のほか、サルボウガイ属やハマグリを材料にした貝輪や貝刃、イモガイ製の装身具、こっかく 骨角製のしとつぐ 刺突具やヘアピンなどがあります。



調査区全景（東上空から）

—上境旭台貝塚の遺構や遺物—



第1号貝層の堆積状況です。汽水産のヤマトシジミを中心に、干潟や内海に生息するハマグリやシオフキガイなどが少量含まれています。当時の海水をたたえた古霞ヶ浦湾とそこに流入していた桜川河口が貝の採取地となっていたと考えられます。



第2号貝層と、貝層下で確認された焼成遺構です。焼土と灰が広がり、火床面が形成されていました。強い火を受けて、表面が発泡した土器片なども出土しています。



今回の調査で出土した土器は、総量で約1.7 tありました。貝塚からは後期後葉から晩期前葉を中心とした土器が多く出土しており、なかには東北地方や関西地方の文様を描く土器もあります。また製塩活動に関係すると考えられている、薄手で赤褐色の土器も多量に出土しました。

調査の成果

上境旭台貝塚は縄文時代後期後葉から晩期中葉にかけて、台地上から台地縁辺部に集落が営まれ、谷津に面する斜面部に不要になった土器や石器、食べかすの貝や獣骨などを廃棄した貝塚を残す遺跡であることが分かりました。多量の遺物を含んでいる厚い遺物包含層も、同様の「捨場」であったと考えられます。当時内海であった古霞ヶ浦湾沿岸地域では、桜川の5 kmほど下流にある土浦市上高津貝塚や美浦村の法堂遺跡など、製塩活動をした炉跡や土器が出土する遺跡が多く見られます。当遺跡の貝層下で確認できた焼成遺構は、あるいは製塩活動に関わるものであったのかもしれませんが。

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

つくば市は、世界に開かれた国際交流の中心、世界の科学技術をリードする研究開発の拠点として、21世紀の新しい街づくりを進めている。その一環として取り組んでいるのが、2005年に開業した「つくばエクスプレス」に伴う沿線の開発である。中根・金田台地区については、住宅・都市整備公団つくば開発局（平成9年10月から住宅・都市整備公団茨城地域支社に、平成11年10月から都市基盤整備公団茨城地域支社に、平成16年7月から独立行政法人都市再生機構茨城地域支社に名称を変更）を事業主体として、土地区画整理事業を進めている。

平成6年11月18日、住宅・都市整備公団つくば開発局長は茨城県教育委員会教育長に対して、中根・金田台特定土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成7年度に現地踏査を実施した。さらに平成19年9月11日に、茨城県教育委員会は試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成19年9月27日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、事業地内に上境旭台貝塚が所在すること及びその取り扱いについて、別途協議が必要であることを回答した。

平成19年1月11日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成19年1月31日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成19年2月23日、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から茨城県教育委員会教育長あてに、中根・金田台特定土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書が提出された。平成19年2月27日、茨城県教育委員会教育長は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長あてに、上境旭台貝塚について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、A・B・C・D区の2,878m²について、平成19年4月から平成20年1月までに、断続的に3回の発掘調査を実施し、平成21年3月に報告書を刊行した。さらにB・D・F区の2,898m²について、平成21年10月1日から同年12月31日まで発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

平成21年度調査経過については、その概要を表で記載する。

工程 \ 月	10月	11月	12月
調査準備 表土除去 遺構確認			
遺構調査			
遺物洗浄 注記 写真整理			
補足調査 撤収			

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

上境旭台貝塚は、茨城県つくば市栄字毘沙門439番地の1ほかに所在している。

つくば市は茨城県の南西部に位置し、市の東方約5kmに霞ヶ浦がある。市域の多くは標高25～26mのほぼ平坦な台地上にあり、この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれている。台地の両端には、桜川、小貝川が流れ、標高約5mの沖積低地を形成している。両河川に挟まれた台地は、花室川、蓮沼川、東谷田川、西谷田川などの中小河川に樹枝状に開析され、市の北東部は筑波山を中心とした筑波山塊に接している。

筑波・稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部であり、地質的には、新生代第四紀洪積世に形成された地層が堆積している。下層は成田層及び竜ヶ崎層と呼ばれる砂層・砂礫層が主体をなし、その上に常総粘土層と呼ばれる灰白色粘土層、さらに関東ローム層、腐植土層が連続して堆積している³⁾。

当遺跡は、つくば市の東部に位置し、桜川右岸の低地から入り込む谷津に面する標高24～27mの台地縁辺部に立地している。谷津は調査区の東側にあり、道路によって遮断されたため、現在はため池となっている。調査区の北側及び東側は谷津に向かって、南側は谷津から西側へ入り込む小支谷に向かって、緩やかに傾斜している。その台地縁辺部から斜面部にかけて貝の散布が確認されている。

当遺跡とその周辺の土地利用の現状は、台地上の縁辺部の一部が雑木林・杉林のほか、主として畑地として利用されている。桜川によって形成された沖積低地は、主に水田として利用されている。当遺跡の調査前の現況は、宅地・畑地・山林であった。

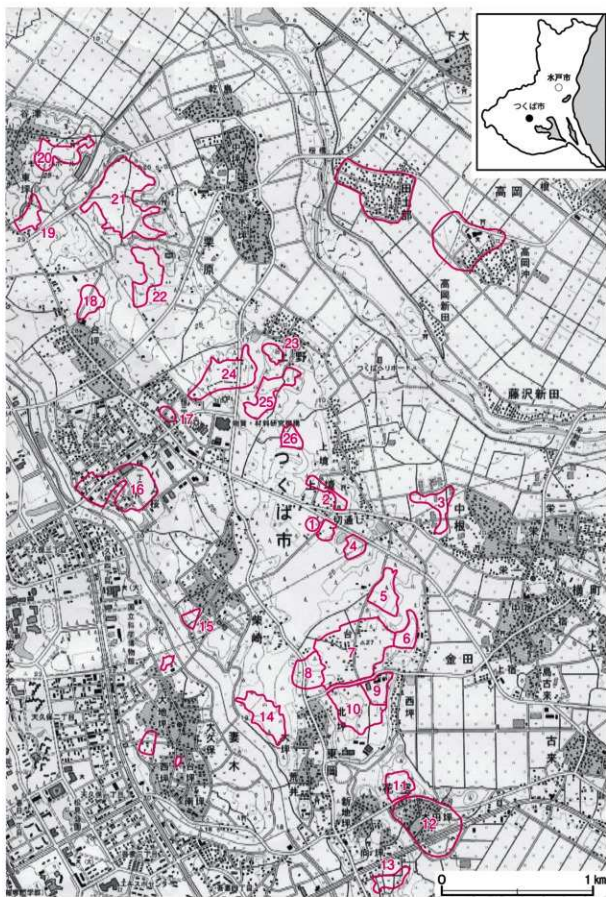
第2節 歴史的環境

桜川と花室川に挟まれた台地上には、数多くの遺跡が点在している²⁾。ここでは、当遺跡の主たる時期である縄文時代の遺構や遺物が確認されている遺跡を中心に、周辺の遺跡を概観する。

当該地で人々の生活痕跡が確認されるようになるのは後期旧石器時代にかさのぼり、東岡中原遺跡(14)では、³⁾荒屋型彫刻刀形石器を含む細石刃石器群が確認されている³⁾。

今から約1万2千年前に始まる縄文時代から、地球規模での温暖化により海面が少しずつ上昇し、内陸部に海水が浸入するいわゆる「縄文海進」により、縄文時代早期末から前期始めころには、霞ヶ浦周辺地域に広大な「内海」が形成される。この「内海」の形成と時を同じくして、台地縁辺部を中心に貝塚が作られるようになる。桜川下流域及び霞ヶ浦土浦入沿岸では、土浦市神宿貝塚群の早期末に遡る事例を最古として、前期の貝塚が確認できる。桜川水系の前期の貝塚としては、当遺跡の桜川低地を挟んで対岸約3kmに上坂田寺裏貝塚、下坂田鹿島前貝塚が、下流約4kmに穴塚貝塚がある。これらの貝塚は、内湾などの浅海の泥底に生息するハイガイを主体とする貝塚のようである。

中期になると遺跡数が増加し、後期あるいは晩期まで、継続して遺跡が営まれるようになる。当遺跡周辺においても、上境滝ノ墓遺跡(2)、中根不業塚遺跡(3)、金田西遺跡(7)、柴崎南遺跡(15)では中期の、金田西坪A遺跡(9)、金田西坪B遺跡(10)、花室遺跡(11)では、中期から後期にかけての遺構や遺物が確認されている。中期の貝塚は、阿見町竹来貝塚や見目貝塚など、霞ヶ浦に直面する台地上に位置し、サルボウガイ・ア



第2図 上境旭台貝塚周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000分の1「上郷」 「常陸藤沢」)

表1 上境旭台貝塚周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世
①	上境旭台貝塚		○		○			14	東岡中原遺跡	○	○			○	○	○
2	上境滝ノ臺遺跡		○	○				15	柴崎南遺跡		○			○	○	○
3	中根不業拔遺跡		○				○	16	柴崎遺跡		○			○	○	
4	中根中谷津遺跡	○					○	17	上野中塚遺跡		○			○		
5	横町庚申塚遺跡			○	○	○		18	栗原才十郎遺跡		○					
6	金田城跡						○	19	玉取向山遺跡			○	○		○	○
7	金田西遺跡		○		○	○		20	玉取遺跡		○	○	○	○		○
8	九重東岡庵寺					○	○	○	21	栗原中台遺跡		○	○	○	○	○
9	金田西坪A遺跡		○		○			22	栗原五竜遺跡		○			○	○	○
10	金田西坪B遺跡		○		○			23	上野天神遺跡		○					
11	花室遺跡		○			○		24	上野陣場遺跡		○			○	○	○
12	花室城跡		○	○	○	○	○	○	25	上野古屋敷遺跡			○	○	○	○
13	花室儀量台遺跡		○		○	○	○	○	26	上境作ノ内遺跡		○	○	○		

カガイ・ハマグリなどが多い主縄貝塚の様相を呈している。

花室川右岸約6km下流の下岡遺跡では、中期前葉阿玉台式期から中期後葉加曾利E式期の竪穴住居跡86軒と、袋状土坑を含む土坑600基以上が確認された。袋状土坑からは多量の縄文土器のほか、パン状炭化物や炭化種子なども出土している⁴⁾。

上野陣場遺跡(24)では、前期前葉花積下層式期から中期後葉加曾利E式期までの竪穴住居跡8軒と土坑8基が調査されている⁵⁾。また上野古屋敷遺跡(25)でも前期前葉の竪穴住居跡18軒と中期後葉加曾利E式期の竪穴住居跡1軒、陥し穴3基、土坑55基が調査されている⁶⁾。

当遺跡の存続時期と同じく後期から晩期に最盛期を迎える遺跡には、当遺跡と桜川低地を挟んだ対岸に位置する下坂田貝塚、桜川右岸約5km下流の上高津貝塚がある。下坂田貝塚は中期から晩期の遺跡であるが、貝層の主体は後期中葉加曾利B式期で、出土貝類の98%以上がヤマトシジミである⁷⁾。国指定史跡である上高津貝塚は後期から晩期にかけて形成された大規模な馬蹄形貝塚で、4地点からなる貝層はヤマトシジミが主体である。捕獲魚類として汽水域を主たる生息域とするクロダイやズズキなどの骨が多量に確認され、当水域が淡水と海水が混じり合い汽水化していく傾向がうかがえる。特に注目される点として、上高津貝塚では加曾利B式期の貝層中から、極めて塩分濃度の高い水深30m以下の海底に生息するマダイ成魚の骨が多量に出土しており、当期縄文人の漁撈活動を推測する上で良好な資料を呈示している⁸⁾。

当遺跡と谷津を挟んで対岸に所在する中根中谷津遺跡(4)では、平成8・9年度に行われた発掘調査で、後期前葉堀之内1式期の竪穴住居跡9軒と晩期前葉安行3b式期の竪穴住居跡1軒、後期前葉の地点貝塚4か所、土坑115基を確認している⁹⁾。また平成22年度に行われた調査でも、後期前葉の住居跡が確認されている。

当遺跡は、『桜村史』上巻によれば、地元では古くから知られた遺跡であり、地元の桜村立栄小学校郷土クラブ、桜村教育委員会による調査が行われた¹⁰⁾。平成1・2年度には筑波大学による地形測量が行われている¹¹⁾。平成12年度には常磐新線沿線開発の区画整理事業による試掘調査において、竪穴住居跡1軒、土坑5基、溝

跡3条、遺物包含層4か所、地点貝塚4か所などが確認されている¹¹⁾。

縄文時代以降、上野陣場遺跡では10世紀後半まで、隣接する上野古屋敷遺跡でも16世紀代まで、断続的ながら集落跡が確認されており、当該地では人々の営みが続いていたことがうかがえる。当該地は、奈良・平安時代において、北の筑波郡との境にあたる河内郡普田郷に属しており、国指定史跡である金田西遺跡、金田西坪A遺跡、金田西坪B遺跡、九重東岡庵寺(8)などが、河内郡跡跡と関連遺跡群と推定されている¹²⁾。また東岡中原遺跡、柴崎遺跡¹³⁾(16)、上野陣場遺跡などもほぼ同時期の集落として周辺に位置し、河内郡との関連が考えられている。鎌倉時代から戦国時代にかけては小田氏の支配下となり、台地上には金田城跡(6)などの小田氏関連の中小城館が築かれた。しかし小田氏の衰退に伴い支配下の土豪層の多くが帰農し、集落の廃絶と移動があったと考えられている。

※本章は、「上境旭台貝塚」「茨城県教育財団文化財調査報告」第325集を参照し、加筆した。文中の()内の番号は、表1及び第2図の該当番号と同じである。

註

- 1) 大山年次監修『茨城県 地質のガイド』コロナ社 1977年8月
- 2) a 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
b 茨城県つくば市教育委員会『つくば市道路分布調査報告書-谷田部地区・桜地区』2001年3月
- 3) a 成島一也『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 中原遺跡1』『茨城県教育財団文化財調査報告』第155集 2000年3月
b 成島一也・宮田和男『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 中原遺跡2』『茨城県教育財団文化財調査報告』第159集 2000年3月
c 高野節夫・白田正子・仲村浩一郎・島田和宏『中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡3』『茨城県教育財団文化財調査報告』第170集 2001年3月
d 駒澤悦郎『東岡中原遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第251集 2005年3月
- 4) 高根信和・加藤雅美・小野邦男『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅹ』1981年3月
- 5) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭『上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 6) a 三谷正・大塚雅昭・桑村裕『上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第285集 2007年3月
b 川井正一『上野古屋敷遺跡2 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第307集 2008年3月
c 齋藤和浩・川井正一『上野古屋敷遺跡3 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅷ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第324集 2009年3月
d 櫻井完介・江原美奈子『上野古屋敷遺跡4 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第334集 2010年3月
- 7) 前田潮編『古蹟・浦清』沿岸貝塚の研究 筑波大学先史学・考古学研究調査報告Ⅵ 1991年3月
- 8) a 佐藤孝雄・大内千年編『上高津貝塚A地点 慶応義塾大学文学部民族学・考古学研究室小報9』1994年3月
b 塩谷修編『国指定史跡上高津貝塚E地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告書-』土浦市教育委員会 2000年3月
c 石川功・福田礼子編『国指定史跡上高津貝塚C地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告書-』土浦市教育委員会 2006年3月
- 9) 川村満博『(仮称)中根・金田台地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 中谷遺跡1』『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 10) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月
- 11) 註2) b)と同じ
- 12) 白田正子『金田西遺跡 金田西坪B遺跡 九重東岡庵寺 中根・金田台特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第209集 2003年3月
- 13) a 土生剛治『研究学園都市計画桜葉崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 桜葉崎遺跡Ⅲ区』『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
b 萩野谷悟『研究学園都市計画桜葉崎土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(N) 桜葉崎遺跡Ⅱ区・Ⅲ区』『茨城県教育財団文化財調査報告』第93集 1994年9月

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

上境旭台貝塚は、桜川右岸の低地から入り込む谷津の北岸で、標高24～27mの台地上及び台地縁辺部に立地している。当遺跡の範囲は南北150m、東西200mであり、調査前の現況は畑地、山林、宅地で、地表面の観察により調査区内の台地縁辺に沿って貝殻の散布が認められていた。今回の調査は、平成19年度に引き続き行われたもので、台地上に集落を営み、谷津に向かって斜面貝層を形成する当遺跡全体の中での南東部に当たる部分である。道路や調査順に従って便宜上分けられたA～G区のうち、調査の終了していなかったB区の東側及び南側とD区、また今回新たに調査区としたB区の南西で西側に向かう小支谷部分のF区で、調査面積は2896㎡である。

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡5軒、炉跡2基、墓坑1基、粘土探掘坑1か所、土坑78基、ピット群2か所、流路跡1条、斜面貝層2か所、遺物包含層1か所、焼成遺構1か所、中世の井戸跡1基、近世の粘土探掘坑1か所を確認し、縄文時代の貝塚を含む集落跡であることがわかった。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に215箱出土している。主な出土遺物は、縄文時代では縄文土器（深鉢、鉢、浅鉢、皿、注口土器、台付土器、壺、異形台付土器、ミニチュア土器、製塩土器）、土製品（耳飾り、土版、土偶、有孔円盤、土器片円盤）、石器（石鏃、石錐、磨製石斧、打製石斧、石皿、磨石、敲石、石錐、凹石）、石製品（勾玉、小玉、石棒、石剣）、骨角製品（ヤス、ヘアピン）、貝製品（貝輪、貝刃、イモガイ製装身具）、中世では土師質土器（小皿、鍋類）、近世では陶器などである。

第2節 基本層序

今年度の調査では、谷津に向かう台地縁辺部のB区西側F3区にテストピットを設定し、基本土層の観察を行った。なお、平成19年度の調査において、台地上のC区西側D3区にテストピット1が、谷津に向かう斜面部のB区東側F4区にテストピット2が設定されている。今回の調査では、台地上のD区にも遺構が存在すること、及び台地上と谷部との比高差を確認することから、既報告の2地点のテストピットについても再録して参照することとした。テストピット1では第1層の耕作土下は第3層のローム漸移層、第4層～第8層が褐色を基本とするローム層で、第5層が第2黒色帯と考えられる。第9層～第13層が粘性の強い土で、粘土化したローム層、及び粘土漸移層である。第14・15層が粘土層で、第14層が常総粘土層にあたると思われる。第16層以下が浅黄色の砂層である。テストピット2では第4層～12層が認められず、耕作土下は第14層以下の常総粘土層であった。遺構は第3層上面及び第4層上面で確認できた。

今年度設定したテストピット3は、表土下23mまで掘り下げて基本層序の確認を行った。色調・構成粒子・含有物・粘性などから6層に細分できる。

第1層は黒褐色を呈する耕作土である。ロームブロック・炭化粒子を少量、焼土粒子を微量に含み、粘性は普通で、締まりは弱い。層厚は60cmである。

第2層は暗褐色を呈するローム漸移層である。土器を少量含み、締まり・粘性ともに普通である。層厚は10～15cmである。

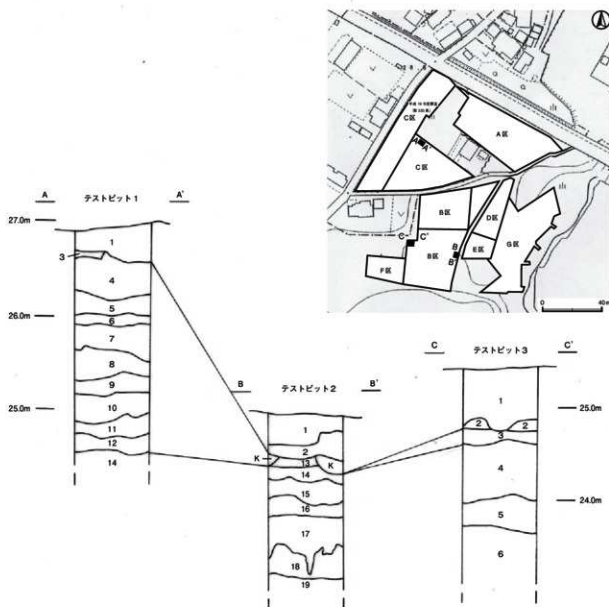
第3層は暗褐色を呈するローム層である。白色粘土粒子を少量含み、粘性は普通、しまりは強い。層厚は10～20cmである。

第4層は灰オリーブ色の粘土層で、いわゆる常総粘土層と思われる。粘性が強く、しまりは非常に強い。層厚は60cmである。

第5層は灰白色の粘土層である。砂粒を少量含み、粘性は非常に強く、締まりは強い。層厚は20～40cmである。

第6層はにぶい黄色の粘土層である。砂粒をやや多く、赤色の鉄分を少量含んでいる。層厚は下層が未掘のため不明である。

遺構は第2層上面で確認できる。テストピット1・2との対応関係は、テストピット1の第4層とテストピット3の第3層がローム漸移層、及びテストピット1・2の第14層とテストピット3の第4層が常総粘土層で対応する。台地上と台地縁辺部の比高はローム漸移層上で24mで、B区の東西においてはほとんど比高は見られなかった。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で確認した当時代の遺構は、竪穴住居跡5軒、炉跡2基、粘土採掘坑1か所、土坑78基、ピット群2か所、流路跡1条、貝層2か所、遺物包含層1か所、焼成遺構1か所である。なお、第4号ピット群のP 27は墓坑の可能性がある。以下、それぞれの遺構の特徴と出土した遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第3号住居跡（第4～12図）

位置 調査B区のE 4j0区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第106・113・114号土坑に掘り込まれている。住居の掘り込みやピットや炉の位置から、外側を巡る掘り込みを壁とし、炉2を伴う1軒（第4号住居跡）と、西側にハの字形に開くP 19～P 23・P 42の出入り口ピットを有し、北側では径20～30cmの壁柱穴が沿う内側の掘り込みと、南側では掘り込みは確認できないが、P 25～P 55・P 4～P 66などの壁柱穴が巡るラインを壁とする1軒（第3号住居跡）の、2軒の重複が考えられる。覆土の堆積状況から、第4号住居から第3号住居への変遷が捉えられる。

規模と形状 長径9.14m、短径6.90mの東西方向に長い楕円形で、出入り口部分が張り出している。主軸方向はN-78°-Eである。壁高は8～35cmで、外傾して立ち上がっている。

床 第4号住居跡の床面より10～20cmほど深く掘り込まれている。ほぼ平坦で、炉を中心に柱穴の内側部分が踏み固められている。

炉 炉1は第106・113号土坑に掘り込まれているため、確認できた長径は90cm、短径は80cmで、楕円形と推定できる地床炉である。皿状の火床面は十分に焼けている。

炉土層解説

炉1 極暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量

炉2

2 極暗褐色 ロームブロック・骨片少量、焼土ブロック微量

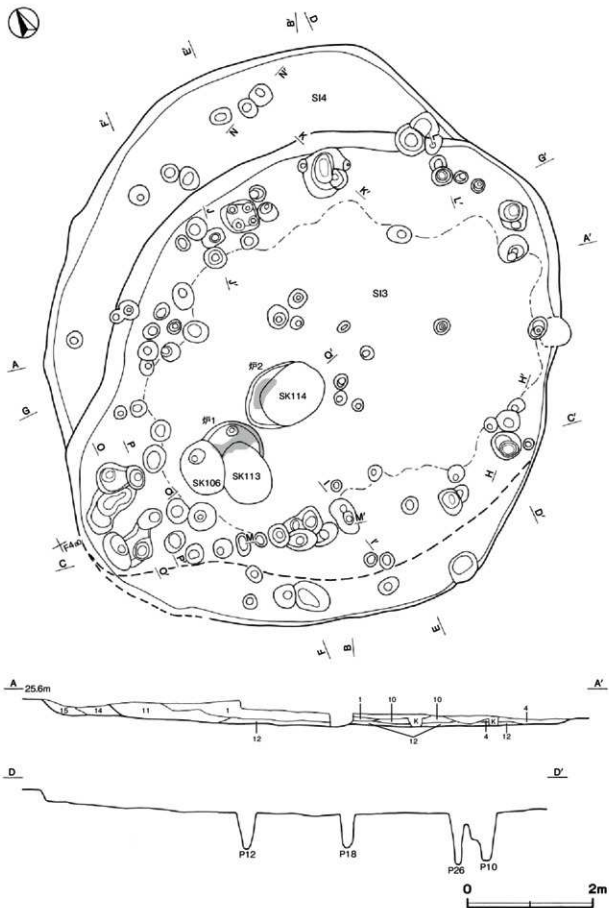
ピット 第3・4号住居跡合わせて90か所。それぞれの帰属を明らかにすることは難しいが、P 19～P 23・P 42を出入り口施設とし、壁に沿うように配置される径20～30cmの小ピット列が壁柱穴と考えられる。それらのうち、深さが50cm以上で径が40～80cmと大きめのP 1・P 9、P 2・P 10・P 26、P 11・P 33・P 34、P 5・P 14・P 15・P 50、P 7・P 29・P 48・P 76が、位置や深さなどから主柱穴と推定できる。また、主柱穴間にP 24・P 3・P 27・P 16・P 6・P 8・P 30など、径20～30cmで深さが50cm以上の小ピットが配置しており、上層保持のための補助的な役割を有するピットの可能性があると考えられる。ピットの覆土は暗褐色でローム粒子・焼土粒子・炭化粒子が少量含まれるものが多い。

ピット土層解説

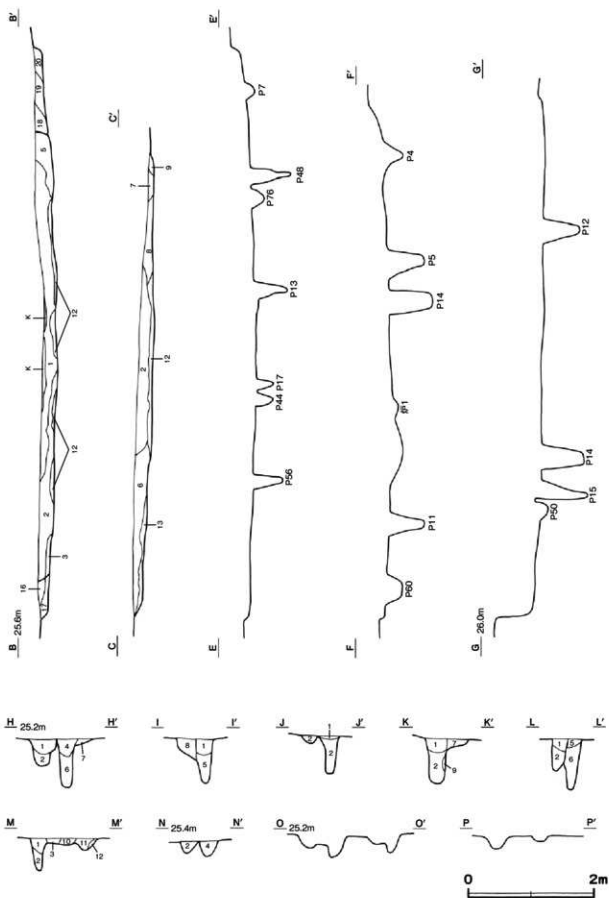
1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 極暗褐色 ローム粒子少量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 極暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量
5 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
6 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量

7 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
8 極暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
9 極暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量
10 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
11 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 褐色 ローム粒子中量

覆土 13層に分層できる。レンズ状の堆積状況であるが、第1・2・11層中から焼土ブロックと骨片が出土している。



第4图 第3·4号住居跡实测图(1)



第5图 第3·4号住居跡实测图(2)



第6図 第3・4号住居跡実測図(3)

土層解説

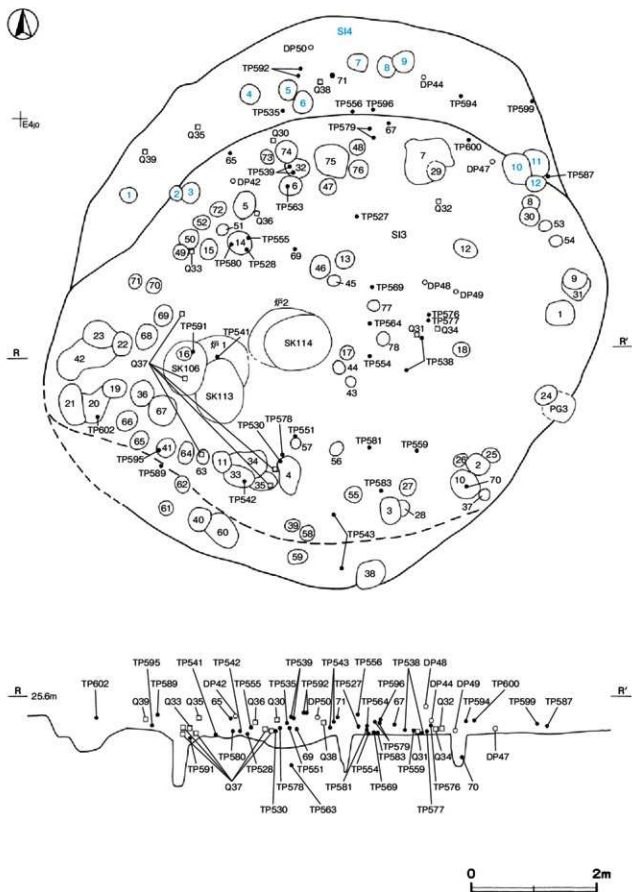
- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子・骨片少量、ロームブロック微量 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子・骨片少量、ロームブロック微量 | 11 極暗褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・骨片微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 12 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土ブロック微量 | 14 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 |
| 6 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 15 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 16 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 17 褐色 | ローム粒子中量 |
| 9 暗褐色 | ロームブロック少量 | 18 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| | | 19 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| | | 20 褐色 | ローム粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片4,763点, 土製品16点(土版2, 土偶2, 土器片円盤12), 石器16点(磨製石斧1, 磨石10, 敲石1, 石錘1, 凹石1, 砥石2), 石製品5点(石剣), 石核2点(チャート, 石英), 剥片4点(チャート2, 黒曜石1, 瑪瑙1), 加工痕のある剥片1点, 焼成粘土塊47点と, 混入した陶器片2点が出土している。遺物は覆土中～上層から出土したものが多く, 出土した土器の多くは晩期中葉前浦式期のものである。TP538・TP540・TP541・TP554・TP569・TP583・TP588, Q31・Q37は床面からそれぞれ出土している。70はP10から, TP544はP34から, TP552はP1から, TP563はP6から, DP43はP15からそれぞれ出土している。Q37は出入り口付近の床面から出土したもので, 5点の破片が接合したものである。いずれも良く焼けており, 破断面まで焼成がみられる。

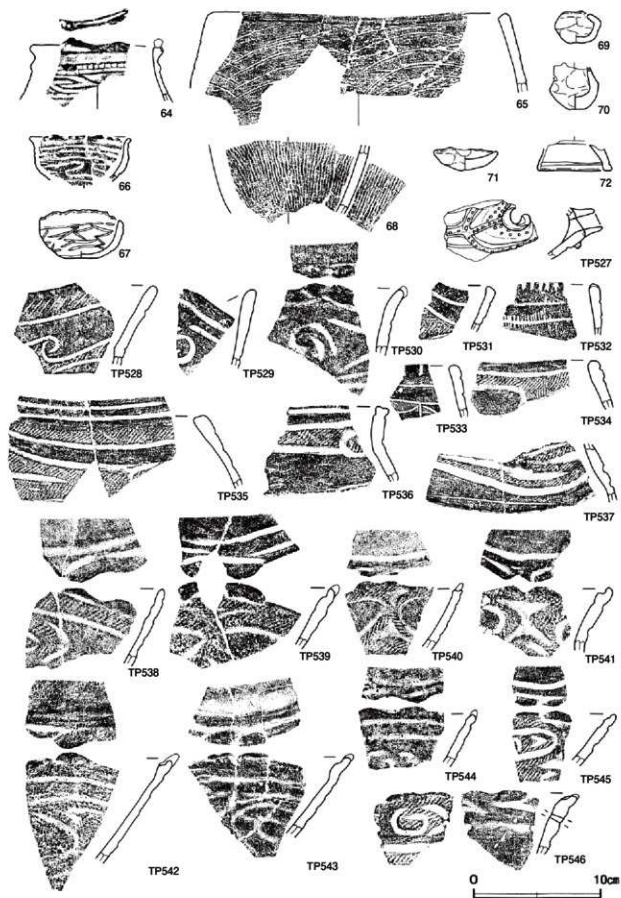
所見 第3・4号住居跡は, はじめに外側の掘り込みを壁とし, 壁のやや内側に主柱穴が配置された第4号住居が作られ, 次に主柱穴の位置はほぼ同じくしたまま, やや内側に規模を縮小して第3号住居が作られたと考えられる。また第3号住居跡の主柱穴はそれぞれ2～4か所が隣接して, あるいは重複していることから, 2回以上の建て替えが推測できる。時期は, 出土土器から晩期中葉とみられる。覆土中から焼土ブロックや骨片が出土していること, Q37の石剣が破砕されたあと被熱していることなどから, 本跡の機能停止後に何らかの廃棄行為が行われたものと考えられる。

表2 第3号住居跡ビット計測表

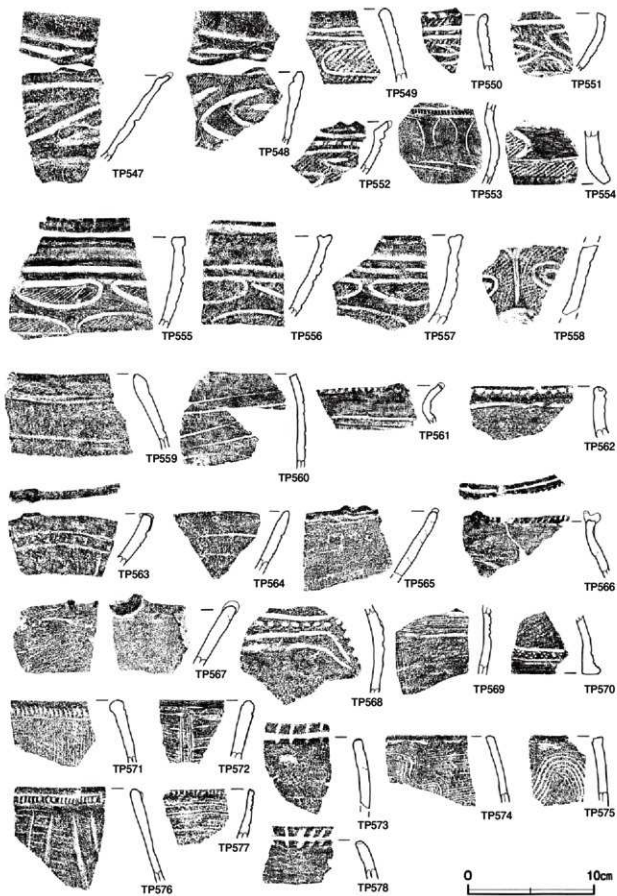
番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)	番号	深さ(cm)		
P1	93	P11	55	P21	17	P31	32	P41	42	P51	27	P61	13	P71	14
P2	77	P12	58	P22	26	P32	24	P42	35	P52	14	P62	10	P72	23
P3	60	P13	66	P23	24	P33	19	P43	15	P53	26	P63	8	P73	25
P4	70	P14	68	P24	94	P34	68	P44	33	P54	23	P64	9	P74	20
P5	63	P15	74	P25	23	P35	20	P45	36	P55	24	P65	13	P75	25
P6	80	P16	92	P26	85	P36	21	P46	39	P56	48	P66	12	P76	75
P7	73	P17	60	P27	54	P37	-	P47	15	P57	16	P67	42	P77	13
P8	57	P18	53	P28	10	P38	21	P48	65	P58	16	P68	12	P78	13
P9	55	P19	19	P29	29	P39	19	P49	17	P59	16	P69	16		
P10	82	P20	13	P30	81	P40	30	P50	56	P60	27	P70	34		



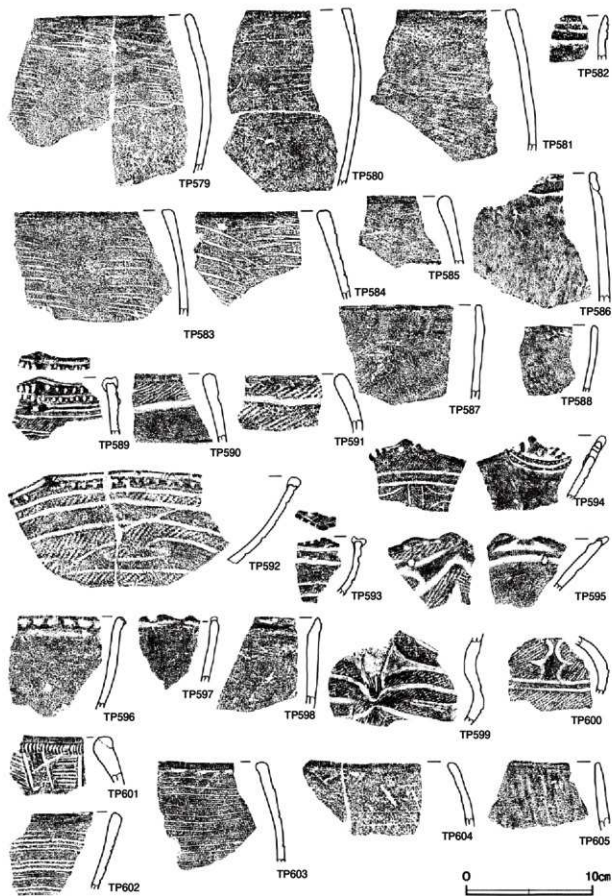
第7图 第3·4号住居跡実測図(4)



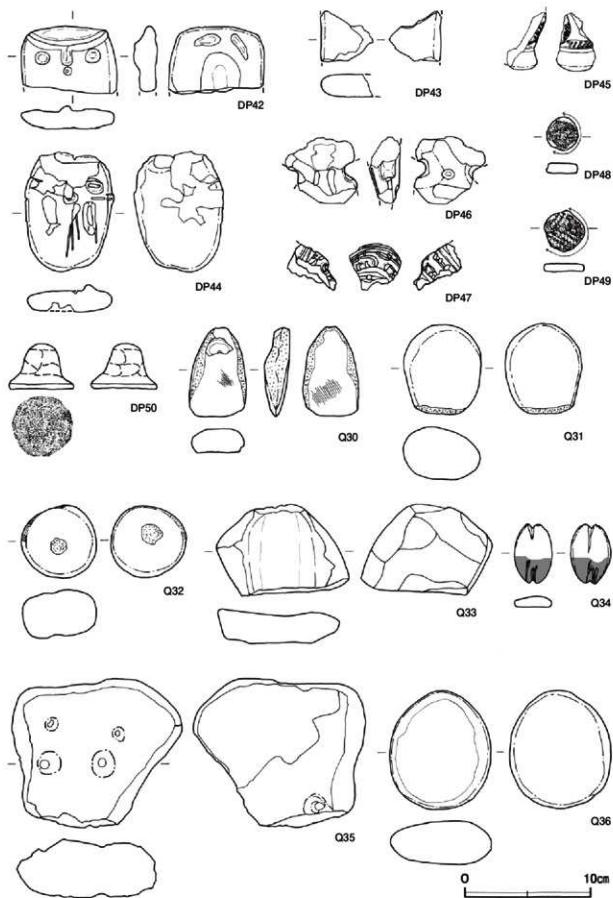
第8图 第3·4号住居跡出土遺物実測図(1)



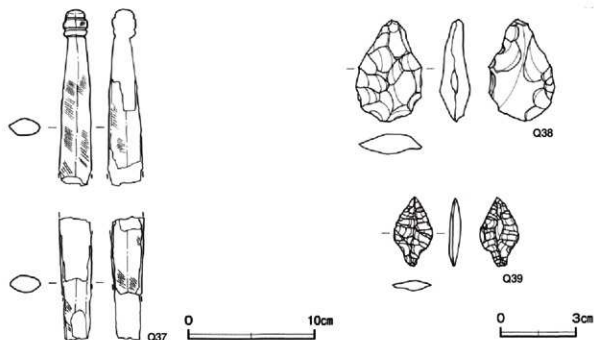
第9图 第3·4号住居跡出土遺物実測図(2)



第10图 第3·4号住居跡出土遺物実測図(3)



第11图 第3·4号住居跡出土遺物実測図(4)



第12図 第3・4号住居跡出土遺物実測図(5)

第3号住居跡出土遺物観察表(第8~12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
64	縄文土器	深鉢	[100]	(50)	-	長石・雲母	にぶい赤褐色	普通	微隆起による入組文 内面ナデ	覆土中	10% PL11
65	縄文土器	深鉢	[230]	(62)	-	長石	明赤褐色	普通	ナデ→条線(左→右) 内面ナデ→粗い磨き	覆土上層	5%
66	縄文土器	鉢	[79]	(34)	-	長石・石英・白色粒子	橙	普通	沈線による入組文 口唇部に突起と割み 内面ナデ	覆土中	20% PL11
67	縄文土器	鉢	6.2	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	粗いナデ→矢羽根状沈線文 内面粗いナデ	覆土上層	100%
68	縄文土器	深鉢	-	(45)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面撫赤文 内面ナデ	覆土上層	10%
69	縄文土器	ミニチュア	1.9	2.5	-	白色粒子	にぶい黄褐色	普通	内・外面磨頭ナデ	覆土下層	90%
70	縄文土器	ミニチュア	-	(3.6)	1.2	長石・石英・細礫	黒	普通	内・外面磨頭ナデ	P10 覆土中	70%
72	縄文土器	台付土器	-	(24)	5.6	長石・赤色粒子	橙	普通	内・外面磨頭ナデ	覆土上層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
T1527	縄文土器	口付土器	長石・雲母・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭 内面ナデ	覆土下層	
T1528	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR 内・外面とも摩滅著しい	覆土下層	
T1529	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	普通	内面ナデ	覆土上層	
T1530	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	摩滅により調整不明瞭 内面磨き	覆土下層	
T1531	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
T1532	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	橙	普通	沈線→密着沈線文充填 口唇部に割み 内面ナデ	覆土上層	
T1533	縄文土器	深鉢	白色粒子・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→密着沈線文充填→無文部磨き 口唇部に割み 内面磨き	覆土上層	
T1534	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
T1535	縄文土器	深鉢	長石・雲母・白色粒子	にぶい褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 口唇部に凹線	覆土上層	PL11
T1536	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	PL11
T1537	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
T1538	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	外面摩滅により調整不明瞭 内面磨き	床面	
T1539	縄文土器	浅鉢	石英・雲母・白色粒子	明黄褐色	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	覆土上層	
T1540	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き	床面	
T1541	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	床面	
T1542	縄文土器	浅鉢	長石・石英・細礫	橙	普通	内・外面とも摩滅により調整不明瞭	覆土下層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T1543	陶文土器	浅鉢	長石	橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭 内面磨き	覆土上層	
T1544	陶文土器	浅鉢	石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	内・外面摩滅により調整不明瞭	P34 覆土中	
T1545	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文し 内面磨き	覆土上層	
T1546	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線→無筋縄文し→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
T1547	陶文土器	浅鉢	長石	橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭 内面磨き	覆土上層	
T1548	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→無筋縄文し→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
T1549	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	沈線→縄文し段→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
T1550	陶文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	沈線→無筋縄文し→無文部磨き 口唇部に削み	覆土上層	
T1551	陶文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	縄文刻. 楕文。 摩滅により調整不明瞭	覆土下層	
T1552	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・細礫	明黄橙	普通	沈線→縄文し段→無文部磨き 内・外面とも摩滅	P1 覆土中	
T1553	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	沈線→縄文し段→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
T1554	陶文土器	台土器	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	沈線→無筋縄文し→無文部磨き 内面ナデ	床面	
T1555	陶文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線→無筋縄文し→無文部磨き 内面摩滅により不明瞭	覆土下層	PL11
T1556	陶文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	沈線→無筋縄文し 内面磨き 摩滅著しい	覆土上層	
T1557	陶文土器	浅鉢	長石・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文し段→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
T1558	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい黄	普通	沈線→無筋縄文し→沈線内磨き 内面ナデ	覆土下層	
T1559	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	杵状文。 内・外面とも摩滅により調整不明瞭	覆土下層	
T1560	陶文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	斜線文 口唇部内さぎ状 内面ナデ	覆土上層	
T1561	陶文土器	広口壺	石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	内・外面磨き 口唇部に凹形刻突文	覆土上層	
T1562	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	ナデ 口縁部に一糸の横状沈線 口唇部に削み 内面磨き	覆土上層	
T1563	陶文土器	浅鉢	石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	沈線間に刻突文光塊 摩滅により内・外面とも調整不明瞭	P6 覆土中	PL11
T1564	陶文土器	浅鉢	長石・中礫	橙	普通	内・外面とも摩滅により調整不明瞭	覆土下層	
T1565	陶文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面磨き 外面に輪縁痕	覆土上層	
T1566	陶文土器	深鉢	長石・石英・細礫	橙	普通	ナデ 内面粗い磨き	覆土上層	
T1567	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面ナデ 口唇部から内面にかけて突起	覆土上層	
T1568	陶文土器	深鉢	長石・石英・細礫	橙	普通	ナデ 内面磨き	覆土上層	
T1569	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	内面間に櫛歯状工具による沈線光塊 底部縁位の櫛歯状沈線	床面	
T1570	陶文土器	台土器	長石・石英・白色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線間に凹形刻突文光塊 無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	
T1571	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	条線→沈線→口縁部削み 内面ナデ	覆土下層	
T1572	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	条線文→縦区画沈線 内面磨き	覆土上層	
T1573	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部削み 内面ナデ	覆土下層	
T1574	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による条線文 内面ナデ	覆土上層	
T1575	陶文土器	深鉢	長石・細礫	橙	普通	櫛歯状工具による条線文 内面磨き	覆土上層	
T1576	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部斜線文→頭部条線文→底部縦位の区画沈線	覆土上層	
T1577	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部に削み 外面櫛歯状工具による条線文 内面磨き	覆土下層	
T1578	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部へテ状工具による削み 内・外面ナデ調整	覆土下層	
T1579	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	口唇部横位の条線文	覆土下層	
T1580	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部に粗雑な櫛歯状沈線 内面粗い磨き	覆土下層	
T1581	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面とも摩滅により調整不明瞭	覆土上層	
T1582	陶文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	普通	付帯口縁上に2列の列点文 内面磨き	覆土上層	
T1583	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	横位の条線文 内面ナデ	床面	
T1584	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	ナデ→条線 内面ナデ	覆土上層	
T1585	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	条線文 内面ナデ	覆土下層	
T1586	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	付帯口縁 外面粗い磨き 内面ナデ一部磨き	覆土上層	
T1587	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	へろ筒形→ナデ 内面ナデ	覆土上層	
T1588	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面削り 製盤土器。	床面	
T1591	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	沈線→無筋縄文し 内面磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP42	土版	(53)	7.6	1.8	(68.0)	にぶい黄褐色長石・赤褐色胎土	表面に人間痕	覆土上層	PL13
DP43	土版	(42)	(40)	1.8	(27.0)	にぶい黄褐色長石・赤褐色胎土	摩滅により文様等不明	P15 覆土中	
DP45	土偶	(46)	(31)	(29)	(190)	にぶい黄褐色長石	中空 三叉文と横文LR施文	覆土上層	
DP46	土偶	(52)	(51)	(25)	(48.0)	にぶい黄褐色長石	中空 芯材あり	覆土上層	PL14
DP48	土器片 四角	2.6	1.5	0.8	7.0	にぶい黄褐色長石・石灰・細砂	深鉢体部片利用 珪線約1/2積層	覆土上層	
DP49	土器片 四角	3.2	3.2	0.6	8.0	にぶい黄褐色長石・石灰・細砂	深鉢体部片利用 珪線約2/3積層	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 30	磨製石斧	7.0	4.6	1.9	90.0	翡翠	両側面に敲打痕と磨り痕	覆土上層	PL15
Q 31	磨石	7.1	6.1	4.2	279.0	テイスサイト	下端部に敲打痕と磨り痕 被熱	床面	
Q 32	磨石	5.7	6.0	3.7	166.0	安山岩	表・裏面、側面の一部に敲打痕 被熱	覆土下層	
Q 33	砥石	(72)	(105)	2.7	(223.0)	砂岩	表・裏面に磨り痕 被熱	覆土下層	
Q 34	石鏃	4.7	2.9	0.9	19.2	細粒砂岩	両端に切目 被熱	覆土下層	
Q 36	磨石	9.4	8.0	3.4	402.0	安山岩	表・裏面、下端部に磨り痕	覆土上層	
Q 37	石剣	(238)	2.6	1.4	(81.0)	船板岩	4分銅以上に敲打 被熱	床面	PL15

第4号住居跡 (第4～12図)

位置 調査B区のE4㍿区、標高25.5mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号住居、第106・113・114号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径9.08m、短径8.70mの不整形で、主軸方向はN-78°-Eである。壁高は8～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床面 第3号住居に掘り込まれているため、北側と南側の一部が残存しているのみである。残存する部分はほぼ平坦である。

炉 炉2は第114号土坑に掘り込まれているため、確認できた長径は110cm、短径は100cmの楕円形と推定できる床床炉である。皿状の火床面は十分に焼けており、焼土中には骨片・骨粉が含まれている。

ピット 第3・4号住居跡合わせて90か所。それぞれの帰属を明らかにすることは難しいが、本跡では壁のやや内側に径20～30cm、深さ11～31cmの壁柱穴が巡っている。第3号住居跡のピットとして発番されたP38・P40・P59～P62などは、本跡に帰属するものと考えられる。主柱穴は深さや位置などから、第3号住居跡の主柱穴として先述したピット群のうちのいずれかが該当すると思われる。ピットの覆土は暗褐色でローム粒子・焼土粒子・炭化粒子が少量含まれるものが多い。

覆土 7層に分層できる。第14・15・20層はロームブロックが多量に含まれており、第4号住居が埋め戻された後、第3号住居が構築された状況を示している。

遺物出土状況 縄文土器片492点、土製品3点(土版、土偶、スタンプ形土製品)、石器4点(石鎌、石鏃未製品、磨石、凹石)、石製品2点(石剣)、剥片1点(瑪瑙)、焼成粘土塊5点が出土している。本跡から出土した遺物は、覆土上層から出土したものが多く、覆土中及びピットの覆土中から出土した土器の多くは、晩期中葉前甕式期のものである。

所見 本跡の遺物はいずれも覆土上層から出土したものであり、厳密に第4号住居跡に伴う遺物とは言いがたいが、出土土器からは第3号住居跡と第4号住居跡に大きな時期差は見られないことから、比較的短期間に複数回の建て替えが行われたものと考えられる。時期は、出土土器から晩期中葉とみられる。

表3 第4号住居跡ビット計測表

番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)
P 1	18	P 3	21	P 5	13	P 7	17	P 9	24	P 11	12
P 2	20	P 4	31	P 6	11	P 8	18	P 10	23	P 12	12

第4号住居跡出土遺物観察表 (第8～12図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
71	陶文土器	ミニチュア	4.8	1.8	-	長石・石英	橙	普通	外面指頭ナゲ 内面磨き	覆土上層	96%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T1589	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR 口唇部に沈線・刺突文 内面磨き	覆土上層	
T1590	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナゲ	覆土上層	
T1592	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	PL11
T1593	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	ナゲ→沈線による文様施文 口唇部に刺突 内面ナゲ	覆土上層	
T1594	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
T1595	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	H SI 7
T1596	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	内・外面ナゲ 口唇部に刺突文	覆土上層	
T1597	陶文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	ナゲ→磨き 口縁部に突起 内面磨き	覆土上層	H SI 7
T1598	陶文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	外面磨りに近いナゲ 口唇部に刺突文 内面ナゲ	覆土上層	H SI 7
T1599	陶文土器	鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
T1600	陶文土器	甕	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナゲ	覆土上層	
T1601	陶文土器	深鉢	長石・赤色粒子	橙	普通	条線→縦線貼付→頭部区画磨き 内面ナゲ	覆土上層	
T1602	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による条線文 内面ナゲ 液状口縁ろ	覆土上層	H SI 7
T1603	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による条線文 内面ナゲ	覆土上層	H SI 7
T1604	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	横位の条線文 内面ナゲ	覆土上層	
T1605	陶文土器	深鉢	長石	にぶい赤橙	普通	外面磨り 口縁部内さきナゲ 内面ナゲ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP44	土版	94	7.1	2.1	120.0	橙 長石	表面に人面産痘 裏面は無文 ナゲ調整	覆土上層	PL13
DP47	土版	(37)	(39)	-	(21.0)	灰褐 長石	腕部 中空	覆土下層	
DP50	スタンブ 板	36	5.2	-	59.0	にぶい黄褐 長石・石英	指頭によるナゲ	覆土上層	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 35	石臼	(117)	(136)	4.6	(3035.0)	雲母片岩	表・裏面に凹み 被熱	覆土上層	
Q 38	石碾	4.0	2.6	1.2	10.0	安山岩	未製品 裏面に素材潤摩痕	覆土中層	
Q 39	石碾	27	1.5	0.4	1.4	チャート	有蒸	覆土上層	PL15

第5号住居跡 (第13～16図)

位置 調査B区のF39区、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

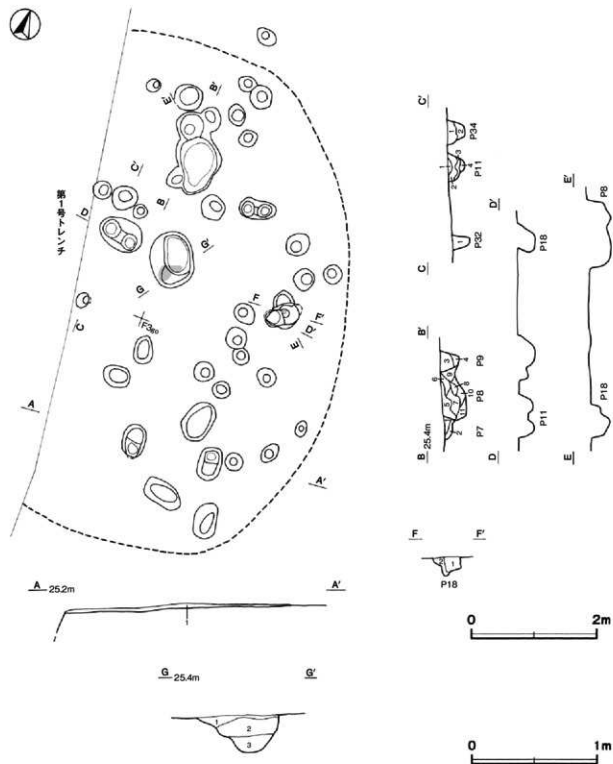
重複関係 ビットの一部が東部包層層の暗褐色土を掘り込んでいる。また、確認面では貝の散布が見られ、ビットの覆土中にも貝が混入している。覆土の大半が削平されているため、土層の堆積状況からの確認はできないが、第2号貝層のII層が本跡上位に広がっていたものと推測できる。

規模と形状 第1号トレンチ (平成19年度掘削) によって、西半分が欠損しているため、壁を確認すること

はできなかった。ピットの位置や深さなどから、炉を中心として径8mほどの円形と推定できる。炉と出入り口施設から、主軸方向はN-38°-Wである。

床面 南西方向に緩やかに傾斜している。硬化面は認められない。

炉 中央部に位置している。長径90cm、短径70cmの楕円形の地床炉である。覆土に焼土粒子が中量含まれており、南部に赤変硬化した火床面が見られる。ピット状に下がる掘方の覆土には、ローム粒子が中量含まれて



第13図 第5号住居跡実測図(1)

いる。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・灰少量、貝微量 | 2 黒褐色 ローム粒子中量 |
| | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |

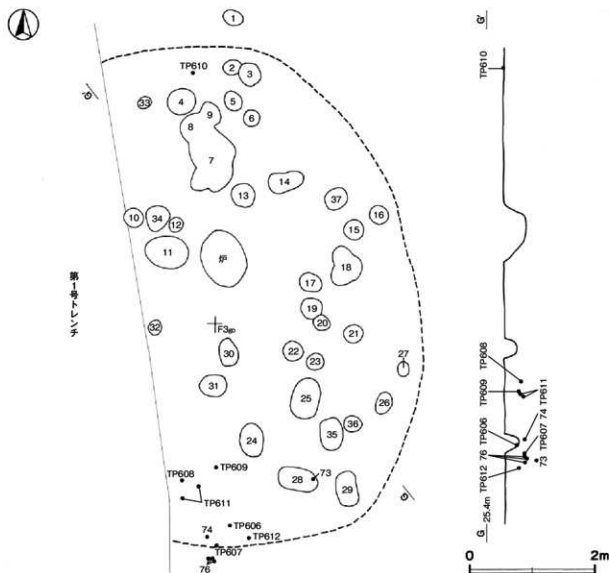
ピット 37か所。径20～30cmの壁柱穴が弧状に巡っている。深さや位置から、P5～P9、P15・P17・P18などが主柱穴となる可能性があり、2～3か所が重複あるいは隣接している。P21～P28・P35・P36は出入り口施設に関連するピットと考えられる。P18の覆土には、貝と獣骨が多量に含まれている。

ピット土層解説 P7～P9

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量、貝微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 8 黒褐色 貝中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・貝少量 | 9 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 ローム粒子・貝中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・貝微量 | |

ピット土層解説 P11

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック多量、貝微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・貝微量 | 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |



第14図 第5号住居跡実測図(2)

ピット土層解説 P18

- 1 黒 褐色 貝・獣骨多量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 2 暗 褐色 ロームブロック中量、貝少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット土層解説 P32

- 1 黒 褐色 貝少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

ピット土層解説 P34

- 1 黒 褐色 ロームブロック少量、貝微量 2 黒 褐色 ロームブロック中量

覆土 1層が確認できたのみである。貝・獣骨がやや多く含まれており、埋め戻されている。

土層解説

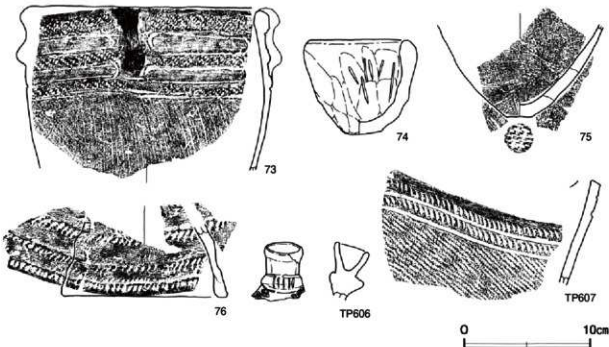
- 1 黒 褐色 貝中量、ロームブロック・獣骨少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 434点、土製品3点（土器片円盤）、石器2点（磨製石斧、磨石）、焼成粘土塊18点が出土している。遺物は南部の覆土下層に多く分布している。TP614・TP616は炉の覆土中から出土している。75はP30から、TP613はP22から、TP615はP24から、TP617はP25から、TP618・TP619・TP622・TP623はP28から、TP621はP5から、TP624はP37からそれぞれ出土している。

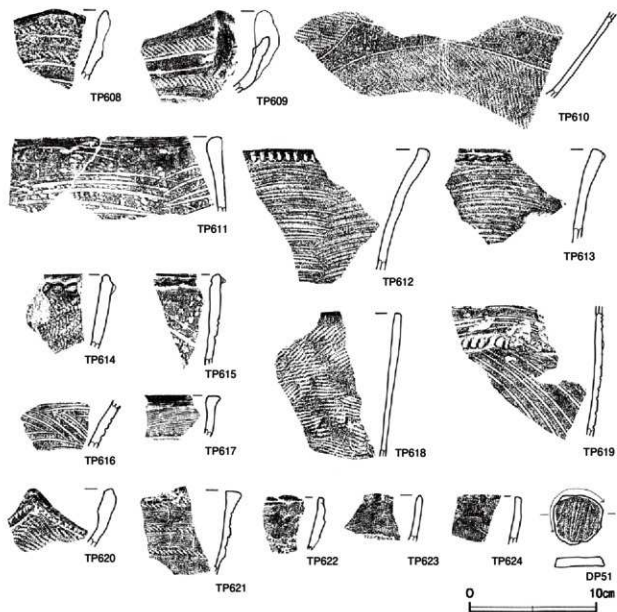
所見 出土土器は、後期前葉のものも若干含まれるが、後期中葉加曽利B式から後期後葉安行1式のものが多く見られることから、時期は後期中葉から後葉と考えられる。主柱穴と考えられるピットが2～3か所重複、あるいは隣接していることから、建て替えの可能性が考えられる。

表4 第5号住居跡ピット計測表

番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)
P 1	39	P 6	30	P 11	28	P 16	21	P 21	27	P 26	19	P 31	30
P 2	19	P 7	13	P 12	30	P 17	27	P 22	25	P 27	26	P 32	26
P 3	34	P 8	38	P 13	39	P 18	31	P 23	17	P 28	35	P 33	34
P 4	40	P 9	32	P 14	38	P 19	22	P 24	33	P 29	22	P 34	31
P 5	41	P 10	32	P 15	41	P 20	23	P 25	19	P 30	19	P 35	30



第15図 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



第16図 第5号住居跡出土遺物実測図(2)

第5号住居跡出土遺物観察表(第15・16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
73	陶文土器	深鉢	[18.4]	[12.9]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	覆土下層	15%
74	陶文土器	手捏土器	[7.8]	7.5	-	長石・石英・雲母	灰灰	普通	指線ナデ→粗い磨き 内面ナデ	覆土下層	60%
75	陶文土器	深鉢	-	(7.4)	2.0	長石・石英・雲母	灰黒	普通	指線ナデ→粗い磨き 内面ナデ 底部網代灰	F30 覆土中	10%
76	陶文土器	台付土器	-	(5.8)	[13.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	隆带上磨み 無文部磨き 内面粗い磨き	覆土下層	100%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP606	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	隆带上縄文RL 内面磨き	覆土下層	
TP607	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部沈線→指線→縄文RL 内面磨き	覆土下層	
TP608	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤陶	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
TP609	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤陶	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
TP610	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	床面	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP611	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	低い地縄文→糸線 口縁部縦線割離 内面磨き	覆土下層	
TP612	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	糸線→口縁部割み 内面ナデ	覆土下層	
TP613	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	縦線貼付→糸線	P22 覆土中	
TP614	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	縦線貼付→縄文LR 内面磨き	伊	
TP615	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	縦線貼付→縄文RL→手取竹筥による糸線 内面口縁部に内磨き	P24 覆土中	
TP616	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	斜線文(左→右) 内面磨き	伊	
TP617	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→櫛歯状工具による糸線充填 内面磨き	P25 覆土中	
TP618	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	縄文縄文LR 内面磨き	P28 覆土中	
TP619	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	糸線→縦線貼付	P28 覆土中	
TP620	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	縄文RL→口縁部沈線→口縁部割み 内面磨き	P36 覆土中	
TP621	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	P35 覆土中	
TP622	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	P28 覆土中	
TP623	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	P28 覆土中	
TP624	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	P37 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DF51	土器片 百個	39	38	07	145	にぶい橙 長石・石英	深鉢体部片利用 周縁約2/3割磨	P3 覆土中	

第8号住居跡(第17・18図)

位置 調査B区のF3g9区、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第2号貝層直下で確認され、西部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 第1号トレンチ(平成19年度掘削)によって、東半分が失われている。長径390m、確認できた短径145mで、円形と推定できる。壁高は16～29cmで、外傾して立ち上がっている。

床面 南側に向かって緩やかに傾斜している。北側のP1周辺のり硬化面が認められる。

ピット 7か所。径20～30cmのP4～P7が壁際に巡っており、壁柱穴と考えられる。P1・P2は、位置と深さから主柱穴と考えられる。

ピット土層解説 P1～P3

- 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量

覆土 3層に分層できる。本跡を覆う層は第2号貝層で、破砕貝を少量含む黒褐色土である。また本跡は西部包含層の第7～9層を掘り込んでおり、本跡の床面は西部包含層の第9層上面である。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子などが少量含まれているが、地形の傾斜に沿って南側に下がる自然堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、獣骨 3 暗褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量、片断微量
- 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量、獣骨片断微量

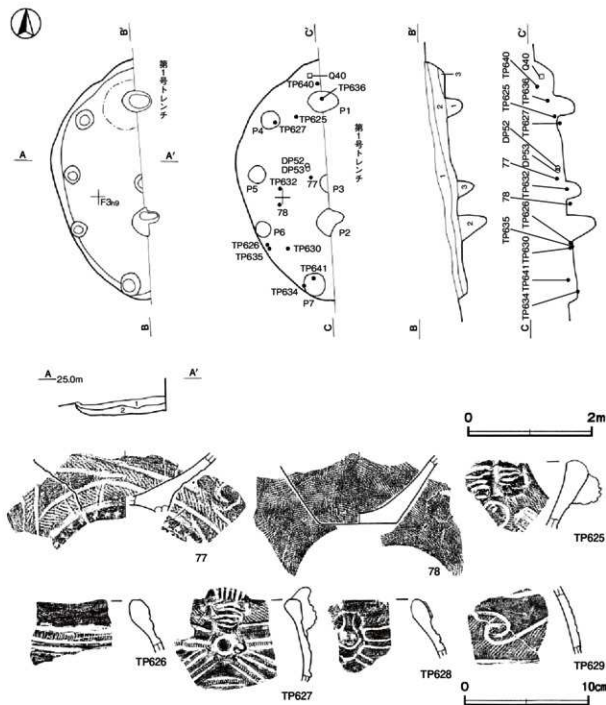
遺物出土状況 縄文土器片503点、土製品3点(土偶)、石器2点(磨石、砥石)、加工痕のある剥片1点(黒曜石)、剥片2点(チャート、黒曜石)が出土している。遺物は覆土中～下層から多く出土している。TP626・TP627・TP630・TP632・TP634・TP635は床面から、TP642はP2から、TP643～TP646はP4から、TP638はP7からそれぞれ出土している。

所見 西部包含層中に形成された住居である。覆土中に若干の破砕貝を含んでいるものの、住居廃絶後の埋没したあとに第2号貝層が形成されることから、貝層と遺物包含層の堆積が一連のものではなく、貝層堆積まで

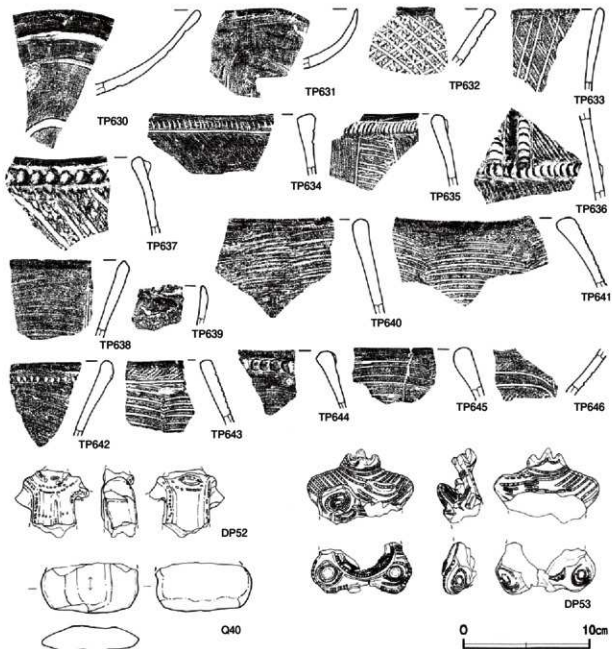
に若干の時間差があったことがうかがえる。出土土器は後期中葉の加曾利B式から晩期前葉の安行3b式まで確認できるが、西部包含層を掘り込んでいることから、西部包含層の遺物が流れ込んだものと考えられる。よって時期は晩期前葉と考えておきたい。

表5 第8号住居跡ピット計測表

番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)	番号	深さ (cm)
P1	30	P2	43	P3	23	P4	21	P5	16
								P6	24
								P7	11



第17図 第8号住居跡・出土遺物実測図



第18図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表 (第17・18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
77	縄文土器	台付鉢	-	(4.7)	-	長石・石英・赤色 粒子・白色粒子	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	10%
78	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縄文RLの縦位縞表状文様 内面ナテ	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP625	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	沈線→隆帯上縄文RL→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土下層	
TP626	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	普通	沈線→隆帯上刷み→無文部磨き 内面ナテ	床面	
TP627	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	沈線→隆帯上縄文RL・刷み→無文部磨き	床面	
TP628	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	隆帯脇沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TF629	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土下層	
TF630	陶文土器	浅鉢	長石・石英	褐灰	普通	ナデ→沈線 内面磨き	床面	
TF631	陶文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨り 内面ナデ→粗い磨き	覆土下層	
TF632	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	地縄文→格子目文 内面口縁部に凹線 磨き	床面	
TF633	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	格子目文(右下がり→左下がり) 内面ナデ	覆土下層	
TF634	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	条線→沈線→口縁部刷み 内面ナデ	床面	
TF635	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	条線→沈線→縦線貼付→区画沈線磨き 内面ナデ	床面	
TF636	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	条線→縦線貼付 内面磨き	覆土下層	
TF637	陶文土器	深鉢	長石・石英	灰褐	普通	地縄文→縦線貼付→条線 内面磨き	覆土下層	
TF638	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→縦位区画沈線 内面磨き	P7 覆土中	
TF639	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製磁土器*	覆土下層	
TF640	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面磨位の条線 内面磨き	覆土上層	
TF641	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	にぶい赤褐	普通	外面磨位の条線 内面ナデ	覆土上層	
TF642	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部刷み→条線 内面磨き	P2 覆土中	
TF643	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	条線→口縁部沈線→縄文LR 内面磨き	P4 覆土中	
TF644	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→縦線貼付 内面ナデ	P4 覆土中	
TF645	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨位の条線 内面ナデ	P4 覆土中	
TF646	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面沈線 磨き	P4 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DF52	土偶	(54)	(59)	28	(61.6)	褐灰 長石・石英・雲母	山形土偶胴部	覆土下層	
DF53	土偶	(117)	8.4	35	(141.0)	にぶい黄 長石・石英・赤色粒子	表・裏面に赤彩	覆土下層	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 40	磁石	(39)	7.2	2.0	(74.0)	砂岩	表・裏面に磨り痕 熟焼	覆土中層	

第12号住居跡(第19～26図)

位置 調査B区のF3g6区、標高245mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 本跡の上位に第2号貝層と西部包含層の第4層が堆積している。第157号土坑を掘り込み、第133～135・155・160号土坑に掘り込まれている。第156・158・159・161・165・169・176号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

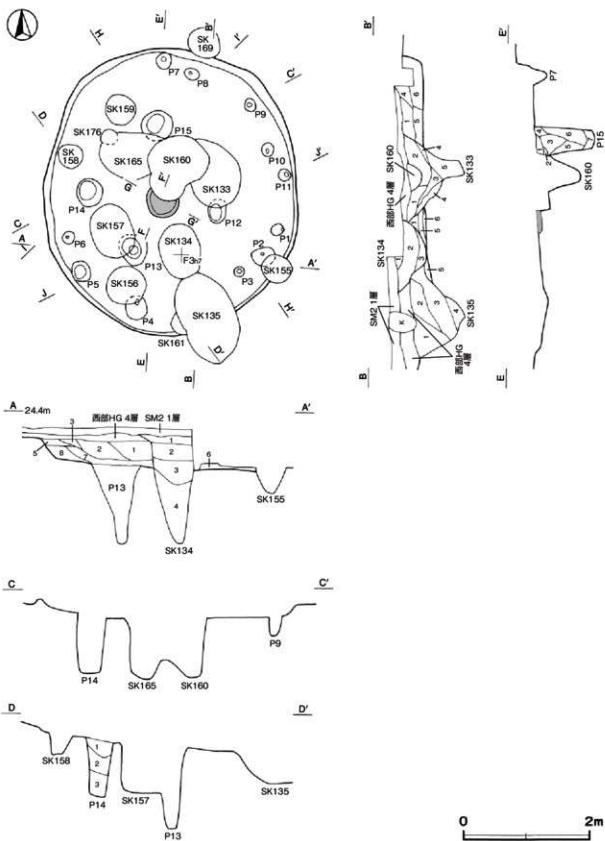
規模と形状 長径4.6m、短径4.0mの楕円形で、長径方向はN-0°である。壁高は8～31cmで、外傾して立ち上がっている。

床面 ほほ平坦であるが、南側に向かって若干傾斜している。炉の周辺に焼土粒子、炭化物、炭化粒子が多くみられ、若干の硬化面が認められる。また南壁付近に焼土ブロックの広がりが見られる。

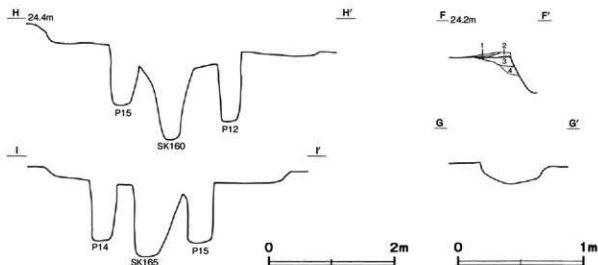
炉 中央やや南側に位置している。第160号土坑に掘り込まれているため、短径45cm、確認できた長径は50cmで、楕円形の地床炉である。第1・2層は焼土ブロックが多く含まれており、第2層下面が火床面である。掘方は深さ15～20cmで、ピット状に下がっている。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子極微量 4 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化粒子極微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量、ロームブロック・炭化物少量



第19図 第12号住居跡実測図(1)



第20図 第12号住居跡実測図(2)

ピット 15か所。壁際に巡るP1～P11は壁柱穴である。壁からやや内側に位置するP12～P15は、位置や深さから主柱穴と考えられる。第135号土坑は、位置から出入り口ピットとも考えられる。

ピット土層解説 P14

- | | | | |
|-------|--|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量、焼土粒子微量、炭化粒子・白色粒子極微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック・炭化物微量、白色粒子極微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量、炭化物微量、焼土粒子・白色粒子極微量 | | |

ピット土層解説 P15

- | | | | |
|---------|---|---------|------------------------|
| 1 濃い赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、白色粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量 | 5 濃い黄褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・灰白色粘土粒子微量、炭化粒子・白色粒子極微量 | 6 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| | | 7 暗褐色 | 砂粒中量、炭化物・ローム粒子少量 |

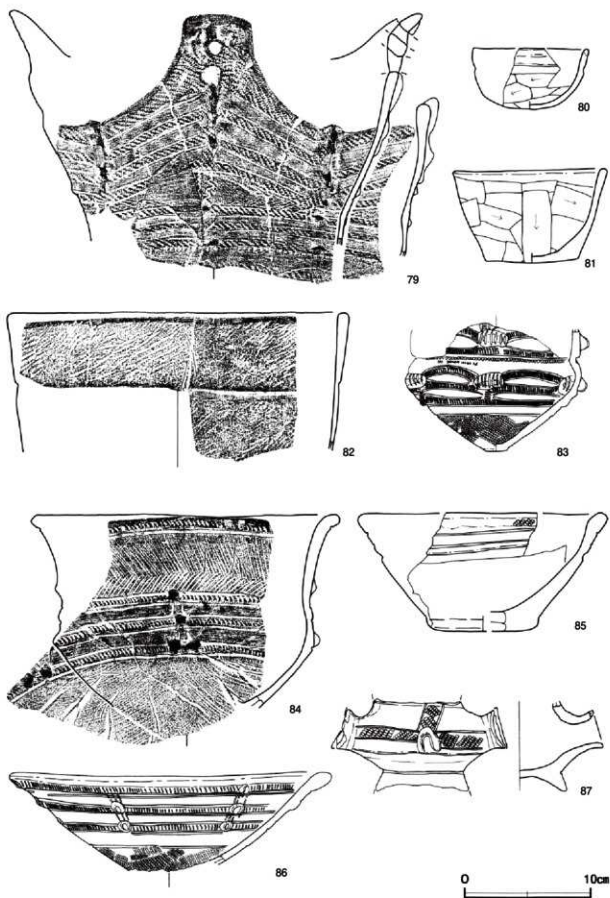
覆土 8層に分層できる。本跡を覆う層は、破砕貝を微量に含む暗褐色土の第2号貝層の第1層、及び黒褐色土の西部包含層第4層である。ロームブロックや焼土粒子・炭化粒子、破砕貝などが少量含まれている土が、北側及び西側から投げ込まれたような堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

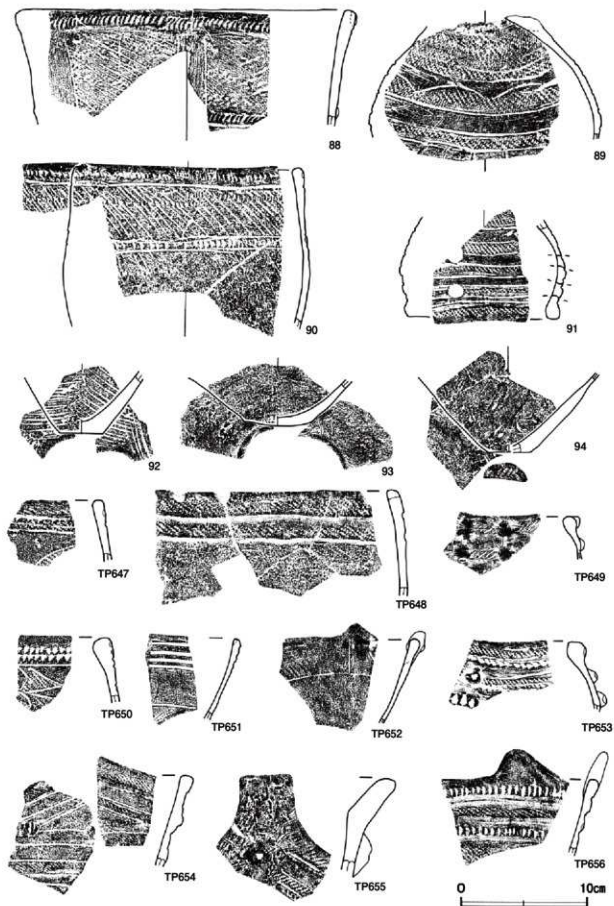
- | | | | |
|-------|---------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 灰黄褐色 | ロームブロック・炭化物・白色粒子少量、焼土粒子極微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック微量、炭化粒子・白色粒子極微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、破砕貝微量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 676点、土製品5点（耳飾り1、土偶1、土器片円盤3）、石器6点（磨石2、石皿2、石錘1、砥石1）、石核2点（チャート、瑪瑙）、加工痕のある剥片3点（チャート1、黒曜石2）と、混入した土師器片1点（坏）が出土している。遺物は覆土上層からの出土が多く、後期後葉の安行1式が中心である。79・TP657・TP666は床面からそれぞれ出土している。P15の底面から磨石1点が出土している。

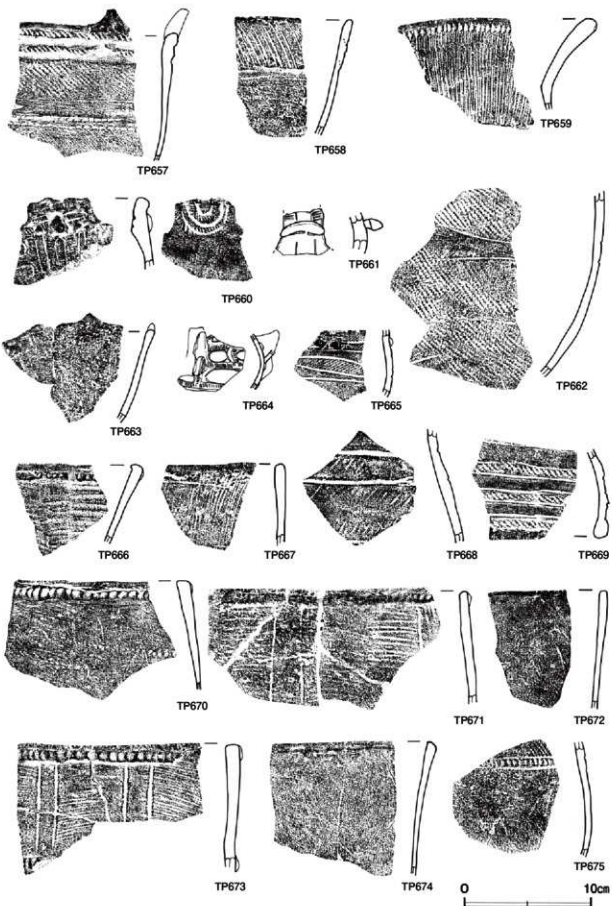
所見 時期は、出土土器から後期後葉と考えられる。南壁の立ち上がりが捉えにくいこと、また西壁奇りの覆土が連続的で、壁の立ち上がりを捉えるのが困難であること、投げ込まれたような覆土の堆積状況などから、住居廃絶後の埋め戻しと遺物包含層の形成には大きな時間差がなかったものと考えられる。



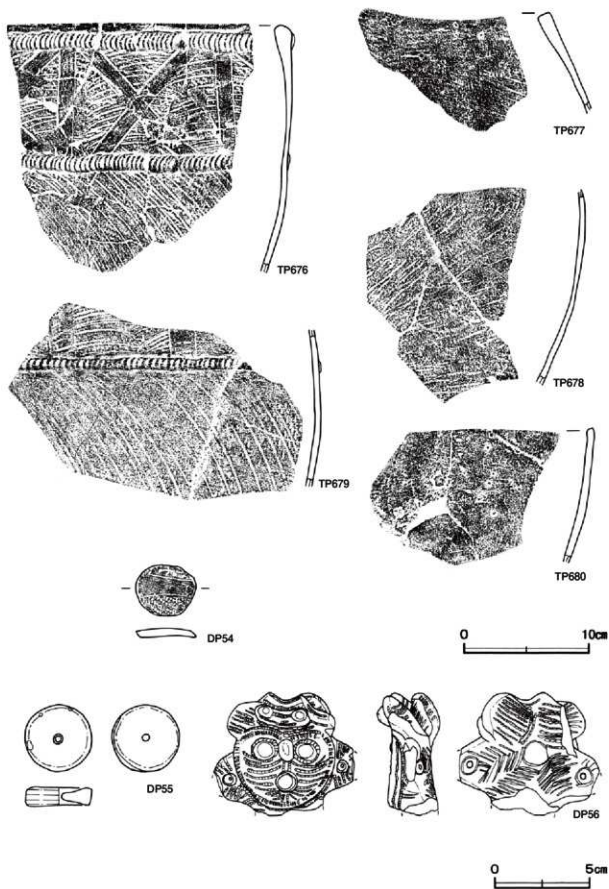
第22图 第12号住居跡出土遺物実測図(1)



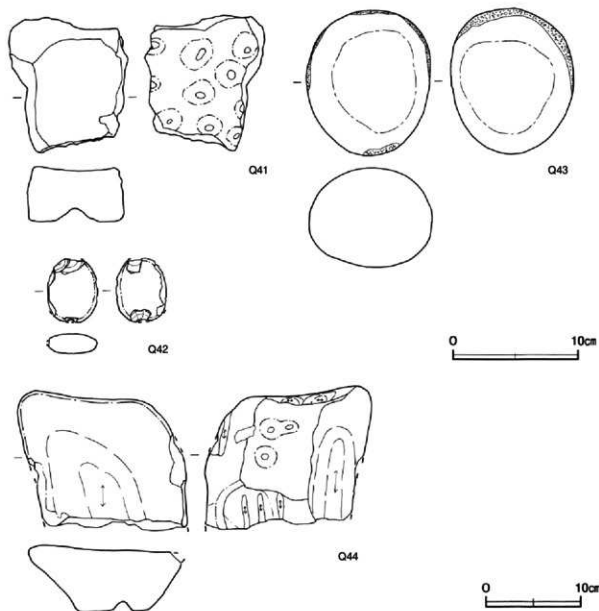
第23图 第12号住居跡出土遺物実測図(2)



第24图 第12号住居跡出土遺物実測図(3)



第25图 第12号住居跡出土遺物実測図(4)



第26図 第12号住居跡出土遺物実測図(5)

第12号住居跡出土遺物観察表(第22～26図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
79	縄文土器	深鉢	[32.2]	(19.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	陸帯土縄文RL→沈線→無文部磨き	内面磨き	床面	15%	
80	縄文土器	鉢	[90]	4.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り	内面ナデ	覆土上層	30%	
81	縄文土器	鉢	12.2	7.5	7.3	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面・底部磨り	内面磨き	覆土上層	100% PL10	
82	縄文土器	深鉢	[26.4]	(10.9)	-	長石・石英	橙	普通	陸帯臨門線→無筋縄文L	内面磨き	覆土上層	50%	
83	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	1.8	長石・石英	橙	普通	陸帯上積み・体部縄文RL→無文部磨き	内面粗い磨き	覆土上層	70% PL10	
84	縄文土器	台付鉢	[23.6]	(15.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤黄	普通	陸帯上積み→系線→沈線→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	20%	
85	縄文土器	鉢	[18.6]	9.4	7.8	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→陸帯土縄文LR→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	40% PL10	
86	縄文土器	台付鉢	25.0	(7.2)	-	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	陸帯上積み→陸帯臨沈線→磨貼付→履位沈線→無文部磨き	体部沈線→縄文RL	内面磨き	覆土上層	50% PL 9
87	縄文土器	蓋付土器	-	(7.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面一部磨き	覆土上層	80% PL10	
88	縄文土器	深鉢	[26.0]	(9.2)	-	長石・石英	橙	普通	縄文LR→系線→履位区画内磨き→磨細貼付→経線編みナデ	内面磨き	覆土上層	5%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
89	陶文土器	台付土器	-	(94)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	20%
90	陶文土器	深鉢	[176]	(98)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	条線→沈線→刷み 内面磨き	覆土上層	20%
91	陶文土器	台付土器	-	(78)	[14]	長石・石英	赤褐	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	20%
92	陶文土器	深鉢	-	(45)	3.2	長石・石英・雲母	橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	10%
93	陶文土器	深鉢	-	(37)	5.4	長石・石英	明赤褐	普通	外面刷り→粗いナデ 内面ナデ	覆土上層	10%
94	陶文土器	深鉢	-	(62)	[32]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面刷り 内面ナデ 底部網代痕	覆土上層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TI647	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線→口縁部刷み→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TI648	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	内、外面とも準減 隆帯下凹線→縄文L.L. 内面磨き	覆土上層	
TI649	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	凹線→無筋縄文L.L.→磨貼付 内面ナデ	覆土上層	
TI650	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TI651	陶文土器	鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
TI652	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	内、外面とも準減 無筋縄文R.○	覆土上層	
TI653	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	隆帯上縄文L.L.→無文部磨き→磨貼付 内面磨き	覆土上層	
TI654	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土上層	
TI655	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	磨貼→沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
TI656	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	隆帯上縄文L.L. 隆帯間に沈線 内面磨き	覆土上層	
TI657	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部凹線・沈線→刷み・縄文L.L. 胴部刷み→体部条線 内面ナデ	床面	
TI658	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	凹線→口縁部斜線文 体部刷り 内面磨き	覆土上層	
TI659	陶文土器	台付鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→刷み 内面磨き	SK100内	
TI660	陶文土器	鉢	長石・石英・細糠	橙	普通	隆帯上刷み 内面磨き	覆土上層	
TI661	陶文土器	手土器	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→刷み 内面ナデ	覆土上層	
TI662	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TI663	陶文土器	鉢	長石・石英・細糠	にぶい橙	普通	内、外面準減により調整不明瞭	覆土上層	
TI664	陶文土器	山口土器	長石・石英・雲母	黄橙	普通	隆帯上刷み 内面ナデ	覆土上層	
TI665	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TI666	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	条線→縁部磨貼付 内面磨き	床面	
TI667	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	条線→沈線 内面ナデ	覆土上層	
TI668	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文L.L.→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TI669	陶文土器	台付土器	長石・石英	明褐	普通	沈線→隆帯上縄文L.L.→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
TI670	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	地縄文→横線条線→縁部磨貼付 内面粗い磨き	覆土上層	
TI671	陶文土器	深鉢	長石・石英・細糠	にぶい橙	普通	内、外面とも準減 外面条線 縦位区画	覆土上層	
TI672	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面刷り 内面ナデ	覆土上層	
TI673	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→区画沈線内磨き→縁部磨貼付 内面ナデ	覆土下層	
TI674	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	刷り→ナデ 内面磨き	覆土上層	
TI675	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	横位沈線→沈線刷り 内面ナデ	覆土上層	
TI676	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	地縄文→縁部磨貼付・条線→区画沈線→沈線内磨き 内面磨き	覆土上層	
TI677	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	覆土上層	
TI678	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面無筋縄文L.L. 内面ナデ	覆土上層	
TI679	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	縁部磨貼付→地縄文・条線→区画内磨き 内面ナデ	覆土上層	
TI680	陶文土器	鉢	長石	橙	普通	内、外面準減により調整不明瞭	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP54	土器小片 四角	4.0	4.7	0.6	15.2	にぶい橙 長石・石英・赤色粒子	深鉢体部片利用 刷線全周研磨	覆土上層	
DP55	耳飾り	径3.5	孔径0.4	1.0	13.9	白彩 長石・石英・雲母		覆土上層	PL13
DP56	土偶	(6.5)	(7.4)	(3.3)	(100.0)	明褐 長石・石英・赤色粒子	有筋沈線で施文 背面は矢羽状沈線 赤彩	覆土上層	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 41	石皿	(98)	(95)	4.5	(496)	安山岩	表面磨り痕	裏面凹み		覆土上層	
Q 42	石鉢	(51)	(40)	1.5	(47)	安山岩	上下打ち欠き	側面割離		覆土上層	
Q 43	磨石	99	11.5	7.9	1247.0	砂岩	表面磨り痕	上下・側面 1/2 に磨打痕		覆土上層	
Q 44	砥石	(150)	17.9	7.5	(2144)	砂岩	表・裏面・左右側面上面に砥面	一部磨状	裏面に凹み	被熱	覆土上層 PL14

表7 縄文時代住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) 長軸×短軸 (径)	厚高 (cm)	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)	
							柱穴	出入口	ピット					
3	E4J0	N-78°-E	楕円形	9.14×6.90	8-35	平坦			1	1人跡	縄文土器、土製品、石器、石製品	晩期中葉	SI 4→本跡→SK106・113・114	
4	E4J0	N-78°-E	不整形四角	9.08×8.70	8-18	平坦	16	6	68	1	1人跡	縄文土器、土製品、石器、石製品	晩期中葉	本跡→SI 3→SK106・113・114
5	F319	N-38°-W	[円形]	[8.00]×[8.00]	-	傾斜	8	-	29	1	1人跡	縄文土器、土製品、石器	後期中葉～後葉	東部HG→本跡→SM2
8	F3g9	-	[円形]	3.90×(1.45)	16-29	傾斜	2	-	5	-	自然	縄文土器、土製品、石器	晩期前葉	西部HG→本跡→SM2
12	F3g6	N-0°	楕円形	4.60×4.00	8-31	平坦	4	-	11	1	1人跡	縄文土器、土製品、石器	後期後葉	SK157→本跡→SK133・135・155・160→西部HG・SM2 SK156・158・159・161・165・169・176

(2) 炉跡

第2号炉跡 (第27図)

位置 調査B区のF3g6区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層下で確認できた。第12号住居跡に接している。

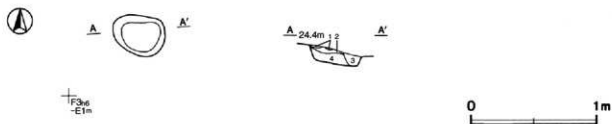
規模と形状 長径43cm、短径31cmの楕円形で、長径方向はN-72°-Wである。底面は平坦で、地山に沿って東側に傾斜している。掘方の深さは11cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。上層に焼土粒子が多く含まれる層が堆積している。ロームブロックが多く含まれる第3層と灰白色粘土粒子がやや多く含まれる第4層が不整合に堆積している。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 4 暗褐色 灰白色粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 粒子・炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量、炭化粒子極微量

所見 周辺にピット等がないことから、住居に伴う炉跡の可能性は考えられない。明瞭な火床面が認められないこと、掘方内に柱痕状の覆土の堆積が見られることなどから、炉跡と考えるにはやや不都合がある。時期は遺物が出土していないことから明確にはできないが、西部包含層下に位置していることから、縄文時代後期以前と考えられる。



第27図 第2号炉跡実測図

第3号炉跡（第28図）

位置 調査B区のF4h4区、標高24.5mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認トレンチによって削平されているため、長径50cm、確認できた短径は29cmで、楕円形と推測できる。長径方向はN-17°-Eである。深さ10cmほどの掘方を伴い、掘方の底面は凹凸である。壁は外傾して立ち上がっている。

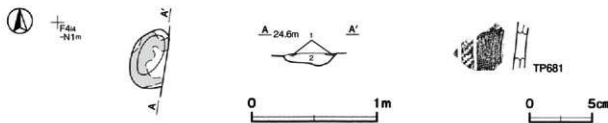
覆土 2層に分層できる。覆土上層に厚さ3～5cmほどの焼土粒子が多く含まれる層が堆積している。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片2点が覆土中から出土している。

所見 周辺に第4号ピット群のP26～P31があることから住居に伴う炉跡の可能性があるが、柱穴配置等が捉えられないことから断定はできない。時期は、遺物が小片で少量しか出土していないため明確にできないが、後期初頭から前葉と考えられる。



第28図 第3号炉跡・出土遺物実測図

第3号炉跡出土遺物観察表（第28図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP681	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	北線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	

表8 縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		深さ(cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	重複関係(古→新)
				長径(軸) × 短径(軸)							
2	F3g6	N-72°-W	楕円形	0.43 × 0.31		11	外傾	平坦	人為	-	本跡→西部HG
3	F4h4	N-17°-E	[楕円形]	0.50 × (0.29)		10	外傾	傾斜	人為	縄文土器	

(3) 粘土採掘坑

第2号粘土採掘坑（第29図）

位置 調査B区のF4g2区、標高25mの台地上に位置している。

重複関係 第119号土坑、第4号ピット群に掘り込まれている。南部で東部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径5.21m、短径3.42mの不整楕円形で、長径方向はN-21°-Eである。深さは40cmで、底面は南側に向かって傾斜し、ピット状の落ち込みがある。壁は南側は外傾して立ち上がっているが、北側は内傾している。

覆土 19層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれている暗・黒褐色土が、不規則に堆積して

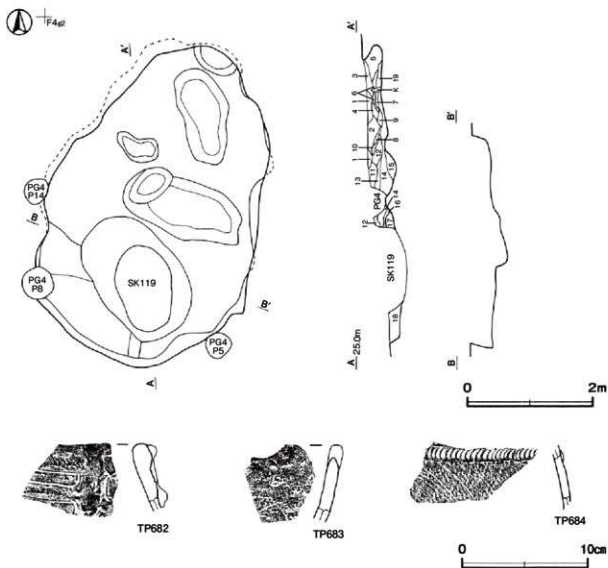
いることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック微量	12	黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック微量	13	黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
4	黒褐色	ロームブロック少量	14	暗褐色	ロームブロック極多量、灰白色粘土ブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック少量	15	暗褐色	ロームブロック極多量、灰白色粘土ブロック中量
6	暗褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック少量	16	黒褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
7	黒褐色	ロームブロック少量（4より暗）	17	暗褐色	ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック微量
8	黒褐色	ロームブロック微量	18	黒褐色	灰白色粘土ブロック中量、ロームブロック微量
9	黒褐色	灰白色粘土ブロック中量、ロームブロック少量	19	暗褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック多量
10	暗褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 縄文土器片 43 点が出土している。TP682～TP684 は覆土中から出土している。

所見 規模が大きく、北側の壁はオーバーハングして形状が不整形であること、底面はビット状の凹凸があること、灰白色粘土層を掘り込んでいることなどから粘土採掘坑の可能性はある。ただし、灰白色粘土層への掘り込みは浅く、一般的な粘土採掘坑のように多数回の掘り込みは見られない。時期は、出土土器と重複する第 119 号土坑の時期から後期前葉と考えられる。



第 29 図 第 2 号粘土採掘坑・出土遺物実測図

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表 (第29図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP682	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	沈澱→縄文瓦し→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
TP683	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面磨い縄文 内面ナデ	覆土中	
TP684	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	地縄文→条線→根線貼付 内面ナデ	覆土中	

(4) 土坑

今回の調査で、縄文時代とみられる土坑78基を確認した。そのうち、覆土の堆積状況や遺物の出土状況などが特徴的な土坑25基については実測図と出土遺物観察表を示し、文章で説明する。その他の土坑については、規模・形状等について実測図と土層解説、一覧表で掲載するにとどめる。

第106号土坑 (第30図)

位置 調査D区のF4a0区、標高25mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3・4号住居跡、第113号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.88m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-12°-Eである。深さは20cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

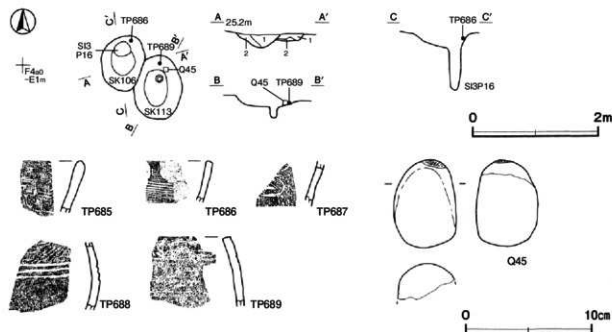
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 2 極暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片72点、剥片1点(頁岩)、焼成粘土塊4点が出土している。TP686は覆土中層から出土している。

所見 出土土器は晩期中葉が中心で、晩期中葉の第3号住居跡を掘り込んでいることから、時期は晩期中葉と考えられる。



第30図 第106・113号土坑・出土遺物実測図

第106号土坑出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP685	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	半截竹管状工具による条線 内面ナデ	覆土中	
TP686	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	磨面状工具による条線 内面磨き	覆土中層	
TP687	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面刷文充填 内面磨き	覆土中	
TP688	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→無面縄文L 内面ナデ	覆土中	

第113号土坑 (第30図)

位置 調査D区のF4a0区、標高25mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3・4号住居跡を掘り込み、第106号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.00m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-4°-Eである。深さは10cmで、底面は平坦であるが、中央やや北側がピット状に下がっている。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片6点、敲石1点が出土している。TP689・Q45は底面から出土している。

所見 出土土器は晩期中葉が中心で、晩期中葉の第3号住居跡を掘り込んでいることから、時期は晩期中葉と考えられる。

第113号土坑出土遺物観察表 (第30図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP689	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ 摩滅顕著	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	敲石	(69)	(50)	(28)	(116.7)	安山岩	一端に敲打痕 被熱	覆土下層	

第108号土坑 (第31図)

位置 調査D区のF5c1区、標高25mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.47m、短径1.05mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは14cmで、底面は平坦であるが、南東に向かって緩やかに傾斜している。壁は外傾して立ち上がっている。

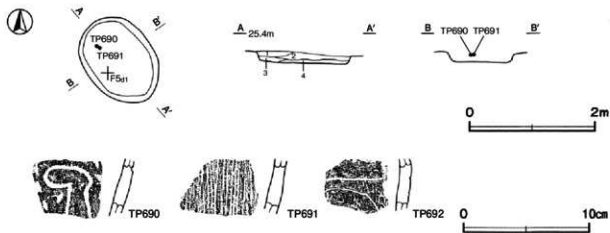
覆土 4層に分層できる。各層にローム粒子が多量に含まれており、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 にぶい褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片23点が出土している。TP690・TP691は、北西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭の称名寺Ⅱ式期と考えられる。



第31図 第108号土坑・出土遺物実測図

第108号土坑出土遺物観察表 (第31図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP690	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	J字文に何突北境 内面磨き	覆土中層	
TP691	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	櫛歯状工具による条線	覆土中層	
TP692	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	低い磨き→沈線文 内面磨き	覆土中	

第110号土坑 (第32・33図)

位置 調査B区のF3h9区、標高245mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 東部遺物包含層を掘り込んでいる。本跡の南側に第2号貝層の広がり確認でき、これを掘り込んでいる。平面的には第111号土坑と重複するが、第111号土坑は本跡の中層以下の径が窄まる位置での確認であり、実際には重複していない。

規模と形状 トレンチで上部を削平されているため、確認できた長径は1.39m、短径は1.35mで、不整形円形と推測できる。深さは252cmで、底面は平坦である。壁は底面から直立し、上部は外傾して立ち上がっている。

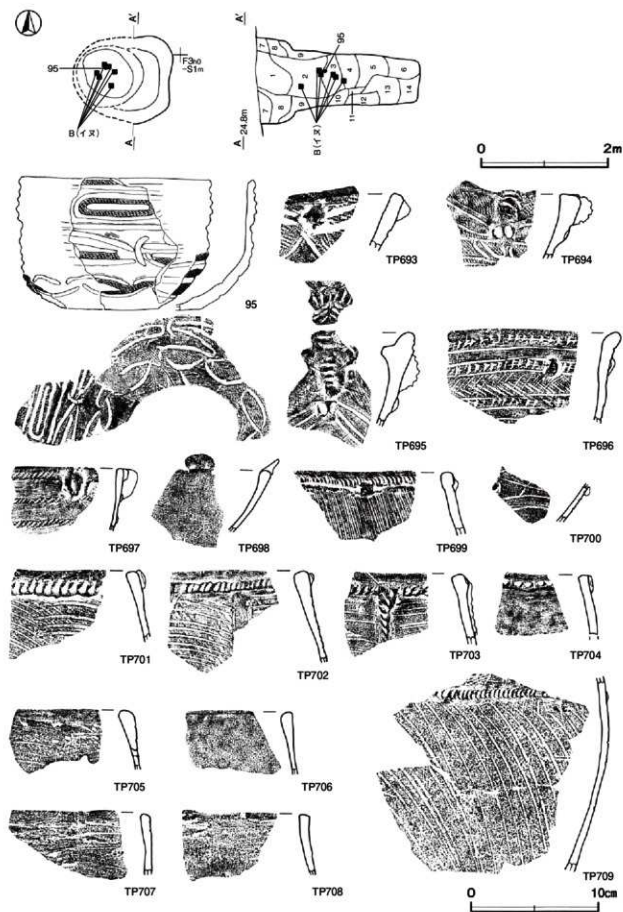
覆土 14層に分層できる。第1～6層が柱の抜き取り状の堆積状態で、第7～14層が掘方への埋土とみられる。第1～6層は炭化物・獣骨片が少量含まれ、第7～14層は黒褐色土色で貝片が多く含まれている。

土層解説

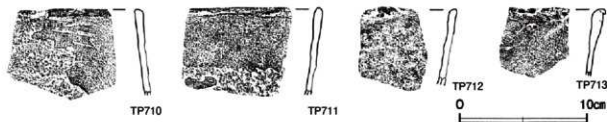
1 暗褐色	ローム粒子多量、獣骨片微量	9 黒褐色	貝少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 (8より締まり・粘性弱)
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・獣骨片少量	10 黒褐色	貝多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子・獣骨片少量	11 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・貝微量
4 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	12 黒褐色	貝少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量	13 黒褐色	貝中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒褐色	炭化粒子・黄褐色砂粒少量、ローム粒子微量	14 黒褐色	貝多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 黒褐色	貝多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		
8 黒褐色	貝少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 縄文土器片273点、軽石1点、焼成粘土塊2点が出土している。遺物の多くは覆土上層からの出土で、後期後葉から晩期前葉のものが多い。95は中央部の覆土中層から出土している。また、製塩土器と考えられる無文土器が、覆土中から25点出土している。覆土中層からイヌの骨1個体分が出土している。

所見 形状から柱穴の可能性はあるが、イヌの全身骨格が出土していることから、イヌを埋葬した土坑の可能性も考えられる。時期は、出土土器から後期後葉から晩期前葉と考えられる。



第32图 第110号土坑·出土物实测图



第33図 第110号土坑出土遺物実測図

第110号土坑出土遺物観察表 (第32・33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
95	縄文土器	鉢	[[48]]	10.3	7.5	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土中層	60% PL.8
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の 特徴 ほか		出土位置	備考		
TP693	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き		覆土上層			
TP694	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	明赤褐	普通	沈線→隆帯上縄文LR、刷み→無文部磨き 内面磨き		覆土上層			
TP695	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→隆帯上縄文LR、刷み→無文部磨き		覆土上層			
TP696	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部尖頂状沈線→沈線→隆帯上刷み→磨貼付 内面磨き		覆土上層			
TP697	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	隆帯上縄文LR→無文部磨き 内面ナデ		覆土上層			
TP698	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	内、外面磨き		覆土上層			
TP699	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	条線→横位沈線→口唇部刷み→磨貼付 内面ナデ		覆土上層			
TP700	縄文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→無文部磨き 内面磨き		覆土上層			
TP701	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	地縄文→条線→縦線貼付		覆土上層			
TP702	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	地縄文→条線→縦線貼付→縦位内面磨き 内面ナデ		覆土上層			
TP703	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	条線→縦線貼付 内面粗い磨き		覆土上層			
TP704	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰	普通	外面磨き 内面ナデ		覆土上層			
TP705	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	地縄文→条線 内面磨き 補修孔あり		覆土上層			
TP706	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内、外面ナデ		覆土上層			
TP707	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	普通	外面条線 内面ナデ		覆土上層			
TP708	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内、外面ナデ		覆土上層			
TP709	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子・中硬	橙	普通	縦線貼付→胴部区画沈線・体部条線→縄文LR 内面ナデ		覆土上層			
TP710	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ナデ 潤澤 内面粗い磨き		覆土上層			
TP711	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	外面磨り 潤澤 内面ナデ		覆土上層			
TP712	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面磨り 潤澤 内面ナデ		覆土上層			
TP713	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ		覆土上層			

第111号土坑 (第34図)

位置 調査B区のF3h9区、標高245mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号トレンチの底面で確認したため、上端は削平されている。そのため東部包含層と重複しているが、新旧関係は不明である。平面的には第110号土坑と重複するが、第110号土坑の径が窄まる中層以下での確認であり、実際には重複していない。

規模と形状 長径0.65m、短径0.60mの円形である。深さは59cmで、底面は南東部が若干下がっている。壁は外傾して立ち上がっている。

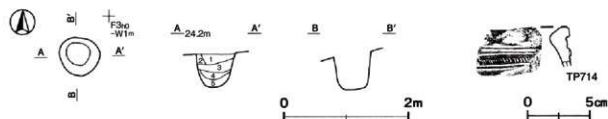
覆土 5層に分層できる。第4層がヤマトシジミの純貝層であり、本跡が廃棄された後の窪みに廃棄されたものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|-------------|-------------|
| 1 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 ヤマトシジミ純貝層 | |
| 2 黒 褐色 | 灰白色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片6点が出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉と考えられる。



第34図 第111号土坑・出土遺物実測図

第111号土坑出土遺物観察表 (第34図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP714	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯上折入→無文部磨き 内面磨き	覆土中	

第114号土坑 (第35図)

位置 調査DIXのE 5j1区、標高25mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3・4号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.06m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-75°-Eである。深さは22cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

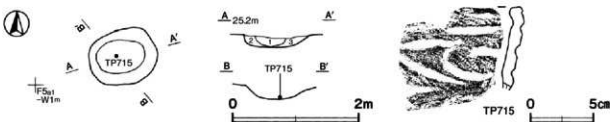
覆土 3層に分別できる。焼土粒子やローム粒子が含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・骨片微量 | 3 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・骨片少量、粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片24点、焼成粘土塊3点が出土している。TP715は中央部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から晩期中葉と考えられる。



第35図 第114号土坑・出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表 (第35図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP715	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈澱→縄文R.L.→無文部磨き 内面ナデ	底面	

第 119 号土坑 (第 36 図)

位置 調査B区のF4h2区、標高25mの台地上に位置している。

重複関係 第2号粘土採掘坑を掘り込んでいる。周辺に第4号ピット群が位置しているが、直接的な重複関係はない。

規模と形状 長径1.40m、短径0.88mの楕円形で、長径方向はN-18°-Wである。深さは17~36cmで、底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

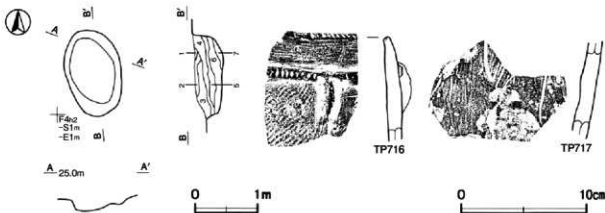
覆土 7層に分層できる。ロームブロック、灰白色粘土ブロックが多く含まれる黒褐色土によって埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック中量 | 6 黒褐色 ロームブロック多量、灰白色粘土ブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、灰白色粘土ブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量、灰白色粘土ブロック微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片15点が出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。



第 36 図 第 119 号土坑・出土遺物実測図

第 119 号土坑出土遺物観察表 (第 36 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP716	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	縄文1段→採掘坑付→粗み→採掘坑底→新文部筋き 内面磨き、口唇部に磨み	覆土中	
TP717	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈澱間に研突文光沢 内面ナデ	覆土中	

第 120 号土坑 (第 37 図)

位置 調査B区のF4j3区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号貝層を掘り込んでいる。

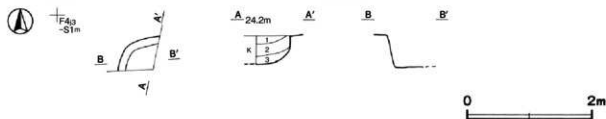
規模と形状 攪乱のため、確認できたのは北西部の四分円部のみである。規模は径1.1mの円形と推測でき、深さは56cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、貝少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量 | |

所見 時期は、第1号貝層を掘り込んでいることから、後期後葉以降と考えられる。



第37図 第120号土坑実測図

第121号土坑 (第38・39図)

位置 調査B区のF4B区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号貝層を掘り込んでいる。

規模と形状 攪乱のため、長径は0.73m、確認できた短径は0.67mで、円形と推測できる。深さは134cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

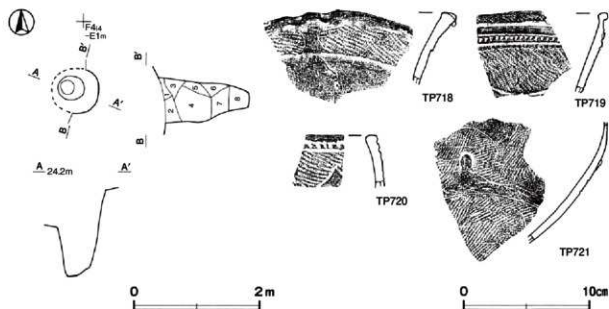
覆土 8層に分層できる。ロームブロックと炭化物、貝が含まれ、埋め戻されている。第4層にハマグリ・ヤマトシジミが、第7層にはヤマトシジミが含まれている。

土層解説

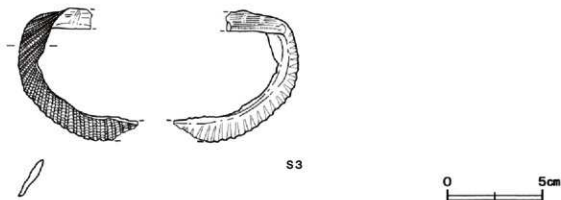
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・貝少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック・炭化粒子・貝少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片88点が出土している。土器は、覆土中層から出土しているものが多い。TP718・TP719は中央やや東寄りの覆土上層から、S3は覆土中層から出土している。

所見 深い円筒状の土坑で、形状などから貯蔵穴の可能性はある。時期は、出土土器から後期後葉の曾谷式期と考えられる。



第38図 第121号土坑・出土遺物実測図



第39図 第121号土坑出土遺物実測図

第121号土坑出土遺物観察表 (第38・39図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP718	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	縄文区L→弧線文→体部磨き 内面ナデ一部研磨	覆土上層	
TP719	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線→縄文区L→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TP720	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	普通	沈線→刷み・縄文区L→無文部磨き	覆土上層	
TP721	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線→無面縄文L→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
S3	貝輪	(70)	(64)	04	(20.2)	ヤルゴウ質	未製品*	覆土中層	PL16

第122号土坑 (第40・41図)

位置 調査B区のF43区、標高23mの斜面部に位置している。

重複関係 第1号貝層を掘り込んでいる。

規模と形状 確認トレンチに削平されているため、長径は0.64m、確認できた短径は0.44mで、楕円形と推測できる。深さは36cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第1・2層は破砕された貝が含まれており、埋め戻されている。

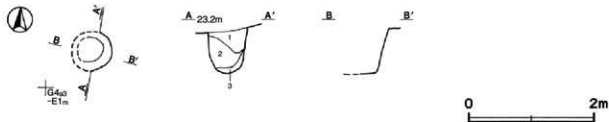
土層解説

- 1 黒褐色 貝中量
- 2 黒褐色 貝少量

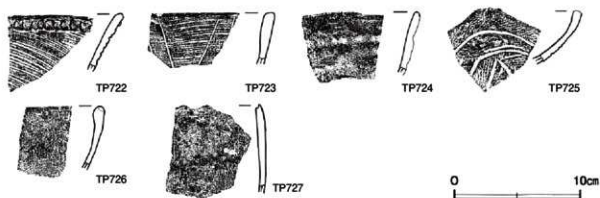
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片141点、焼成粘土塊1点が出土している。遺物は覆土上層から多く出土している。出土した土器のうち、5点が製塩土器と考えられる無文土器である。TP722・TP723・TP726は覆土上層から、TP724・TP725・TP727は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期後葉と考えられる。



第40図 第122号土坑実測図



第41図 第122号土坑出土遺物実測図

第122号土坑出土遺物観察表(第41図)

番号	種類	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP722	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	条線→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
TP723	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	条線→縦位区画沈線 内面ナデ	覆土上層	
TP724	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面網継 内面ナデ	覆土中	
TP725	縄文土器	浅鉢	長石・白色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き 摩滅顯著	覆土中	
TP726	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土上層	
TP727	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	磨り→ナデ 内面ナデ 製塩土器*	覆土中	

第126号土坑(第42図)

位置 調査B区のF3h0区、標高245mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 東部包含層の第14層(暗褐色土)を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.41m、短径1.10mの不整楕円形で、長径方向はN-28°-Wである。深さは54cmで、底面は皿状である。壁は北部が外傾して、南部は緩やかに立ち上がっている。

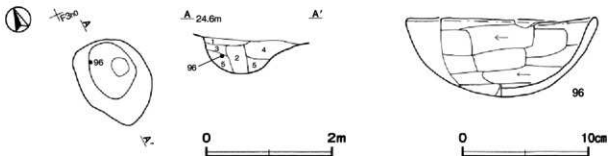
覆土 5層に分層できる。第2層は、柱が抜き取られた状況の堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 灰白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | 灰白色粘土ブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片40点が出土している。96は北西部の覆土中層から出土している。

所見 覆土の堆積状況から、柱穴の可能性が。時期は、出土土器から後期から晩期と考えられる。



第42図 第126号土坑・出土遺物実測図

第126号土坑出土遺物観察表 (第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
96	縄文土器	鉢	[148]	5.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面隈り 内面ナデ	覆土中層	40%

第128号土坑 (第43・44図)

位置 調査B区のF3f6区、標高24.5mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層の第1層下で確認した。

規模と形状 長径1.70m、短径1.62mの不整楕円形で、長径方向はN-56°-Wである。深さ200cmのところ
で、崩落の危険があるため調査を断念した。壁は確認面下30cmまでは外傾して、以下は直立している。

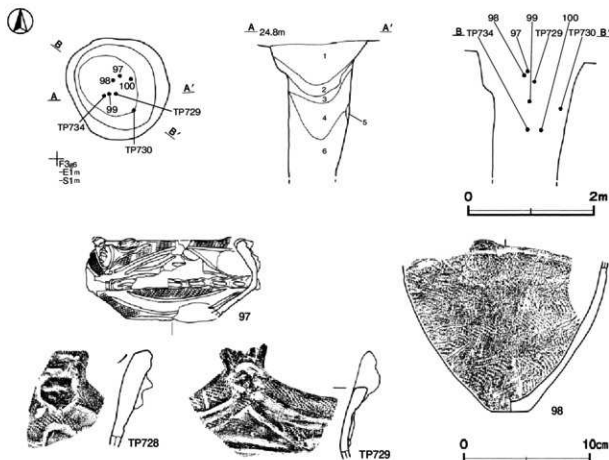
覆土 6層に分層できる。焼土粒子、炭化粒子、粘土粒子が含まれているが、レンズ状の堆積状況で自然堆積である。第1・2層からは土器片が多量に出土している。

土層解説

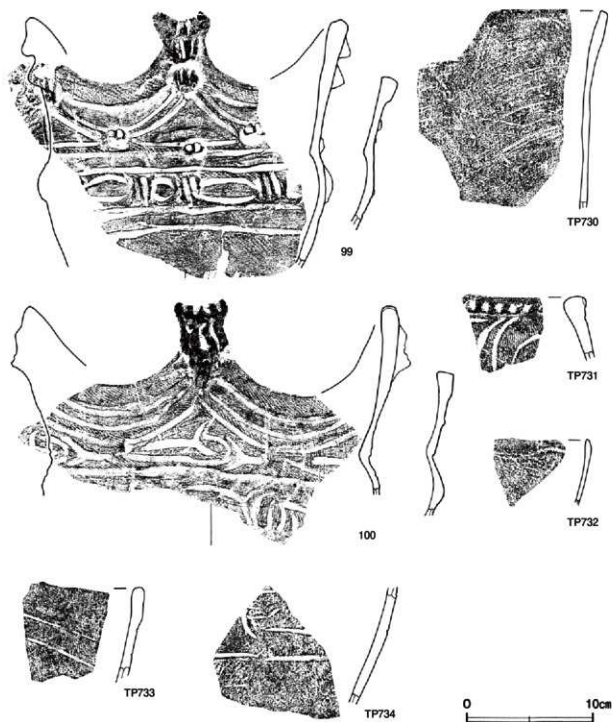
1	にぶい黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化物少量、焼土ブロック微量	3	明褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2	にぶい褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	4	にぶい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
			5	オリーブ色	粘土粒子多量、炭化粒子微量、ローム粒子極微量
			6	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片127点が出土している。97・98・TP729は覆土上層から、99・100・TP730・TP734は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から晩期前葉の安行3a式期と考えられる。



第43図 第128号土坑・出土遺物実測図



第44図 第128号土坑出土遺物実測図

第128号土坑出土遺物観察表 (第43・44図)

番号	種別	部種	口径	部高	底径	胎土	色調	構成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
97	縄文土器	鉢	[11.4]	(61)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層 40% PL.10
98	縄文土器	深鉢	-	(118)	3.0	長石・石英・赤色砂子・黒塵	にぶい赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層 40%
99	縄文土器	深鉢	[24.6]	(197)	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	船形付→沈線→縄文RL→無文部磨き	内面ナデ	覆土中層 20% PL.11
100	縄文土器	深鉢	[28.6]	(166)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	船形付→沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	覆土中層 20% PL.11

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP728	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	亀貼付→段帯上縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
TP729	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	亀貼付→段帯上縄文RL→無文部磨き 内面ぬい磨き	覆土上層	
TP730	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面厚減により調整不明瞭	覆土中層	
TP731	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	縁線貼付 胴部沈線→縄文LR→無文部磨き	覆土中層	
TP732	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面厚減により調整不明瞭 内面一部研磨 製塩土器?	覆土中層	
TP733	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内・外面厚減により調整不明瞭	覆土中層	
TP734	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	覆土中層	

第129号土坑 (第45・46図)

位置 調査B区のF3h7区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層の第1層黒褐色土下で確認した。西部包含層の第4層暗褐色土を掘り込んでいる。

規模と形状 確認トレンチによって上部が削平されているため、確認できた長径は1.17m、短径は1.04mで、楕円形と推測でき、長径方向はN-14°-Eである。深さは70cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

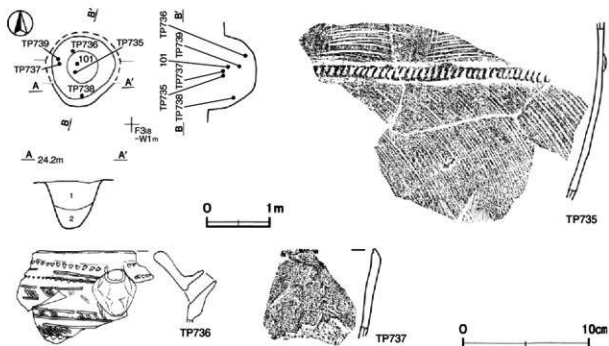
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれており、埋め戻されている。

土層解説

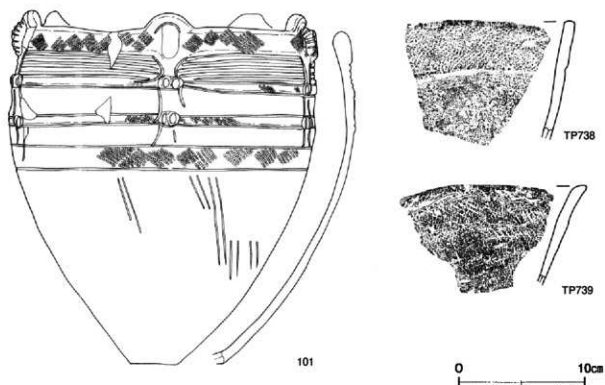
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片26点が出土している。101はほぼ完形に復元できる深鉢で、覆土中層から横位で出土している。TP735・TP737～TP739は覆土中層から、TP736は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 形状や土器の出土状況などから墓坑や貯蔵穴の可能性が有る。時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。



第45図 第129号土坑・出土遺物実測図



第46図 第129号土坑出土遺物実測図

第129号土坑出土遺物観察表 (第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか			出土位置	備考	
									厚減測者	沈線→縄文RL	→瘤貼付			体部条線
101	縄文土器	深鉢	220	281	[38]	長石・石英	赤褐色	普通	厚減測者 内面ナデ	沈線→縄文RL	→瘤貼付	体部条線	覆土中層	90% PL. 7
番号	種別	器種	胎土		色調	焼成	文様の特徴ほか			出土位置	備考			
TP735	縄文土器	深鉢	長石・石英		橙	普通	区画沈線間磨き	→条線	→縁線貼付	内面ナデ	覆土中層			
TP736	縄文土器	注口	長石・石英・赤色粒子		明赤褐色	普通	沈線→縄文RL	→無文部磨き	内面ナデ	厚減測者	覆土下層			
TP737	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子		橙	普通	外面磨り	内面ナデ	製塩土器		覆土中層			
TP738	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子		橙	普通	口縁部縄文LR	胴部粗い磨き	内面磨き		覆土中層			
TP739	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子		にぶい赤褐色	普通	ナデ	→沈線	→縄文RL	内面磨き	覆土中層			

第133号土坑 (第19・47図)

位置 調査B区のF3g6区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第12号住居跡を掘り込み、第160号土坑に掘り込まれている。第165号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。また覆土上層を第134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複のため、確認できた長径は1.17m、短径は0.83mで、楕円形と推測できる。長径方向はN-31°-Wである。深さは90cmで、底面は中央部がピット状に下がっている。壁は外傾して立ち上がっている。

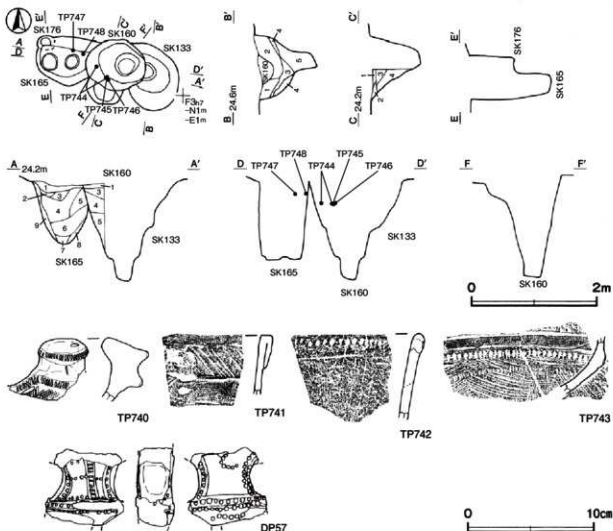
覆土 5層に分層できる。焼土ブロックや炭化物などが少量含まれており、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------|---|-----|------------------------|
| 1 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土ブロック微量 |
| 2 | 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量 | 5 | 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量、磁砂具
微少量 | | | |

遺物出土状況 縄文土器片 55 点, 土偶 1 点が出土している。TP743 は覆土中層から出土したもので, 第 157 号土坑から出土した破片と接合したものである。

所見 ビット状の深い土坑で, 形状から墓坑や貯蔵穴の可能性はある。時期は, 後期後葉の安行 1 式期で, 重複する第 160・165 号土坑と大きな時間差はうかがえない。



第 47 図 第 133・160・165・176 号土坑実測図, 第 133 号土坑出土遺物実測図

第 133 号土坑出土遺物観察表 (第 47 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
TP740	縄文土器	深鉢	石英・雲母	橙	普通	口縁部沈線→刷み→縄文LR	覆土上層		
TP741	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部肥厚・条線 内面ナデ	覆土中層		
TP742	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部縄文LR 内面ナデ 摩滅顯著	覆土中層		
TP743	縄文土器	台付鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	沈線→刷み→無文部磨き・腰部条線	覆土中層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP57	土偶	(61)	(62)	4.1	(106.7)	にぶい橙 長石	中央 竹管文による文様施文	覆土中層	PL14

第 160 号土坑 (第 47・48 図)

位置 調査B区のF3g6区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第12号住居跡、第133・165号土坑、西部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.10m、短径0.98mの不整楕円形で、長径方向はN-30°-Eである。深さは156cmで、底面は中央部がビット状に下がっている。壁は外傾して立ち上がっており、中位で段を有している。

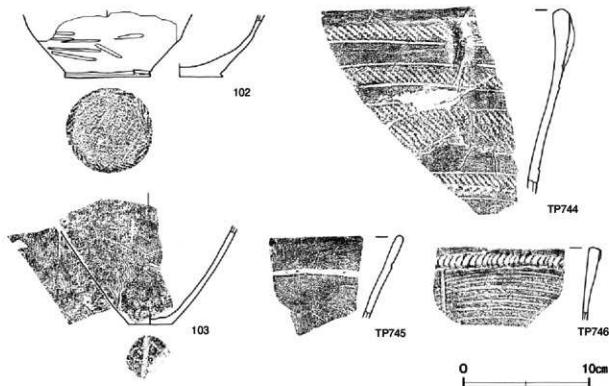
覆土 部分的にしか覆土の観察ができなかったが、砂粒や粘土ブロック、焼土ブロック、炭化物がやや多く含まれる層が堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック・粘土ブロック・砂粒・破砕貝少量 |
| 2 暗褐色 砂粒中量、粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、破砕貝極微量 |
| 3 灰褐色 砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・粘土ブロック少量 | |

遺物出土状況 縄文土器片41点と黒曜石製の石核が1点出土している。TP744～TP746は、南西部の覆土上層から出土している。

所見 ビット状の深い土坑で、埋め戻されていることや形状から墓坑や貯蔵穴の可能性がある。時期は、後期後葉の安行1式期で、重複する第133・165号土坑と大きな時間差はうかがえない。



第 48 図 第 160 号土坑出土遺物実測図

第 160 号土坑出土遺物観察表 (第 48 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴	目か	出土位置	備考	
102	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	7	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外面磨き	内面ナデ	底部縄文LR→磨き	覆土中	20%
103	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	3.4	長石・石英・燧石	黒	普通	外面磨り	内面ナデ	底部本葉成	覆土中	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP744	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TP745	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	口縁部下に凹線 磨り→ナデ 内面磨き	覆土上層	
TP746	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	地縄文→条線→縦線貼付→縦位区画 内面磨き	覆土上層	

第165号土坑 (第47・49図)

位置 調査B区のF3g6区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第12号住居跡、西部包含層を掘り込み、第160号土坑に掘り込まれている。第133・176号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 重複のため、確認できた長径は1.10m、短径は0.81mで、不整楕円形と推測できる。長径方向はN-85°-Wである。深さは128cmで、底面は凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

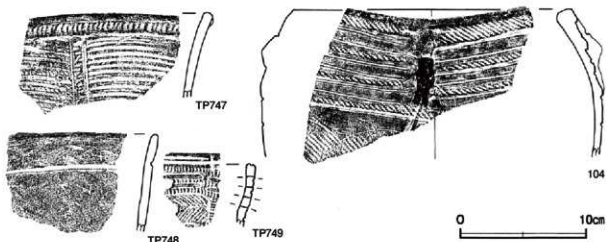
覆土 9層に分層できる。焼土ブロックや粘土ブロック、炭化物がやや多く含まれている層が不整な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物中量、粘土ブロック・砂粒少量、ローム粒子・貝微量 | 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・砂粒・貝微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物・砂粒少量、ローム粒子・貝微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量、貝微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・砂粒・貝少量、ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物・砂粒・貝少量、ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 9 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片27点、石器1点(砥石)、剥片1点(黒曜石)が出土している。TP747・TP748は北東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 ビット状の深い土坑で、埋め戻されていることや形状から墓坑や貯蔵穴の可能性がある。時期は、後期後葉の安行1式期で、重複する第133・160号土坑と大きな時間差はうかがえない。



第49図 第165号土坑出土遺物実測図

第165号土坑出土遺物観察表 (第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
104	縄文土器	深鉢	[220]	[118]	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP747	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地縄文→高麗→総位区画→縦線貼付 内面ナデ	覆土上層	
TP748	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面ナデ 内面滑き	覆土上層	
TP749	縄文土器	算盤 台付土器	長石・石英・雲母	橙	普通	沈脚→彫み・区画内矢印縦状沈脚 内面ナデ	覆土中	

第 134 号土坑 (第 19・50・51 図)

位置 調査B区のF3g6区。標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第12号住居跡、第133・135号土坑、西部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.87m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。西部包含層の一部として掘り込みを開始したため、実際の上径は北側に広がっていたものと推測できる。深さは120cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

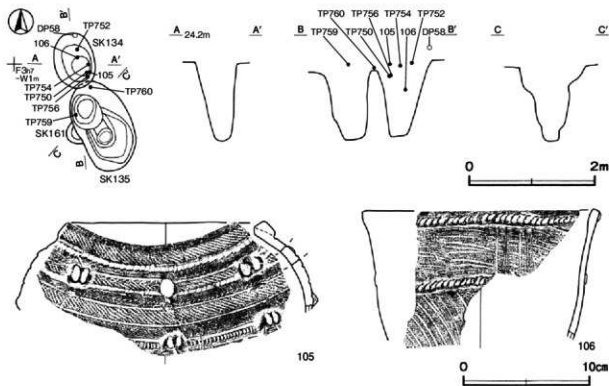
覆土 4層に分層できる。焼土ブロックや炭化物などが少量含まれているが、レンズ状の堆積状況で自然堆積である。

土層解説

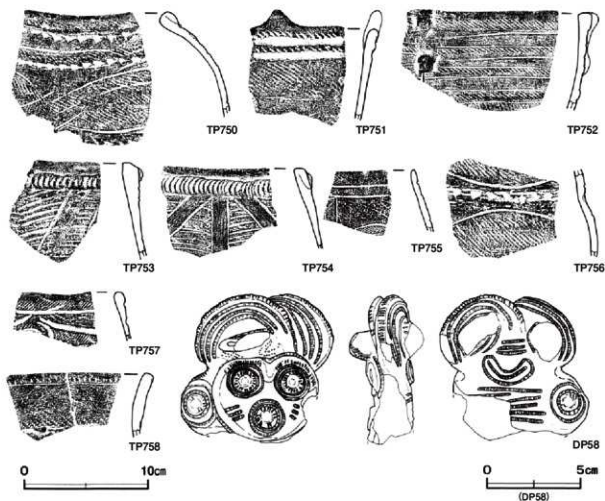
- 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・破砕貝微量
- 暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量
- 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片155点、土製品2点(土偶、土器片円盤)、石核3点(チャート)が出土している。遺物は覆土中・下層からの出土が多い。106は覆土中層から、DP58は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 ビット状の深い土坑で、形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、後期後葉の安行1式期で、重複する第135号土坑と大きな時間差はうかがえない。



第 50 図 第 134・135・161 号土坑実測図、第 134 号土坑出土遺物実測図



第51図 第134号土坑出土遺物実測図

第134号土坑出土遺物観察表 (第50・51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
105	縄文土器	深鉢	[158]	(69)	-	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	沈線→縄文RL→磨貼付→無文部磨き	覆土上層	10%
106	縄文土器	深鉢	[180]	(103)	-	長石・石英・雲母	灰陶	普通	地縄文→糸線→磨貼付→無文部磨き	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか		出土位置	備考
TP750	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→陸帯磨貼付→縄文RL→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
TP751	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤陶	普通	凹線→縄文RL・磨貼付→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
TP752	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤陶	普通	磨貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き	内面ナデ→粗い磨き	覆土上層	
TP753	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	地縄文→糸線→区画沈線間磨き→経線磨貼付	内面ナデ	覆土上層	
TP754	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	地縄文→糸線→区画沈線間磨き→経線磨貼付	内面粗い磨き	覆土上層	
TP755	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	沈線→細密沈線文充填	内面ナデ	覆土上層	
TP756	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面ナデ	覆土上層	
TP757	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	覆土上層	
TP758	縄文土器	台付鉢	長石・石英・雲母	陶	普通	凹線部沈線→磨貼付→縄文RL→磨き	内面磨き	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP58	土鍋	(80)	(82)	4.0	(140.4)	明赤陶 長石・石英・赤色粒子	ミミズク土質胴部	覆土上層	PL13

第 135 号土坑 (第 19・50・52 図)

位置 調査B区のF3h7区、標高 24 mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 12号住居跡、第 161号土坑を掘り込み、第 134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西部が第 134号土坑に掘り込まれているため、確認された長径は 1.43 m、短径は 0.87 mで、楕円形と推測でき、長径方向はN-24°-Wである。深さは 110cmで、底面は中央部がピット状に下がっている。壁は確認面下 60cm、及び 90cmで段を有して立ち上がっている。

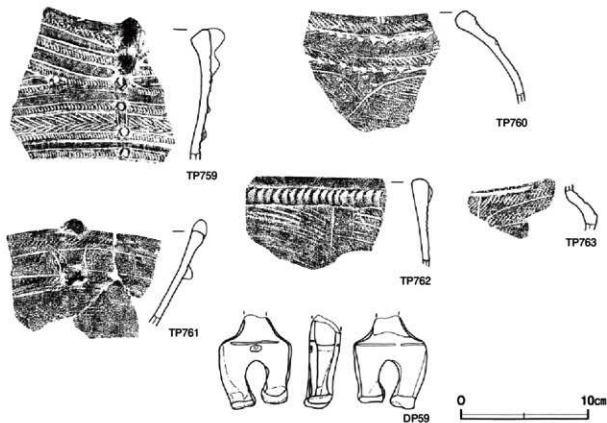
覆土 4層に分層できる。斜面上位の北側から投げ込まれたような堆積状態で埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | (2よりやや暗) |
| | | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 65 点、土製品 1 点 (土偶) が出土している。TP759～TP763、DP59 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 形状から貯蔵穴の可能性がある。また、位置から第 12号住居の出入り口施設の可能性もあるが、いずれも断定できない。時期は、後期後葉の安行 1 式期で、重複する第 134号土坑と大きな時間差はうかがえない。



第 52 図 第 135 号土坑出土遺物実測図

第 135 号土坑出土遺物観察表 (第 52 図)

番号	種類	器種	粘土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP759	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	隆帯隆沈線→縄文丸・刻み→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	
TP760	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	刻み→隆帯隆沈線→縄文丸・→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP761	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	
TP762	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	条線→縦位区西内磨き→縁線貼付 内面磨き	覆土上層	
TP763	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP59	土偶	(74)	5.7	2.8	(88.8)	に白い黄泥 長石・石英	山形土偶脚部*	覆土上層	PL14

第138号土坑（第53図）

位置 調査B区のF3I7区、標高23mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層下で確認した。

規模と形状 長径0.76m、短径0.73mの円形である。深さは62cmで、底面は北側がピット状に1段下がっている。壁は西壁では直立して、東壁では中位でやや内彎気味に立ち上がっている。

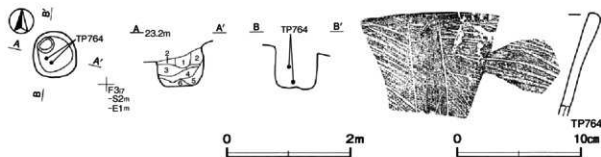
覆土 6層に分層できる。第1層は黒褐色土で、柱が抜き取られた状況の堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、黄褐色粘土ブロック微量 | 4 黒褐色 黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 5 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 炭化粒子微量、焼土粒子微量 | 6 に白い橙色 塵少量 |

遺物出土状況 縄文土器片5点が出土している。TP764は覆土下層から出土している。

所見 覆土の堆積状況や底面の状況から、柱穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期後葉の安行1式期と考えられる。



第53図 第138号土坑・出土遺物実測図

第138号土坑出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP764	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	条線→縦位区西内磨き 内面磨き	覆土下層	

第157号土坑（第54図）

位置 調査B区のF3g6区、標高24mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層下で確認した。第12号住居跡のP13を掘り込んでいることから、第12号住居跡の廃棄直後に本跡が掘り込まれたか、あるいは本跡が第12号住居跡に伴う可能性がある。

規模と形状 長径0.85m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-19°-Wである。深さは82cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

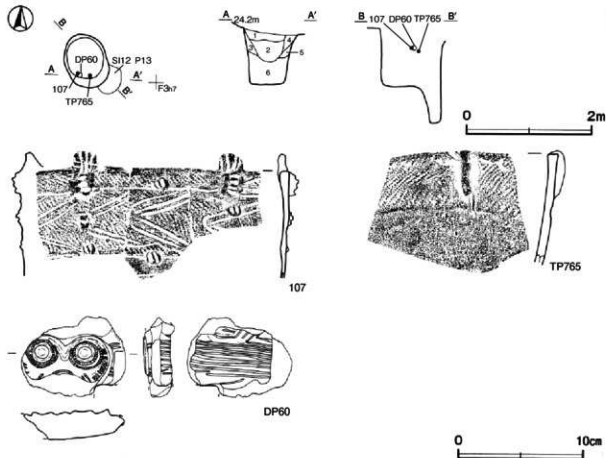
覆土 6層に分層できる。第3～6層がレンズ状に堆積したあと、第1・2層が不整合に堆積することから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|--------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・貝少量、焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・貝微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化物少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片44点、土製品1点(土偶)が出土している。107・TP765・DP60は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 円筒形の形状などから貯蔵穴の可能性が。時期は、出土土器から後期後葉の安行2式期と考えられる。



第54図 第157号土坑・出土遺物実測図

第157号土坑出土遺物観察表(第54図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
107	縄文土器	深鉢	[20.2]	(9.8)	-	長石・石英	橙	普通	沈線→瘤貼付→縄文LR、内面ナデ	覆土上層	20% PL11
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考			
TP765	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	普通	口縁部文様帯下に内線、縄文LR→瘤貼付、無文部磨き内面ナデ	覆土上層				
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考		
DP60	土偶	(6.3)	(8.3)	2.4	120.9	明赤褐色、長石・石英、赤色粘土	ミミズク土偶頭部	覆土上層	PL14		

第162号土坑（第55図）

位置 調査B区のF3h7区、標高235mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第163号土坑、西部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 重複のため確認できた長径は0.38m、短径は0.27mで、楕円形と推測でき、長径方向はN-14°-Eである。深さは52cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

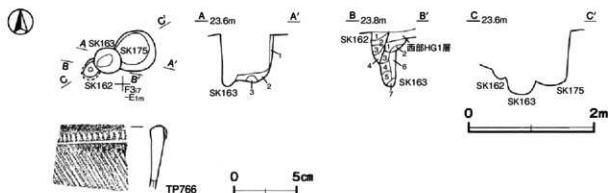
覆土 4層に分層できる。焼土ブロックやローム粒子などが微量に含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片13点が出土している。TP766は覆土上層から出土している。

所見 ビット状の土坑で、形状から柱穴の可能性がある。時期は後期後葉の安行1式期で、隣接する第175土坑と大きな時間差はうかがえない。



第55図 第162・163・175号土坑実測図、第162号土坑出土遺物実測図

第162号土坑出土遺物観察表（第55図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP766	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐色	普通	条線→口縁部沈線→口縁部刻み 内面磨き	覆土上層	

第163号土坑（第55図）

位置 調査B区のF3h7区、標高235mの台地斜面部に位置している。

重複関係 第175号土坑、西部包含層を掘り込み、第162号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複のため確認できた長径は0.43m、短径は0.38mで、楕円形と推測でき、長径方向はN-50°-Eである。深さは76cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっているが、東壁では確認面下20cmで段を有している。

覆土 7層に分層できる。第1～5層は柱が抜き取られた状況に堆積している。

土層解説

- | | | | |
|----------|------------------------------|----------|---------------------------|
| 1 にいい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | 粘土粒子中量、焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 にいい黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量、焼土粒子微量 | 5 にいい黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 にいい黄褐色 | 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| | | 7 にいい黄褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |

所見 ビット状の土坑で、覆土の堆積状況から柱穴の可能性がある。遺物は出土していないが、重複している第162・175号土坑がいずれも後期後葉の安行1式期であることから、本跡もほぼ同時期と考えられる。

第175号土坑（第55図）

位置 調査B区のF3h7区、標高235mの台地斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層を掘り込み、第163号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 重複のため確認できた長径は0.72m、短径は0.66mで、楕円形と推測でき、長径方向はN-41°-Eである。深さは86cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。覆土の一部を確認しただけであり、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子無微量 | 3 におい褐色 炭化粒子無微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子無微量 | |

遺物出土状況 縄土器片15点が出土しているが、細片のため図示できない。

所見 形状から貯蔵穴の可能性がある。時期は、出土土器から後期後葉の安行1式期で、重複する第162・163号土坑と大きな時間差はうかがえない。

第164号土坑（第56図）

位置 調査B区のF3h7区、標高235mの台地斜面部に位置している。

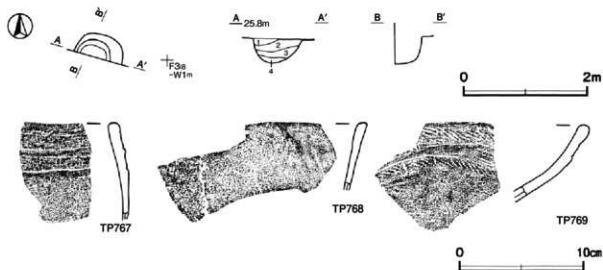
重複関係 西部包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 確認トレンチによって削平されているため、東西0.79m、南北0.41mを確認したただけである。深さは44cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックやローム粒子が含まれ、西部包含層の傾斜とは逆方向に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック中量 |



第56図 第164号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 20 点、土製品 1 点（土器片円盤）が出土している。TP767 は覆土中層から、TP768・TP769 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 形状や堆積状況から貯蔵穴の可能性があり、出土土器から後期後葉と考えられる。

第 164 号土坑出土遺物観察表（第 56 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP767	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯隆起線→磨き 内面ナデ	覆土中層	
TP768	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	橙	普通	外面磨り 調整 内面ナデ 製磁土器※	覆土上層	
TP769	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文肌L→無文部磨き 内面磨き	覆土上層	

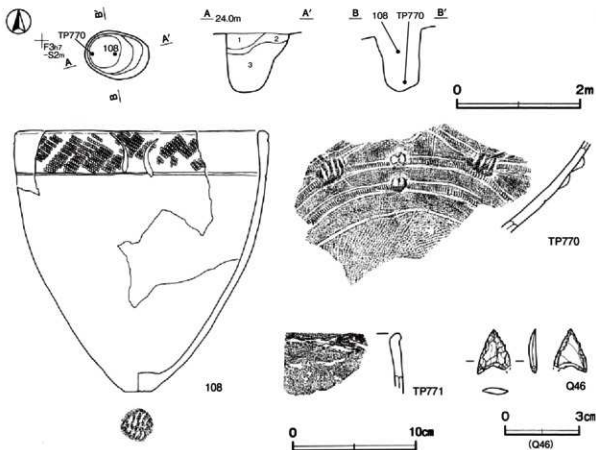
第 188 号土坑（第 57 図）

位置 調査B区の F 3h7 区、標高 25 m の台地平斜面部に位置している。

重複関係 西部包含層下で確認できた。

規模と形状 長径 1.03 m、短径 0.74 m の楕円形で、長径方向は N - 78° - W である。深さは 90 cm で、底面は皿状である。壁は直立し、東壁が確認面下 30 cm のところで段を有して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。第 1 層にはロームブロックがやや多く含まれているが、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



第 57 図 第 188 号土坑・出土遺物実測図

土層解説

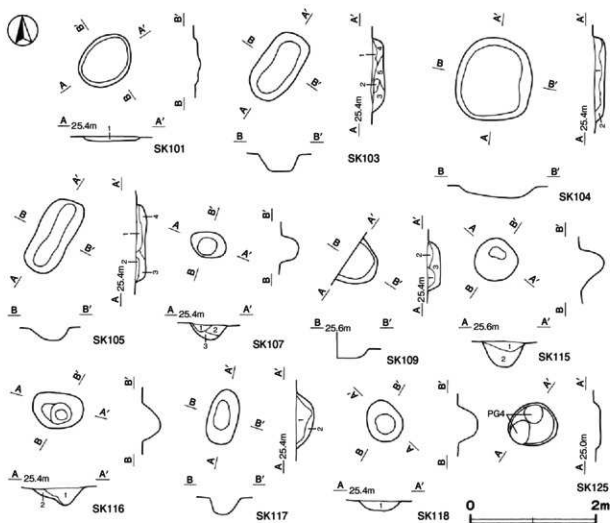
- 1 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子極微量
 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子極微量
 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 42 点、石器 1 点（石鏃）が出土している。108 は中央部の覆土中層から、TP770 は西部の覆土下層から、Q 46 は覆土中からそれぞれ出土している。

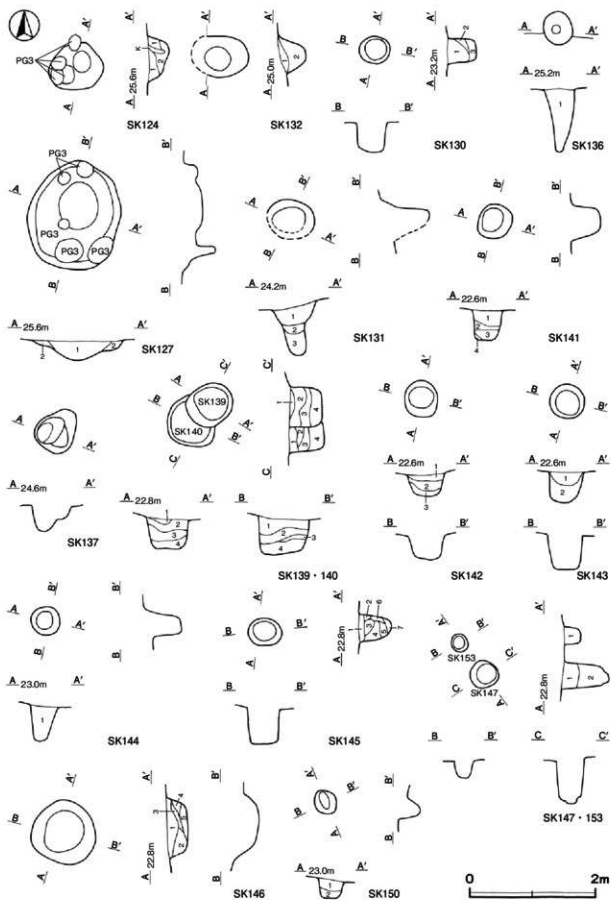
所見 円筒状の深い土坑で、形状から墓坑や貯蔵穴の可能性がある。時期は、後期後葉の安行 2 式期と考えられる。

第 188 号土坑出土遺物観察表（第 57 図）

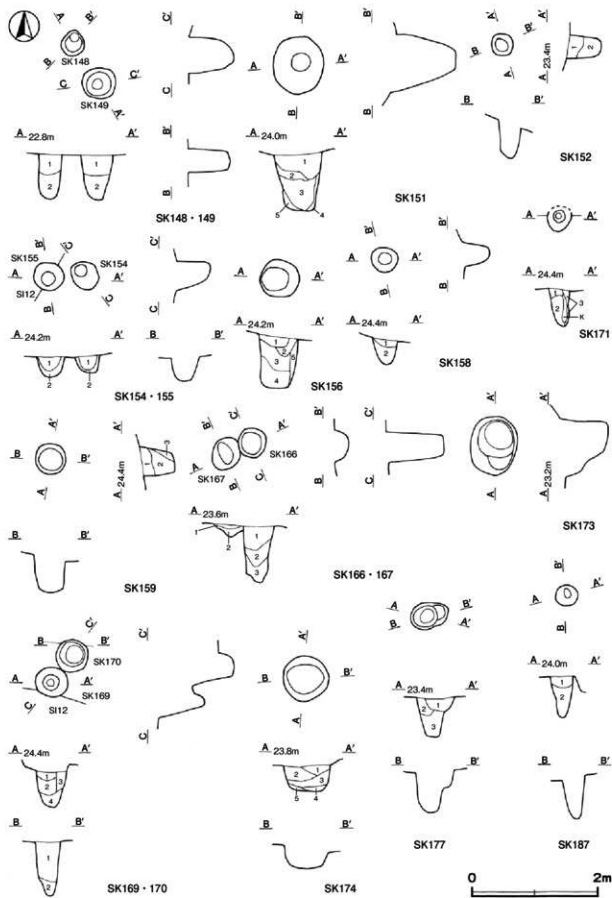
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
108	縄文土器	深鉢	[196]	21.0	22	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文 RL 体部割り 内面ナデ	覆土中層	30% PL 7
TP770	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子			明赤褐色	普通	沈線→縄文 LR・隆帯上層み→無文部磨き	内面磨き	覆土下層	
TP771	縄文土器	深鉢	長石・石英			橙	普通	外面割り→粗いナデ	内面ナデ	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴			出土位置	備考
Q 46	石鏃	1.8	1.3	0.3	(0.6)	チャート	裏面に素材調整痕			覆土中	PL15



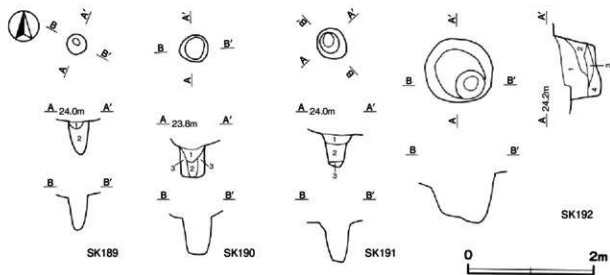
第 58 図 土坑実測図（1）



第59图 土坑实测图(2)



第60图 土坑实测图(3)



第 61 図 土坑実測図 (4)

第 101 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量

第 103 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 104 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第 105 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第 107 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子, 炭化粒子中量

第 109 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子, 炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第 115 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第 116 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 117 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第 118 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第 124 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第 127 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 130 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 砂質粘土ブロック少量, ローム粒子, 貝微量
- 2 灰黄褐色 砂質粘土ブロック少量
- 3 濃い黄褐色 砂質粘土粒子多量

第 131 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック, 炭化粒子少量, 貝微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

第 132 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック, 貝少量, 焼土粒子, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック, 焼土粒子, 炭化粒子少量, 貝微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 灰褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

第 139 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黄褐色粘土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 黄褐色粘土粒子少量, 礫微量
- 3 暗褐色 黄褐色粘土粒子中量, 礫少量
- 4 暗褐色 黄褐色粘土粒子極微量

第 140 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 黄褐色粘土粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 黄褐色粘土粒子少量, 炭化粒子, 礫微量
- 3 暗褐色 炭化粒子, 黄褐色粘土粒子微量
- 4 暗褐色 黄褐色粘土粒子極微量

第 141 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子極微量
- 2 黒褐色 1より粘性弱
- 3 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量
- 4 黒褐色 礫中量, 黄褐色粘土ブロック少量

第 142 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子・黄褐色粘土粒子極微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化粒子・黄褐色粘土粒子・礫極微量

第 143 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 炭化粒子極微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子少量

第 144 号土壌層解説

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量

第 145 号土壌層解説

- 1 暗 褐色
- 2 暗 褐色 黄褐色粘土粒子中量
- 3 暗 褐色 炭化粒子極微量
- 4 暗 褐色 炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 炭化粒子極微量
- 6 にぶい褐色
- 7 黒 褐色 黄褐色粘土粒子中量、礫少量

第 146 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土粒子極微量
- 2 黒 褐色 炭化粒子微量、黄褐色粘土粒子極微量
- 3 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土粒子極微量
- 4 黒 褐色 礫微量、黄褐色粘土粒子極微量
- 5 暗 褐色 黄褐色粘土粒子・礫少量

第 147 ~ 149・153 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 炭化粒子極微量
- 2 暗 褐色 炭化粒子極微量（1よりやや暗、粘性強）

第 150・152 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 黄褐色粘土粒子少量
- 2 にぶい橙色 礫微量

第 151 号土壌層解説

- 1 褐色 rome 粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 rome ブロック少量
- 4 褐色 rome 粒子中量
- 5 褐色 rome ブロック少量

第 154・155 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 焼土粒子少量、rome 粒子・炭化粒子・貝微量
- 2 暗 褐色 rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子・貝微量

第 156 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック・rome 粒子少量、炭化粒子・貝微量
- 2 暗 褐色 焼土ブロック・rome 粒子少量、炭化粒子・貝微量
- 3 黒 褐色 焼土ブロック・rome 粒子・炭化粒子少量
- 4 黒 褐色 炭化粒子少量、焼土ブロック・rome 粒子微量
- 5 暗 褐色 rome ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・貝微量

第 158 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 焼土ブロック少量、rome 粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 粘土ブロック少量、rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第 159 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 rome ブロック・焼土ブロック・炭化物少量、貝微量
- 2 暗 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 rome ブロック・粘土ブロック少量

第 166 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 焼土ブロック微量、炭化粒子極微量
- 2 暗 褐色 炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 炭化粒子・黄褐色粘土粒子極微量

第 167 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 黄褐色粘土粒子微量、炭化粒子極微量
- 2 暗 褐色 黄褐色粘土粒子少量、炭化粒子極微量

第 169 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 rome 粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 rome 粒子微量
- 4 暗 褐色 rome 粒子少量

第 170 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 rome 粒子中量

第 171 号土壌層解説

- 1 灰黄褐色 rome 粒子中量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 rome 粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 rome ブロック中量

第 174 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 黒 褐色 焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒 褐色 黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
（3よりしまり強）
- 5 黒 褐色 黄褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量

第 177 号土壌層解説

- 1 にぶい黄褐色 rome ブロック中量、炭化物微量
- 2 褐色 rome 粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 rome ブロック・炭化物微量

第 187 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 rome 粒子微量、焼土粒子・炭化粒子・破砕貝極微量
- 2 黒 褐色 rome 粒子少量、炭化粒子・破砕貝極微量

第 189 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 rome 粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐色 rome ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子極微量

第 190 号土壌層解説

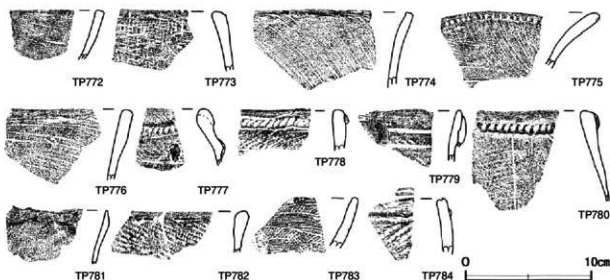
- 1 暗 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
- 2 黒 褐色 rome ブロック少量、炭化物・焼土粒子極微量
- 3 暗 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子微量

第 191 号土壌層解説

- 1 暗 褐色 rome 粒子・炭化粒子少量、焼土粒子極微量
- 2 黒 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量
- 3 にぶい黄褐色 rome ブロック中量、炭化粒子極微量

第 192 号土壌層解説

- 1 黒 褐色 rome 粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量、白色粒子・破砕貝極微量
- 2 暗 褐色 rome ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・白色粒子極微量
- 3 黒 褐色 rome ブロック少量、炭化粒子・白色粒子極微量
- 4 暗 褐色 rome ブロック中量、炭化粒子・白色粒子極微量



第62図 土坑出土遺物実測図

縄文時代土坑出土遺物観察表 (第62図)

番号	種別	器種	胎土	色調	地肌	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP772	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	内・外面磨き	SK109 上層	
TP773	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面条線 口縁部に刷み※ 内面磨き	SK115 覆土	
TP774	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面条線 内面磨き	SK136 上層	
TP775	縄文土器	台付鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面条線 内面磨き	SK136 上層	
TP776	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐	普通	外面条線 内面ナデ	SK140 中層	
TP777	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文 RL →無文部磨き 内面ナデ	SK140 中層	
TP778	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	無筋縄文 L →沈線→縦刷付 内面ナデ	SK142 下層	
TP779	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文 RL →磨貼付	SK156 覆土	
TP780	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	摩滅により調整不明瞭	SK156 覆土	
TP781	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ 製磁土器※	SK166 上層	
TP782	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部縄文 RL 内面ナデ	SK173 覆土	
TP783	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→縄文 LR →無文部磨き 内面口縁部沈磨 磨き	SK192 上層	
TP784	縄文土器	深鉢	長石・雲母・白色粒子	にぶい褐	普通	縄文 LR →縦刷付 口唇部に沈線 内面磨き	SK192 中層	

表9 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (軸×軸)	深さ (cm)						
101	F469	N - 32° - E	楕円形	0.95 × 0.73	10	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	後期後葉	
103	F468	N - 34° - E	楕円形	1.16 × 0.64	28	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期	
104	F468	N - 6° - E	楕円形	1.31 × 1.20	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	後期後葉-晩期	
105	F469	N - 32° - E	楕円形	1.25 × 0.58	18	緩斜	平坦	人為	-	縄文	
106	F460	N - 12° - E	楕円形	0.88 × 0.68	20	緩斜	皿状	自然	縄文土器、副片	晩期中葉	SI.3-4 → SK113 → 本跡
107	F468	N - 67° - W	楕円形	0.61 × 0.43	30	緩斜	皿状	自然	縄文土器	後期-晩期	
108	F5c1	N - 40° - W	楕円形	1.47 × 1.05	14	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期初頭	
109	F4d7	-	[楕円形]	0.78 × (0.50)	18	外傾	平坦	人為	縄文土器	晩期	
110	F3b9	-	[不整形]	(1.28) × 1.25	252	外傾直立	平坦	人為	縄文土器、軽石、貝	後期後葉	東部HG・SM2 → 本跡
111	F3b9	-	円形	0.65 × 0.60	59	外傾	平坦	人為	縄文土器、貝	後期後葉	東部HG

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
				長径×短径 (横×縦)	深さ (cm)						
113	F4d0	N-4°-E	楕円形	1.00 × 0.78	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器、磁石	晩期中葉	SI3-4→本跡 →SK106
114	E5j1	N-75°-E	楕円形	1.06 × 0.88	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器、粘土塊	晩期中葉	SI3-4→本跡
115	E4i7	-	円形	0.68 × 0.66	48	外傾	平坦	自然	縄文土器	晩期	
116	F4d6	N-76°-E	楕円形	0.81 × 0.60	30	緩斜	起伏	自然	縄文土器	晩期中葉	
117	F4c7	N-10°-E	楕円形	0.86 × 0.49	26	緩斜	平坦	自然	縄文土器	縄文	
118	F4d6	N-22°-W	楕円形	0.65 × 0.55	32	外傾	平坦	自然	縄文土器	縄文	
119	F4d2	N-18°-W	楕円形	1.40 × 0.88	17-36	外傾	凹凸	人為	縄文土器	後期前葉	SN2→本跡
120	F4j3	-	[円形]	(1.1) × (1.1)	56	外傾	平坦	自然	-	後期後葉以降	SM1→本跡
121	F4i3	-	[円形]	0.73 × (0.67)	134	直立	平坦	人為	縄文土器、貝輪	後期後葉	SM1→本跡
122	F4j3	-	[楕円形]	0.64 × (0.44)	36	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	SM1→本跡
124	E4i8	-	不整形円形	0.81 × 0.81	31	外傾 緩斜	起伏	自然	-	縄文	PG3-、P20、P21、 P29、P41
125	F4g2	-	円形	0.75 × 0.68	9	外傾	-	-	-	縄文	本跡→PG4-P2、 P3
126	F3b0	N-28°-W	不整形円形	1.41 × 1.10	54	外傾 緩斜	起伏	人為	縄文土器	後期～晩期	東部HG→本跡
127	E4i7	N-11°-E	楕円形	1.72 × 1.42	32	緩斜	凹凸	自然	縄文土器	縄文	PG3-P20、P42、 P85-P87、P91
128	F3i6	N-56°-W	不整形円形	1.70 × 1.62	(200)	外傾 直立	-	自然	縄文土器	晩期前葉	西部HG→本跡
129	F3b7	N-14°-E	[楕円形]	(1.17) × (1.04)	70	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	西部HG→本跡
130	F4i3	-	円形	0.48 × 0.46	46	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	東部HG
131	F4i3	-	[円形]	0.76 × (0.33)	78	外傾 直立	平坦	人為	-	縄文	SM1 F
132	F3g8	-	[楕円形]	(0.67) × 0.56	41	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期	SM2
133	F3g6	N-31°-W	[楕円形]	(1.17) × 0.83	90	外傾	凹凸	人為	縄文土器、土偶	後期後葉	SI12→本跡→ SK134-160、SK165
134	F3g6	N-25°-W	楕円形	0.87 × 0.66	120	外傾	平坦	自然	縄文土器、土器片 内盤、石核	後期後葉	SI12、西部HG→ SK133、135→本跡
135	F3b7	N-24°-W	[楕円形]	(1.43) × 0.87	110	有段	凹凸	人為	縄文土器、土偶	後期後葉	SI12、SK161→ 本跡→SK134
136	F3e7	N-5°-E	楕円形	0.55 × 0.47	104	直立	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	西部HG→本跡
137	F3g8	N-38°-E	不整形	0.72 × 0.61	49	直立 有段 直立 有段	平坦	-	縄文土器	後期	
138	F3i7	-	円形	0.76 × 0.73	62	直立 有段	凹凸	人為	縄文土器	後期後葉	西部HG F
139	F3i7	N-54°-E	楕円形	0.71 × 0.64	54	直立	平坦	自然	石棒	後期後葉以降	西部HG F、 SK140→本跡
140	F3i7	-	[円形]	0.96 × (0.60)	56	直立	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F、 本跡→SK139
141	F3i7	N-61°-E	楕円形	0.60 × 0.53	48	外傾	平坦	自然	-	縄文	西部HG F
142	F3i8	N-1°-E	楕円形	0.59 × 0.52	40	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F
143	F3i7	-	円形	0.56 × 0.56	56	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F
144	F3i7	-	円形	0.47 × 0.45	64	外傾	平坦	人為	縄文土器、粘土塊	後期後葉	西部HG→本跡
145	F3i7	N-90°	楕円形	0.54 × 0.43	56	直立	平坦	人為	縄文土器	後期	西部HG F
146	F3j6	-	円形	1.02 × 1.02	32	緩斜	平坦	人為	-	縄文	西部HG F
147	F3i8	-	円形	0.45 × 0.44	76	直立	凹凸	自然	-	縄文	西部HG F
148	F3j9	-	円形	0.40 × 0.37	66	直立	平坦	自然	-	縄文	西部HG F
149	F3j9	-	円形	0.54 × 0.54	72	外傾	起伏	自然	縄文土器	縄文	西部HG F
150	F3i7	N-38°-W	楕円形	0.42 × 0.36	28	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期～晩期	西部HG F
151	F3b7	N-13°-E	楕円形	0.92 × 0.78	98	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期	西部HG F
152	F3b6	-	円形	0.38 × 0.37	56	外傾	起伏	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F
153	F3i8	-	円形	0.30 × 0.28	24	外傾	平坦	自然	-	縄文	西部HG F
154	F3b7	N-52°-W	楕円形	0.48 × 0.41	55	外傾	平坦	自然	-	縄文	西部HG F
155	F3b7	-	円形	0.49 × 0.45	37	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉以降	西部HG F、 SI12→本跡
156	F3g6	-	円形	0.64 × 0.60	83	直立	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	西部HG F、SI12
157	F3g6	N-19°-W	楕円形	0.85 × 0.66	82	外傾	平坦	人為	縄文土器、土偶	後期後葉	西部HG F、SI12 -P13→本跡
158	F3g6	-	円形	0.40 × 0.40	42	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期～晩期	西部HG F、SI12

番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)		壁面	底面	覆土	主な出土物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (幅) (輪)	深さ (cm)						
159	F3g6	-	円形	0.50 × 0.48	55	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F SI12
160	F3g6	N-30°-E	不整形円形	1.10 × 0.98	156	外傾 有段	円凸	人為	縄文土器、石核	後期後葉	SI12、西部HG → SK133、166 → 本跡 SI12、西部HG → 本跡 → SK135
161	F3b6	-	[円形]	(0.37) × (0.16)	15	外傾	皿状	-	-	縄文	西部HG → SK163 → 本跡
162	F3b7	N-14°-E	[楕円形]	(0.38) × 0.27	52	外傾	皿状	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG → SK163 → 本跡
163	F3b7	N-50°-E	[楕円形]	(0.43) × 0.38	76	外傾 有段	皿状	人為	-	後期後葉	西部HG → SK175 → 本跡 → SK162
164	F3b7	-	-	(0.79) × (0.41)	44	外傾	皿状	人為	縄文土器、土器片円盤	後期後葉	西部HG → 本跡
165	F3g6	N-85°-W	[不整形円形]	(1.10) × 0.81	128	外傾	円凸	人為	縄文土器、磁石、銅片	後期後葉	SI12、西部HG → 本跡 → SK160、 SK133、SK176
166	F3b6	-	円形	0.46 × 0.45	90	外傾	円凸	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG、SK167 → 本跡
167	F3b6	N-22°-E	楕円形	0.54 × 0.45	20	外傾 底斜	円凸	自然	-	後期後葉以前	西部HG、本跡 → SK166
169	F3g7	N-62°-W	楕円形	0.55 × 0.46	64	外傾	皿状	人為	-	縄文	西部HG F
170	F3g7	-	円形	0.52 × 0.52	90	外傾	平坦	自然	-	縄文	西部HG → 本跡
171	F3g6	-	[円形]	0.39 × (0.33)	62	外傾	平坦	人為	-	縄文	西部HG → 本跡
173	F4c3	N-1°-E	楕円形	0.93 × 0.72	70	外傾 底斜	平坦	-	縄文土器	後期後葉	東部HG F
174	F3b7	-	円形	0.74 × 0.73	44	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期後葉	西部HG F
175	F3b7	N-41°-E	[楕円形]	(0.72) × 0.66	86	外傾	平坦	-	縄文土器	後期後葉	西部HG → 本跡 → SK163
176	F3g6	-	[円形]	0.27 × (0.25)	72	直立	平坦	-	-	縄文	SI12、SM2 → 本跡、 SK165
177	F4c3	N-77°-E	不整形円形	0.61 × 0.43	60	外傾 有段	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	東部HG F
187	F3b7	-	円形	0.36 × 0.36	66	外傾	平坦	自然	縄文土器	後期中葉 - 後葉	西部HG F
188	F3b7	N-78°-W	楕円形	1.03 × 0.74	90	直立 有段	皿状	自然	縄文土器、石鏃	後期後葉	西部HG F
189	F3g8	-	円形	0.34 × 0.32	52	外傾	皿状	人為	縄文土器	後期中葉 - 後葉	西部HG F
190	F3b7	-	円形	0.44 × 0.43	58	外傾	平坦	人為	-	晩期*	西部HG F
191	F3b7	-	円形	0.50 × 0.48	62	外傾	平坦	人為	縄文土器	後期後葉	西部HG F
192	F3g7	-	円形	1.10 × 1.05	80	外傾	円凸	自然	縄文土器、銅片	後期中葉	西部HG F

(5) ビット群

第3号ビット群 (第63図)

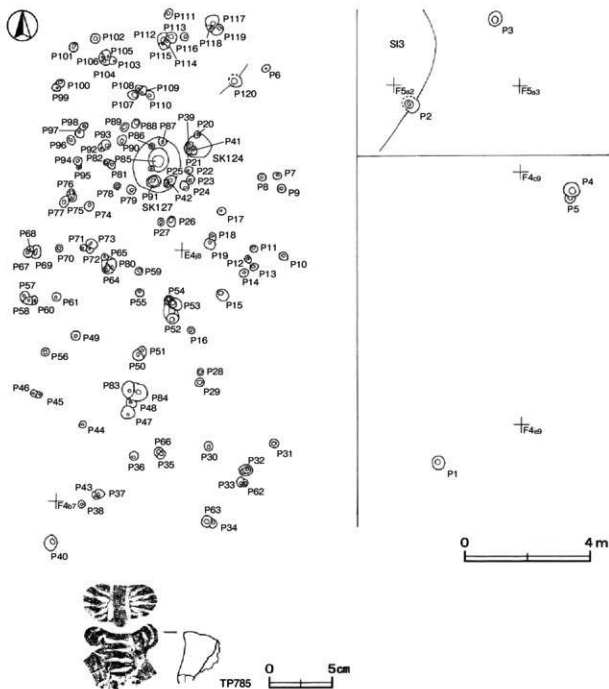
位置 調査B区のE4h7～F4e8区、標高25mの台地平坦面に位置している。

重複関係 P2が第3号住居跡を掘り込んでいる。第124号土坑とP20・P21・P39・P41、第127号土坑とP25・P42・P85～P87・P91が重複しているが、新旧関係は不明である。また本跡の分布範囲内に第115号土坑があるが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南北20m、東西25mほどの範囲から、ビット120か所を確認した。平面形は長径16～54cm、短径16～53cmの円形あるいは楕円形で、深さは9～67cmである。P1～P5・P32・P38の覆土は暗褐色土を主体とし、それ以外の覆土は黒褐色土を主体としている。

遺物出土状況 覆土中から縄文土器片174点、石器1点(石鏃)、銅片2点(チャート)、焼成粘土塊2点のほか、流れ込んだ土師器片4点(坏)、須石器片1点(坏)も出土している。縄文土器は小破片が多く、後期前葉から晩期前葉のものまで確認できる。TP785はP64の覆土中から出土している。

所見 分布状況から規則性は認められず、建物跡を想定することはできない。時期は、出土土器から後期前葉から晩期前葉と考えられる。



第63図 第3号ピット群・出土遺物遺物実測図

表10 第3号ピット群ピット一覧表

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
1	F4e8	円形	44	41	37	9	E4i8	円形	26	24	23
2	F5a2	[楕円形]	[54]	44	63	10	E4j8	楕円形	33	28	29
3	E5j2	円形	44	44	17	11	E4i8	円形	24	23	30
4	F4e9	楕円形	54	45	22	12	E4j8	楕円形	30	21	35
5	F4e9	[円形]	33	(21)	13	13	E4j8	楕円形	30	25	35
6	E4b8	楕円形	25	30	21	14	E4j8	楕円形	28	25	42
7	E4i8	楕円形	28	30	41	15	E4j8	楕円形	39	34	20
8	E4i8	円形	25	23	17	16	E4j8	楕円形	25	30	26

ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
17	E 4 i 8	楕円形	29	25	39	69	E 4 j 6	[楕円形]	43	(21)	20
18	E 4 i 8	[楕円形]	(22)	21	24	70	E 4 j 7	円形	24	23	54
19	E 4 i 8	楕円形	34	30	44	71	E 4 i 7	円形	23	23	57
20	E 4 i 8	楕円形	24	21	30	72	E 4 i 7	[円形]	(27)	(18)	45
21	E 4 i 8	[楕円形]	(24)	18	21	73	E 4 i 7	楕円形	39	29	47
22	E 4 i 8	円形	25	24	27	74	E 4 i 7	楕円形	33	29	67
23	E 4 i 8	楕円形	29	24	24	75	E 4 i 7	[楕円形]	(25)	25	36
24	E 4 i 8	楕円形	33	29	43	76	E 4 i 7	[楕円形]	27	(16)	20
25	E 4 i 7	[楕円形]	(30)	30	52	77	E 4 i 7	楕円形	43	30	39
26	E 4 i 7	楕円形	33	25	30	78	E 4 i 7	円形	22	21	24
27	E 4 i 7	楕円形	22	18	32	79	E 4 i 7	円形	29	27	37
28	E 4 j 8	楕円形	25	22	13	80	E 4 j 7	[楕円形]	(30)	30	34
29	F 4 a 8	楕円形	30	25	31	81	E 4 i 7	[楕円形]	(28)	25	59
30	F 4 a 8	楕円形	29	26	36	82	E 4 i 7	[円形]	22	(17)	12
31	F 4 a 8	円形	30	28	30	83	F 4 a 7	楕円形	55	38	38
32	F 4 a 8	楕円形	43	34	28	84	F 4 a 7	[楕円形]	(45)	53	22
33	F 4 a 8	[楕円形]	30	(20)	19	85	E 4 i 7	楕円形	18	16	15
34	F 4 b 8	[円形]	29	(20)	28	86	E 4 i 7	円形	21	20	13
35	F 4 a 7	[円形]	31	(21)	40	87	E 4 i 7	楕円形	29	25	21
36	F 4 a 7	円形	28	28	37	88	E 4 b 7	楕円形	30	23	58
37	F 4 a 7	楕円形	29	21	37	89	E 4 i 7	楕円形	31	24	23
38	F 4 b 7	[楕円形]	29	(15)	25	90	E 4 i 7	楕円形	36	27	48
39	E 4 i 8	楕円形	25	21	26	91	E 4 i 7	楕円形	46	37	53
40	F 4 b 6	楕円形	48	40	24	92	E 4 i 7	[円形]	25	(25)	11
41	E 4 i 8	[楕円形]	28	(20)	19	93	E 4 i 7	楕円形	33	29	61
42	E 4 i 7	[円形]	27	(19)	37	94	E 4 i 7	楕円形	29	26	19
43	F 4 a 7	円形	22	22	18	95	E 4 i 7	[円形]	16	(13)	9
44	F 4 a 7	円形	21	21	27	96	E 4 i 7	楕円形	29	24	28
45	F 4 a 6	[楕円形]	(22)	20	20	97	E 4 i 7	円形	29	28	26
46	F 4 a 6	円形	21	20	27	98	E 4 i 7	[楕円形]	(28)	21	31
47	F 4 a 7	楕円形	46	40	30	99	E 4 b 7	[楕円形]	28	21	35
48	F 4 a 7	[楕円形]	35	(27)	22	100	E 4 b 6	[楕円形]	(26)	25	37
49	E 4 j 7	円形	31	29	53	101	E 4 b 7	円形	28	27	25
50	E 4 j 7	[円形]	37	(29)	50	102	E 4 b 7	楕円形	34	29	17
51	E 4 j 7	[円形]	30	(20)	53	103	E 4 b 7	楕円形	27	21	31
52	E 4 j 7	楕円形	40	35	37	104	E 4 b 7	[楕円形]	(24)	(19)	33
53	E 4 j 7	[楕円形]	(40)	35	59	105	E 4 b 7	[楕円形]	(30)	(27)	31
54	E 4 j 7	[円形]	29	(19)	53	106	E 4 b 7	楕円形	29	19	27
55	E 4 j 7	楕円形	30	22	34	107	E 4 b 7	楕円形	32	29	27
56	E 4 j 6	円形	29	27	19	108	E 4 b 7	[円形]	22	(18)	13
57	E 4 j 6	[円形]	31	(19)	13	109	E 4 b 7	[円形]	30	(20)	34
58	E 4 j 6	楕円形	30	25	20	110	E 4 b 7	[楕円形]	(30)	25	19
59	E 4 j 7	円形	25	25	21	111	E 4 b 7	楕円形	31	23	29
60	E 4 j 6	[円形]	28	(16)	12	112	E 4 b 7	[楕円形]	(31)	(25)	25
61	E 4 j 7	円形	28	28	38	113	E 4 b 7	[楕円形]	34	(30)	30
62	F 4 a 8	[円形]	22	(14)	16	114	E 4 b 7	[楕円形]	(22)	(19)	38
63	F 4 b 8	[楕円形]	40	(30)	26	115	E 4 b 7	[楕円形]	(30)	(17)	33
64	E 4 j 7	[楕円形]	42	(24)	47	116	E 4 b 8	円形	26	24	29
65	E 4 j 7	円形	31	23	28	117	E 4 b 8	[楕円形]	(45)	38	34
66	F 4 a 7	[円形]	28	(18)	38	118	E 4 b 8	不明	(25)	(18)	27
67	E 4 j 6	[円形]	31	(22)	46	119	E 4 b 8	[楕円形]	38	(28)	45
68	E 4 i 6	[円形]	29	17	41	120	E 4 b 8	[楕円形]	[44]	37	44

第3号ピット群出土遺物観察表 (第63図)

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T765	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外周ナデ 内面磨き	F64 覆土中	

第4号ピット群 (第64・65図)

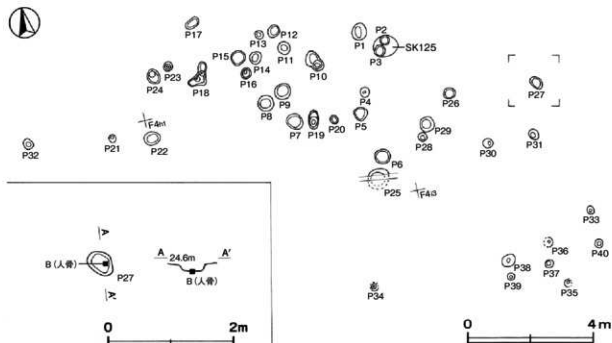
位置 調査B区のF3g0～F44区、標高23～25mの斜面部に位置している。

重複関係 P6・P25・P34～P40は東部包含層下で確認できた。P1・P4・P5・P7～P12・P14・P19・P20が第2号粘土採掘坑を掘り込んでいる。またP2・P3が第125号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南北10m、東西16mほどの範囲から、ピット40か所を確認した。平面形は長径24～89cm、短径21～65cmの円形または楕円形で、深さは6～43cmである。覆土は破砕された貝が少～中量含まれる黒褐色土のものが多い。

遺物出土状況 覆土中から縄文土器片277点、焼成粘土塊15点が出土している。110はP19覆土中から、109はP26覆土中からそれぞれ出土している。TP786はP2覆土中から、TP787～TP789はP7覆土中から、TP792はP6覆土中から、TP791はP8覆土中から、TP795はP15覆土中から、TP790はP16覆土中から、TP793・TP794はP33覆土中から、S4はP25覆土中からそれぞれ出土している。P27の底面から成人骨が出土している。

所見 分布状況から規則性は認められず、建物跡を想定することはできない。時期は、出土土器から後期中葉から後葉と考えられる。P27は長径0.47m、短径0.33mの楕円形で、深さ11cmの暗褐色土の覆土中であるが、成人骨が出土していることから、墓坑の可能性が考えられる。

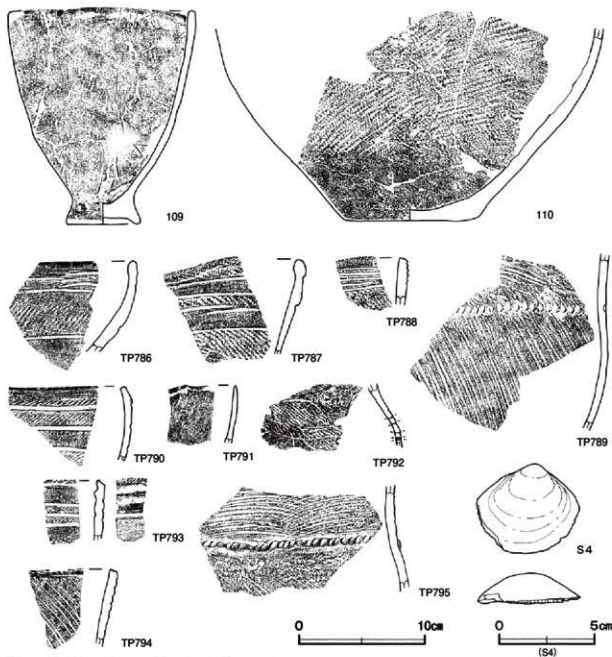


第64図 第4号ピット群実測図

表11 第4号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	形状	風 規 (cm)			ピット番号	位置	形状	風 規 (cm)		
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
1	F4g2	楕円形	55	46	18	7	F4h2	楕円形	56	46	28
2	F4g2	円形	30	28	7	8	F4h1	円形	52	30	27
3	F4g2	楕円形	36	31	6	9	F4g2	楕円形	54	47	29
4	F4h2	楕円形	32	28	20	10	F4g2	不整形	70	44	39
5	F4h2	不整形	41	39	10	11	F4g2	円形	40	37	22
6	F4h2	楕円形	50	44	17	12	F4g2	楕円形	40	35	30

ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット 番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長軸 (径)	短軸 (径)	深さ				長軸 (径)	短軸 (径)	深さ
13	F 4 g 2	楕円形	30	27	15	27	F 4 h 4	楕円形	47	33	11
14	F 4 g 1	楕円形	41	37	17	28	F 4 h 3	楕円形	29	26	13
15	F 4 g 1	円形	44	41	28	29	F 4 h 3	円形	50	48	20
16	F 4 g 1	楕円形	35	31	27	30	F 4 h 3	円形	32	32	18
17	F 4 g 1	楕円形	47	25	7	31	F 4 h 3	楕円形	35	30	13
18	F 4 g 1	不整形	89	34	6	32	F 3 g 0	楕円形	35	28	10
19	F 4 h 2	楕円形	58	27	41	33	F 4 i 4	楕円形	28	22	14
20	F 4 h 2	楕円形	27	24	36	34	F 4 i 2	[円形]	[27]	[25]	31
21	F 3 h 0	楕円形	25	21	15	35	F 4 i 4	[円形]	25	[25]	28
22	F 4 h 1	楕円形	48	43	19	36	F 4 i 3	[円形]	30	[28]	30
23	F 4 g 1	円形	29	27	28	37	F 4 i 3	楕円形	29	26	35
24	F 4 g 1	楕円形	49	41	38	38	F 4 i 3	楕円形	45	39	43
25	F 4 h 2	[楕円形]	[73]	[65]	34	39	F 4 i 3	円形	24	24	21
26	F 4 h 3	楕円形	38	34	6	40	F 4 i 4	円形	30	30	24



第65図 第4号ピット群・出土遺物実測図

第4号ピット群出土遺物観察表 (第65図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
109	縄文土器	深鉢	[144]	169	60	長石・石英	橙	普通	外面傾り→ナデ 内面ナデ	P26 覆土中	40% PL 8
110	縄文土器	深鉢	-	(152)	100	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	縄文LR 下半部磨き 内面磨き 底径調整のための調整不明	P19 覆土中	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴はか	出土位置	備考
T1786	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	P2 覆土中	
T1787	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	P7 覆土中	
T1788	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	地縄文RL→口縁部沈線 内面磨き	P7 覆土中	
T1789	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→削み 内面磨き	P7 覆土中	
T1790	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	P16 覆土中	
T1791	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	外面傾り 内面ナデ	P8 覆土中	
T1792	縄文土器	台付土器	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部ナデ 内面ナデ	P6 覆土中	
T1793	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線→無面縄文L→無文部磨き 内面磨き 口縁部に削み	P33 覆土中	
T1794	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面条線文 内面磨き	P33 覆土中	
T1795	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	地縄文→条線→横線貼付 内面磨き	P15 覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
S 4	貝輪	47	5.5	1.6	139	ハマグリ	右殻	P25 覆土中	PL16

表12 縄文時代ピット群一覧表

番号	位置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)				出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
		柱穴	平面形	長径(輪)	深さ			
3	E 4 h 7 ~ F 4 e 8	120	円形・楕円形	16 ~ 54	16 ~ 53	9 ~ 67	縄文土器・土師器・埴 形土器・石器・粘土塊 (晩期前葉) 127	SK128・ SK129 →東部出
4	F 3 g 9 ~ F 4 i 4	40	円形・楕円形	24 ~ 89	21 ~ 65	6 ~ 43	縄文土器・貝殻・粘土 塊 (晩期前葉)	SK125・SN2→本跡 →東部出

(6) 流路跡

第1号流路跡 (第66・67・81図)

位置 調査B区のG 3 a5 ~ G 4 b3区、標高22 ~ 24mの谷津部に位置している。

確認状況 遺物包含層A層を掘り下げたところ確認した。遺物包含層B層を掘り込んでいる。

規模と形状 確認できた長さは35mほどで、G 3 a5区から南東方向(N - 98° - E)に直線的に延びており、東端は調査区域外に延びている。西端はG 3 a5区の西側で掘り込みが確認できなくなる。上幅は0.25 ~ 0.80m、下幅は0.10 ~ 0.18mで、東側が幅広である。深さは0.17 ~ 0.20mで、底面の標高は西端部が最も高く、東端部との比高は47.8cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

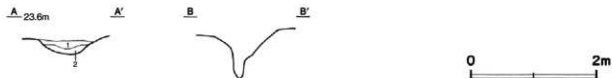
覆土 2層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒色 ローム粒子少量

2 黒色 ローム粒子微量

所見 谷津の最も深くなる部分に位置することや、意図的に掘り込まれた痕跡が認められなかったことから、自然流路と考えられる。時期は、縄文時代後期前葉から晩期前葉の遺物包含層中で確認できたことから、遺物包含層と大差ない時期に形成されたものと推測できる。



第66図 第1号流路跡実測図

(7) 斜面貝層

第1号貝層 (第67～80図)

位置 調査B区のF4h1～h3区・i1～i4区・j2～j4区、標高23～24mの台地斜面部に位置している。

確認状況 平成19年度調査の第5号トレンチと第6号トレンチで貝層の一部を確認している。東部包含層の一部を掘り下げたところ、貝層の広がり方が確認できた。貝層の東側は調査区域外に広がり、約8m東側のE区で、現況で確認できる貝層に連続するものと思われる。西側はF4i1ラインで途切れるが、約8m西側には第2号貝層が広がっている。北限はF4h1ラインより2m南で、台地が緩やかに傾斜する傾斜変換点付近にあたる。南側はF4j1～j4区で幅6メートルの攪乱坑によって削平されており、その南側では確認できなかった。

重複関係 東部包含層と重複関係にあり、層間の関係については堆積状況の中で確認したい。第120～122号土坑に掘り込まれている。第126・130・131・173・177号土坑、第4号ピット群とは平面的には重複しているが、これらは貝層下の東部包含層下での確認である。

調査の方法 遺物の出土状況を確認しながら、小調査区ごとに掘り下げを行った。遺物は土器の完形品に近いものや大形の破片、土製品、石器、石製品については座標と高さを計測し、それ以外については層位毎に取り上げた。貝はすべて取り上げ、水洗選別を行った。5mmメッシュのふるいにかかけ、貝殻や骨類などの自然遺物、土器や石器などの人工遺物を回収した。以下、第2号貝層についても同様の基準で調査を行っている。なお、F4i4区に30cm×30cmのコラムサンプルを設定し、土壌の採取を行っている。貝層から出土した獣骨類の同定および貝類分類の指導を、国立歴史民俗博物館教授の西本豊弘氏に依頼した。同定結果については付章で解説したい。

貝層の広がりと**堆積状況** 貝層は、その色調や含有物から大きく2つに分けることができる。ヤマトシジミを主体とし、黒色土あるいは黒褐色土を含有する混土貝層(I)は、層厚5～40cmで、分布範囲の南側、斜面下位を中心に分布している。ローム粒子を中～少量含む暗褐色土を主体とし、ヤマトシジミが主体で、少量のハマグリ等が含まれている混土貝層(II)は、I層下で確認でき、I層より北側に広がっている。II層は色調と貝の含有率で、さらに3層に分層することができる。II-①層はやや黒褐色を呈し、混貝率が50%の混土貝層である。層厚は20cmで、東寄りに分布している。II-②層は暗褐色を呈し、混貝率が30%の混土貝層である。層厚は5～20cmで、II-①層とほぼ同地点に分布している。II-③層はやや黒褐色を呈し、混貝率が30%の混土貝層である。層厚は20～60cmと厚く、広い範囲に分布しており、地点によっては貝の含有量の違いでさらに2層に分層することができる。貝層の堆積順序は、東部包含層のB・C-22・24・25・28～33層の堆積後、II-③層、II-②層、II-①層、I層の順に堆積している。Dラインでは東部包含層B-9層堆積後、II-③下層、II-③層が堆積し、その後東部包含層B-8層、II-②層、B-5・7層が堆積しており、東部包含層と互層をなしている。またEラインを見るとI層とII層の間には、東部包含層のB層(16～20層)が堆積している。I層上面には東部包含層A層(2層)が堆積している。

貝層解説 20層に分層できる(第68図青字)。解説にあたっては、層相の区分、主体となる土層、混貝率、貝

種と含有率、その他の含有物、特記事項などを列記した。また、解説中の「主体」「中量」「少量」「微量」の数量的な目安については、基本的に「主体」が含有物の中で70%以上の場合、「中量」が含有物の中で50%以上70%未満の場合、「少量」が含有物の中で30%以上50%未満の場合、「微量」が含有物の中で30%未満の場合として区別して使用した。混土貝層は貝類の混入率が50%以上のものとし、混貝率が50%以下のものを混貝土層とした。以下の第2号貝層についても、同様の基準で解説する。

貝層はヤマトシジミを主体とし、ハマグリ、シオフキガイ、オキシジミが組成に加わっている。定性サンプルで確認できるように、第1優占種がヤマトシジミ、第2優占種がハマグリで、この2種で約95%を占めている。I層及びII層の各層で貝の組成等に変化はほとんどない。またヤマトシジミ・ハマグリに関して、貝の破砕が全体の1/3以上に及ぶものの数を破砕度として集計したところ、各層とも10%以下であり、貝層は比較的良好的状態で遺存している。また、貝の劣化状態を確認したところ、下層ほど白化する傾向にある。

土層・貝層解説

1 混土貝層	黒褐色土にヤマトシジミ中量、I層対応	11 混土貝層	黒褐色土に貝類中量、II-①層対応
2 混土貝層	黒褐色土にヤマトシジミ中量、炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量、I層対応	12 暗褐色土	ローム粒子少量、貝類微量、II-②層対応
3 混貝土層	黒色土主体、ヤマトシジミ少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量、I層対応	13 混貝土層	暗褐色土主体、ロームブロック中量、ヤマトシジミ少量、炭化粒子微量、II-③層対応
4 混貝土層	黒色土主体、ヤマトシジミ・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、I層対応	14 混貝土層	暗褐色土主体、ローム粒子中量、貝類少量、炭化粒子微量、焼土粒子極微量、II-①層対応
5 混貝土層	黒色土主体、破砕貝少量、ローム粒子微量、I層対応	15 混貝土層	黒褐色土主体、破砕されたヤマトシジミ少量、炭化粒子微量、II-③層対応
6 混貝土層	暗褐色土主体、ヤマトシジミ・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量、II-①層対応	16 混貝土層	黒褐色土主体、破砕されたヤマトシジミ微量、II-③下層対応
7 混土貝層	黒褐色土にヤマトシジミ中量、ハマグリ少量、II-①層対応	17 混貝土層	黒褐色土主体、ヤマトシジミ少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量、II-③層対応
8 黒褐色土	ローム粒子少量、II-①層対応	18 混貝土層	黒褐色土主体、ローム粒子中量、ヤマトシジミ少量、焼土粒子・炭化粒子微量、II-③層対応
9 混貝土層	黒褐色土主体、ヤマトシジミ・ローム粒子少量、II-①層対応	19 混貝土層	黒褐色土主体、ヤマトシジミ少量、ローム粒子微量、II-③層対応
10 混土貝層	黒褐色土にヤマトシジミ中量、II-①層対応	20 混貝土層	黒褐色土に貝類中量、II-③下層対応

遺物出土状況 本貝層からは、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。縄文土器片の総数は9,172点で、総重量は268,226 gである。土器以外の主な人工遺物は、土製品22点（耳飾り4、土偶5、土器片円盤13）、石器21点（石鎌2、石錐1、打製石斧2、石皿2、磨石10、敲石2、凹石1、軽石1）、石製品1点（勾玉）、石核4点（チャート）、剥片28点（チャート24、黒曜石3、瑪瑙1）、焼成粘土塊6点、貝製品29点（貝輪13、貝刃14、装身具2）が出土している。

貝層から出土した遺物についてはすべて実見し、土器については時期毎・型式毎に分類し、集計した。以下第2号貝層、東部包含層、西部包含層についても、同様の基準で分類・集計している。土器は称名寺Ⅱ式期から一定量が確認でき、中心となるのは後期後葉安行1式から晩期前葉安行3b式である。晩期中葉以降はほとんど確認することが出来ない。各層の出土土器については表13のとおりである。上層のI層から下層のII-③下層まで各時期の土器が出土しており、相対的に下層ほど古い時期の土器が多い傾向にある。111～TP810はI層から、114～TP825はII-①層から、TP826～121・123はII-②層から、122・124～TP911はII-③層から、140～TP927はII-③下層からそれぞれ出土している。128は東部包含層A層から出土した破片と接合した。I層は7群が多く、なかでも安行3a式から安行3b式が主体となるようである。II-①層も安行3a式から安行3b式が多い。II-②層は7群に加えて6群の安行1式が多く確認できるようになる。また4群の加曾利B式もやや多く見られる。121は関西系の標原式文様を描く土器である。II-③層では出土土器が最も多く、6群と7群に加えて、4群が多く確認できる。II-③層下層では3群及び4群が主体であるが、鉢部をはは復元できる大洞B2式の台付鉢（140）も出土している。どの層からも製塩土器とされる無文土器が多量に出土している。139・TP820・TP830・TP908は二次焼成が顕著な薄手の土器で、外面が削り調整、口

縁部がつまみあげたような尖頭形か、外そぎ状にカットしているものである。遺物の平面分布は、貝層部分にまんべんなく見られるが、F 4 12 区の 4 群のまとまりや、F 4 13・12 区の 7 群、F 4 13 区の 4・6・7 群など、いくつかのまとまりを確認することができる。斜面上位ではまとまりを捉えることができるが、東側の F 4 14 区、G 4 a3・4 区など斜面下位は遺物のまとまりが散漫になる傾向がある。136 は約 4 m 離れた地点から出土した 2 点が接合したが、それ以外は大きく距離を有しての接合は多くない。垂直分布は A-A' では断面ラインの両側 1 m、D-D' では断面ラインの北側 1 m の部分のみを投影したものである。おおまかに上位ほど新しく、下位ほど古い時期の土器が多く確認できる。A-A' ラインの投影範囲では II-③ 下層中のものが多く、II-③ 下層がさらに分層可能であることを示している。D-D' ラインでは II-③ 層とその下層の層界付近でまとまりが見られる。

土器以外の人工遺物は、石器・土製品・骨角製品・貝製品とも多くない。特にまとまりをとらえることはできず、貝層全体から広く分布している。磨石はやや多くみられるものの、石皿・敲石は数点しかなく、また石鎌・石錘等ほとんど確認できない。貝輪はサルボウガイ属のものが多く、貝刃はほとんどがハマグリ製である。また、イモガイ製装身具が 2 点出土している。自然遺物では、ヤマトシジミが 582.6kg、それ以外の貝が 44.0kg 出土している。獣骨類は貝層全面に広く分布しているが、特に F 4 13 区周辺でまとまりが見られる。第 16 層 (II-③ 下層) で人骨片 (胎児) が出土している。人骨・獣骨類・貝類については、付章で解説したい。

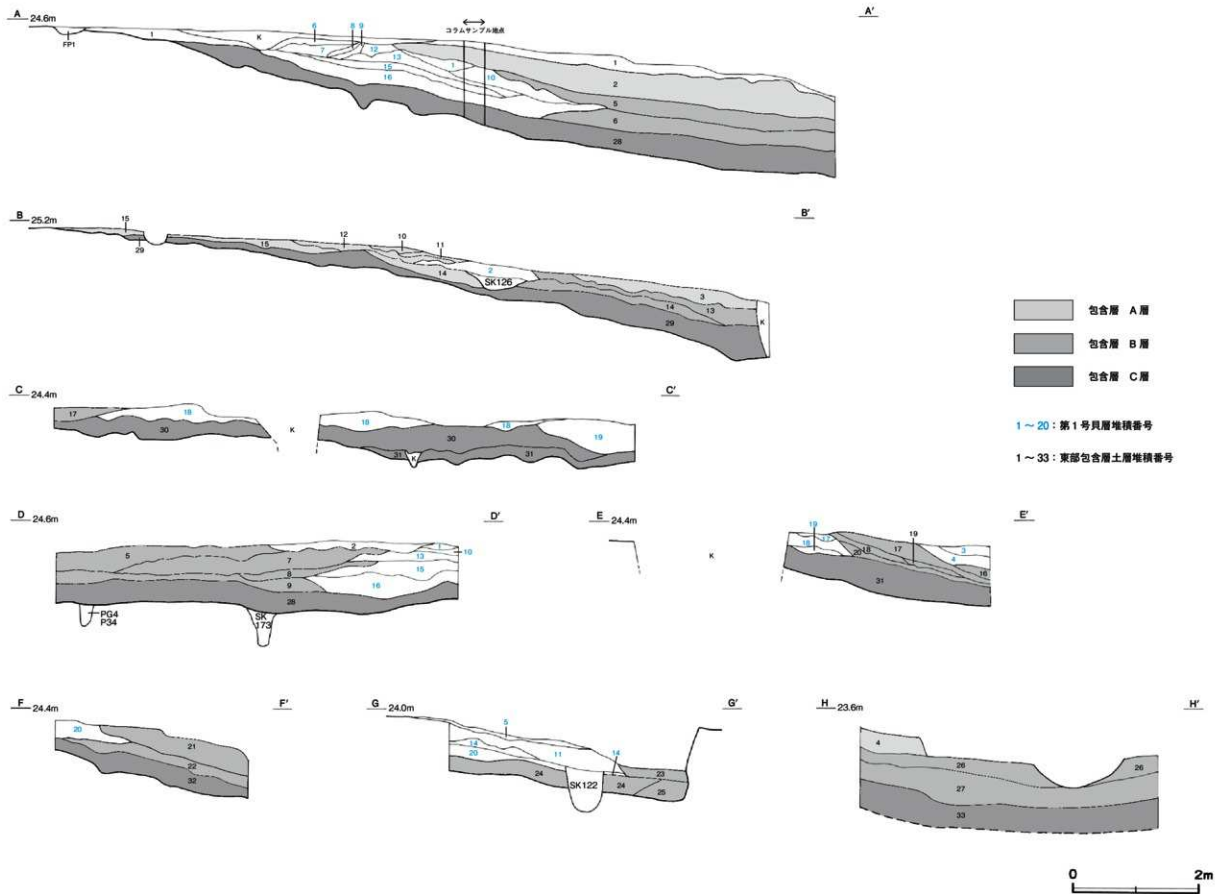
所見 第 126 号土坑の上面には I 層が堆積しており、土坑の廃絶後の凹みに貝が廃棄されたものと考えられる。各層とも複数時期の土器の混入が認められ、各層毎の時期を限定することは難しい。遺物の平面的な分布では、場所によってある程度のまとまりが捉えられることから、後期前葉から晩期前葉まで断続的に地点をかえながら廃棄している様子が捉えられる。堆積状況で確認したように、I 層及び II 層①-③の層間には、東部包含層の B 層が互層のように堆積する部分があることも、I 層と II 層の各層の堆積・廃棄が連続的ではなく、時間差があると推測できる。第 120 号土坑は II-①層上面 (11 層) から掘り込み、第 121 号土坑は I 層 (1 層) から掘り込んでいることから、貝層中に当時の生活面・活動面が存在したことがうかがえる。また、貝層中から胎児骨片が出土していることから、貝層中での埋葬行為が推測できる。II-③層とその上位では、各時期の土器の混入率等が若干異なる。貝層の破砕度、白化傾向を見ると、II-③層でやや数値が増加する。また垂直的な分布でも II-③層下面でレベルをほぼ同じにして比較的大きな破片の土器が出土していることから、II-③層下面に一定の時間的間隙があり、廃棄ブロックが形成された可能性がある。この位置で第 122 号土坑が掘削されていることも示唆的である。また、貝層と東部遺物包含層は互層をなして堆積している部分があるが、遺物の垂直分布図 D ラインから明らかなように、遺物の面的な分布は貝層 II-③層と東部包含層 B 層において連続的に捉えられる。この B-7 層は特にローム粒子を多く含むローム質の強い土で、遺物も多量に含まれていることから、遺構掘削時の排土などが、貝層 II 層とほぼ時期を同じくして廃棄された可能性も考えられる。

第 1 号貝層出土遺物観察表 (第 70～79 図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
111	陶文土器	深鉢	[28.0]	(9.9)	-	長石・石英	にぶい	普通	隆帯隆沈線→縄文 R L→扇貼付→無文部磨き 内面口縁部磨き	I	20% PL.11
112	陶文土器	深鉢	[14.0]	(7.8)	-	長石・石英	黒黒	普通	隆帯隆沈線→無文部磨き 内面磨き	I	20%
113	陶文土器	鉢	-	(3.4)	[11.2]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	内・外面ナデ	I	10%
114	陶文土器	深鉢	[28.4]	(18.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	地味文 L 区→手載竹管による蛇行沈線 内面磨き 口縁部に凹線	II-①	20%
115	陶文土器	深鉢	[25.0]	(13.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	赤線→緑線貼付→区画沈線間ナデ 内面ナデ	II-①	20%
116	陶文土器	鉢	[20.8]	(10.3)	-	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文 R L→無文部磨き 内面磨き	II-①	50% PL.11



第 67 図 第1号貝層・東部包含層・第1号流路跡実測図



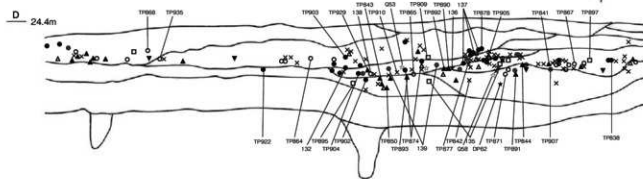
第 68 図 第 1 号貝層・東部包合層土層断面図



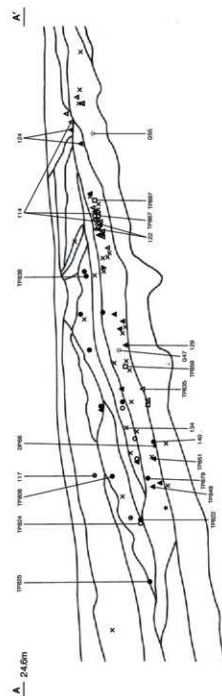
TF42



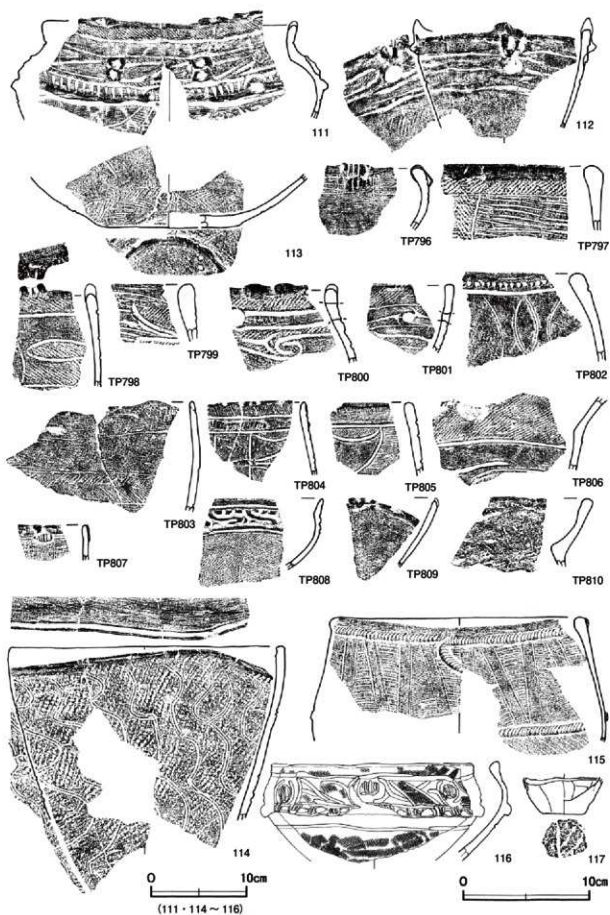
TG43



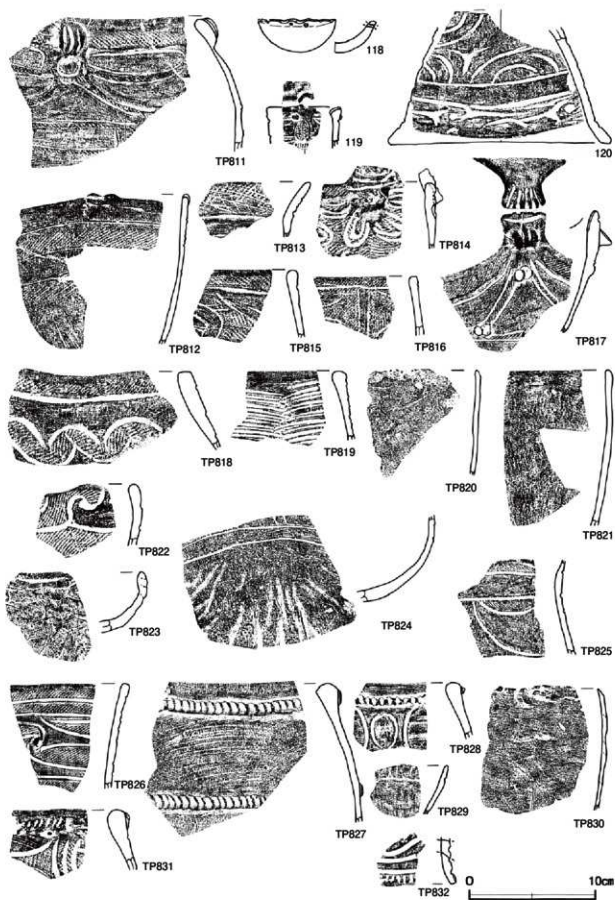
- ▽ 1 群土器 ■ 8 群土器
 ▼ 2 群土器 ◎ 9 群土器
 △ 3 群土器 × その他の土器
 ▲ 4 群土器 ○ 獣骨類
 □ 5 群土器 ★ 土製品
 ○ 6 群土器 ☆ 石器・石製品
 ● 7 群土器



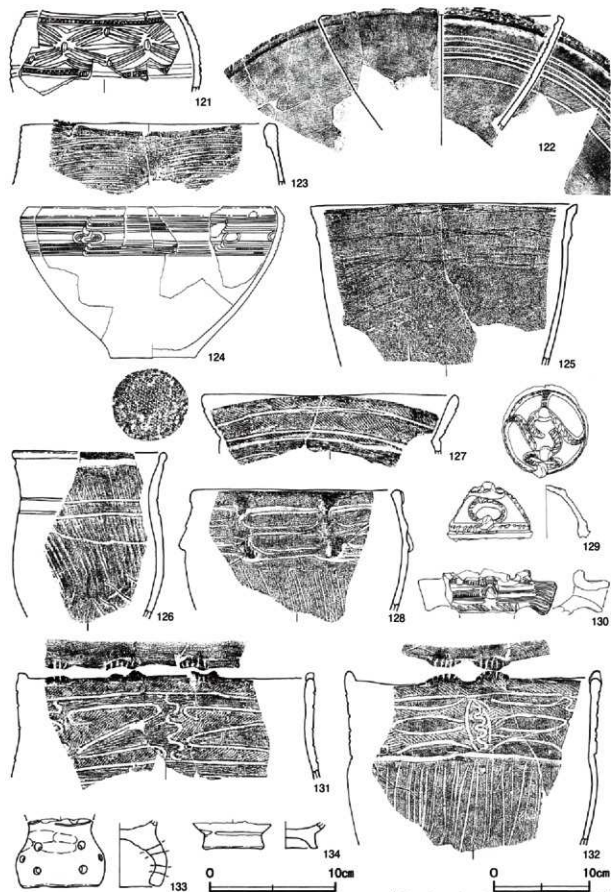
第 69 図 第 1 号貝層遺物出土状況図



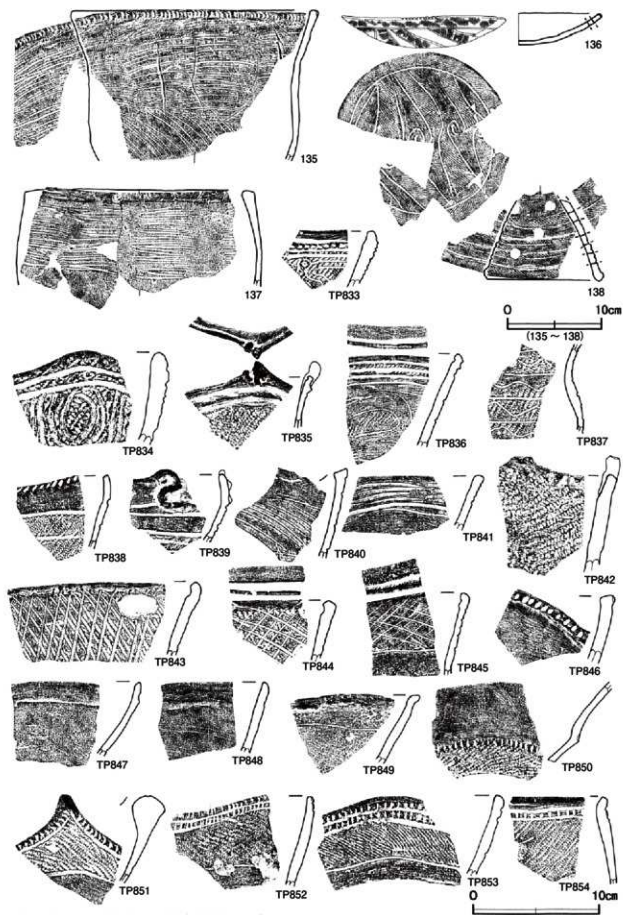
第70図 第1号貝層出土遺物実測図(1)



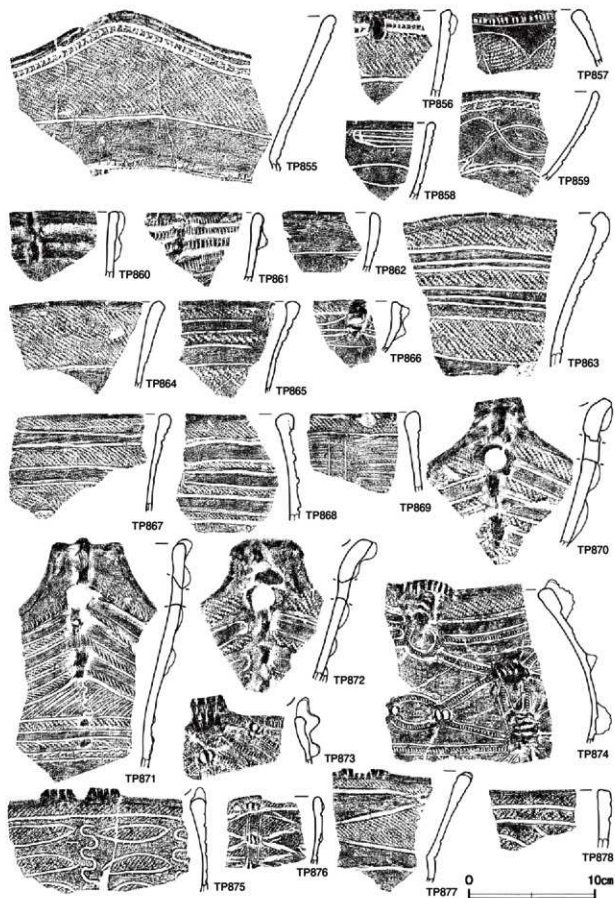
第71图 第1号貝層出土遺物実測図(2)



第72図 第1号貝層出土遺物実測図(3)



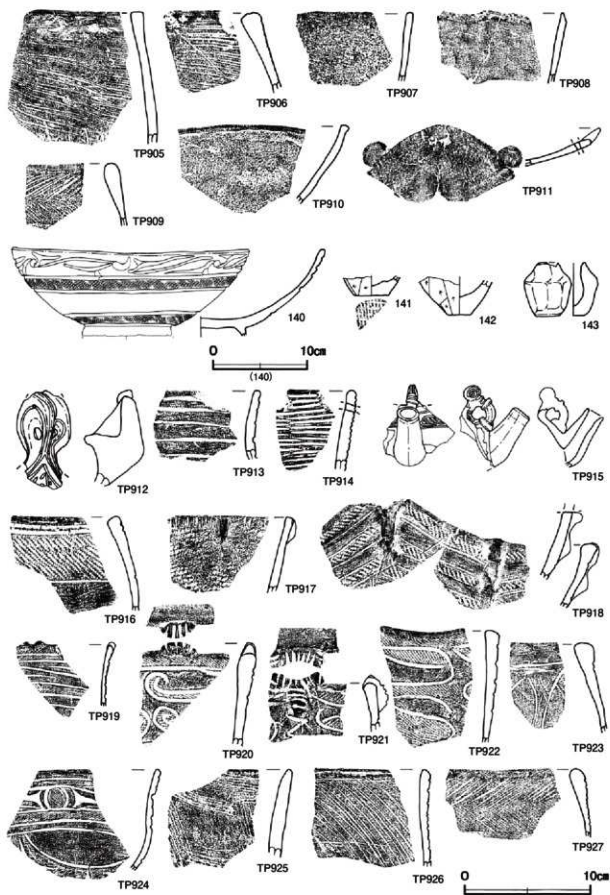
第73图 第1号层出土文物实测图(4)



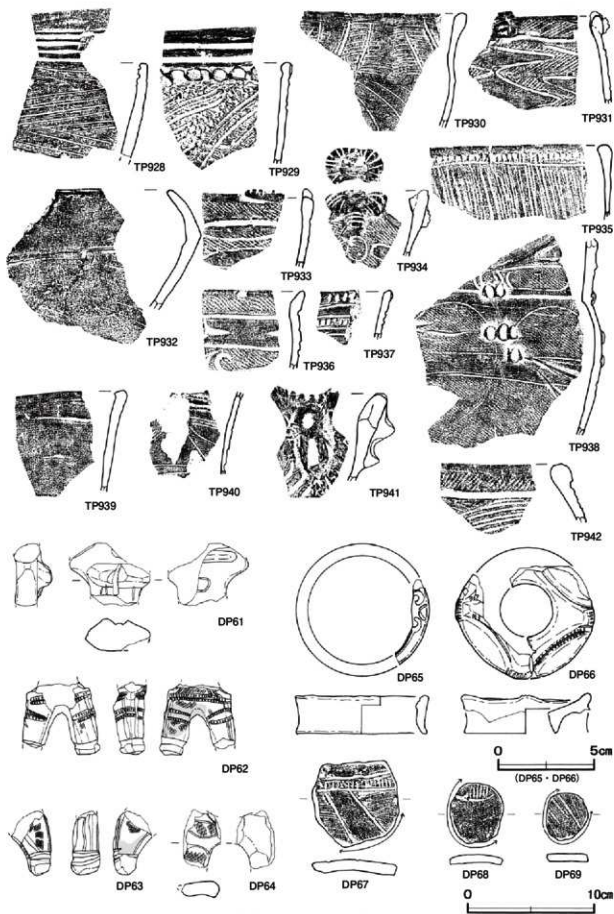
第74图 第1号貝層出土遺物実測図(5)



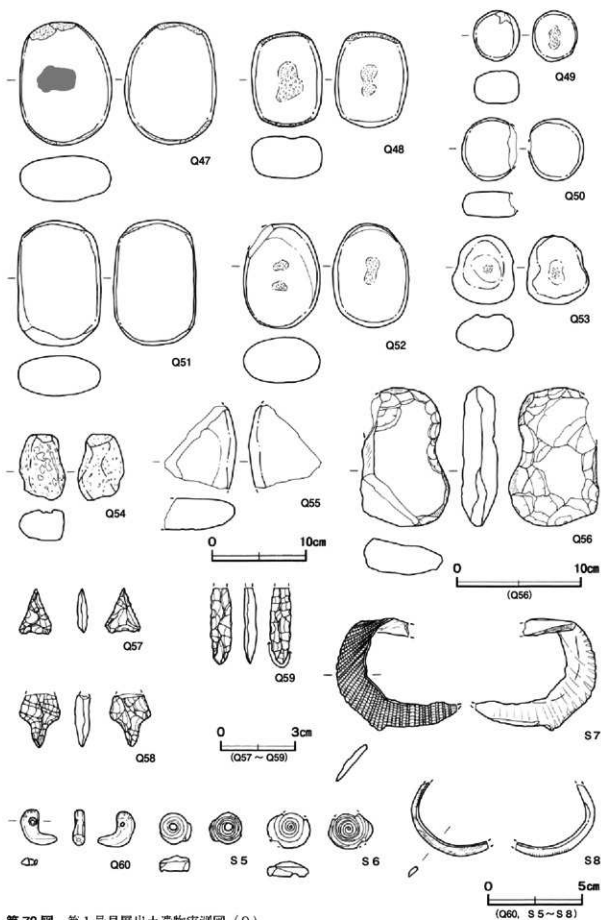
第75图 第1号只屑出土遗物实测图(6)



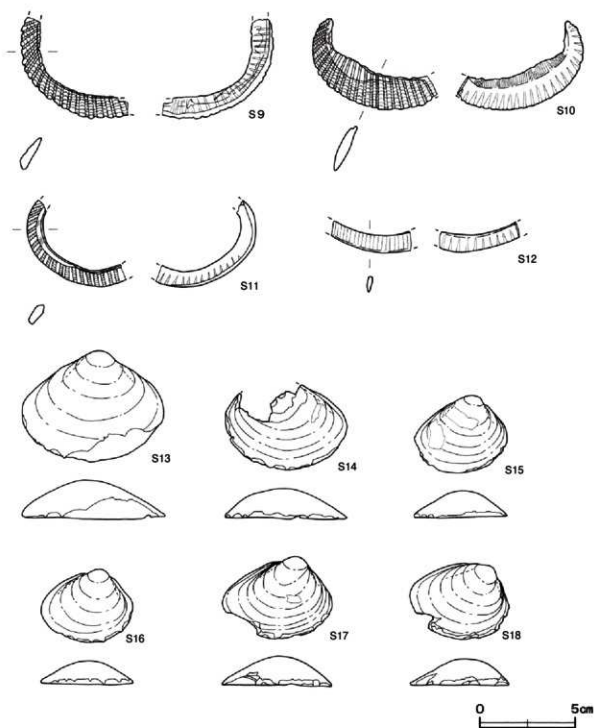
第76図 第1号貝層出土遺物実測図(7)



第 77 图 第 1 号貝層出土遺物実測図 (8)



第78图 第1号貝層出土遺物実測図(9)



第79図 第1号貝層出土遺物実測図(10)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
117	縄文土器	深鉢	-	(29)	3.3	長石・石英・白色粒子	浅黄緑	普通	外面割り 内面ナデ 底部本葉痕	Ⅱ-①	10%
118	縄文土器	ミニチユア	6.1	2.6	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	内・外面磨き	Ⅱ-①	100%
119	縄文土器	小形土器	[58]	(3.3)	-	長石・石英	にぶ・赤褐	普通	沈線間:細密沈線文光線 内面磨き	Ⅱ-①	10%
120	縄文土器	台付土器	-	(8.7)	[17.2]	長石・石英	橙	普通	無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-①	10%
121	縄文土器	鉢	[12.4]	(6.5)	-	長石・石英・雲母	にぶ・赤褐	普通	沈線→沈線間弱み→磨き 内面磨き 横原式文様	Ⅱ-②	20% PL11
122	縄文土器	鉢	[24.6]	(12.0)	-	長石・石英・雲母	にぶ・赤褐	普通	外面磨き 内面沈線→縄文LR→無文部磨き	Ⅱ-③	20%
123	縄文土器	深鉢	[19.2]	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面茶線 口縁部に粘土のはみだしを残す 内面ナデ 工具痕明瞭	Ⅱ-②	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
124	縄文土器	鉢	[26.0]	(15.9)	9.0	長石・石英・雲母・細砂	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き 底部刷代	Ⅱ-③	40% PL.8
125	縄文土器	深鉢	[28.0]	(17.0)	-	長石・石英	にぶい赤黄	普通	外面磨り→ナデ 内面ナデ	Ⅱ-③	20%
126	縄文土器	深鉢	[12.1]	(13.2)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内縁 条線→沈線→沈線磨き 内面磨き	Ⅱ-③	10%
127	縄文土器	深鉢	[20.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	20%
128	縄文土器	深鉢	[21.4]	(12.6)	-	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 除部密沈線→縄文RL→磨貼付→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	10%
129	縄文土器	香印形土器	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄	普通	一孔 外面磨き	Ⅱ-③	30%
130	縄文土器	香印形土器	-	(3.5)	-	長石	明赤褐	普通	内面ナデ	Ⅱ-③	30%
131	縄文土器	深鉢	[30.8]	(11.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	10% PL.11
132	縄文土器	深鉢	[25.8]	(18.4)	-	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 体部ナデ→縦位条線 内面磨き	Ⅱ-③	20% PL.11
133	縄文土器	香印形土器	-	(5.4)	6.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	外面磨貼ナデ 内面ナデ	Ⅱ-③	30%
134	縄文土器	台付土器	-	(2.8)	6.4	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	Ⅱ-③	10%
135	縄文土器	深鉢	[25.8]	(15.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	条線→口縁部磨み 内面ナデ	Ⅱ-③	20%
136	縄文土器	浅鉢	17.0	3.4	-	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	70% PL.9
137	縄文土器	深鉢	[24.0]	(10.0)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	横位条線(左→右) 内面ナデ	Ⅱ-③	20%
138	縄文土器	台付土器	-	(8.4)	[12.0]	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-③	30%
139	縄文土器	深鉢	[15.1]	(6.9)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面縦位の磨り 内面ナデ 製庫土器々	Ⅱ-③	30% PL.12
140	縄文土器	台付鉢	25.1	(9.3)	[9.5]	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	70% PL.9
141	縄文土器	深鉢	-	(1.5)	[2.7]	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 底部刷代	Ⅱ-⑤下層	10%
142	縄文土器	深鉢	-	(2.8)	[1.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り 内面ナデ	Ⅱ	10%
143	縄文土器	ミニチュア	1.8	4.2	1.8	長石	にぶい黄	普通	外面磨貼ナデ 内面ナデ	Ⅱ	80%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T7796	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	磨貼付→横位沈線→対弧文 内面磨き	I	
T7797	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	条線→沈線→縄文LR 内面磨き	I	
T7798	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	I	
T7799	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	条線→沈線→縄文LR 内面磨き	I	
T7800	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	I	
T7801	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	I	
T7802	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	ナデ→口縁部横位沈線→区弧文 内面ナデ	I	
T7803	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	沈線→細密沈線文→無文部磨き 内面磨き	I	
T7804	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	沈線→細密沈線文→無文部磨き 内面ナデ	I	
T7805	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→細密沈線文→無文部磨き 内面ナデ	I	
T7806	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	I	
T7807	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	沈線→細密沈線文→磨貼付 内面ナデ	I	
T7808	縄文土器	鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	I	
T7809	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	内・外面磨き	I	
T7810	縄文土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ナデ	I	
T7811	縄文土器	深鉢	長石・石英・細砂	橙	普通	沈線→縄文RL→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ→磨い磨き	Ⅱ-①	
T7812	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-①	
T7813	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	地縄文LR→格子目文 内面磨き	Ⅱ-①	
T7814	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	沈線→縄文LR 内面ナデ	Ⅱ-①	
T7815	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-①	
T7816	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-①	
T7817	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	除部密沈線→縄文LR→無文部磨き→磨貼付 内面ナデ	Ⅱ-①	
T7818	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-①	
T7819	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	条線(左→右) 内面磨き	Ⅱ-①	
T7820	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面磨り 内面ナデ	Ⅱ-①	
T7821	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	外面磨り 内面ナデ	Ⅱ-①	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T7822	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい澄	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	II-①
T7823	縄文土器	浅鉢	長石・石英・細燐	にぶい澄	普通	外面附磨子ナテ 下半部磨り 輪縁或明瞭 内面附磨子ナテ		II-①
T7824	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい澄	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面ナテ	II-①
T7825	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線→磨き沈線文光焼→無文部磨き	内面磨き	II-①
T7826	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	II-② PL11
T7827	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	澄	普通	条線→磨き磨付	内面ナテ	II-②
T7828	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい澄	普通	胴部に区画文	内面磨き	II-②
T7829	縄文土器	ミニチヌア	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	外面磨り	→口縁部沈線文 内面磨り	II-②
T7830	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	外面磨り	内面ナテ一部磨き	II-② PL12
T7831	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい澄	普通	条線→沈線→縄文LR	内面磨き	II-②
T7832	縄文土器	台付土器	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	外面磨き	内面ナテ	II-②
T7833	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	地縄文LR→半載竹管文様		II-③
T7834	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい澄	普通	地縄文→沈線文	内面磨き 口縁部に沈線文	II-③
T7835	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい澄	普通	外面縄文LR 横位地文	内面磨き 口縁部に沈線文	II-③
T7836	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き 口縁部に沈線文	II-③
T7837	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい澄	普通	地縄文LR→沈線文	内面磨き	II-③
T7838	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい濁	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	口唇部磨み 内面磨き	II-③
T7839	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7840	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい濁	普通	外面斜線文	内面磨き	II-③
T7841	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	沈線→磨き	内面磨き	II-③
T7842	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	外面縄文LR	内面ナテ	II-③
T7843	縄文土器	深鉢	長石	澄	普通	地縄文→格子目文	内面磨き	II-③
T7844	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	地縄文→格子目文	内面磨き	II-③
T7845	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	格子目文(左下がり→右下がり)	内面磨き 口縁部凹線	II-③
T7846	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい澄	普通	内・外面磨き		II-③
T7847	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面磨り	内面磨き	II-③
T7848	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面ナテ 口縁部に凹線	内面磨き	II-③
T7849	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	外面ナテ一部磨き		II-③
T7850	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7851	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7852	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7853	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい濁	普通	沈線→縄文LR→口縁部磨み	内面磨き	II-③
T7854	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	沈線→縄文LR→口縁部磨み	内面磨き	II-③
T7855	縄文土器	深鉢	長石・石英	澄	普通	沈線→縄文RL→口縁部磨み→無文部磨き 内面磨き		II-③
T7856	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	沈線→縄文RL→口縁部磨み・無文部磨き 内面磨き		II-③
T7857	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7858	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線→無文部磨き	内面ナテ	II-③
T7859	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	口縁部沈線→縄文LR	内面ナテ	II-③
T7860	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	凹線による隆起帯	内面磨き	II-③
T7861	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	胴部沈線間に条線光焼	内面ナテ	II-③
T7862	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい濁	普通	口縁部に条線文光焼	内面磨き	II-③
T7863	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7864	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部縄文RL 光焼	内面磨き	II-③
T7865	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7866	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部ナテ	内面ナテ	II-③
T7867	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7868	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き	内面磨き	II-③
T7869	縄文土器	深鉢	長石・石英	澄	普通	条線→沈線→縄文RL・区画沈線内磨き	内面ナテ	II-③

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T1870	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	輪貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1871	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1872	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	輪貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1873	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線→隆帯上刻み→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1874	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	隆帯屈折線→隆帯上刻み・縄文RL→無文部磨き 外面粗い磨き 注口磨き	Ⅱ-③	PL11
T1875	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ→粗い磨き	Ⅱ-③	PL11
T1876	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1877	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1878	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文LR→沈線 内面粗い磨き	Ⅱ-③	
T1879	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→無面縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1880	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1881	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1882	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1883	縄文土器	鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1884	縄文土器	壺	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1885	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1886	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線周りに刻文 内面磨き	Ⅱ-③	
T1887	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線による入組文 内面磨き	Ⅱ-③	
T1888	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地縄文→横位条線→縦位区画文 内面磨き	Ⅱ-③	
T1889	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地縄文→条線 内面磨き	Ⅱ-③	
T1890	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	普通	輪貼給付→地縄文→条線 内面磨き	Ⅱ-③	
T1891	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	地縄文→条線→縦線貼付 内面磨き	Ⅱ-③	
T1892	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	地縄文→条線→縦位区画→縦線貼付 内面磨き	Ⅱ-③	
T1893	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	地縄文→条線→縦線貼付 内面磨き	Ⅱ-③	
T1894	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	普通	条線→縦線貼付 内面磨き	Ⅱ-③	
T1895	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	条線→口縁部削み 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1896	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	条線→口縁部削み 内面磨き	Ⅱ-③	
T1897	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	条線→胴部磨き 内面磨き	Ⅱ-③	
T1898	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	条線→区画沈線→削み 内面磨き	Ⅱ-③	
T1899	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	条線→縦線貼付→縦位区画 内面磨き	Ⅱ-③	
T1900	縄文土器	深鉢	長石・石英・白色粒子	にぶい橙	普通	条線→区画沈線内磨き→口縁部縁線貼付・削み→口縁部沈線 内面磨き	Ⅱ-③	
T1901	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	条線→区画沈線内磨き→口縁部縁線貼付 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1902	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	地縄文→条線→縦位区画沈線内磨き→縁線貼付 内面磨き	Ⅱ-③	
T1903	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→縁線貼付→縦位区画内磨き 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1904	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	条線→縁線貼付→区画内縄文RL充填 内面磨き	Ⅱ-③	
T1905	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面横位方向の条線 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1906	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	条線→区画沈線→一部ナデ 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1907	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面削り 内面ナデ	Ⅱ-③	
T1908	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面削り 内面ナデ	Ⅱ-③	PL12
T1909	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面矢羽根状沈線 内面磨き	Ⅱ-③	
T1910	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	黒	普通	外面ナデ 内面磨き	Ⅱ-③	
T1911	縄文土器	浅鉢	長石・石英	灰褐	普通	内・外面磨き 焼成後穿孔 補修孔	Ⅱ-③	
T1912	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線周りに刻文 内面口縁部にC字文	Ⅱ-③下層	
T1913	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	磨き→横位沈線 内面磨き	Ⅱ-③下層	
T1914	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面横位沈線 内面磨き	Ⅱ-③下層	
T1915	縄文土器	注口土器	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面磨き 区画内に矢羽根状沈線文充填	Ⅱ-③下層	
T1916	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	
T1917	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	無面縄文LR→輪貼付・口縁部削み 内面磨き	Ⅱ-③下層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP918	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	輪貼付→隆帯輪沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	
TP919	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・靑	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	
TP920	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	
TP921	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ-③下層	
TP922	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	
TP923	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・靑	普通	ナデ→好弧文 内面ナデ	Ⅱ-③下層	
TP924	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ-③下層	PL11
TP925	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄靑	普通	磨面杖工具による条線 内面ナデ	Ⅱ-③下層	
TP926	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	横位沈線→条線 内面磨き	Ⅱ-③下層	
TP927	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	矢羽根状条線 内面ナデ	Ⅱ-③下層	
TP928	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面斜線文 内面磨き 口縁部に3条の沈線文	Ⅱ	
TP929	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・赤靑	普通	地縄文→平筋竹管による斜線文→縦線貼付 内面磨き 口縁部に凹線文	Ⅱ	
TP930	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑色	普通	条線文→縦位の区画沈線 内面ナデ	Ⅱ	
TP931	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ	
TP932	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	赤靑	普通	口縁部磨き 体部磨き 内面磨き	Ⅱ	
TP933	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ	
TP934	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ	
TP935	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	普通	条線→沈線→筋み 内面磨き	Ⅱ	
TP936	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ	
TP937	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	普通	内・外面磨き	Ⅱ	
TP938	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き・輪貼付 内面磨き	Ⅱ	
TP939	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰靑	普通	外面磨き 内面磨き	Ⅱ層下	
TP940	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	Ⅱ層下	
TP941	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・靑	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	Ⅱ層中	
TP942	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤靑	普通	条線→沈線→縄文LR 内面磨き	Ⅱ層中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DF61	土偶	(49)	6.3	2.8	(51.1)	靑 長石・石英・細砂	表・裏面ナデ	Ⅱ層中	
DF62	土偶	(57)	(6.1)	(2.6)	(68.2)	明赤靑 石英	表・裏面縄文LR 施文 赤彩	Ⅱ層中	
DF63	土偶	(50)	(3.2)	2.3	(26.3)	にぶい赤靑 長石・石英・雲母	表・裏面縄文LR 施文 赤彩	I	
DF64	土偶	(45)	(2.4)	1.3	(17.6)	黒靑・長石・石英・雲母・細砂	表面沈線→無筋縄文L 裏面指掘によるナデ	Ⅱ-②	
DF65	耳飾り	径(7.0)	-	高さ2.0	(6.4)	にぶい赤靑 長石・石英・雲母	内・外面丁寧な磨き	Ⅱ-③	
DF66	耳飾り	径(6.8)	-	高さ2.0	(17.9)	にぶい・靑 長石・石英・雲母	外面磨き	Ⅱ-③	
DF67	土器片 口縁部	6.8	6.9	0.9	57.0	にぶい・靑 長石・石英	深鉢口縁部片利用 周縁的1/3研磨	Ⅱ-③	
DF68	土器片 口縁部	4.7	4.2	0.7	18.6	灰黄靑 長石・石英・雲母	深鉢体部片利用 周縁的1/2研磨	Ⅱ-③下層	
DF69	土器片 口縁部	3.8	3.3	0.6	10.7	にぶい・靑 長石・石英	深鉢体部片利用 周縁的3/4研磨	I	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 47	磨石	13.0	9.8	4.9	951.0	花崗岩	表・裏面・側縁研磨 上下端縦打痕 煤付着	Ⅱ-③下層	
Q 48	磨石	10.0	7.5	4.4	538.0	安山岩	表・裏面・側縁・下端研磨 上端・表・裏面縦打痕	Ⅱ-③下層	PL14
Q 49	磨石	5.4	5.2	4.4	117.4	安山岩	表・裏面・周縁研磨 裏面に縦打痕	Ⅱ-②	PL15
Q 50	磨石	6.7	(5.8)	2.7	(170.0)	安山岩	表・裏面・周縁研磨	Ⅱ-③下層	PL15
Q 51	磨石	13.3	8.9	4.3	941.0	安山岩	表・裏面・周縁研磨	Ⅱ-③	PL14
Q 52	磨石	11.0	9.1	4.8	(637.0)	安山岩	表・裏面・周縁研磨 表・裏面縦打痕	Ⅱ-③下層	
Q 53	磨石	6.6	7.3	3.9	145.8	多孔質安山岩	側縁	Ⅱ-③	
Q 54	磨石	7.0	4.9	3.3	50.0	浮石	上下端研磨	Ⅱ-①	
Q 55	石皿	(8.8)	(7.2)	3.3	(247.0)	安山岩	表面に磨り面	Ⅱ-③	
Q 56	打撃石片	11.2	(7.1)	2.8	(313.0)	角閃石重晶石花崗岩 石英閃石岩	側縁部に摩滅痕	Ⅱ-③	PL15

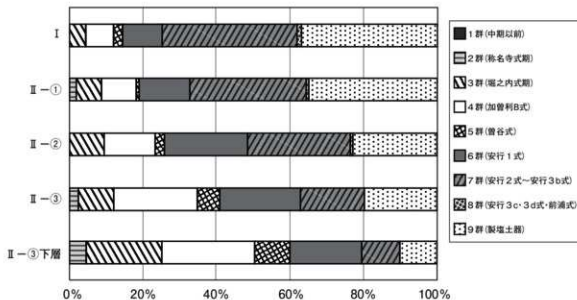
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 57	石鏡	1.8	1.3	0.4	0.7	チャート	裏面に表材剥離痕	Ⅱ-①	PL15
Q 58	石鏡	(2.1)	1.7	0.6	(1.5)	瑪瑙	有茎 先端部欠損	Ⅱ-③	
Q 59	石鏡	(3.1)	0.9	0.5	(1.6)	チャート	先端部薄減	覆土中	PL15
Q 60	写玉	1.9	0.95	0.6	2.5	翡翠	顔面に割みあり 一方向からの穿孔	Ⅱ-③	PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
S 5	装身具*	(2.1)	(1.7)	(0.8)	(1.22)	イモガイ科	螺頭部 穿孔あり 研磨等不明瞭	Ⅱ-②	PL16
S 6	装身具	(1.9)	(2.3)	(0.8)	(1.98)	イモガイ科	螺頭部 穿孔なし 表面一部研磨	Ⅱ-③	PL16
S 7	貝輪	(6.0)	(6.4)	0.4	(16.8)	サルボウガイ属	未製品	Ⅱ-③	PL16
S 8	貝輪	(3.9)	(4.7)	0.3	(2.0)	ペンテイガイ	表・裏面擦痕	Ⅱ-②	PL16
S 9	貝輪	(5.3)	(5.7)	0.5	(13.5)	サルボウガイ属	未製品*	Ⅱ-②	PL16
S 10	貝輪	(6.5)	(4.8)	0.6	(13.3)	サルボウガイ属	未製品*	Ⅱ-①	PL16
S 11	貝輪	(4.5)	(5.2)	0.5	(6.8)	サルボウガイ属	表・裏面擦痕	Ⅱ-②	PL16
S 12	貝輪	(1.6)	(4.2)	0.3	(2.2)	サルボウガイ属	表・裏面擦痕	Ⅱ-①	PL16
S 13	貝牙	5.9	7.4	2.1	27.0	ハマグリ	右殻	Ⅱ-③下層	PL16
S 14	貝牙	(4.5)	6.4	1.5	(9.4)	ハマグリ	左殻	I	PL16
S 15	貝牙	4.1	4.9	1.4	7.6	ハマグリ	右殻	Ⅱ-③下層	PL16
S 16	貝牙	3.8	4.8	1.2	5.6	ハマグリ	右殻	貝層中	PL16
S 17	貝牙	4.8	5.8	1.5	10.7	ハマグリ	右殻	貝層中	PL16
S 18	貝牙	4.0	5.2	1.4	10.2	ハマグリ	右殻	Ⅱ-②	PL16

表 13 第1号貝層出土土器群別組成表

(点)

	1群 (中期以前)	2群 (地名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曾利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式~安行3b式)	8群 (安行3c・3d式・須蔵式)	9群 (製埴土器)	10群 (その他)
I	0	1	10	20	6	28	94	3	95	477
Ⅱ	2	10	42	47	11	74	56	6	76	719
Ⅱ-①	1	4	20	28	2	41	92	2	102	640
Ⅱ-②	0	1	32	49	9	80	99	2	81	792
Ⅱ-③	4	20	98	229	62	221	174	2	198	1502
Ⅱ-③下層	0	30	140	170	67	130	69	1	68	1212
群別合計	7	66	342	543	157	574	584	16	630	5772



第80図 第1号貝層出土土器群別組成グラフ

第2号貝層（第81～83図）

位置 調査B区のF3e7～e9区～F3i7～i9区、標高24～24.5mの台地斜面部に位置している。

確認状況 平成19年度調査の第1号トレンチで貝層の一部を確認している。貝層はB区南部の谷津に直交する谷頭の、東側斜面部に形成されている。西側はF3i8ライン辺りまででそれより西側では見られない。東側は第1号トレンチ東側で、F3h0区付近に部分的に確認できたのみで、広く展開する様子はない。第110号土坑は貝層を掘り込んでいるが、この貝層は第2号貝層の一部と考えられる。F3f0～F4f1区ラインの間の約4mは、第1号貝層と第2号貝層の間で貝層が見られない空白帯となっている。北側は調査区域外に広がっている。南側は第1号貝層同様、幅6メートルの攪乱坑によって削平されており、その南側では確認できなかった。

重複関係 西部包含層と重複関係にあり、西部包含層を覆うように堆積している。第8号住居跡は、西部包含層を掘り込み、第2号貝層下で確認されている。平面的に重複する第132・137・151・189～191号土坑も、第2号貝層下で確認されたものである。

貝層の広がりと堆積状況 貝層は、層厚5～90cmで、斜面の傾斜に沿って南北に長い帯状に堆積している。F3i8区、F3g8区付近で、東西1m、南北3mの範囲で層厚があり特に混貝率が高い部分が存在する。貝層は黒褐色を呈し、混貝率が30～50%で、第1号貝層のⅡ-①層に対応するものと思われる。

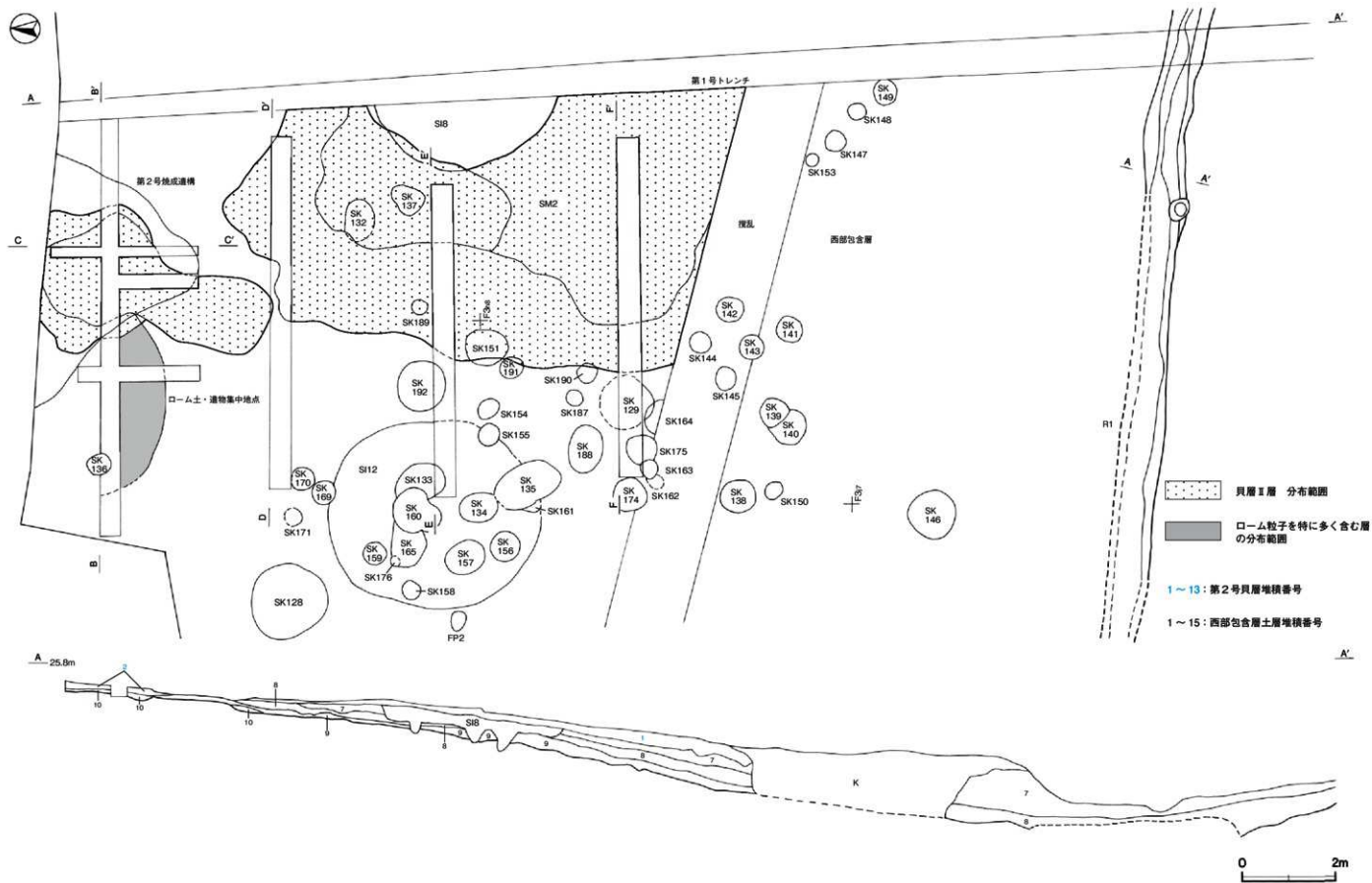
貝層解説 13層に分層できる。貝層はヤマトシジミを主体とし、ハマグリ、シオフキガイ、オオシジミが含まれている。第1号貝層同様、第1優占種がヤマトシジミ、第2優占種がハマグリで、この2種で約95%を占めている。またヤマトシジミ・ハマグリの破砕度は、第1・2・11～13層では高く、第4～9層では10%以下であった。また、第4～13層で貝の白化はほとんど見られなかった。

土層・貝層解説

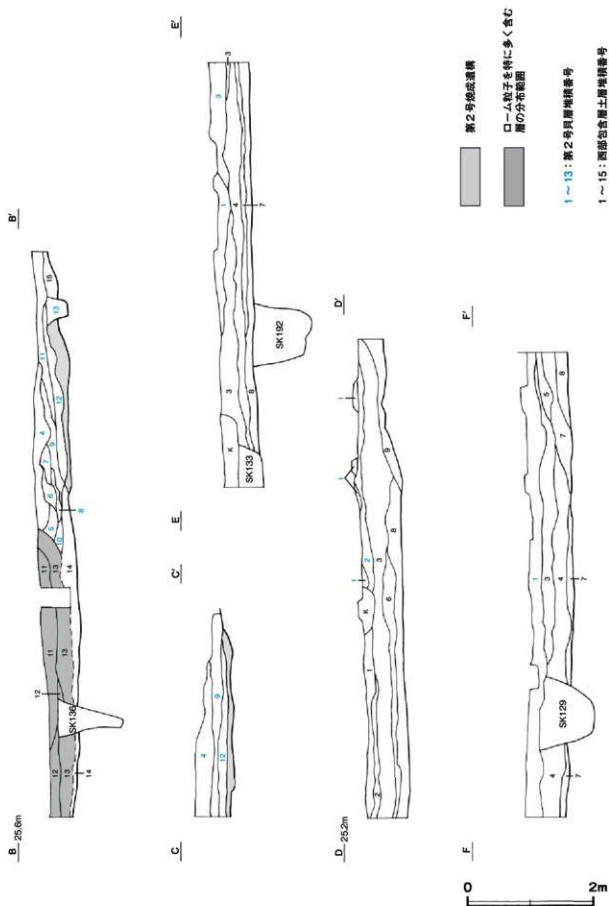
1 混貝土層	黒褐色土主体、貝少量（破砕率70%）、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	8 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子・貝少量、焼土ブロック・炭微量
2 混貝土層	黒褐色土主体、焼土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック・貝微量（破砕率90%）	9 褐 色	ローム粒子中量、炭化物・貝少量、焼土粒子微量
3 混貝土層	黒褐色土に貝類中量（破砕率10%）、ローム粒子・炭化粒子微量、焼土粒子極微量	10 灰 褐色	灰中量、ロームブロック・炭化物少量、焼土ブロック・貝微量
4 混貝土層	暗褐色土に貝類中量（破砕率5%）、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土ブロック微量	11 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量、貝微量（破砕率50%）
5 混貝土層	暗褐色土に貝類中量（破砕率5%）、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	12 黒 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、貝類微量（破砕率50%）
6 混貝土層	暗褐色土に貝類（破砕率5%）・焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量	13 暗 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子・貝微量（破砕率95%）
7 混貝土層	暗褐色土に貝類中量（破砕率5%）、ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量		

遺物出土状況 本貝層からは、縄文土器片6833点（総重量133,820g）、土製品10点（耳飾り4、土偶2、土器片円盤2、不明土製品2）、石器3点（石鏃1、砥石2）、石製品1点（石剣）、石核2点（チャート、黒曜石）、剥片18点（チャート12、黒曜石4、瑪瑙1、頁岩1）、貝製品6点（貝輪4、貝刃1、垂飾品1）、焼成粘土塊3点のほか、混入した土師器片5点（坏）、須恵器片2点（甕）、瓦片1点が出土している。土器は称名寺Ⅱ式期から一定量が確認でき、各分類群別の出土土器については表14のとおりである。中心となるのは後期後葉実行1式から晩期前葉実行3b式で、特に第7群が組成の46%を占めている。また晩期中葉の第8群も7%で、第1号貝層よりも比率が高くなっている。土製品・石器・石製品は第1号貝層と同様に多くは見られない。西部包含層の図版に掲載しているS24・S25は、本貝層から出土したものである。

所見 本貝層は、北側に入り込む谷津に面した斜面部に形成されたものである。各層とも後期前葉から晩期前葉までの複数時期の土器の混入が認められ、層の時期を限定することは難しい。貝層が密に分布するF3i8区とF3g8区は、F3i8区では貝層下に第2号焼成遺構が、F3g8区では第8号住居跡があり、これらが焼



第81図 第2号貝層・西部包含層・第1号流路跡実測図



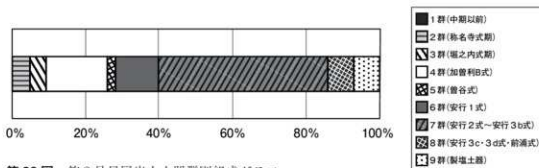
第82図 第2号貝層・西部包含層土層断面図

絶された後、その凹みに貝を廃棄したものと考えられる。貝の破碎率が5～10%と低いことから、廃棄後の二次的な移動や破壊は少なかったものと推測できる。それ以外では貝の混入は少量であることから貝の廃棄は主体ではなく、人工遺物や排土等の廃棄が主で、破碎率が90%以上と高いことなどから、堆積にある程度の時間的な経過があったものと推測できる。

表 14 第2号貝層出土土器群別組成表

(注)

	1群 (中期以前)	2群 (地名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曾利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式～ 安行3b式)	8群 (安行3c・3d 式・前溝式)	9群 (製埴土器)	10群 (その他)
出土点数	3	86	79	306	40	224	833	131	137	4994



第 83 図 第2号貝層出土土器群別組成グラフ

(8) 遺物包含層

B 区の台地斜面部から南側の谷津にかけて、土器や石器などの遺物を多量に含む遺物包含層が確認されている。広範囲に及ぶため、分布範囲のほぼ中央に位置する平成 19 年度に調査した第 1 号トレンチを境に、便宜的に東側を東部包含層、西側を西部包含層として報告する。

東部包含層 (第 67・68・84～103 区)

位置 調査B区の F 3 g0～F 4 g3 区, F 3 h0～F 4 h3 区, F 3 i0～F 4 i4 区, F 3 j0～F 4 j4 区, 標高 24.5～26 m の斜面部を中心に, G 3 b0～G 4 b3 区付近, 標高 23.5 m の谷津付近まで分布している。

確認状況と重複関係 第 1 号貝層と重複関係にあり, 遺物包含層の掘り下げ中に貝層の広がりを確認できた。第 110・111・126・130・131・173・177 号土坑, 第 4 号ピット群と重複し, 第 110・126 号土坑に掘り込まれている。第 111・130・131・173・177 号土坑と平面的には重複しているが, これらは包含層下での確認である。

包含層の広がりと**堆積状況** 33 層に分層できる。遺物包含層はその色調や含有物から, 大きく 3 つに分けることができる。黒色土或いは黒褐色土を主体とする A 層は, 層厚 10～60cm で, 東部を中心に広がっている。暗褐色土を主体とする B 層はローム粒子を多量に含む層で, 層厚は 10～70cm である。特に F 3 h0 区から F 4 i1 区にかけて, ローム粒子が多く, 遺物が多量に含まれる層が幅約 1 m の帯状で弧状に堆積している。B 層は土層に凹凸が見られ, 部分的に灰白色粘土ブロックを含む層があることから, さらに細分できる可能性がある。灰白色粘土層上でみられる粘性・締まりの強い黒褐色土の C 層は, 層厚 10～60cm で, 斜面部から谷津付近まで広く分布している。A 層の第 2 層, B 層の第 5・7 層を掘り下げ後, 第 1 号貝層の広がりが確認できた。貝層の下位には B 層の第 6 層と C 層の第 28～33 層が広がっている。F 4 i1 区付近では第 1 号貝層 1 層下に包含層 B 層の第 16～20 層が堆積し, 第 1 号貝層 II-②・③層がその下に堆積している。



A

F42

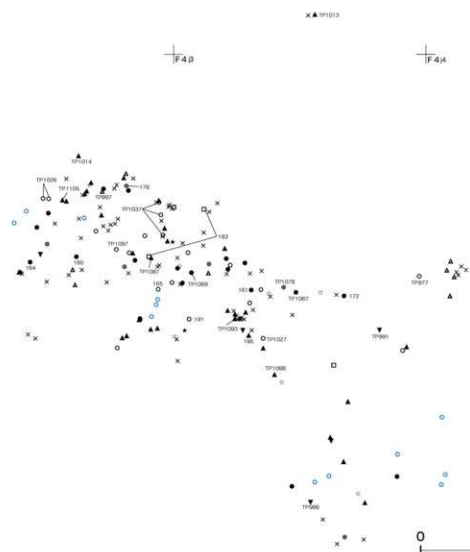
F42

G4a2

A

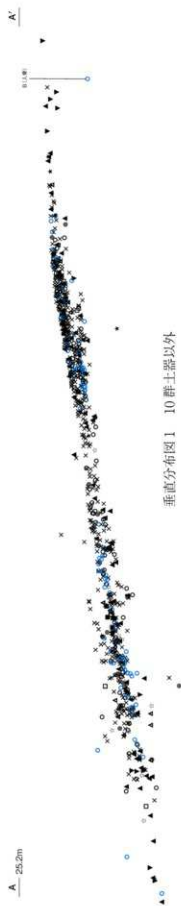
- ▽ 1群土器
- ▼ 2群土器
- △ 3群土器
- ▲ 4群土器
- 5群土器
- 6群土器
- 7群土器
- 8群土器
- ◎ 9群土器
- × その他の土器
- 獣骨類
- ★ 土製品
- ☆ 石器・石製品

北

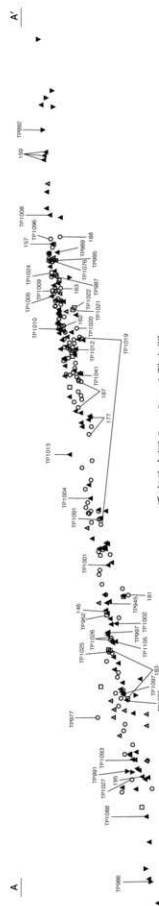


第84図 東部包含層遺物出土状況図(1)

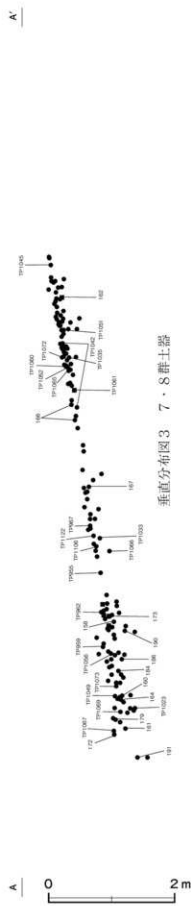
第 85 图 東部包含層遺物出土狀況圖 (2)



垂直分布圖 1 10 群土器以外



垂直分布圖 2 2~6 群土器



垂直分布圖 3 7・8 群土器

土層解説

1	黒	褐色	耕作土	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・貝少量	17	暗	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 B層対応	
2	黒	褐色	ローム粒子微量	A層対応	18	暗	褐色	ローム粒子極多量、焼土粒子・炭化粒子微量 B層対応	
3	黒	褐色	貝中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	A層対応	19	暗	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量 B層対応	
4	黒	褐色	ローム粒子微量	A層対応	20	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 B層対応	
5	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	B層対応	21	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 B層対応	
6	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	22	黒	褐色	貝微量	B層対応
7	暗	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	B層対応	23	暗	褐色	貝微量	B層対応
8	黒	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	B層対応	24	黒	褐色	焼土粒子微量	B層対応
9	黒	褐色	砂粒・貝微量	B層対応	25	黒	褐色	貝中量	B層対応
10	暗	褐色	ロームブロック多量、黄褐色細礫中量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	26	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	B層対応
11	黒	褐色	ロームブロック・灰白色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	27	黒	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応
12	黒	褐色	灰白色粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	B層対応	28	黒	褐色	砂粒少量、ローム粒子微量	C層対応
13	暗	褐色	ローム粒子極多量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	29	黒	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 C層対応	
14	暗	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	30	黒	褐色	シルト粒子少量	C層対応
15	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	31	黒	褐色	ローム粒子中量	C層対応
16	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	32	黒	褐色	シルト粒子少量	C層対応
					33	黒	褐色	砂粒少量、ローム粒子微量	C層対応

遺物出土状況 本包含層からは、多量の人工遺物と自然遺物などが出土している。縄文土器片の総数は43,584点で、総重量は693,051gである。土器以外の主な人工遺物は、土製品82点(土玉2,土錘2,耳飾り9,土版3,土鍋25,有孔円盤2,土器片円盤37,不明土製品2),石器117点(石鏃5,打製石斧8,磨製石斧8,石皿11,磨石65,敲石9,石錘2,凹石1,砥石8),石製品14点(小玉1,石剣・石棒13),石核33点(チャート27,瑪瑙2,石英2,黒曜石1,頁岩1),剥片38点(チャート26,黒曜石5,頁岩3,安山岩2,瑪瑙1,石英1),焼成粘土塊12点,骨角製品2点(棒状刺突具,ヘアピン),貝製品16点(貝輪6,貝刃10)のほか、混入した土師器片34点(坏,甕),須恵器片4点(坏,甕),土師質土器片26点(小皿,内耳鍋),陶磁器片17点(碗,鉢,皿)が出土している。

土器は144～TP985がA層から、155～TP1085がB層から、184～TP1108がC層からそれぞれ出土している。168は第1号貝層Ⅱ-③層から出土した破片と接合した。土器は称名寺Ⅱ式から一定量が確認でき、中心となるのは後期後葉安行1式から晩期前葉安行3b式の段階である。上層のA層から下層のC層まで各時期の土器が出土しているが、相対的に下層ほど古い時期の土器が多い傾向にある。A層は7群が多く、なかでも安行3a式から安行3b式が主体となる。B層は安行3a式から安行3b式の7群に加えて、4群の加曾利B式、6群の安行1式が多く確認できる。C層は3・4群で約半数を占め、2群の称名寺式も比較的多く見られる。製塩土器はA～C層ともに出土しているが、いずれも10%前後で、貝層部分に比較すると少ない。遺物の平面分布を見ると、B層のローム粒子を多量に含む層が堆積する部分から特に多く出土している。その中でもF310区、F411区、F412・3区に6・7群の土器が集中する部分がある。垂直分布は特にB層が中心で、おおまかに上位ほど新しく、下位ほど古い土器が多く確認できる傾向にあるものの、層の時期による差異は見られない。また、分布にレベル的に一定な広がりを確認することも困難で、B層中にまんべんなく混入している。

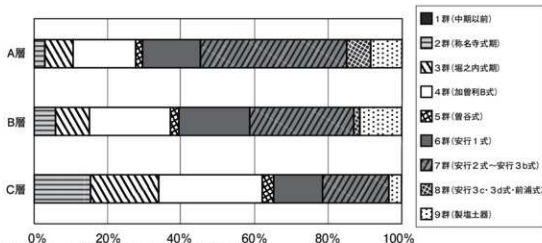
土器以外の人工遺物は、石器のうち磨石が多く出土している。剥片石器は少ないものの、チャートや黒曜石などの石核・剥片が多く、黒曜石は栃木県矢板市の高原山産のものがほとんどである。分布に特に顕著なまとまりをとらえることはできず、包含層全体から広く分布している。骨角製品を加工する際に用いられる砥石は少なく、骨角製品がほとんど出土していないことと比例している。本層から出土した貝製品・骨角製品は、第1号貝層から混入したものの可能性が高い。自然遺物については、貝類ではヤマトシジミが76.2kg、それ以

外の貝が30.9kg出土している。獣骨等はF 3 h0～i0区付近でややまとまって出土しているが、遺存状態が悪く非常にろく、取り上げは困難なものが多かった。F 4 h4区で人骨片（成人）が出土している。

所見 東部包含層は、遺構が存在する台地の斜面部に、多量に遺物を包含する層が厚く堆積したものである。各層とも複数時期の土器の混入が認められ、各層の時期を限定することは難しい。C層は遺物の包含がやや少なく、層も均質的なことから、自然堆積で台地上の遺物が混入したものと推測できる。B層はローム粒子を多量に含む層で、多量の大形破片を含んでいることなどから、台地上の遺構などを掘削した排土を、使用した遺物とともに廃棄したもので、時間幅を持った遺物が同一層位・同一レベルで確認できることなどから、後期後葉から晩期前葉にかけて、断続的に地点を変えながら斜面部に廃棄したものと考えられる。B層と前後して、互層のように第1号貝層が堆積していることは、B層が土を主体とする廃棄層、第1号貝層は貝を主体とする廃棄層で、主体となるものに違いはあるものの、同様の生活活動に伴う廃棄層と推測できる。また、人骨片が出土していることから、埋葬行為があった可能性が考えられる。

表 15 東部包含層出土土器群別組成表

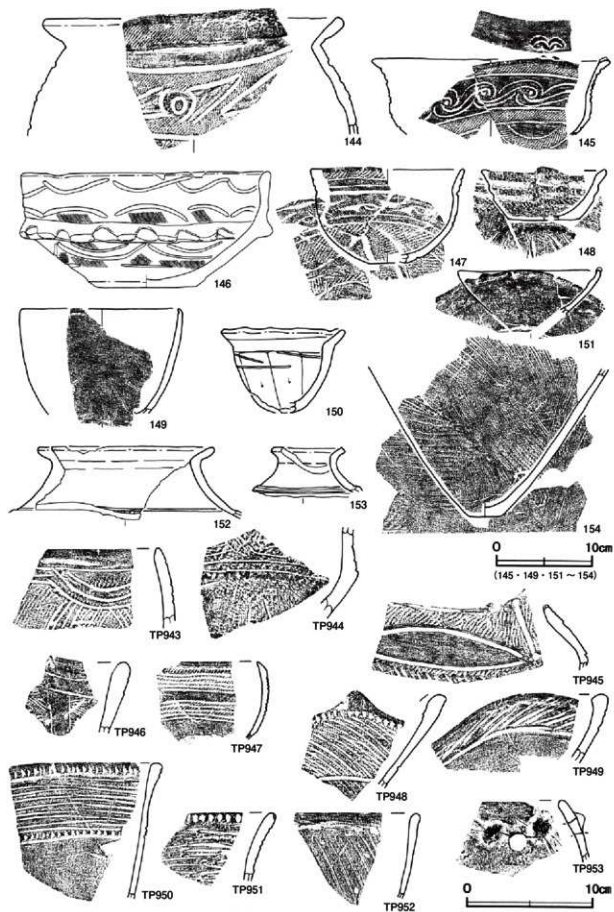
	1群 (中期以前)	2群 (称名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曾利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式・安行3b式)	8群 (安行3c・3d式・前浦式)	9群 (製塩土器)	10群 (その他)
A層	12	131	375	838	92	767	1,943	318	456	17,637
B層	13	244	410	989	112	848	1,255	77	542	11,429
C層	7	112	143	218	34	105	136	1	34	1,395
廃土一括	10	42	97	119	27	139	296	32	53	2,318
群別合計	42	529	1,025	2,155	255	1,859	3,630	428	1,085	32,579



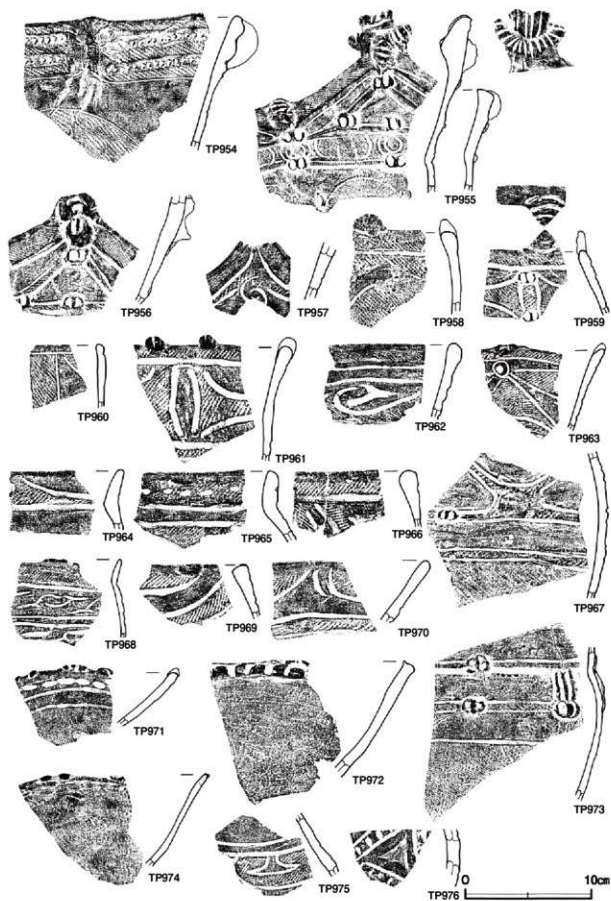
第 86 図 東部包含層出土土器群別組成グラフ

東部包含層出土遺物観察表 (第 87～103 図)

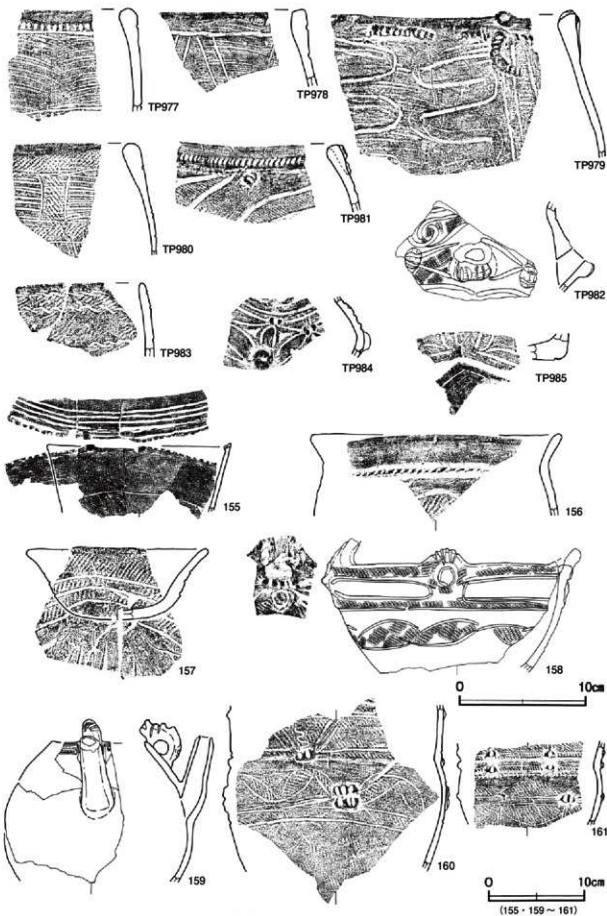
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考	
144	縄文土器	深鉢	[23.0]	(9.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	A層 10% PL12	
145	縄文土器	鉢	[24.4]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	A層 20%	
146	縄文土器	鉢	[19.4]	9.1	8.0	長石・石英・赤色種子	橙	普通	倒り→沈線→無筋縄文R	内面ナデ	A層 40% PL 9	
147	縄文土器	鉢	[12.0]	7.5	[3.0]	長石・石英	黄灰	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き	内面磨き	A層 30% PL12	
148	縄文土器	鉢	[9.8]	4.0	[5.8]	長石・石英	橙	普通	凹線→縄文RL→磨き	内面ナデ	A層 30%	
149	縄文土器	鉢	[16.4]	(10.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	内・外面磨き		A層 20%	
150	縄文土器	小形鉢	[9.4]	(6.6)	-	石英・繊維	浅黄橙	普通	外面倒り	内面ナデ	A層 30%	
151	縄文土器	浅鉢	[14.6]	(4.9)	-	長石・石英・雲母	明橙	普通	内・外面磨き		A層 20%	
152	縄文土器	壺	[18.0]	(7.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨き	内面口縁部磨き	体部ナデ	A層 5%



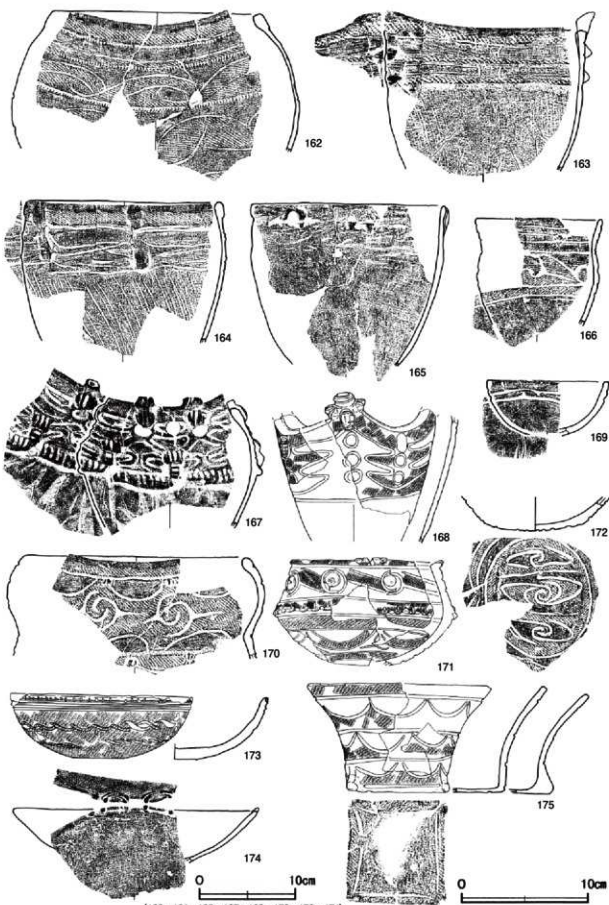
第 87 图 东部包含層出土遺物実測図 (1)



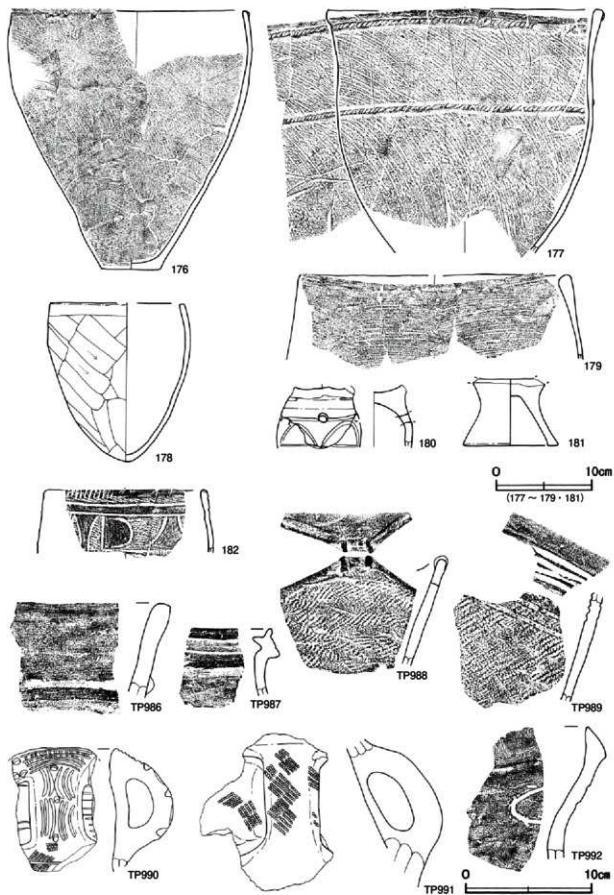
第88図 東部包含層出土遺物実測図(2)



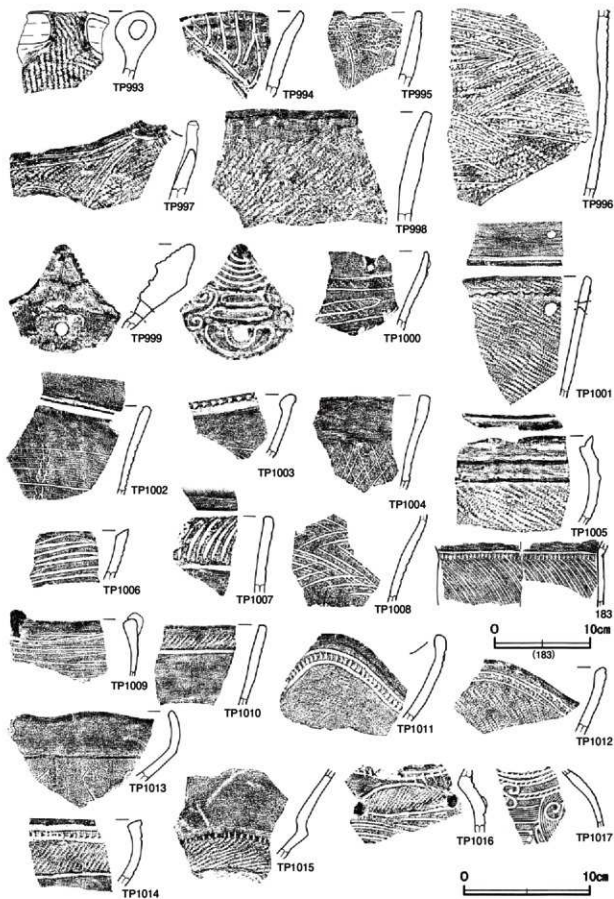
第 89 図 東部包含層出土遺物実測図 (3)



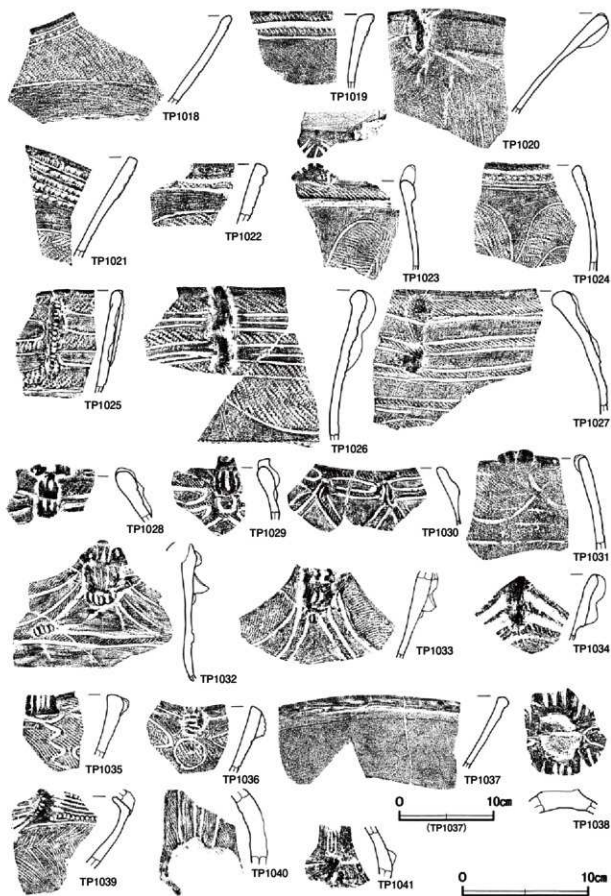
第90图 东部包含层出土遗物实测图(4)



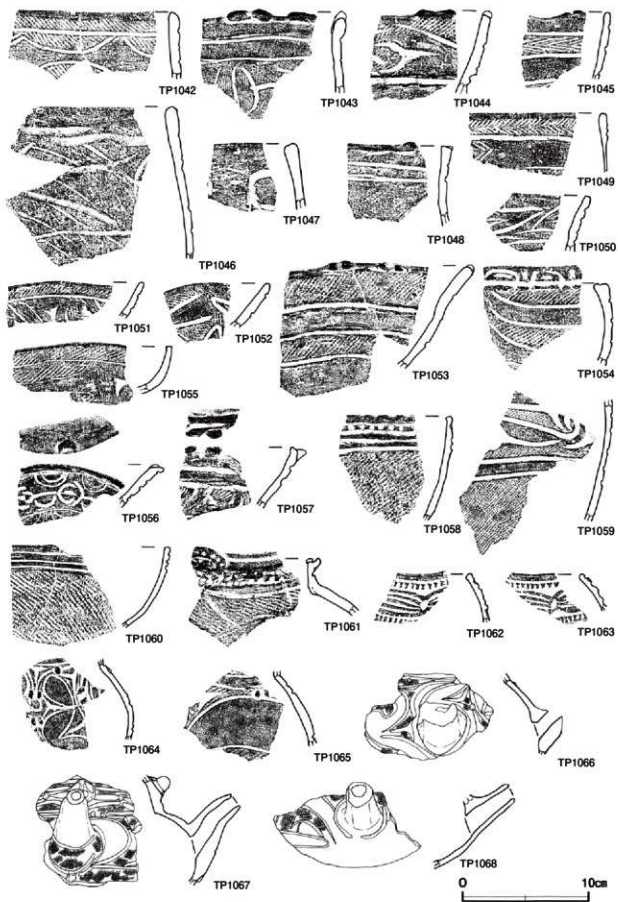
第91図 東部包含層出土遺物実測図(5)



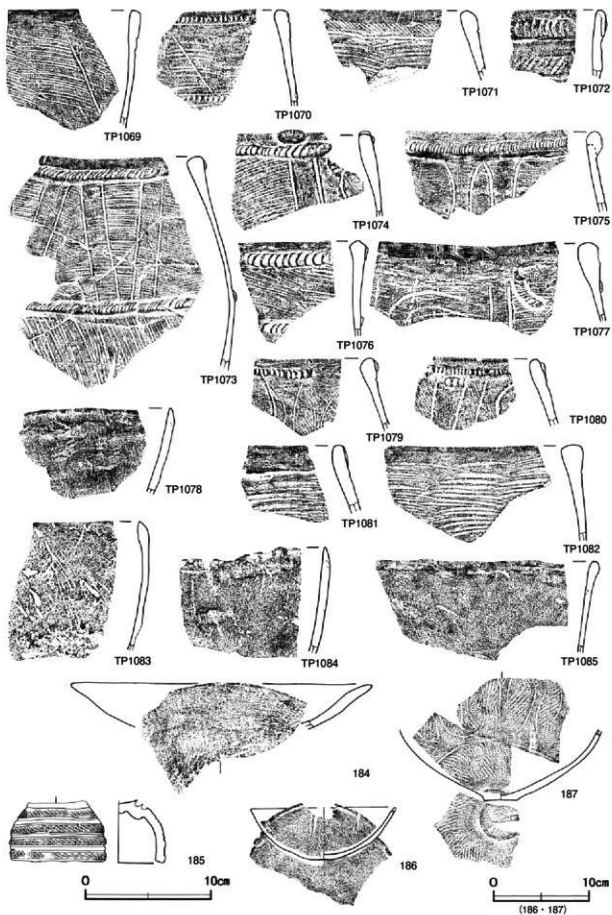
第92図 東部包含層出土遺物実測図(6)



第93図 東部包含層出土遺物実測図(7)



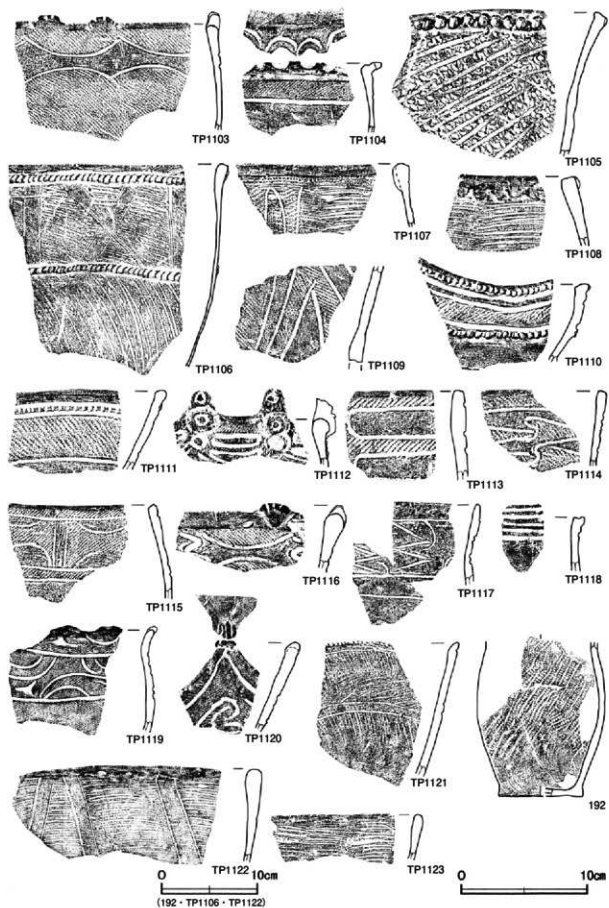
第94图 東部包含層出土遺物実測図(8)



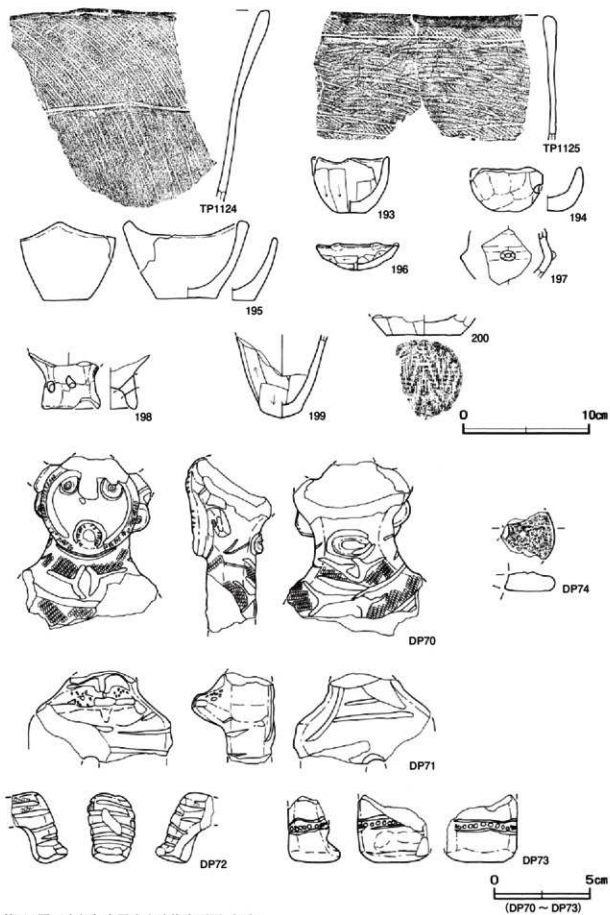
第95图 東部包含層出土遺物実測図(9)



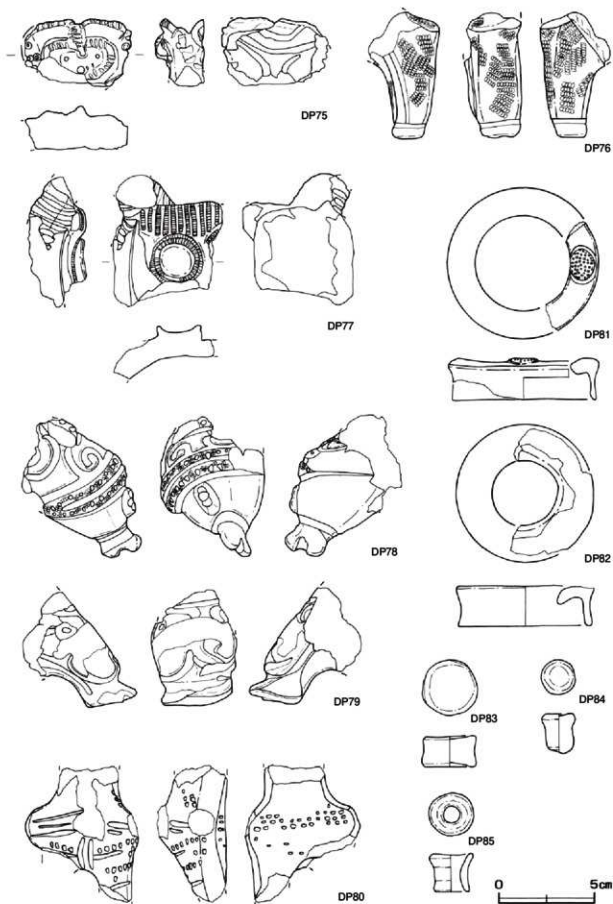
第96図 東部包含層出土遺物実測図(10)



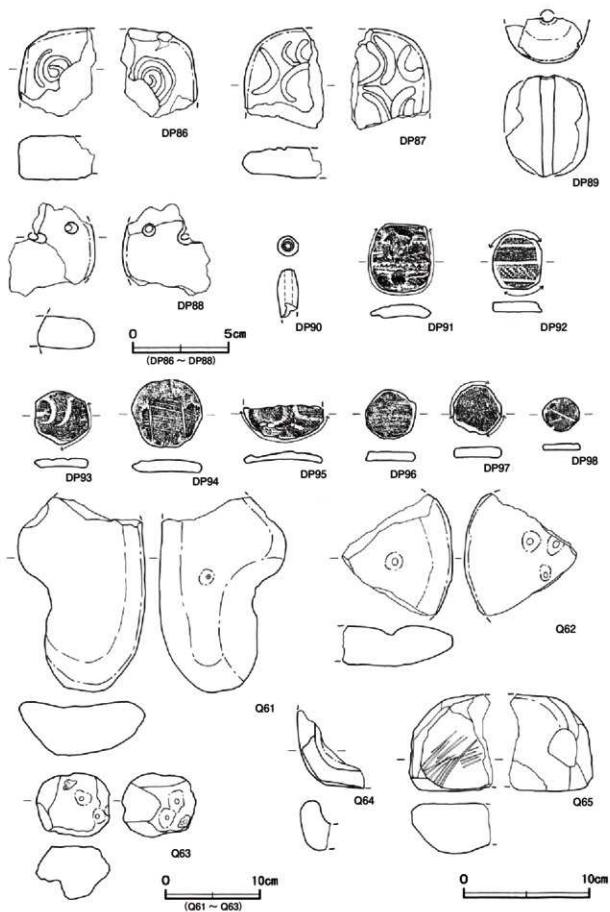
第97图 東部包含層出土遺物実測図(11)



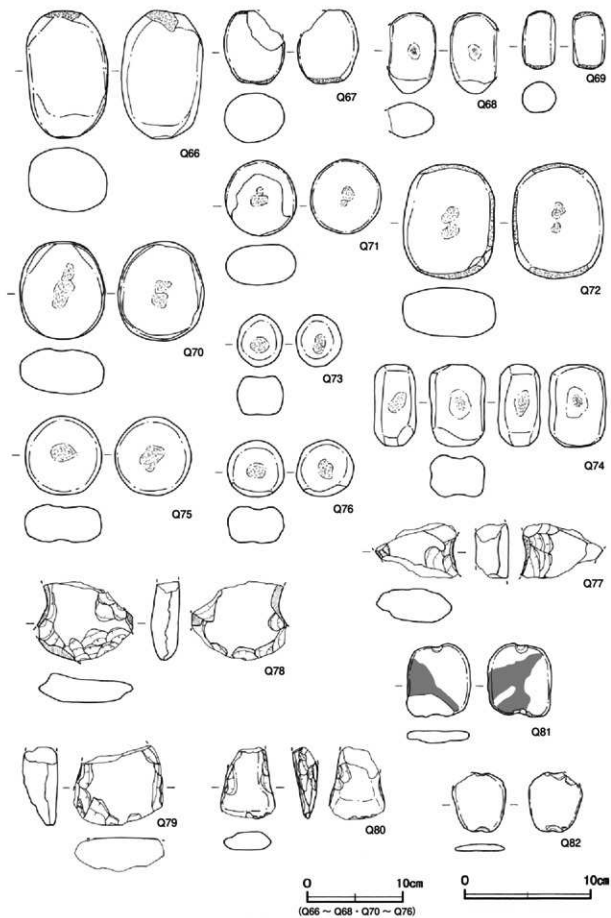
第98図 東部包含層出土遺物実測図 (12)



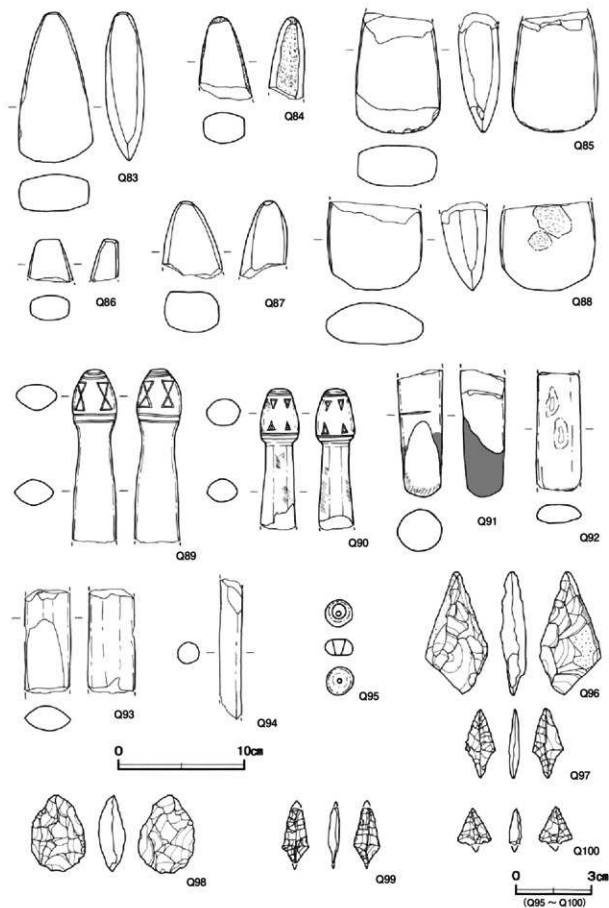
第99図 東部包含層出土遺物実測図 (13)



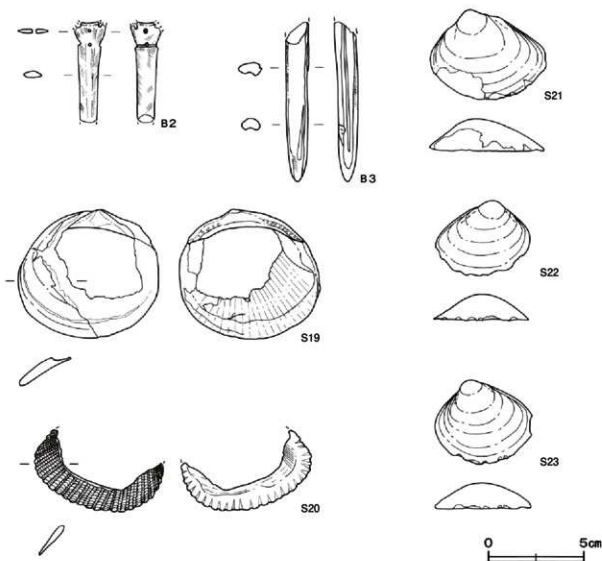
第100图 东部包含層出土遺物実測図(14)



第101图 東部包含層出土遺物実測図(15)



第102图 东部包含层出土遗物实测图(16)



第103図 東部包含層出土遺物実測図(17)

番号	種別	器種	口径	器高	取径	胎土	色調	構成	支那の特徴目か	出土位置	備考
153	縄文土器	壺	[70]	(4.6)	-	長石・石英	浅黄	普通	外面磨き 内面ナデ	A層	20%
154	縄文土器	深鉢	-	(15.6)	3.5	長石・石英	灰褐	普通	内面ナデ→粗い磨き 底部削り	A層	30%
155	縄文土器	深鉢	[190]	(6.8)	-	長石・石英・雲母	黒	普通	沈線→無筋縄文R→無文部磨き 内面磨き	B層	10%
156	縄文土器	深鉢	[196]	(6.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	10%
157	縄文土器	鉢	[140]	5.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	縄文LR→沈線 内面磨き	B層	30%
158	縄文土器	鉢	[194]	(9.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ 約半土器	B層	40% PL12
159	縄文土器	口土器	-	(16.7)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面磨き 内面ナデ	B層	20%
160	縄文土器	深鉢	-	(17.3)	-	長石・石英	にぶい黒	普通	沈線→縄文RL→粗貼付→無文部磨き 内面ナデ	B層	20%
161	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黒	普通	条線→沈線→縄文RL→粗み→粗貼付→無文部磨き 内面ナデ	B層	50%
162	縄文土器	深鉢	[21.5]	(14.3)	-	長石・石英・赤色 粒子	明赤褐	普通	沈線→縄文RL→粗み→無文部磨き 内面ナデ一部磨き	B層	10%
163	縄文土器	深鉢	[15.4]	(12.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線→縄文RL→粗貼付→無文部磨き 内面ナデ一部磨き	B層	20%
164	縄文土器	深鉢	[198]	(14.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	粗貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き 体部条線 内面ナデ一部磨き	B層	20% PL12
165	縄文土器	深鉢	[200]	(16.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	ナデ→粗い磨き 口縁部に渾じ字状の粗貼付 内面ナデ	B層	20%
166	縄文土器	深鉢	[98]	(8.5)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	粗貼付→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ一部磨き	B層	20%
167	縄文土器	深鉢	[130]	(13.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	粗貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	B層	30% PL12

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
168	陶文土器	深鉢	-	(15.8)	-	長石・石英	にぶい	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	B層	60% PL.7
169	陶文土器	鉢	[96]	(4.3)	-	長石・石英・赤色砂子	にぶい	普通	内・外面磨き	B層	20%
170	陶文土器	深鉢	[23.0]	(10.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	B層	20% PL.12
171	陶文土器	鉢	[11.8]	(8.3)	-	長石・石英	にぶい	普通	沈線→無筋縄文L・縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	40% PL.10
172	陶文土器	浅鉢	-	(3.5)	10.0	長石・石英	にぶい	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	B層	10%
173	陶文土器	浅鉢	[14.4]	5.0	3.6	長石・石英	にぶい	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	B層	80% PL.9
174	陶文土器	浅鉢	[25.6]	(5.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ	B層	20%
175	陶文土器	角底土器	[13.8]	8.5	8.2	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	50% PL.9
176	陶文土器	深鉢	37.0	41.9	9.4	長石・石英	橙	普通	地縄文→条線→紐線貼付 内面磨き	B層	70% PL.7
177	陶文土器	深鉢	[28.4]	(25.4)	-	長石・石英	にぶい	普通	地縄文RL→条線→紐線貼付 内面磨き	B層	40% PL.7
178	陶文土器	深鉢	[14.0]	16.5	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部横ナデ 体部磨り 内面ナデ	B層	80% PL.7
179	陶文土器	深鉢	[27.4]	(8.7)	-	長石・石英・細礫	にぶい	普通	外面条線 内面ナデ	B層	10%
180	陶文土器	台付土器	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	内・外面ナデ	B層	25%
181	陶文土器	台付土器	-	(7.0)	10.0	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	外面磨き 内面ナデ	B層	40%
182	陶文土器	深鉢	[12.4]	(5.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	沈線→縦帯沈線文充填 内面ナデ	B層	10%
183	陶文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・石英	にぶい	普通	条線→筋み 内面磨き	B層	5%
184	陶文土器	浅鉢	[23.6]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ	C層	20%
185	陶文土器	台付土器	-	(4.9)	7.2	石英	黒	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	C層	50%
186	陶文土器	浅鉢	[15.0]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面磨き	C層	40%
187	陶文土器	深鉢	-	(7.3)	3.6	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ 底部ナデ	B層	20%
188	陶文土器	口土器	12.7	11.6	[3.4]	長石・石英・赤色砂子	にぶい	赤褐色	沈線→縄文RL→無文部磨き 体部磨き 内面磨き	C層	90% PL.10
189	陶文土器	深鉢	[14.0]	(7.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	C層	10% PL.12
190	陶文土器	深鉢	[14.0]	(6.7)	-	長石・石英・赤色砂子	明赤褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	C層	10%
191	陶文土器	鉢	[15.4]	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	C層	20%
192	陶文土器	深鉢	-	(16.1)	[8.6]	長石・石英・赤色砂子	明赤褐色	普通	外面縄文LR 内面磨き	腹土中	20%
193	陶文土器	ミニチュア	[5.8]	4.5	[2.0]	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨り 内面磨りナデ	C層	50%
194	陶文土器	ミニチュア	[5.4]	3.4	-	長石・石英・白色砂子	橙	普通	内・外面磨りナデ	C層	45%
195	陶文土器	身取鉢	[9.8]	6.2	4.8	長石・石英・雲母	にぶい	普通	内・外面磨き	C層	70%
196	陶文土器	ミニチュア	[6.6]	2.1	-	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	A層	50%
197	陶文土器	ミニチュア	-	(3.9)	-	長石・石英	にぶい	普通	内・外面ナデ	A層	10%
198	陶文土器	台付土器	-	(4.4)	[4.6]	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨りナデ一部無筋縄文L 内面ナデ	C層	30%
199	陶文土器	深鉢	-	(6.6)	2.9	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ 底部磨り 製土器	B層	10%
200	陶文土器	深鉢	-	(1.5)	5.8	長石・石英・赤色砂子	にぶい	普通	内・外面磨り 底部新灰肌	C層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T1943	陶文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい	黄褐色	普通	縄文LR→沈線 内面磨き	A層
T1944	陶文土器	鉢	長石・石英・細礫	にぶい	黄褐色	普通	縄文LR→沈線 内面磨き	A層
T1945	陶文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい	赤褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層
T1946	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	区画内沈線充填 内面ナデ	A層
T1947	陶文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1948	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	地縄文→斜線文→区画沈線 内面ナデ	A層
T1949	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	普通	斜線文→区画沈線 内面磨き	A層	
T1950	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	頸部条線充填 体部磨り 内面磨き	A層	
T1951	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい	橙	普通	外面条線文 口唇部に筋み 内面磨き	A層
T1952	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい	橙	普通	条線文 内面ナデ	A層
T1953	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 瘤部に貫通孔	A層	
T1954	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	紐線貼付→沈線→縄文RL→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1955	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい	赤褐色	普通	口縁部沈線→縄文RL・筋み→無文部磨き 体部沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	A層 PL.12

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
T1956	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1957	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1958	陶文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1959	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 一部0段多条LR 内面磨き	A層	
T1960	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面粗い磨き	A層	
T1961	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1962	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1963	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1964	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1965	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面口縁部磨き 体部ナデ	A層	
T1966	陶文土器	深鉢	長石	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1967	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	沈線→縄文LR→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1968	陶文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	A層	
T1969	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1970	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ一部磨き	A層	
T1971	陶文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内、外面磨き	A層	
T1972	陶文土器	浅鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	外面磨り 内面ナデ	A層	
T1973	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1974	陶文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面ナデ 内面磨き	A層	
T1975	陶文土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1976	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	内、外面磨き	A層	
T1977	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	条線→区画沈線間詰め 内面ナデ	A層	
T1978	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	条線→区画沈線 内面ナデ	A層	
T1979	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	縁線磨貼付→条線→区画沈線間詰め 内面粗い磨き	A層	
T1980	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→縄文LR→区画沈線 内面ナデ	A層	
T1981	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	縁線磨貼付→縦区画沈線→縄文LR 光焼→無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1982	陶文土器	山口土器	長石	灰褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	A層	PL12
T1983	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面無筋縄文L 結節縄文あり 内面ナデ	A層	
T1984	陶文土器	山口土器	長石・石英	にぶい橙	普通	外面無文部磨き 内面ナデ	A層	
T1985	陶文土器	角底土器	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	沈線→細密沈線文光焼 内面ナデ	A層	
T1986	陶文土器	深鉢	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	外面磨き 内面粗い磨き	B層	
T1987	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内、外面磨き	B層	
T1988	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	外面縄文LR 内面口縁部に凹線 磨き	B層	
T1989	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	縄文LR→沈線 内面磨き	B層	
T1990	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	無筋縄文L→手載竹管による沈線文 内面磨き	B層	
T1991	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面縄文LR 内面粗い磨き	B層	
T1992	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→磨き 内面ナデ	B層	
T1993	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面0段多条の縄文LR 内面磨き	B層	
T1994	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	手載竹管による沈線文 内面磨き	B層	
T1995	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	手載竹管による沈線文 内面磨き	B層	
T1996	陶文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	地縄文LR→手載竹管による沈線文 内面ナデ	B層	
T1997	陶文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	縄文LR→手載竹管による沈線文 内面磨き	B層	
T1998	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	外面無筋縄文L 内面磨き	B層	
T1999	陶文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面磨縁のため不明 内面沈線間に細かい刻交文	B層	
T19900	陶文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	縄文LR→沈線→磨消 内面磨き	B層	
T19901	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	縄文LR→縁線磨貼付 内面磨き 口縁部に凹線 補修孔	B層	
T19902	陶文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	横位沈線間に列点文→付属文 内面磨き	B層	
T19903	陶文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	斜線文 口縁部下凹線 内面磨き	B層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP904	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	格子目文 口縁部磨き 内面磨き	B層	
TP905	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	縄文LR→口縁部磨き 内面磨き	B層	
TP906	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	ゆるい流状線 外面斜線文 内面磨き	B層	
TP907	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	縄文LR→斜線文 内面ナデ 口縁部に凹線	B層	
TP908	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	矢羽根状沈線文 内面磨き	B層	
TP909	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	磨貼付→横位沈線 内面磨き	B層	
TP910	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP911	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐	普通	沈線→沈線凹線→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP912	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→刷み・縄文LR 内面磨き	B層	
TP913	縄文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	口縁部磨き 体部磨り 内面磨き	B層	
TP914	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→刷み・縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP915	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	普通	口縁部磨き 体部縄文LR 内面磨き	B層	
TP916	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→磨貼付 内面ナデ	B層	
TP917	縄文土器	口土器	長石・石英	黄灰	普通	無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP918	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→刷み・縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP919	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部凹線→刷み・条線 内面磨き	B層	
TP920	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐	普通	外面磨り 内面磨き	B層	
TP921	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR・刷み→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP922	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP923	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP924	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP925	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP926	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	磨貼付→沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP927	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	磨貼付→沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP928	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文L 内面ナデ	B層	
TP929	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP930	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP931	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	明褐	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	B層	
TP932	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ	B層	PL12
TP933	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	磨貼付→沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP934	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	凹線→縄文LR 内面磨き	B層	
TP935	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	B層	
TP936	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP937	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口縁部凹線 体部磨り 内面ナデ	B層	
TP938	縄文土器	的土器	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい・橙	普通	把手部 内面ナデ	B層	
TP939	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部矢羽根状沈線文 内面磨き	B層	
TP940	縄文土器	的土器	長石・石英・雲母	にぶい・赤褐	普通	把手部 沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP941	縄文土器	的土器	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面縄文LR 内面ナデ	B層	
TP942	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP943	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP944	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR 内面ナデ	B層	
TP945	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→矢羽根状沈線→磨き 内面磨き	B層	
TP946	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	ナデ→斜線文 内面ナデ	B層	
TP947	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ	B層	
TP948	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄褐	普通	内・外面ナデ	B層	
TP949	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	沈線→矢羽根状沈線光焼→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP950	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面ナデ 内面磨き	B層	
TP951	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	B層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP962	縄文土器	浅鉢	石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP963	縄文土器	鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP964	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP965	縄文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP966	縄文土器	浅鉢	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	準縄直磨	B層	
TP967	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP968	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP969	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP970	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP971	縄文土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	沈線→縄文LR 内面ナデ	B層	
TP972	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	標準式文様施文 内・外面磨き	B層	
TP973	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	標準式文様施文 内・外面磨き	B層	
TP974	縄文土器	壺	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP975	縄文土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP976	縄文土器	出口土器	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	PL12
TP977	縄文土器	出口土器	長石・石英・雲母	浅黄	普通	沈線→縄文LR→磨貼付→無文部磨き 内面ナデ	B層	PL12
TP978	縄文土器	出口土器	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	B層	
TP979	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	普通	条線→縦位区画沈線内ナデ 内面ナデ	B層	
TP970	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	条線→区画沈線間詰め 内面ナデ	B層	
TP971	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい・橙	普通	条線→沈線→縄文LR 内面ナデ	B層	
TP972	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	隆平土に爪形文・縄文LR 内面ナデ	B層	
TP973	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部縦線貼付→条線→区画沈線間詰め→体部縦線貼付→体部条線 内面ナデ	B層	
TP974	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	縦線貼付→条線→縦位区画沈線内磨き 内面ナデ	B層	
TP975	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	縦線貼付→条線→区画沈線間詰め 内面ナデ	B層	
TP976	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→縦線貼付 内面ナデ	B層	
TP977	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	縦線貼付→条線→縦位区画沈線内ナデ 内面ナデ	B層	
TP978	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	B層	PL12
TP979	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縦線貼付→縦位区画沈線→縄文LR 充填 内面ナデ	B層	
TP980	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縦線貼付→区画沈線→縄文LR 内面ナデ	B層	
TP981	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部折り返し状 内面ナデ	B層	
TP982	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面条線 内面ナデ一部磨い磨き	B層	
TP983	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・赤褐	普通	内・外面磨り 製塩土器*	B層	PL12
TP984	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	B層	PL12
TP985	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	B層	
TP986	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面縄文LR 内面磨き	C層	
TP987	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	普通	沈線→縄文LR 内面磨き	C層	
TP988	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	縄文LR→縦線貼付 内面磨き	C層	
TP989	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい・褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	C層	
TP990	縄文土器	鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	外面無文部磨き 内面磨き	C層	
TP991	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→削入・条線 内面磨き	C層	
TP992	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・橙	普通	地縄文LR→手載竹管による沈線文・縦線貼付 内面磨き	C層	
TP993	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	沈線→削入→無文部磨き 内面ナデ	C層	
TP994	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部縦位沈線→条線 内面磨き	C層	
TP995	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	体部縄文LR 内面磨い磨き	C層	
TP996	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	ナデ→沈線文 内面磨き 口縁部に沈線文	C層	
TP997	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面一部磨き	C層	
TP998	縄文土器	出口土器	長石・石英・雲母	橙	普通	磨貼付→沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	C層	
TP999	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	縄文LR→沈線→無文部磨き 内面磨き	C層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP100	縄文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	C層	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	C層	
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	地縄文RL→半截竹管による沈線文・経線貼付 内面磨き	C層	
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	C層	PL12
TP104	縄文土器	鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	C層	
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	地縄文→経線貼付→条線 内面磨き	C層	
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	地縄文→条線→区画沈線内ナデ→経線貼付 内面ナデ	C層	
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	条線→区画沈線→縄文LR 内面ナデ	C層	
TP108	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→経線貼付 内面ナデ	C層	
TP109	縄文土器	深鉢	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	沈線→縄文LR充填 内面磨き	覆土中	
TP110	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL・刷み→無文部磨き 内面磨き	覆土中	
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土中	
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	覆土中	
TP116	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面粗い磨き	覆土中	
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土中	
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部浮線状 内面ナデ	覆土中	
TP119	縄文土器	深鉢	長石・石英	暗灰黄	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面口縁部磨き 各部滑り	覆土中	
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・細礫	橙	普通	内・外面摩減顯著 沈線→縄文RL	覆土中	
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄褐	普通	条線→機位沈線・刷み 内面ナデ	覆土中	
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→縦位区画沈線内磨き 内面ナデ	覆土中	
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	外面条線 内面ナデ	覆土中	
TP124	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	条線→体部沈線・磨き 内面ナデ	覆土中	
TP125	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐	普通	条線→沈線→縄文RL 内面ナデ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	土鍋	(92)	(7.1)	(4.5)	(174)	にぶい橙 長石・石英・雲母	ミニズク土鍋 中実 胴部直状	C層	PL13
DP71	土鍋	(48)	7.2	4.4	(98.5)	にぶい黄橙 長石・石英・細礫	胴部 中実	C層	PL14
DP72	土鍋	(37)	(3.0)	(2.5)	(22.0)	明赤褐 長石・石英・赤色粒子	胴部 縄文RL 施文	A層	
DP73	土鍋	(3.5)	(3.7)	2.8	(34.1)	にぶい橙 長石・石英・雲母	胴部	B層	
DP74	有孔内蓋	(37)	(5.3)	1.5	(16.0)	橙 長石	二次焼成により発泡化	B層	
DP75	土鍋	(33)	(5.7)	2.5	(44.5)	にぶい橙 長石・石英・雲母	ミニズク土鍋 胴部直状	B層	PL14
DP76	土鍋	(6.6)	(3.7)	(3.0)	(60.5)	にぶい橙 長石・石英・雲母	ミニズク土鍋脚部 縄文LR 施文	B層	
DP77	土鍋	(5.9)	(5.8)	(3.1)	(74.7)	にぶい橙 長石・石英・雲母	ミニズク土鍋 中空	B層	PL14
DP78	土鍋	(7.4)	(6.2)	(5.5)	(70.1)	にぶい橙 長石・石英	透光器土鍋胴部 中空 隆帯上に縄文LR 施文	B層	PL14
DP79	土鍋	(6.1)	(6.0)	(4.5)	(88.7)	橙 長石・石英・赤色粒子	胴部 中実 赤形	B層	PL13
DP80	土鍋	(7.3)	(6.0)	(3.7)	(97.5)	にぶい黄橙 長石・石英	山形土鍋胴部 刺突文 摩滅著しい	C層	
DP81	耳飾り	径(8.0)	-	2.2	(12.2)	にぶい橙 長石・石英・雲母	正面沈線間に刺突文充填 器面磨き整形	A層	
DP82	耳飾り	径(7.3)	-	2.1	(15.4)	にぶい橙 長石・石英・雲母	潤滑のため文様不明 器面ナデ整形	覆土中	
DP83	耳飾り	径2.9	-	1.7	17.2	にぶい橙 長石・石英	器面ナデ整形	C層	PL13
DP84	耳飾り	径1.8	-	2.1	5.1	橙 長石	器面ナデ整形	B層	PL13
DP85	耳飾り	径2.3	-	2.0	7.0	暗褐 長石・石英・雲母	器面磨き整形	B層	PL13
DP86	土版	(4.7)	(4.0)	2.3	(66.9)	にぶい黄橙 長石・石英・細礫	表・裏面ナデ調整	A層	PL13
DP87	土版	(5.3)	(4.3)	1.6	(36.0)	にぶい橙 長石・石英	表・裏面ナデ調整	B層	PL13
DP88	土版	(4.9)	(4.6)	1.7	(29.3)	にぶい橙 長石・石英・赤色粒子	表・裏面ナデ調整 壁垂孔あり	A層	

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特 徴	出土位置	備 考
DP89	土師	7.9	径 6.6	-	(7.9)	橙 長石	外面ナメ調整	甕土中	
DP90	土師	(3.8)	径 1.6	-	(7.3)	褐色 長石	外面指痕によるナメ整形	A層	
DP91	土師片 百敷	5.5	4.8	1.0	32.8	橙 長石・石莖・雲母	安行1式深鉢口縁部片利用 口縁部除き全周研磨	B層	
DP92	土師片 百敷	4.4	3.9	0.8	20.9	橙 長石・石莖・雲母	安行1式深鉢体部片利用 上下端研磨	C層	
DP93	土師片 百敷	4.1	4.3	0.7	15.6	にふい 長石・石莖・赤鉄屑子	安行3a式深鉢体部片利用 約1/2研磨	A層	
DP94	土師片 百敷	5.3	5.6	1.0	34.7	にふい 長石・石莖・雲母	板製深鉢口縁部片利用 全周研磨	C層	
DP95	土師片 百敷	(2.7)	6.2	0.9	(14.1)	橙 長石・石莖・雲母	安行3a式深鉢体部片利用 残存部の全周研磨	B層	
DP96	土師片 百敷	3.9	3.9	0.7	15.2	橙 長石・石莖・雲母	深鉢体部片利用 全周研磨	甕土中	
DP97	土師片 百敷	3.9	3.9	0.8	14.9	にふい 長石・石莖・赤鉄屑子	深鉢体部片利用 約1/2研磨	A層	
DP98	土師片 百敷	2.7	2.9	0.5	5.4	にふい 長石・石莖・赤鉄屑子	深鉢体部片利用 全周研磨	B層	

番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 61	石皿	(20.2)	13.3	5.6	(1215.0)	安山岩	表面1面使用 裏面に凹痕	A層	PL14
Q 62	石皿	(12.7)	(11.0)	4.2	(390.0)	安山岩	表・裏面に凹痕	A層	
Q 63	石皿	6.6	7.7	5.5	210.0	安山岩	表面に磨り面 表・裏面に凹痕	B層	
Q 64	石皿	(6.1)	(5.4)	3.9	(65.0)	安山岩	コーナー部あり	B層	
Q 65	磁石	7.7	(6.6)	4.0	(35.0)	砂岩	柄取面以外すべて砥面として利用 一面に擦痕 被熱	B層	
Q 66	磨石	13.2	8.5	6.7	1185.0	安山岩	表・裏面二面使用 上下端に敲打痕	A層	
Q 67	敲石	7.7	6.2	5.2	(33.0)	デイサイト	上下端2面使用	B層	
Q 68	磨石	8.3	(4.9)	3.6	(235.0)	花崗岩	下部磨り痕 右側面一部磨り痕 表・裏面に凹痕	B層	PL15
Q 69	磨石	4.6	2.6	2.4	49.7	デイサイト	上下端2面使用	A層	
Q 70	磨石	10.1	8.9	4.6	660.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面に敲打痕	A層	
Q 71	磨石	7.8	6.9	4.2	365.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面に敲打痕 被熱	A層	
Q 72	磨石	11.9	9.6	5.0	905.0	砂岩	表・裏面二面使用 表・裏面・上下端・一側面に敲打痕	C層	
Q 73	磨石	5.4	4.7	4.0	150.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面に敲打痕	A層	
Q 74	磨石	8.5	5.8	4.3	335.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面・側面に敲打痕	A層	PL14
Q 75	磨石	8.2	8.0	3.9	340.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面に敲打痕	C層	
Q 76	磨石	5.7	5.9	3.4	190.0	安山岩	表・裏・周縁部磨り痕 表・裏面に敲打痕 被熱	C層	
Q 77	打製石斧	(4.3)	(6.5)	2.6	(75.2)	デイサイト	側縁部に摩減痕	B層	
Q 78	打製石斧	(6.3)	7.5	2.1	(111.8)	デイサイト	側縁・下部部に摩減痕	甕土中	
Q 79	打製石斧	(6.3)	(7.1)	2.6	(157.4)	デイサイト	二次地成あり	B層	
Q 80	磨製石斧	(5.7)	4.3	1.4	(50.0)	玄武岩	側縁部・下部部に剥離痕 左側縁に磨り痕	甕土中	
Q 81	石鉢	5.9	5.0	1.0	(43.3)	安山岩	表・裏面に保付着	A層	PL15
Q 82	石鉢	4.7	4.3	0.5	(17.8)	安山岩	裏面研磨後研磨	A層	PL15
Q 83	磨製石斧	11.8	5.9	3.1	325.0	ハンレイ岩	定角式	B層	PL15
Q 84	磨製石斧	(6.5)	(4.1)	2.5	(105.0)	肥後岩 オンシラ岩	定角式 側縁部に敲打整形	B層	
Q 85	磨製石斧	(9.5)	6.7	3.2	(345.0)	閃緑岩-安山岩	定角式 先端部に使用痕*	A層	PL15
Q 86	磨製石斧	(3.4)	(3.5)	1.9	(41.5)	肥後岩 オンシラ岩	定角式	B層	
Q 87	磨製石斧	(6.1)	(4.7)	3.2	(121.7)	デイサイト	定角式	A層	
Q 88	磨製石斧	(7.0)	7.6	3.2	(280.0)	デイサイト	裏面に敲打痕	B層	
Q 89	石剣	(13.7)	3.6	2.0	(163.4)	泥質片岩	表・裏面研磨整形	B層	PL15
Q 90	石剣	(11.1)	3.1	2.1	(101.0)	千枚岩-粘板岩	表・裏面研磨整形	B層	PL15
Q 91	石棒	(10.1)	3.5	3.3	(150.0)	粘板岩	研磨整形 下部破断面に磨り痕 保付着	B層	PL15
Q 92	石剣	(9.3)	3.5	1.5	(95.0)	凝灰片岩	下部磨り痕 表面に凹痕	A層	
Q 93	石剣	(8.2)	3.7	1.9	(95.0)	雲母片岩	表・裏面研磨整形	A層	
Q 94	石棒	(11.2)	1.9	1.7	(58.0)	粘板岩	表・裏面研磨整形	B層	
Q 95	小玉	径 1.1	孔径 0.2	0.6	1.1	翡翠	一方向からの穿孔	A層	PL15
Q 96	石皿	4.8	2.4	1.1	10.5	チャート	未製品	甕土中	PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
Q 97	石皿	27	1.2	0.5	1.0	チャート	有蓋	覆土中	PL15
Q 98	石皿	31	2.2	1.1	6.5	チャート	未製品	A層	PL15
Q 99	石皿	(22)	1.1	0.5	(0.9)	チャート	有蓋 上下溝欠損	A層	PL15
Q 100	石皿	(15)	1.3	0.5	(0.7)	チャート	有蓋	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
B 2	ヘアピン	(54)	(1.7)	0.1 0.3	(2.0)	鹿角	表・裏面磨削	B層	PL15
B 3	刺突具	(84)	1.3	0.7	(5.7)	鹿角中足骨	表・裏面研削整形	B層	PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
S 19	貝輪	68	7.5	0.5	(25.0)	ベンケイガイ	未製品	A層	PL16
S 20	貝輪	(43)	(6.9)	0.3	(12.1)	サルゴウガイ属	摩風調査	A層	
S 21	貝刃	47	6.1	1.8	(13.9)	ハマグリ	左殻	A層	PL16
S 22	貝刃	40	5.0	1.3	(7.3)	ハマグリ	右殻	B層	PL16
S 23	貝刃	44	(5.1)	1.4	(9.5)	ハマグリ	左殻	B層	PL16

西部包含層（第81・82・104～110区）

位置 調査B区のF 3f6～f8区、F 3g6～g8区、F 3h6～h9区、標高24～26mの斜面部を中心に、G 3a6～a9区、標高23mの谷津付近まで分布している。

確認状況と重複関係 当包含層はB区南部の谷津に直交する谷頭の、東側斜面部に形成されている。第2号貝層と重複関係にあり、当包含層上に第2号貝層が堆積している。第5・8号住居跡、第128・129・134・136・160～165・170・171・175号土坑に掘り込まれている。第12号住居跡をはじめ、多数の土坑が当包含層の分布範囲に存在しているが、多くが包含層下で確認されたものである。F 3f7区にローム粒子と遺物が多量に分布する範囲が、F 3f8区に焼土層・灰層と遺物が多量に分布する範囲があり、これらをローム土・遺物集中地点及び第2号焼成遺構とした。

包含層の広がりと**堆積状況** 包含層は斜面の傾斜に沿って堆積しており、15層に分層できる。第1層は黒褐色土で、東部包含層のA層に対応する。第2～10層は褐色～暗褐色土で、東部包含層のB層に対応する。土層は遺物を多く含むもののおおむね均質であるが、ローム土・遺物集中地点の第11～13層はローム粒子を多量に含む層が包含層を掘り込むように堆積している。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子・炭化粒子極微量	A層対応	8	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量、貝極微量	B層対応
2	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応	9	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	B層対応
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	B層対応	10	褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	B層対応
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	B層対応	11	にがい褐色	ロームブロック中量、炭化物微量、焼土粒子極微量	B層対応
5	暗褐色	ロームブロック微量、炭化粒子極微量	B層対応	12	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子極微量	B層対応
6	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック微量、炭化粒子極微量	B層対応	13	暗褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	B層対応
7	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・貝微量	B層対応	14	にがい赤褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化物微量	B層対応
				15	にがい青褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	B層対応

遺物出土状況 当包含層からは、多量の人工遺物と自然遺物が出土している。縄文土器片の総数は23,098点で、総重量は470,116gである。土器以外の主な遺物は、土製品36点（土錘3、耳飾り4、土版5、土偶12、有孔円盤2、土器片円盤8、不明2）、石器78点（石鏃4、石錐1、打製石斧3、磨製石斧6、石皿7、磨石44、敲石3、石錘1、凹石2、砥石6、軽石1）、石製品3点（石剣・石棒）、石核19点（チャート18、黒曜

石1)、剥片83点(チャート55、黒曜石15、瑪瑙4、頁岩7、石英1、安山岩1)、焼成粘土塊5点のほか、混入した土師器片60点(坏・甕)、須恵器片5点(甕)、土師質土器片40点(小皿、内耳鍋)、陶器片4点(碗・皿・甕)が出土している。

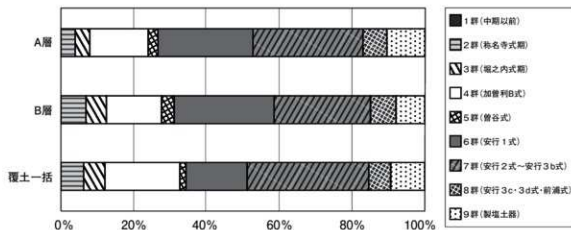
土器は称名寺Ⅱ式から一定量の土器が確認でき、中心となるのは後期後葉安行1式から晩期前葉安行3b式の段階である。各層の出土土器については表16の通りで、A・B層とも類似した組成になっている。8群の晩期中葉の土器が一定量見られる。208は東部包含層B層から出土した破片と接合した。平面分布は、包含層の範囲にまんべんなく分布しているようであり、特に顕著なまとまりは見られず、廃棄単位を捉えることはできない。垂直分布では特にB-3・4・8・9層が中心で、相対的に上位ほど新しく、下位ほど古い土器が多く確認できる傾向にあるものの、層の時期による差異は見られない。また、分布にレベル的に一定な広がりを確認することも困難で、B-3・4・8・9層中にまんべんなく混入している。226は製塩土器に類似する土器で、製塩土器はA・B層とも一定量の出土が見られる。

土器以外の人工遺物は、石器のうち磨石が多く出土している。剥片石器は少ないものの、チャートや黒曜石などの石核・剥片が多く出土している。分布に特に顕著なまとまりはなく、包含層全体に広くみられる。F3g8区でオオヤマネコが出土している。貝類はヤマトシジミが674.3kg、それ以外の貝が8.3kg出土しているが、これらは第2号貝層に帰属するものも含まれている。

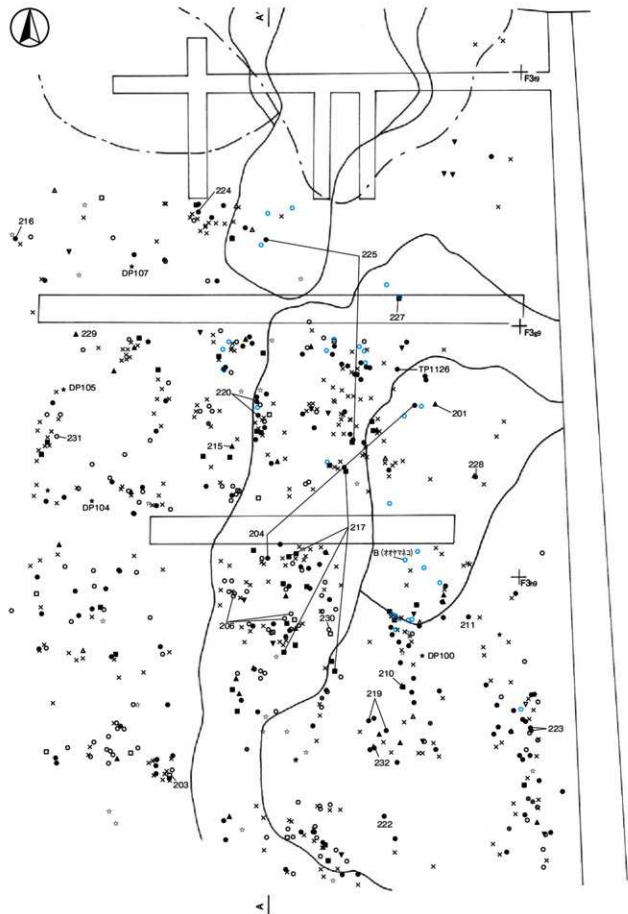
所見 西部包含層は、北側にやや入り込む谷津に面した斜面部に形成されたものである。遺物を多く含むものの、比較的均質な土が傾斜に沿うように堆積している。包含される土器も、東部包含層のものに比べて破片が小さく、摩滅したものが多。以上のことから、西部包含層は後期前葉から晩期前葉にかけて、基本的には自然堆積によって形成されたものである。ただし、以下で説明するローム土・遺物集中地点及び第2号焼成遺構については、層序が不整合であること、特に遺物が集中して分布することなどから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

表16 西部包含層出土土器群別組成表

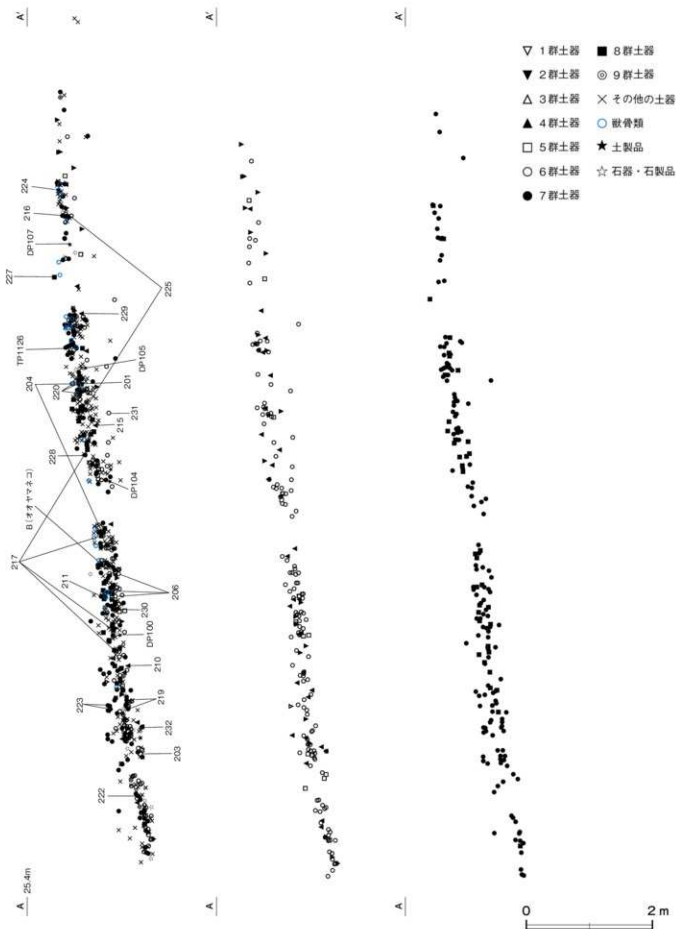
	1群 (中期以前)	2群 (称名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曾利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式～安行3b式)	8群 (安行3c・3d式・前浦式)	9群 (製塩土器)	10群 (その他)
A層	4	37	47	185	31	300	346	75	119	3935
B層	4	130	117	308	71	559	540	141	161	4121
覆土一括	6	97	102	354	31	290	574	103	163	4952
群別合計	14	264	266	847	133	1149	1460	319	443	13088

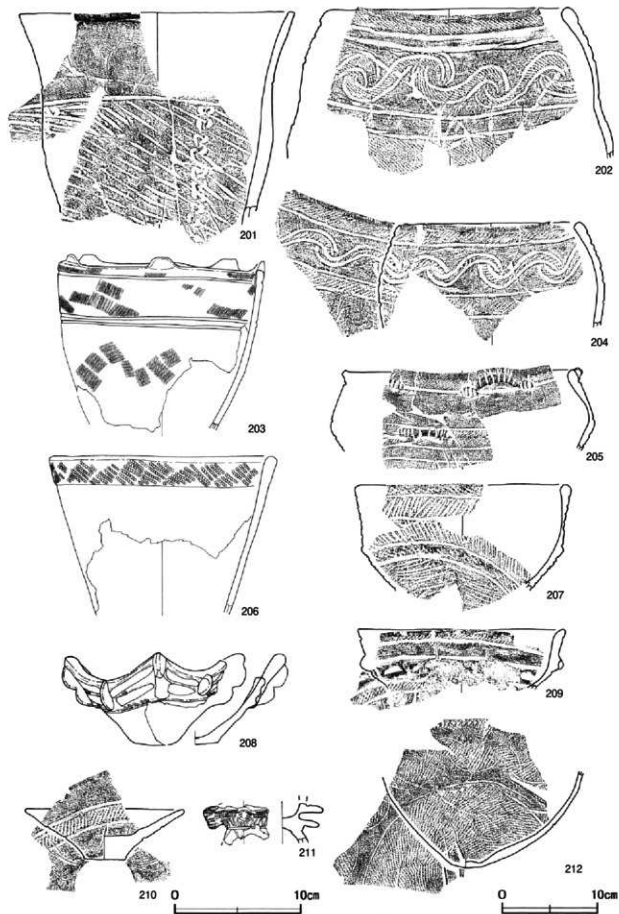


第104図 西部包含層出土土器群別組成グラフ

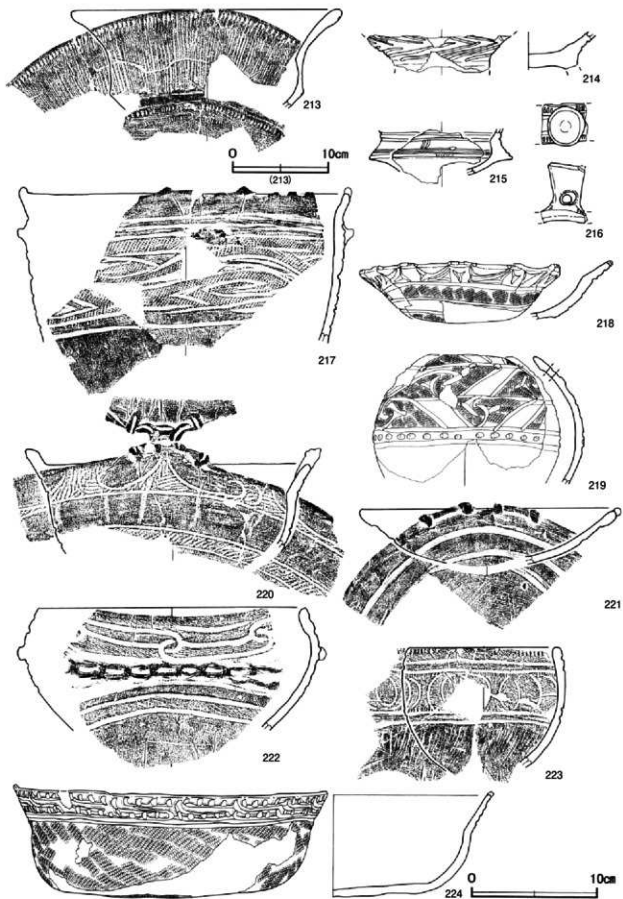


第105図 西部包含層遺物出土状況図

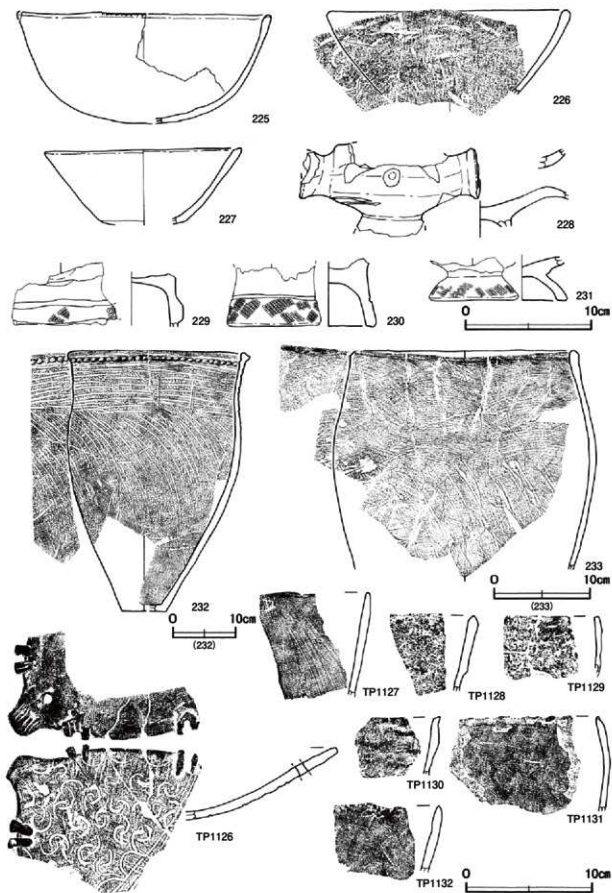




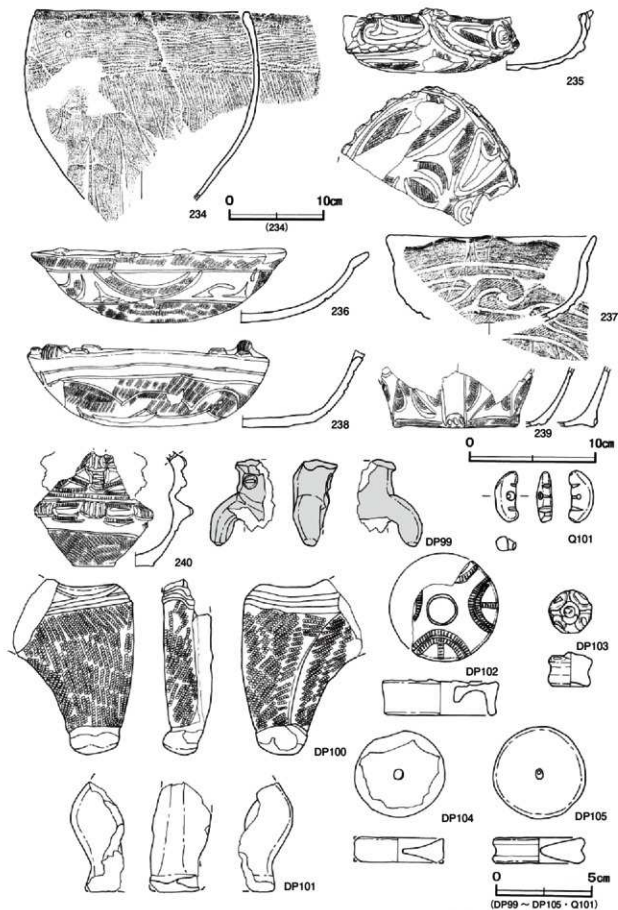
第106图 西部包含层·遗物集中地点·第2号烧成道髹出土物实测图(1)



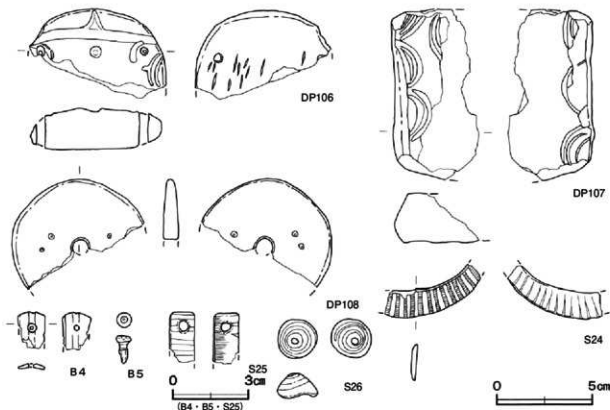
第107图 西部包含层·遗物集中地点·第2号烧成遗構出土遺物実測图(2)



第108图 西部包含層・遺物集中地点・第2号烧成遺構出土遺物実測図(3)



第109图 西部包含層・遺物集中地点・第2号烧成遺構出土遺物実測図(4)



第110図 西部包含層・遺物集中地点・第2号焼成遺構出土遺物実測図(5)

西部包含層・遺物集中地点・第2号焼成遺構出土遺物観察表(第106~110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
201	縄文土器	深鉢	[21.0]	[16.9]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	斜線文→好弧文 内面磨き	西部HG B層	10%
202	縄文土器	深鉢	[18.8]	[12.0]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 内面ナデ	西部HG B層	10%
203	縄文土器	深鉢	16.3	[14.0]	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	沈線→無筋縄文L 内面ナデ	西部HG B層	50% PL.8
204	縄文土器	深鉢	[14.2]	[8.4]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	20%
205	縄文土器	鉢	[23.5]	[8.6]	-	長石・石英	褐色	普通	沈線→縄文LR→輪胎付 内面ナデ	西部HG B層	10%
206	縄文土器	深鉢	17.2	[12.6]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口縁部に縄文RL 隆帯 体部磨り 内面磨き	西部HG B層	40% PL.8
207	縄文土器	深鉢	[16.4]	[8.4]	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	肩部矢羽根状沈線→隆帯輪沈線→縄文RL→体部条線 内面磨き	西部HG B層	10%
208	縄文土器	鉢	[14.4]	7.4	[3.5]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	凹線→隆帯L RL 体部磨り 内面ナデ 底部磨り	西部HG B層	30% PL.10
209	縄文土器	鉢	[16.4]	[4.7]	-	長石・石英・赤色粒子	褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	20%
210	縄文土器	鉢	[12.4]	4.0	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	ゆるい波状線 沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	30%
211	縄文土器	甕形台付土器	-	[3.1]	-	長石・石英	褐色	普通	内・外面ナデ	西部HG B層	30%
212	縄文土器	深鉢	-	[9.8]	3.0	長石・石英	褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ 底部磨り	西部HG B層	20%
213	縄文土器	台付鉢	[27.4]	[10.4]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	条線→沈線、筋み→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	30%
214	縄文土器	台付鉢	-	[2.9]	-	長石・細砂	黒褐色	普通	矢羽状沈線文 内面磨き	西部HG B層	10%
215	縄文土器	台付鉢	-	[4.5]	-	長石・石英	黒褐色	普通	内・外面磨き	西部HG B層	20%
216	縄文土器	筒手土器	-	[4.8]	-	長石	にぶい褐色	普通	把手部 ナデ調整	西部HG B層	10%
217	縄文土器	深鉢	[26.0]	[12.3]	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	沈線→縄文LR 内面ナデ	西部HG B層	10% PL.12
218	縄文土器	浅鉢	16.1	[4.4]	-	長石	黒	普通	口縁部に好弧三叉文 沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	60% PL.9
219	縄文土器	鉢	[6.0]	[10.0]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ→粗い磨き	西部HG B層	20% PL.8
220	縄文土器	鉢	[21.6]	[8.3]	-	長石・石英	黒褐色	普通	沈線→無筋縄文L→無文部磨き 内面磨き	西部HG B層	20% PL.9
221	縄文土器	浅鉢	[20.0]	[4.5]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	外面磨り 内面ナデ	西部HG B層	10%
222	縄文土器	鉢	[21.0]	[9.7]	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	沈線→縄文RL→無文部磨き 体部ナデ	西部HG B層	20%
223	縄文土器	深鉢	[12.0]	[9.5]	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	沈線→細筋沈線文充填 体部条線 内面磨き	西部HG B層	40% PL.8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
224	縄文土器	鉢	[25.1]	(84)	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部半面状文 体部縄文LR 内面磨き	西部HG B層	70% PL 9
225	縄文土器	鉢	[196]	(89)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ	西部HG B層	40%
226	縄文土器	浅鉢	[190]	(66)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ	西部HG B層	20%
227	縄文土器	浅鉢	[156]	(59)	-	長石・石英・赤色粒子	赤黒	普通	内・外面磨き	西部HG B層	40%
228	縄文土器	真形 台付土器	-	(74)	-	長石・石英	明赤黒	普通	外面磨き 内面ナデ	西部HG B層	20% PL10
229	縄文土器	台付土器	-	(50)	-	長石・針状鉱物	橙	普通	湖離調着 外面沈線→縄文LR	西部HG B層	20%
230	縄文土器	台付土器	-	(46)	7.6	長石・石英	黒	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	西部HG B層	30%
231	縄文土器	台付土器	-	(32)	7.2	石英・雲母	明黒	普通	外面縄文LR 内面ナデ	西部HG B層	30%
232	縄文土器	深鉢	27.3	41.1	[7.0]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	地縄文→赤線 内面磨き	西部HG B層	60% PL 7
233	縄文土器	深鉢	[228]	(228)	-	長石・石英・雲母	にぶい	普通	外面赤線 内面ナデ	西部HG B層	20%
234	縄文土器	深鉢	[220]	(197)	-	長石・石英	橙	普通	赤線→黒み 内面ナデ 補修孔あり	14層中・下段	40%
235	縄文土器	鉢	[140]	4.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	13層中位	60% PL10
236	縄文土器	浅鉢	20.0	5.9	-	長石・石英	灰	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	11層下位	60% PL 9
237	縄文土器	鉢	[162]	(67)	-	長石・石英	黒灰	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	13層上位	25%
238	縄文土器	浅鉢	19.0	6.8	4.2	長石・石英	にぶい	普通	前面段反照りし 赤彩	焼土層上面	PL 9
239	縄文土器	角底土器	-	(49)	9.5	長石・石英	にぶい	普通	沈線→縄文LR→無文部磨き 内面磨き	覆土中	20% PL10
240	縄文土器	真形 台付土器	-	(91)	3.0	長石・石英・雲母	にぶい	普通	赤線→黒み・沈線→縄文LR→無文部磨き 内面ナデ	焼土層上面	PL10

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴など	出土位置	備考
TP126	縄文土器	浅鉢	長石・石英	黒黒	普通	沈線による入組文 内面ナデ	西部HG B層	PL12
TP127	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	外面磨きの削り 内面磨き 製塩土器*	焼土層上面	
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	二次焼成により発色化	焼土層上面	
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	外面焼成による剥離 内面ナデ 製塩土器*	焼土層上面	
TP130	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	焼土層上面	
TP131	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	焼土層上面	
TP132	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面磨り 内面ナデ 製塩土器*	焼土層上面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調・胎土	特徴	出土位置	備考
DP99	土偶	(46)	(34)	(24)	(194)	灰黒 長石・石英	全面赤彩	焼土層上面	PL14
DP100	土偶	(93)	(64)	(27)	(1136)	面赤黒 長石・石英	ミニズク土偶脚部 縄文LR施文	西部HG B層	PL14
DP101	土偶	(58)	(29)	(32)	(368)	にぶい 黄橙 長石	中空 正面に通かし孔* ナデ整形	西部HG B層	
DP102	耳飾り	径[62]	-	1.8	(239)	にぶい 黄橙 長石・石英	柄みを有する隆帯で弧線文施文	西部HG B層	PL13
DP103	耳飾り	径2.3	-	1.8	9.5	にぶい 黄橙 長石・雲母	側面及び表面ナデ整形	西部HG B層	
DP104	耳飾り	径4.8	-	1.3	24.5	にぶい 黄橙 長石・石英	表・裏面磨き整形	西部HG B層	PL13
DP105	耳飾り	径4.9	-	1.4	37.0	にぶい 黄橙 長石・石英	表・裏面磨き整形	西部HG B層	PL13
DP106	土版	(47)	(72)	22	(61.2)	にぶい 黄橙 長石・雲母	人面* ナデ整形 2孔の貫通孔あり	西部HG B層	PL13
DP107	土版	(90)	(47)	26	(111.5)	にぶい 黄橙 長石・石英	弧線文施文 裏面中央部の欠損は意図的*	西部HG B層	PL13
DP108	有孔土版	径7.1	-	0.8	(27.1)	橙 長石・石英	中央部に貫通孔 未貫通孔3ヶ所 表裏面ナデ	西部HG B層	PL14

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 101	勾玉	2.7	1.2	0.8	4.5	翡翠	一方からの穿孔	13層中位	PL15

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
S 24	貝輪	(28)	(5.0)	0.3	(4.8)	サメボウガイ属	内・外面研削	西部HG B層	SM2 PL16
S 25	垂飾品	(20)	1.0	0.2	(0.8)	サメボウガイ属	貝輪片利用*	西部HG B層	SM2 PL16
S 36	装身具	2.1	2.1	1.2	3.96	イモガイ科	螺頭部 穿孔あり 表面研削	焼土層上面	PL16

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	素材	特徴	出土位置	備考
B 4	ヘアピン	(1.5)	1.1	0.2	(0.3)	鉄軟骨	一方からの穿孔	焼土層上面	PL15
B 5	粒状製品	径0.6	-	1.1	0.2	鹿角	研削整形	焼土層上面	PL15

ローム土・遺物集中地点（第81・82・108・109・111図）

位置 調査B区のF3e7・f7区、標高25mの台地斜面部に位置している。

確認状況 西部包含層中で確認された、ローム粒子と大形の破片を含む遺物が多量に含まれる土が堆積する範囲である。確認時点では、多量の遺物がまとまって出土すること、東側に壁の立ち上がりのような落ち込みを確認したことから、住居跡の可能性を考えて調査したが、床面や付帯施設、東壁以外の壁の立ち上がりが確認できなかったことから、ローム土及び遺物の集中地点として捉えた。

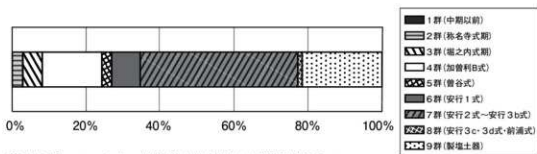
規模と形状 東西4.0m、南北4.0mの円形で、東側で第2号貝層を掘り込んでいる。層厚は50cmで、中層の第13層上面から第136号土坑に掘り込まれている。

遺物出土状況 縄文土器片3,172点（総重量73,770g）、土製品5点（耳飾り2、土偶2、土器片円盤1）、石器10点（磨製石斧1、石皿2、磨石1、敲石1、砥石5）、石製品2点（石棒、勾玉）、石核1点（チャート）、剥片8点（チャート5、黒曜石2、安山岩1）、焼成粘土塊1点が出土している。自然遺物では、ヤマトシジミが10.6kg、それ以外の貝が0.16kg出土している。遺物はローム粒子を多く含む層の堆積する範囲を中心に分布しており、垂直分布では第13層の中位に集中している。後期後葉から晩期前葉の遺物がまとまって出土する部分があり、復元できた土器は、特に晩期前葉の安行3a式が多い。

所見 覆土の特徴や遺物の含有量などから、晩期前葉安行3a式期に埋め戻されたものとみられる。ただし、遺物量が特に顕著な第13層の上面から第136号土坑が掘り込まれていることから、一時期に埋め戻されたものではなく、第11・12層と第13層の堆積にはある程度の時間差があったものと推測できる。第13層上面はほぼ平坦に埋め戻されていることから、台地端部に平坦面を作り出すために、意図的に整地した可能性もある。

表17 ローム土・遺物集中地点出土土器群別組成表

	1群 (中期以前)	2群 (地名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曾利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式～安行3b式)	8群 (安行3c・3d式・前溝式)	9群 (製塩土器)	10群 (その他)
出土点数	3	25	51	158	26	77	417	12	213	2,190



第111図 ローム土・遺物集中地点出土土器群別グラフ

(9) 焼成遺構

第2号焼成遺構（第109・110・112・113図）

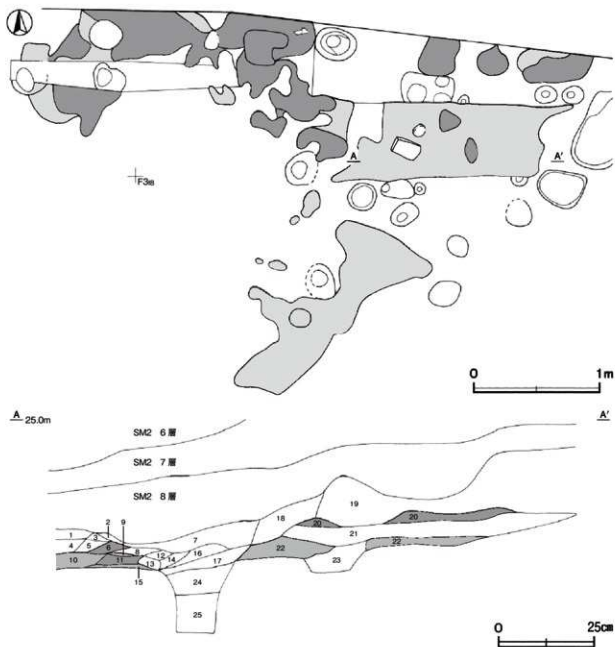
位置 調査B区のF3e7・8区～F38区、標高25mの台地斜面部に位置している。

確認状況 西部包含層中で確認された、焼土と灰層が不定形に広がり、大形の破片を含む遺物がまとまって出土する範囲である。確認時点では、多量の遺物がまとまって出土すること、焼土があることなどから、焼失住居跡の可能性を考えて調査したが、床面や付帯施設、炭化材等が確認できなかったことから、焼土及び遺物の

集中地点として捉えた。焼土範囲の上位に第2号貝層が堆積している。なお、調査は焼土層上面までであり、土層の堆積状況を確認するためにトレンチ調査で一部掘り下げた部分がある以外は、焼土層上面での確認である。

規模と形状 東西4.5m、南北3.3mの不整形形で、北側は調査区域外にのびている。焼土層の層厚は8～25cmである。焼土層、灰層は面的に広く分布するものではなく、幅60～100cmの帯状に間隔をあけて分布しており、灰層は焼土層の上位に堆積している。焼土層の周囲から、径20～40cmのピット状の覆土が確認されているが、平面のみでの確認のため、深さ等の詳細は不明である。

覆土 25層に分層できる。ブロック状の堆積状況を示し、各層に焼土粒子と灰が多量に含まれている。第9・10・15・22層に火床面のように硬化した部分がある。第6・11・20層は灰層で、第6層の灰層下には第9層の火床面が、第11層の灰層下には第15層の火床面がある。第24・25層は焼土層下で確認されたピットの覆



第112図 第2号焼成遺構実測図

土である。このピットを埋め戻して焼土層が形成されている。

土層解説

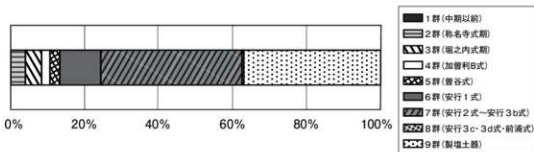
1	にひ赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・灰微量	15	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、灰微量、ローム粒子極微量	16	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化物微量
3	赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子・灰少量	17	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
4	明赤褐色	焼土粒子多量、灰少量	18	赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・炭化物少量、灰微量
5	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化微量	19	明赤褐色	焼土ブロック中量、灰少量、炭化物・ローム粒子微量
6	灰白色	灰多量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	明赤褐色	焼土粒子・灰中量、炭化粒子微量
7	赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子・灰少量、ローム粒子微量	21	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化微量
8	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化微量	22	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子少量	23	明赤褐色	焼土ブロック多量、炭化微量、ローム粒子極微量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、灰微量	24	褐色	ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
11	灰白色	灰多量、炭化物少量、焼土粒子微量	25	黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・灰微量、焼土粒子・貝極微量
12	明赤褐色	焼土ブロック中量、灰少量			
13	明赤褐色	焼土ブロック中量、炭化微量			
14	にひ赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子・灰微量			

遺物出土状況 縄文土器片4,044点(104,755g)、土製品7点(土鍾1、耳飾り1、土偶4、土器片円盤1)、石器6点(石錐1、打製石斧1、石皿1、磨石2、敲石1)、石製品1点(小玉)、石核1点(石英)、剥片8点(チャート5、黒曜石3)、骨角製品2点(ヘアピン、栓状製品)、貝製品13点(貝輪10、貝刃2、装身具1)が出土している。自然遺物では貝類はヤマトシジミが363.6kg、それ以外の貝が16.9kg出土している。遺物は第2号貝層下で焼土層上面に分布しているものを本跡に帰属するものとした。平面分布を見ると、F3e8区付近に遺物が集中している。土器は後期後葉から晩期前葉、なかでも晩期前葉の安行3a式期のものが多いようである。なかにはTP1128のように、二次焼成のため発泡化した土器片が見られた。またTP1127・TP1129～TP1132は製塩土器である。F3f8区で獣骨等の自然遺物がまとまって出土している部分がある。これらは第2号焼成遺構とはほぼ同レベルで連続的に堆積する西部包含層の第14層上面から出土したものである。本遺構出土の貝製品や骨角製品は、上面の第2号貝層から流れ込んだものが含まれている可能性がある。B4はヘアピンの頂部である。S26はイモガイ製装身具であり、表面の研磨が顕著である。

所見 焼土層中に灰が含まれること、火床面・灰層の面が3面以上あることから、この場所で3回以上の焼成行為が行われたものと推測できる。出土した土器や石器、自然遺物の中に、二次焼成の痕跡が見られるものがあることもこれを裏付けている。時期は、出土した土器によって後期後葉から晩期前葉と考えられる。遺物は多いものの、特に突出して多器種や、出土位置に特徴的なものがあるわけではないが、製塩土器が目立っている。今回の調査では特に特徴的な出土状態を確認できなかったが、上高津貝塚で確認されたような製塩活動に関わる焔の可能性も考えられる。

表18 第2号焼成遺構出土土器群別組成表

	1群 (中期以前)	2群 (称名寺式期)	3群 (堀之内式期)	4群 (加曽利B式)	5群 (曾谷式)	6群 (安行1式)	7群 (安行2式・ 安行3b式)	8群 (安行3c・3d 式・前涌式)	9群 (製塩土器)	10群 (その他)
出土点数	3	44	52	27	30	134	458	3	440	2,835



第113図 第2号焼成遺構出土土器群別組成グラフ

2 中世・近世の遺構と遺物

今回の調査で、中世の井戸跡1基と近世の粘土採掘坑1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 井戸跡

第2号井戸跡（第114図）

位置 調査B区のE40区、標高26mの台地上に位置している。

規模と形状 長径148m、短径138mの円形で、円筒状に掘り込まれている。確認面から深さ2mほど掘り込んだ時点で土砂崩落の危険があるため、以下の調査を断念した。

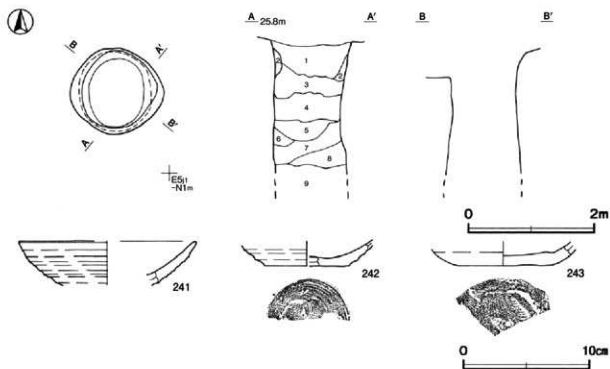
土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック微量 | 8 黒褐色 ロームブロック少量、白色粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量、細礫・白色粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量 | |

覆土 9層に分層できる。第5・7層にロームブロックが多く含まれていることから、第5層以下を埋め戻したあと、第1～4層が自然堆積したものと推測できる。

遺物出土状況 土師質土器片9点（小皿4、鍋類5）のほか、流れ込んだ縄文土器片579点が出土している。241～243は覆土中層から出土している。

所見 素掘りの構造である。時期は、出土土器から中世後半と考えられる。



第114図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸跡出土遺物観察表（第114図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
241	土師質土器	小皿	[140]	(3.5)	-	灰石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナテ	覆土中層	20%
242	土師質土器	小皿	-	(2.0)	[6.8]	灰石・雲母・細礫	浅黄橙	普通	ロクロナテ 底部回転糸切り	覆土中層	20%
243	土師質土器	小皿	-	(1.9)	[7.8]	灰石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中層	20%

(2) 粘土採掘坑

第1号粘土採掘坑 (第115図)

位置 調査D区のE5g3区、標高25mの台地上に位置している。

規模と形状 北部及び東部が調査区域外であるため、確認できた南北7.15m、東西3.60mの不整形である。多数のピット状に灰白色粘土層まで掘り込み、深さは20～64cmである。

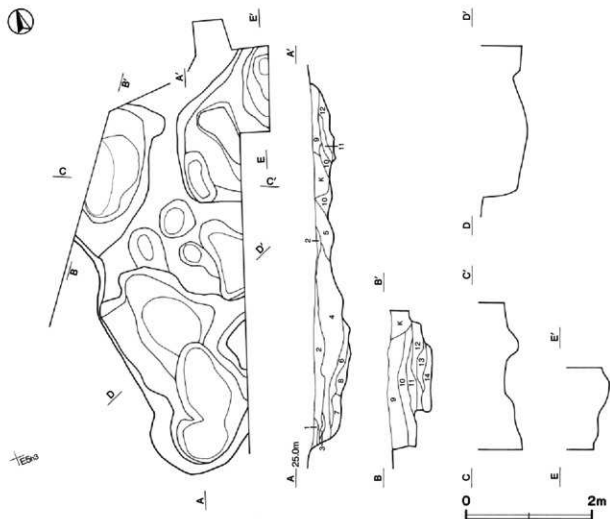
覆土 14層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれている暗褐色土が、不規則に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量
2 暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック中量、粘土粒子微量
3 褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量	10 暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック微量
4 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック微量
5 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	12 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
6 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	13 極暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
7 褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量	14 極暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片20点(小皿1、鍋類19)、陶器片3点(碗2、甕1)のほか、混入した縄文土器片82点、剥片2点(黒曜石、石英)が出土している。遺物は小破片のため図示できない。

所見 規模が大きく、形状が不整形であること、底面にピット状の凹凸があること、灰白色粘土層を掘り込んでいることなどから粘土採掘坑とした。時期は、出土土器から近世と考えられる。



第115図 第1号粘土採掘坑実測図

第4節 ま と め

今回の調査で、上境旭台貝塚は縄文時代後期初頭から集落が営まれ始め、後期後葉から晩期中葉に貝塚及び遺物包含層が形成されたことが確認できた。ここでは縄文時代の各遺構を概観し、若干の考察を加えることでまとめたい。

1 竪穴住居跡について

縄文時代の竪穴住居跡や土坑は、調査区南側の東西に開析された谷津に面する標高24～27mの舌状台地上及び斜面部に位置している。竪穴住居跡は後期初頭の称名寺Ⅱ式期から確認できるが、中心となるのは後期後葉の安行1式期からで、平成19年度の調査では台地上に安行1式期から2式期の住居跡が2軒と、今回の調査では北側に入り込む小支谷に面して3軒の住居跡が確認できた。当遺跡の後期後葉の住居跡は、掘り込みが確認できず不明瞭であるが、円形で、壁柱穴と主柱穴が5～6か所配置されるものが主体のようである。

晩期中葉前浦式期の第3・4号住居跡は、標高26mほどの台地平坦部に位置している。第3号住居跡は円形の掘り込みを有し、台地斜面側に張り出した出入り口ピットがある。壁柱穴と主柱穴が5か所からなる柱穴配置で、柱穴の重複などから、2回以上の建て替えが推測できる。炉跡は出入り口側にやや寄った位置に配置されている。重複する第4号住居跡と主軸方向をほぼ同じくしており、かつ柱穴の位置もほぼ同位置であること、出土遺物に大きな時間差がみられないことから、比較的短期間に、規模を縮小して建て替えが行われたものと推測できる。

縄文時代の住居跡は、時期と地域によって形態に細かな違いを見いだすことができ、これらの在り方が地域集団の特徴を示すものと考えられている。周辺地域の晩期中葉の住居跡を確認すると、坂東市拾二ゴゼ遺跡の安行3c～3d式の住居跡は、円形で壁際に径の細い壁柱穴と、壁のやや内側に6か所の主柱穴が配置されている⁴¹⁾。千葉県流山市三輪野山貝塚の晩期中葉の住居跡は、掘り込みがはっきりしないものの出入り口ピットを有し、主柱穴6か所が円形に配置されている²¹⁾。千葉県袖ヶ浦市上宮台遺跡の前浦式期の住居跡もこれに近い形状である³¹⁾。当遺跡の住居跡は、東関東地域に共通する形状のものといえることができそうである。ただし、当遺跡から5kmほど南に位置する土浦市上高津貝塚C地点1号住居跡は、安行3b式期で時期は遅いが、方形プランで、主柱穴が不明瞭である⁴¹⁾。方形プランを持つものは、埼玉県などの西関東地域に多くみられるものであるが、遺跡における住居構造の在り方は、地域的な特徴のみとは一概に言えないようである。

2 土坑について

今回の調査で、縄文時代の土坑が78基確認できた。土坑は後期後葉のものが多く、晩期中葉のものは、前浦式期の住居跡が確認できたD区の台地上に限られる。後期後葉の土坑は、住居跡と同様に北側に入り込む小支谷に面する標高24～25mの斜面部に多く分布し、南側にあった掘乱坑下の、標高23m以下で確認できたものもあった。

そのうち第110号土坑と第128号土坑は、径が15～2mで、深さが2m以上ある円筒形のもので、覆土中から復元可能な土器を含む、比較的多くの遺物が出土する特徴的なものである。時期は安行3a式期

である。これらと共通する土坑は、平成19年度の調査区でも6基ほど確認されており（第18・53・54・62・68・69号土坑）、いずれも後期後葉安行1式から晩期前葉安行3a式期のものである。

同様の土坑は、県内では埴町本田遺跡⁵⁾、つくばみらい市前田村遺跡⁶⁾などで、周辺地域では千葉県佐倉市井野長制遺跡⁷⁾や埼玉県さいたま市馬場小室山遺跡⁸⁾など、後期後葉から晩期前葉にかけての東関東地域に類例が確認できる。鈴木正博氏はこれらの土坑について、やや時間差を有する遺物が比較的高い完形率で含まれることなどから、「多世代土器群多埋設深掘大土坑」と称して概念化している⁹⁾。数世代におよぶ長期間にわたって土坑が意識され、土器を含む遺物が埋納されている土坑で、「収納施設埋設型」の「晩期安行式ムロ」としている。以上の例を見るならば、深さのある「円筒形土坑」は何らかの埋納施設の性格を有する、集団管理の共有物のような性格を推測することもできそうである。今回の調査では人為的な埋設の様子は確認できなかったことから、積極的に埋納土坑とは言いがたい。第110号土坑のイヌの埋葬例は、これらの土坑の性格を考える一助になるとと思われる。限られた調査区で集落全体を見通したわけではないが、当遺跡のこれらの土坑の分布を見てみると、5～10mの距離を有して、ほぼ同時期あるいは1～2型ほど古い時期の住居跡とセットになるように配置されているようにも見える。当地域を含む東関東地域に通常の遺構として、注意しておきたい。

3 斜面貝層と遺物包含層について

貝層と遺物包含層は、遺跡南側の東西に開析された谷津に面する、標高23～25mの台地斜面部に形成されている。本来ならば、廃棄単位を捉えようような細分を試みるべきであるが困難な部分が多く、層の特徴が異なる大きな単位を捉え、その有様を分析することで本遺跡の貝層と遺物包含層の特徴を見ることとした。貝層はB区中央から東側の第1号貝層と、西側の第2号貝層の2か所が確認されているが、両貝層とも黒褐色土が混入するⅠ層と、暗褐色土が混入するⅡ層の、大きく2層に分層でき、おおよそ対比可能で、またE区で現況確認できた貝層に連続するものと推測できる。

貝層Ⅱは、混入する土の色調などで、さらに4層に分層できる。貝層は相対的に下位の層ほど古い時期の土器が多く混入する傾向はあるが、後期後葉安行1式から晩期前葉安行3b式までの遺物を含んでおり、各層の詳細な形成時期を決定することは難しい。遺物の分布状況を見ると、時期毎のまとまりが捉えられる部分もあり、断続的に場所を変えながら廃棄している様子が推測できる。これらの廃棄状況は第1号貝層で顕著に見られた。

第2号貝層では第1号貝層で見られたようなブロック状の遺物分布は顕著ではなく、第1号貝層とは形成のプロセスに違いを見いだすことができるようである。貝層が厚く堆積している部分を見ると、貝層下に後期後葉安行1式期の第5号住居跡や安行2式期の第8号住居跡、晩期前葉安行3a式期の第2号焼成遺構などがあり、これらを埋めるように貝層が分布している。第2号貝層は、南側の谷津から北側に若干入り込む小支谷に面する台地の東斜面部に形成されたもので、この斜面部には後期後葉から晩期前葉の遺構が多く位置している。第2号貝層は住居などが廃絶されたあとの凹みに貝を廃棄したことから形成が始まった地点貝層であり、貝層の分布の薄いところは周囲からの流れ込みによるものと推測される。

遺物包含層は、調査の便宜上、東部包含層と西部包含層に分けたが、大きくは一連の過程で形成されたものと考えられる。堆積する土の色調などから、A～Cの大きく3層に分層できる。貝塚同様、相対的に下位の層ほど古い時期の土器が多く混入する傾向はあるが、後期後葉安行1式から晩期前葉安行3b式までの遺物を含んでおり、各層の詳細な形成時期を決定することは難しい。C層はA・B層に比較して遺物

の量が少なく、後期前葉から中葉の土器が多くみられる。基本的には自然の営為による堆積で、遺物は多少の廃棄はみられもの台地上の集落部分からの流れ込みによるものであろう。A・B層はいずれも多量の遺物を含んでいる。ローム粒子を多く含有するB層は特に顕著で、東部包含層ではB層が斜面に沿うように幅1mほどの帯状に堆積し、遺物がブロック状に分布する部分がある。これらは西部包含層で一部確認できた、ローム土・遺物集中地点と同様の性格のものと考えられる。

貝層と遺物包含層の関係は、堆積状況の確認から、遺物包含層と貝層が互層に堆積する部分があり、特に貝層Ⅱ層と、ローム粒子を多く含む遺物包含層のB層は連続的に堆積しているようにも見える。前述したように、B層は遺物の含有が多く、ブロック状にまとまる部分がある。遺物包含層と貝層は、主体になるものが異なるものの、一連の共通する廃棄行為の中で形成されたものと捉えることができる。鈴木正博氏は「貝塚の「斜面投棄作法」でも遺物が大量に出土するが、この「斜面投棄作法」が内陸部でも実施されると「斜面包含層（捨場遺構）」と呼ばれるのである。」と、斜面部に形成される遺物包含層について説明している¹⁰。当遺跡の遺物包含層についても「捨場遺構」の様相を示していると捉えることができよう。この層中に見られるローム粒子は、台地上の遺構掘削時の排土などを起源としていることが考えられ、遺構が増加する後期後葉以降に堆積層が形成されることと矛盾しない。

4 西部包含層下の第2号焼成遺構について

B区調査区北西端の西部包含層下から、東西45m、南北33mにわたって、焼土と灰の広がりが確認できた。調査の関係上、焼成遺構自体を掘り下げることはできなかったが、トレンチ調査で焼土の様子を確認したところ、厚さ8～25cmの焼土層が確認できた。また3層にわたり火床面のように赤変硬化した部分の確認でき、その上層には灰層を伴っていた。焼土層上面から出土した遺物は、安行3a式期が中心であるが、遺物の中に、高温の被熱で表面が赤変し発泡化したものが確認できる。以上のことから、これらの焼土は、他の地点で形成されたものが廃棄されたのではなく、当位置で何らかの焼成行為が行われた結果、形成されたものと推測される。

遺物の中には、表面が赤変している薄手の無文土器で、製塩土器と呼ばれる土器群が、本遺構出土の土器群中37%ほど見られた。当遺跡から桜川の5kmほど下流の土浦市上高津貝塚では、製塩土器と大形の灯跡が確認されており、何らかの製塩活動の可能性が指摘されている。また霞ヶ浦南岸の美浦村法堂遺跡、稲敷市前浦遺跡などでも、掘り込みを有し、製塩土器と灰、焼土が堆積している製塩遺構が確認されている。上高津貝塚や、製塩遺構と製塩土器が確認されている小山台貝塚は、内陸の台地上に立地する遺跡で、海水の採取は困難であることから、製塩工程の「煎熬」作業ではなく、「焼き塩」が持ち運ばれた塩を加工に用いていた製塩活動が考えられている¹¹。当遺構も焼土層、灰層、製塩土器の存在から、製塩活動に関わる遺構の可能性も視野に入れておきたい。今回は焼土層上面までの調査であり、詳細は今後の調査で明らかになることが期待される。

5 貝層・遺物包含層と各遺構との重複関係から読み取れること

ここでは貝層・遺物包含層と各遺構との関係について確認したい。多くの土坑は、貝層あるいは遺物包含層下で確認されたものであるが、第1号貝層を掘り込んでいる遺構として、第120～122号土坑（いずれも後期後葉）がある。東部包含層を掘り込んでいる遺構として、第110号土坑（後期後葉）、第126号土坑（後期～晩期）、西部包含層を掘り込んでいる遺構として第5号住居跡（後期後葉安行1式期）、第8

号住居跡（後期後葉安行2式期）、第128・129・134・136・160～165・175号土坑（後期後葉）、第170・171号土坑（縄文）がある。第162・164号土坑が包含層A層を掘り込んでいる以外は、すべてB層を掘り込んでいる。出土する土器の混在状況からも明らかではあるが、各層の堆積には時間差があることが読み取れる。

遺物包含層の成因と性格については多くの議論があり、盛土遺構や整地行為などの人為的・意図的な成因や、遺構の構築・廃棄の連続による累積に成因を求める意見などがある¹⁴⁾。縄文時代後期以降の遺跡や遺構の立地の特徴については、低地部分への進出が顕著になるという傾向が一般的に指摘されており、当遺跡でも特に北側に小さく入り込む小支谷の斜面部付近で遺構が多く確認できた。二次堆積のローム土を多く含む層の形成は小支谷の谷頭近くに位置しており、特にローム粒子を多く含む土がまとまって廃棄されていることから、遺構の低地進出に合わせて斜面を整地している可能性も推測できる。また、遺物包含層や貝層中に住居跡や土坑が確認できること、時間差を有する多くの遺物が混在していることが確認できることから、それらの施設の構築・廃棄・場の整地行為が繰り返された結果、多くの遺物を含有する包含層が形成された可能性も推測できる。層中でその状態を捉えることができなかつただけで、施設の構築なども含む多くの行為の累積によって包含層が形成されたと考えられるものである。斜面部の包含層や貝層内に遺構が多く作られることは、斜面部の堆積層が単なる廃棄ブロックの累積だけの意味とは捉えられず、居住活動の一環としての行為を復元していくという方向性が求められる。

6 上境旭台貝塚をとりまく自然環境と集落の様相について

前回及び今回の調査は、遺跡範囲の一部で、全体像を推し量るには不十分であることは否めない。特に台地上の集落については、縁辺部の一部の遺構を確認したにすぎないが、それでも当地域の自然環境や遺構・遺物の特徴などを考えるのに良好な資料が多くある。

縄文時代後・晩期になると、遺構の低地への進出が顕著になることが一般的に指摘されているが、当遺跡でもその傾向が認められた。また住居跡や特徴的な土坑の在り方からは、東関東地域に共通の特徴が認められた。関東地方の後・晩期の拠点的な集落となる遺跡では、遺物を多出する厚い遺物包含層が特徴的に見られるようになり、その形成過程と意味については、まだまだ議論の途上にある。当遺跡でも斜面部に遺物包含層が確認できたが、その堆積層の様子と貝層の関係などから、貝塚と同様の意味を有する「斜面包含層（捨場遺構）」との性格付けを行った。しかし、遺物包含層中の遺構の存在や、ローム粒子を多量に含有する暗褐色土層のあり方は、いわゆる「盛土遺構」の特徴とも共通するもので、廃棄以外の、居住活動などの人為的な行為の累積の結果との想定も可能である。第1号貝層と東部包含層の合わせて2か所で埋葬人骨が確認されたことも、単なる「捨場」ではなく、居住領域の一部であったことがうかがえる。

出土した土器は、前回までの調査報告で確認できた特徴と大きな違いは認められない。後期以降に顕著となるいわゆる粗製土器の特徴は、口縁部及び胴部に紐線文を貼付する「紐線文系」深鉢が主体で、「付点紐線文系」は非常に少ない。晩期前葉には紐線文が消失する砲弾型の「条線文系」に変化する。従来、安行3b式併行の姥山式系土器群に伴うものとの指摘がなされているが、当遺跡においては安行3a式段階から見られるようである。晩期中葉の土器群は多くないが、安行3c・3d式に比定される土器群よりも、前浦式直前段階、あるいは前浦式に比定できるものが主体で、この点からも東関東地域の様相がうかがえる。

後期後葉以降の東北系土器群などの異系統土器群は少なく、全体の10%に満たない。特筆されるのは、

関西系の「標準式文様」が施文された鉢が3点出土している点である。関東地方における確認数は調査の増加に伴い増加しているものの、一般的に出土するものではなく、地域の拠点的な集落遺跡から出土する傾向がある。これらの土器群については時期比定の確定を見ていない部分があるが、当遺跡では後期後葉から晩期前葉を中心とする貝層中からの出土であり、詳細な時期については不明とせざるをえなかった。また、晩期前葉において、文様の施文手法に北陸地方的な特徴が見られるものがある。ただし東北系土器群を含め直接的な搬入品とはいえ、人的・物的な影響関係によって成立したものと考えられる。

土器以外の遺物は、土器に比して多いとは言いがたい。特に石器については磨石・石皿などの粉砕具についても決して多いほうではなく、千葉県など東関東地域と同様の様相を呈していると思われる。また地点による差も考えられようが、土製品・石製品などの、いわゆる祭祀具とされる遺物も少量であった。貝製品ではイモガイ製装身具が3点確認できたことが特筆される。

貝層から出土した貝類・獣骨類については付帯で詳しく述べるが、出土した貝類を見ると、第1優占種は汽水域産のヤマトシジミで95%以上を占めている。続いて干潟～内湾性のハマグリ、シオフキガイが続く。淡水産のオオタニシやカワナナなどが若干含まれている。これらの貝層からみると、当時の古霞ヶ浦湾土浦入りは海水を湛えた内湾で、干潟が形成され、そこに流入していた桜川の河口とともに貝の採取地となっていた様子が捉えられる。当集落の縄文人は、10kmほど離れた古霞ヶ浦湾まで貝を求めて採取に行ったのであろう。また前述したように、当遺跡の貝層及び遺物包含層からは3,000点以上の製塩土器が出土しており、型式比定の可能な土器群全体の14%を占めている。積極的な根拠は乏しいが、製塩活動を思わせるような焼成遺構の存在からは、当遺跡を含めた古霞ヶ浦湾沿岸地域が大製塩地帯であり、当遺跡の調査成果から、製塩活動と消費・流通システムの様相をうかがい知ることができたと思われる。

註

- 1) 宮原俊一ほか「拾二ゴゼ遺跡の調査」「岩井市の遺跡Ⅱ」岩井市史編さん委員会 1996年12月
- 2) 小栗信一郎ほか「流山市三輪野山貝塚発掘調査概要報告書」流山市教育委員会 2008年3月
- 3) 安井健一「袖ヶ浦市上宮田遺跡2（旧石器・縄文時代）」『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書』（財）千葉県教育振興財団文化財センター 2010年3月
- 4) 石川功ほか「国指定史跡 上高津貝塚C地点-史跡整備事業に伴う発掘調査報告書-」土浦市教育委員会 2006年3月
- 5) 江原美奈子「本田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第313集 2009年3月
- 6) 横堀孝徳「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 前田村遺跡C・D・E区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第116集 1997年3月
- 7) 横堀孝徳「前田村遺跡C・D・E区」『第19回研究発表資料』茨城県考古学協会 1997年6月
- 8) 小倉和重ほか「井野長瀬遺跡（第8次）」佐倉市教育委員会（財）印旛郡市文化財センター 2004年3月
- 9) 青木義博ほか「馬場（小室山）遺跡」『浦和市東部遺跡群発掘調査報告書』第3集 浦和市教育委員会・浦和市遺跡調査会 1983年3月
- 10) 鈴木正博「第3節「環状土塚」と馬場小室山遺蹟。そして「見沼文化」への眼差し」『環状盛土遺構 研究の現段階』『馬場小室山遺蹟に学ぶ市民フォーラム』実行委員会 2007年
- 11) 鈴木正博「馬場小室山遺蹟における「環状土塚」の構成と形成プロセス-「環状土塚」の「外部構造」と「5号土塚」の内部構造。そして「斜面掘削」の意義-」『優良岐考古』第27号 優良岐考古同人会 2005年5月
- 12) 川島高宗「縄文時代土器製塩における労働形態」『筑波大学先史学・考古学研究』第21号 筑波大学考古学フォーラム 2010年3月
- 13) 阿部芳郎「縄文時代における地域社会と遺跡形成に関する構造的な研究」明治大学史学地理学科考古学研究室 2007年3月
- 14) 江原 英「集落の分析法⑤環状盛土遺構」『縄文時代の考古学8 生活空間』同成社 2009年3月

付 章

上境旭台貝塚の動物遺体

西本 豊弘

上境旭台貝塚の2009年度の発掘調査で出土した動物遺体は、貝殻を除いて遺物収納コンテナ(60×40×20 cm)に14箱分である。破片数は30,000点を超えたが、その大部分は長さ2cm以下の小骨片であった。シカやイノシシで頭部の骨が形態を留めているものはなく、四肢骨も小さく割れてローリングを受けているものが多いことから、貝殻を含めてすべての動物遺体は当初に堆積した場所から動かされて二時的に堆積したものと判断した。おそらく堆積していた谷の部分ではなく、その上の平坦面の住居跡などに堆積していたものが開墾によって削られて運ばれたものであろう。

これらの動物骨は、調査時の現地採集資料である。分類の結果、部位を同定しえたのは、四肢骨片約3,000点、単独の歯約900点であり、その大部分はイノシシとシカであった。小型の動物は少なく魚類や鳥類も少なかった。これまでに確認された動物種は、貝類はヤマトシジミ・ハマグリなど27種がみられた。魚類はクロダイ・スズキを主体に5種であり、鳥類はカモ類・キジ類など4種以上である。哺乳類ではイノシシとシカを中心に12種が認められた。この中でオオヤマメコは極めて珍しい種である。

これらの資料の分類に際して、西本研究室の太田敦子・金ホソク・上奈穂美をはじめ歴博外来研究員の上海博物館の陳傑氏の協力を得たことに感謝いたします。

1 貝類

貝類の分類と出土量、および大きさの記載は、西本の指導のもと、茨城県教育財団埋蔵文化財部の江原美奈子が行った。貝層が動かされている部分は破砕された貝殻が多いが、住居跡など遺構が残されている部分では、ハマグリなどは比較的よく保存されていた。貝の分類はいくつかの地点を選んでサンプルを採集した。サンプルは層ごと、あるいは遺構覆土の一括資料で、5ミリメッシュのふるいで水洗洗浄を行い、乾燥後、種ごとに数量を数えた。第1号貝層のサンプルは、5mm・3mm・1mmメッシュのふるいを使用して洗浄している。そしてヤマトシジミとハマグリのみ大きさを区分して記載した。なおヤマトシジミは殻を左右に分けずに、左右を合計した数量を示した。それらの分類の結果は表1・2に示したとおりである。

貝類は20科27種を確認した。このうちマイマイ類と陸生微小貝類のキセルガイ科については、種別判断を行わず、一括でカウントしている。貝類はヤマトシジミが主体であり、その次にハマグリが多い。その他にシオブキガイ・オキシジミ・サルボウ・インガイ・ムラサキガイ・アサリ・ウバガイ・オオノガイ・イタヤガイ・アカニシ・オオタニシ・ウミノナ類・ムシロガイ類・カノコガイ類などがみられた。ヤマトシジミは殻長20～30mm程度の良く成育した個体が多い。小さな個体から大きなものまで見られるので、この集落から河口域まで出かけてヤマトシジミを捕獲していたのであろう。よく成育したヤマトシジミが多いことからヤマトシジミの資源量は安定していたと推測される。ハマグリは中型のものが多く、海岸部でのハマグリ採取も時折行われていたのであろう。

2 魚類

魚骨は少ない。確認された魚骨のほとんどが第1号貝層のサンプルであることから、資料の少なさは資料回

取時のエラーによるところが大きいと思われる。採集されている部位がクロダイとスズキの頭部の骨に偏っていることと、貝屑の多くが動かされている可能性が高いことから、出土量は記載していない。クロダイは体長30～40cm程度のよく成育した個体が多い。それに対してスズキは大小の個体が含まれていた。この2種の他にボラ類の椎骨1点とエイの椎骨1点および大きなコイの咽頭歯の歯が3点見られただけである。おそらくこの3種は多く捕獲されていたと思われるが、大部分は消滅したのかもしれない。

3 鳥類

鳥類の出土量は30片余りと少ない。ガンカモ類が最も多く、大型のガンであるヒシクイとマガモなどのカモ類の大型とオシドリ程度の中型のカモ類とミコアイサ程度の中小型のカモが含まれていた。その他にキジ類とウミウがみられただけである。

4 哺乳類

哺乳類の骨は大量に出土したが、その大部分はイノシシとシカであった。分類の結果、他にニホンザル・タヌキ・ノウサギ・テン・カワウソ・モグラ・イヌ・ウマ・ヒトが含まれていた。

(1) イノシシ

イノシシは哺乳類の中で最も多く出土した。しかし、包含層が攪乱を受けていたため本来の形態を留める頭蓋骨は1例もなく、四肢骨も小さく割れているものが大部分であった。骨の表面が摩耗して白色を呈するものもあった。しかし表に示したように、破損した上顎骨や下顎骨は多量に出土し、顎骨から遊離して単独で出土した歯も多い。そこで、遊離歯も別にして表に示した。イノシシの内容を説明するために年齢を区分して個体数で示した。幼獣とは満1歳未満の個体、若獣とは1歳から3歳未満の個体、成獣は3歳以上で老齢個体まで含んでいる。これらの年齢区分は西本の現生標本による区分であり、今回は遊離歯が多いことから、歯1個であっても萌出状態や摩耗の程度などを用いて大雑把に年齢を区分した。たとえば第3後臼歯では第2咬頭が摩耗を始めた個体以降を成獣とした。そして第2後臼歯を主体にして若獣と成獣の出土量を推定した。その上で、遊離歯と顎骨の数量から年齢別の個体数を推定することとした。その結果、幼獣19個体・若獣43個体・成獣40個体の総計102個体となった。この出土量は、この地域の貝塚遺跡ではまれにみる多さであり、この遺跡での狩猟活動が活発であったことを示している。

この遺跡のイノシシの形態的特徴はよく分からない。上下顎骨や歯を見ると、大きくよく成長したものが多。後臼歯の形態も後部幅が前部幅と同程度かそれよりも大きいものが多く、成育異常が見られるものはほとんど見られなかった。イノシシの成育環境は良かったと思われる。なお、関東地方の縄文後期から晩期にかけて、シカよりもイノシシが多くなるのは茨城県から千葉県にかけての地域的特徴かもしれない。

(2) シカ

シカの出土量はイノシシに比べて少ない。イノシシと同様に骨格の保存状況は悪く遊離歯が多いので、遊離歯を含めて個体数を推定した。年齢区分の基準はイノシシと同じである。その結果、幼獣8個体・若獣10個体・成獣25個体の総計43個体となった。幼獣が少ないのは、成獣に比べて幼獣の骨が残りやすいことが影響しているかも知れない。なお、シカの形質については、骨の保存状態が悪いのでよく分からない。

(3) オオヤマネコ

オオヤマネコの大腿骨と脛骨と距骨が認められた。いずれも成獣の右側の骨であり、同一地点で出土していることから同一個体と思われる。大腿骨は近位部と遠位部が欠損しており骨幹部のみである。現存長は178.3mm、中間部の幅16.6mm、前後径15.7mmである。脛骨は近位部が欠損しており、現存長214.8mm、中間部の幅15.6mm、前後径16.0mm、遠位部の幅28.5mm、前後径19.0mmである。距骨は最大長35.2mm、最大幅20.3mmである。これらの四肢骨の大きさをみると、ツキノワグマや大陸オオカミの大きさに匹敵している。

オオヤマネコは、日本では氷河期の動物として知られており縄文時代晩期まで日本列島に生息していた。長谷川善和先生等の最近の研究によると、縄文時代の遺跡ではこれまで17遺跡で出土している。最近、筆者等は千葉県印西市馬場遺跡でオオヤマネコの幼獣をみつけており、旭台遺跡で19例目となる。しかもこれまでは大歯や顎骨が多く大腿骨・脛骨・距骨は知られていない。その点でも今回発見された資料は大変貴重なものである。

(4) 小型獣

小型獣の出土量は少なく、ノウサギ・タヌキ・テン・カワウソウ・ニホンザル・モグラなどがごく少量見られただけである。おそらくこれらの小型獣はあまり捕獲されていなかったのであろう。モグラは自然死したものと思われる。

(5) イヌ

イヌの骨も少量出土している。第110号土坑では、同一個体の頭蓋骨や下顎骨・左右の寛骨、左右の大腿骨がまともに出土している。おそらく埋葬されていたものであろう。下顎骨をみると、歯はほぼ萌出しているが骨体の育成途中であり、生後6か月程度の亜成獣であろう。体高40cm余りの小型犬である。これらの他に幼獣の大腿骨や成獣の大歯が採集されている。

(6) ウマ

ウマの下顎歯が1点採集されている。保存状態から見て新しいもので近世から現代のウマの歯であろう。

(7) ヒト

貝層の中から動物骨に混じって人骨も出土した。左右の下肢骨のみがまともな採集されている例もあり、埋葬されていたのであろう。その他に散乱状態で人骨がかなり採集されていた。数体分以上が含まれていると思われるが、破損が著しいため性別をはじめ個体識別は困難である。

5 まとめ

上境旭台貝塚の2009年度で出土した動物遺体の概要を述べた。骨格の保存状態が悪く小さな破片が多かったがイノシシとシカが多いことが明らかとなった。またオオヤマネコの四肢骨などが3点見つかったことは大きな成果である。このオオヤマネコの存在からみても、この遺跡では狩猟活動が活発に行われていたことが推測される。縄文後期から晩期の関東地方の狩猟活動の一端を物語る資料と言える。

表1 主な遺構及び貝層出土の貝類同定資料個数

(個)

サンプル地点 ヤマトシジミ	ハマグリ		シオフキガイ		オキシシ		サトルウ風	インゴイナ	ムラサキイナ	その他の二枚貝類	アカニシ	ウミニホリ	ムシロガイ	カノコガイ	オオタニシ	その他の腹足類	
	R	L	R	L	R	L											
PG4	(6.02kg)	13	11	2	0	0	3	1		不明1						陸殻微小貝類2	
SK110	(1.27kg)	61	23	8	2	0	1	1	2	1						1	
SK121	129	14	16	4	1					1	不明3					陸殻微小貝類1	
SE5	(9.69kg)	164	165	30	24	11	18	17	9	不明3		7	3		1	4	陸殻微小貝類2
第2号地成遺構	(3749kg)	1465	1568	87	86	20	51	55	10	※1		17	106	20	29	1	※2
SM1 1層	4692		4				1										
SM1 ①-12層	1514	3	2	1	0												
SM1 ②-13層	646	1	1								1						
SM1 ③-15層	410	18	25	3	1	1	0	2			1						
SM1 ④-16層	4	9	21	0	1			1			1						
SM2 1層 (F38-a2)	(16.6kg)	17	13					1	2				3	1			
SM2 1層 (F38-c1)	(25.6kg)	43	42	0	2			2			1	1					
SM2 1層 (F38-d2)	(12.5kg)	59	64													1	
SM2 1層 (F38-e1)	(7.9kg)	0	2										1				
SM2 2層 (F38-f2)	(1.6kg)	3	3	1				1					1				
SM2 3層 (F3-g 8-c3)	(38.9kg)	12	16					1	1	1			1	1			マイマイ類1

※1 その他の二枚貝類 イタヤガイ2、ウバガイ9、アサリ1、オオノガイ2、不明5

※2 その他の腹足類 イゴニシ1、ダンバキヤゴ3、イモガイ1、カワニナ4、マイマイ類12、陸殻微小貝類56

※3 第2号地成遺構出土腹足類 ツノガイ5

※4 ヤマトシジミの数は、サンプルエラーの可能性がある。

※ 第1号貝層のサンプルはF64地点に設定し、コラムサンプルと同様に、層毎に30×30cmの柱状に切り取り水洗洗浄した。それ以外は遺物として取りあげたものである。

※ PG4=第4号ビツコ群、SK=土坑、S1=整次性層群、SM1=第1号貝層、SM2=第2号貝層

※ ヤマトシジミに関しては、SM1の上記サンプル以外、重量のみをカウントしたため、個体数は計測していない。

※ 第2号地成遺構は、上部に第2号貝層が堆積していたものであり、覆土中より出土した本資料は第2号貝層に属するものと考えられる。

表2 遺構及び層別別ハマグリ・ヤマトシジミ殻長分布

(mm)

遺構	種類	数長 (R)	数長 (L)												備考		
			10以下	10-15	15-20	20-25	25-30	30-35	35-40	40-45	45-50	50-55	55-60	60以上			
第1号貝層1層 (①)	ヤマトシジミ	4692			60	1710	1880	917	115	13							
	ハマグリ	30	22									7	11	4	5	2	破砕度5%
第1号貝層12層 (②-③)	ヤマトシジミ	1514	2	68	393	679	320	49	3								
	ハマグリ	142	147				3	8	24	50	53	43	36	31	14		破砕度3%
第1号貝層13層 (④-⑤)	ヤマトシジミ	646		25	205	281	112	23									
	ハマグリ	32	45				2	9	6	4	5						破砕度2%
第1号貝層15層 (⑥-⑦)	ヤマトシジミ	410		2	165	159	70	11	3								
	ハマグリ	262	234				5	25	48	71	33	18	2	3			破砕度5%
第2号貝層1層 (F38-a2)	ハマグリ	33	54					2	11	19	47	27	6	5			破砕度25%
	ハマグリ	32	26					2	5	7	16	11	8	4	2		破砕度9%
第2号貝層1層 (F38-c1)	ハマグリ	12	16					1	2	5	2	1	1	2			破砕度30%
	ハマグリ	12	16					1	2	5	2	1	1	2			破砕度30%
第2号貝層3層	ヤマトシジミ			7	43	67	55	24	4								500gを任意抽出して計測 破砕度17%
	ハマグリ	1465	1568			1	41	296	709	796	523	390	80	29	10		任意抽出して計測
第2号地成遺構	ヤマトシジミ	279	2	4	11	55	46	65	64	14							

※ 計測は殻長を5mm単位で計測した。

※ 第1号貝層 (SM1) のサンプルは、F64地点に設定し、コラムサンプルと同様に、層毎に30×30cmの柱状に切り取り、水洗洗浄した。

※ 第2号地成遺構は、上部に第2号貝層が堆積していたものであり、覆土中より出土した本資料は第2号貝層に属するものと考えられる。

※ 破砕度は殻長の1/3以下のもの割合である。

表3 上境旭台貝塚のシカ・イノシシ

部位	残存	シカ			イノシシ			シカ/ イノシシ	鹿骸骨片						
		成	若	幼	成	若	幼								
頭蓋骨	L	岩様骨			7			3							
					8			1	7						
	R				9			8							
					11			12							
	L	側頭骨			2	2		4							
					1	2	2	2	5						
	R	下顎関節窩						1							
								1							
	L	頬骨			2	1		7							
					1	2		4							
	L	前頭骨(落角)	♂4												
			♂2												
R	枕頭顆	3		7	1	1	7								
		3		1	3		4								
L	鹿骸骨片			24	2	8	4	46							
L	角+頭骨	♂1		♂5											
		♂1		♂7											
R	落角座	♂2		♂3											
		♂13		♂29											
L	上顎骨	3	1	1	2M(♂1)	19	3	14							
		2		1	25(♂2)	22	3	16(♂1)							
R	切歯骨			5	♂1										
				4				3							
L	下顎骨			8	5	2	24(♂2)	29	5	1(♀1)					
				14	2	2	36(♂5)	2)	23	3	16(♂1)				
LR	下顎連合部			2			♂1	2							
									11						
鹿蹄面	破片			94				303							
				19				79							
肩甲骨	L	肩部			12		4	25	2	1	4				
					12		2	16	2		3				
L	上腕骨	L	遠位部			3		13	6		3				
						15		2	1	1					
R	近位部			25	2	1	15	1		1					
L	腕骨	L	完存					1	3						
						14			17	2					
R	遠位部			4	1		1	7							
				13		2	21	2	1	4					
L	尺骨	L	遠位部			4	3	1	4	5					
						6		1	8	2		10			
R	近位部			1				2							
				1	1	2	4	1		9					
L	腕骨	L	遠位部					1							
						15	1		4			6			
R	近位部			17				4			5				
				1											
L	大腸骨	L	遠位部			3	1	2	3	2					
						1		1	3						
R	近位部			2	1			1	1						
L	膝蓋骨	L	完存					1							
						2			1						
R	近位部			8	3			7	1						
L	脛骨	L	完存			3	1	1	1	1		1			
						11	1		13	1		2			
R	近位部					2		3							
L	腓骨	L	完存			8	2	13	8	3	1	7			
						6	5	5	6	8	1		8		
R	近位部			16		18		11	1		104				
				19		12		12	1	1	23				
L	中手骨	L	遠位部			8		1							
						14	1		2						
R	近位部			12	2			3							
L	中足骨	L	完存			6									
						1									
R	近位部			7											
				7	5	2									
L	中手・足骨	L	完存					17	10		36				
								56	2	1		17			
R	近位部			2	6	14		33	13		10				
L	趾骨	L	完存			3		4	10	1	7				
						2	1		2	1					
R	近位部			19	10	15		3	21		14				
				10		4		1			4				
L	趾骨	L	完存			37	1	36	36	3	21				
						21	1	41	52	11	3	28			
R	近位部			13	17	16	3	1			20				
計				442 (♂23)	59	4	309 (♂94)	558(♂17)	4	218	31	919(♂1)	3)	15	25678

※ 肋骨は肋骨頭、椎骨は椎体が半分以上残存するものを集計の対象とした。

※ 鹿骸骨片には、各部位の破片や四肢骨末端・骨幹部が含まれる

表4-1 イノシシ上顎骨一覧 表4-2 イノシシ上顎骨一覧 表5-1 イノシシ下顎骨一覧

LR	年齢	歯式
L	幼獣	(m4M1)
		(m4M1)
(m4)		
(m4)		
(m4M1)		
(× M1)		
M1)		
(× m2m3m4 ×)		
(× m3m4M1)		
切歯骨		
若獣	(× P234M1 M2 ×)	
	(P34M123)	
	(× P4M1M2)	
	(P4M123)	
	(P4M12)	
	(M123)	
	(M123)	
	(M1M2 ×)	
	(M12)	
	(M2M3)	
	(M2 ×)	
	(M3)	
	(P2)	
	(M3)	
	成獣	(P34M123)
		(× P4M1M2M3)
		(P4M123)
		(× M123)
		(× M123)
		(× M123)
		(M123)
(M123)		
(× M2M3)		
(× M23)		
(M23)		
(M23)		
(M3)		
(M3)		
(M3)		
(M12)		
(× M2)		
(P4M12)		
(P4M12)		
(P4M1)		
(× P34)		
(P34)		
(P34)		
(× P23)		
(× P2)		
(P4)		
(P3 ×)		
(P234)		
(× P4)		
(M12)		
(× M1M2 ×)		
(M2M3)		
(× M1M2 ×)		
(× P4M1)		
(× P4M1)		

LR	年齢	歯式
R	幼獣	(m34)
		(m34)
(m4)		
(M)		
(m4M1)		
(m4M1)		
若獣		(× P234M123)
		(P3P4M1M2 ×)
		(× P4M1M2 ×)
		(P4M123)
	(P4M123)	
	(P4M123)	
	(P4M123)	
	(× M123)	
	(M123)	
	(M23)	
	(P34M12)	
	(P4M1M2 ×)	
	(P4M1M2 ×)	
	(× M1M2)	
	(× M1M2 ×)	
	(P4M12)	
	(P4M12)	
	(× M2 ×)	
	(M12)	
	(P4M1)	
	(M2)	
(× P4M1)		
(× × P3)		
(P4)		
成獣	(P234M123)	
	(P34M123)	
	(P234M1)	
	(M123)	
	(M23)	
	(M23)	
	(M12)	
	(× P34M1)	
	(P4M12)	
	(M12 ×)	
	(× M1)	
	(M3)	
	(M3)	
	(M3)	
	(× × × × × M2 ×)	
	(M123)	
	(× M2M3)	
	(× M2M3)	
	(× M3)	
	(× M3)	
	(M3)	
	(M3)	
	(P4M1)	
	(× P234)	
(× × P23 ×)		
(× P3)		
(P4 ×)		
老獣	(M123)	
成獣	(P4M1 ×)	

LR	年齢	歯式	
LR	若獣	L : (× × × × × P3 × × M23)	
		R : (× × × × C × × P4M123)	
成獣		L : (× 12 ×)	
		R : (11 × × C × × × × ×) (連合部)	
		♀ L : (112 × C × P234M12)	
		R : (112 × C × P234M1)	
		♀ L : (112 × C × P234) (連合部)	
		♀ R : (112 × C × P234)	
		♂ L : (112 × C × × × × ×)	
		♂ R : (× 12 × C)	
	L : (112 × × × × P34M1 ×)		
	R : (112 × × × P1234M12)		
L	幼獣	(× 12 × × × m234M1)	
		(m4M1)	
		(m4M1)	
		(m2m3m4M1)	
		(M1)	
		若獣	(× Cm34M12)
			(× M123)
			(× M23)
			(× M2M3)
			(× P4 ×)
	(M23)		
	(M23)		
	(M12 ×)		
	(M3)		
	(M3)		
	成獣		(P234M123)
			(P234M1 ×)
			(P234)
			(× P34M1)
		(M3)	
		(× × × × × M2 ×)	
		(M123)	
		(× M2M3)	
		(× M2M3)	
(× M3)			
(× M3)			
(M3)			
(M3)			
(P4M1)			
(× P234)			
(× × P23 ×)			
(× P3)			
(P4 ×)			

表5-2 イノシシ下顎骨一覽

LR	年齢	歯式	
R	幼獣	(× m4M1)	
		(m2m3m4M1)	
		(m2m3m4M1)	
		(i12 × × × m234M1)	
		(M12)	
		(× M12)	
	若獣	(M1)	
		(× m3m4M1)	
		(P234M123)	
		(P4M123)	
		(M23)	
		(M23)	
		(P4M1M2)	
		(× M1M2)	
		(× × P4M1 ×)	
		(× M2 ×)	
		(P4M12)	
		(P4M1)	
		(× P3 ×)	
		(M2)	
		(× M123)	
		成獣	(P234M123)
			♂ (× × × × × M12)
			(P234M1)
			(P34M12)
			(M123)
			(M123)
			(M23)
			(M23)
			(× M2M3)
	(× M1M2 ×)		
	(M12)		
	(× M3)		
	(× M3)		
	(M3)		
	(M3)		
	(P4M1)		
	(i2 × C × × P34)		
	(× P4)		
	(M1)		
	(M2)		
	(P4)		
♂ (C ~ P4) 歯脱落			
♀ (C ~ M1) 歯脱落			
(× M3)			
(× P2P3)			
(× M1M2)			
(P2P3 ×)			
(× P3P4)			
(P234M1)			
(i1 ~ M1) 歯脱落			
(M2 ×)			
(× M3)			
(× M2)			

表6 シカ・イノシシ上・下顎遊離歯

		シカ						イノシシ								
		L			R			L			R					
		幼	若	成	幼	若	成	幼	若	成	幼	若	成			
上顎遊離歯	i1							2			3	1				
	i2							1	1		2					
	i3										2					
	m2								1							
	m3	2			1			4	4		5					
	m4	3			5	1		7	1		4	5				
	I1						1	8	13		2	7	13			
	I2								1	7		3	8			
	I3										6		4			
	C	♂									10		3	7		
		♀							2	3				9		
	P1								1	4				6		
	P2			4	7		1	3	2	3	3		3	6		
	P3			3	7		3	6		2	7		5	8		
	P4			3	6		4	2		3	7		5	7		
	M1			8	8		3	9	1	5	10	2	2	4		
	M2			4	13		4	12	2	13	20	2	6	9		
	M3			2	5		1	7		23	14		12	14		
	下顎遊離歯	i1							2			4				
		i2								11		9	1			
		i3														
		m2								1		2				
		m3	3			1				2		1				
		m4	3			1				7		9	1			
I1				1	4		4	1	7	11		7	16			
I2				1	2		2		13	14		6	11			
I3									1	7			5			
C		♂									4	8		4	6	
		♀									2	6		1	5	
P1											1	1		1	4	
P2											2	8		2	6	
P3					2		1	2				8		1	9	
P4				2	3		2	3				4	13		4	8
M1				1	3	1	1	3	4	2	5	8	2	5	6	
M2				2	10		5	11	2	6	8	2	5	16		
M3				2	8		2	7		8	10		6	10		

表7 シカ上・下顎骨一覧

部位	LR	年齢	形式
上顎骨	L	若獣	(M23)
		成獣	(M23)
			(P34)
			M1 ? 後部破損
		(M23)	
	(P23)		
	R	成獣	(× P34)
	(P4M123)		
	(P23 ×)		
	下顎骨	L	幼獣
(× × P234M1 ×)			
(× M1)			
若獣			(× P3 × × ×)
(P4M123)			
成獣			(P234M123)
			(M23)
			(P234)
			(× P4 × M2)
			(P234M123)
			(P34M123)
			(P234M123)
			(× × P4M123)
			(× M23)
			(× M3)
R		幼獣	(× m4)
(m34M1)			
若獣		(P234M123)	
(× m34M1 (2))			
成獣		(M3)	
		(M2)	
		(P234M123)	
		(M23)	
		(× × P4M123)	
		(P234M123)	
		(P34M12)	
		(× P34M123)	
		(P4M12)	
		(P4M123)	
		(× P34M1)	
	(M123)		
	(× P34M123)		
	(× M23)		

表8 上境旭台貝塚出土の鳥

種類	部位	LR	残存部分	遺構番号
カモ類 (中小)	脛骨	L	遠位部	第2号焼成遺構
カモ類 (中)	中手骨	L	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	遠位部	第2号焼成遺構
	中手骨	L	近位部	第1号貝層
カモ類 (大)	上腕骨	L	近位部	西部包含層
	上腕骨	L	近位部	西部包含層
	鳥口骨	R	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	L	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	L	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	骨幹部破片	第2号焼成遺構
	上腕骨	L	遠位部	第1号貝層
カモ類	鳥口骨	R	近位部	第1号貝層
ヒシクイ	鳥口骨	R	近位部	第1号貝層
キジ	脛骨	R	完全	東部包含層
	上腕骨	R	遠位部	東部包含層
	脛骨	L	遠位部	東部包含層
	中手骨	L	近位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	遠位部	第2号焼成遺構
ウミウ	鳥口骨	L	近位部	第1号貝層
	鳥口骨	L	遠位部	第2号焼成遺構
トリ大型	脛骨		中間部	第2号焼成遺構
	指骨		遠位部	第1号貝層
	四肢骨		破片	第1号貝層
	四肢骨		破片	第1号貝層
トリ	中手骨	L	遠位端	西部包含層
	四肢骨		破片	西部包含層
	鳥口骨	R	遠位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	遠位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	遠位部	第2号焼成遺構
	中手骨	R	遠位部	第1号貝層
	中手骨		骨幹部	第1号貝層
			破片	西部包含層
			破片	西部包含層

表9 上境旭台貝塚出土その他陸獣

種類	部位	LR	残存部分	年齢	遺構番号
サルゴ	下顎道線歯	R	Cゴ	老獣	第1号貝層
ウサギ	大頰骨	R	骨幹部	成獣	東部包含層
イモヤブネコ	大頰骨	R	骨幹部	成獣	西部包含層
	脛骨	R	遠位部・骨幹部	成獣	西部包含層
	距骨	R		成獣	第5号住居跡
タヌキ	上顎道線歯	R	C		東部包含層
	大頰骨	R	中間		東部包含層
	橈骨	L	遠位部	成獣	第2号焼成道構
	上顎道線歯	L	M1	成獣	第1号貝層
	下顎骨	R	下顎体・歯は脱落	成獣	第1号貝層
	橈骨	L	遠位部	成獣	第1号貝層
	基趾骨				第1号貝層
カワウソ	下顎骨	L	(CP24)	成獣	第4号ピット群
テン	上顎骨	R	(P4)	成獣	第2号焼成道構
	下顎骨	L		成獣	第2号焼成道構
	下顎骨	R		成獣	第2号焼成道構
	上顎道線歯	R	C	成獣	第2号焼成道構
	上頰骨	R	遠位部	成獣	第1号貝層
	尺骨	R		成獣	第1号貝層
モグワ	上頰骨	L			第1号貝層
小型獣	肩甲骨				西部包含層
	基趾骨			成獣	西部包含層
	大頰骨		破片		東部包含層
	椎骨		4点		東部包含層
	椎骨				第4号ピット群
	椎骨				第2号焼成道構
	頭椎		2点	成獣	第1号貝層
	腰椎?				第1号貝層
	椎骨				第1号貝層
	基趾骨				第1号貝層
イヌ	大頰骨	R	骨幹部	幼獣	西部包含層
	上頰骨	L	(××P4××)	若獣	第110号土坑
	下顎骨	L	(×××□×P4×M2×)	若獣	第110号土坑
	寛骨	L		若獣	第110号土坑
	寛骨	R		若獣	第110号土坑
	大頰骨	L	近位部	若獣	第110号土坑
	大頰骨	R	近位部	若獣	第110号土坑
	仙骨				第110号土坑
	上顎道線歯	R	C		第1号貝層
	尺骨	L	近位部		第1号貝層
	尺骨	R	中間部		第1号貝層
	橈骨	R	遠位部		第1号貝層
	脛骨	L	骨幹部		第1号貝層
ウマ	下顎道線歯	R	P3またはP4	成獣	西部包含層

表10 上境旭台貝塚出土土人骨

遺構番号	部位	LR	残存部分	年齢	
西部包含層	四肢骨		破片	胎児	
	東部包含層	大頰骨	L	骨幹部	成人
		大頰骨	L	中間部	成人
		大頰骨?		遠位部破片	
		頭蓋骨	L		成人
		頭蓋骨	L		成人
		脛骨	L		成人
		脛骨	L	骨幹部	成人
		腓骨	L	骨幹部	成人
		腓骨	L		成人
中手・中足骨					
指骨		近位部	成人		
四肢骨		破片 20点			
骨片		2点			
骨片					
表土	頭蓋骨		破片		
	大頰骨		遠位部破片	成人	
	大頰骨		骨幹部破片		
	四肢骨		骨幹部破片		
	第4号ピット群	脛骨	R	遠位部	成人
		脛骨	L	遠位部	成人
腓骨		R	遠位部	成人	
踵骨		R		成人	
踵骨		L		成人	
踵骨		R		成人	
距骨		L		成人	
足根骨			2点	成人	
足根骨			9点	成人	
中足骨		R		成人	
中足骨	L	7点	成人		
指骨		遠位部	成人		
第5号住居跡	下顎骨	R		成人	
第1号貝層	頭蓋骨		破片		
	上顎道線歯	L	M2	成人	
	下顎道線歯	R	M3	成人	
	大頰骨		骨幹部	成人	



写真1. イノシシ

1:上顎骨 2・3:下顎骨 4:館椎 5:上腕骨 6:尺骨 7:橈骨 8:踵骨 9:距骨
(1・5・7～9は右側、2・6は左側)

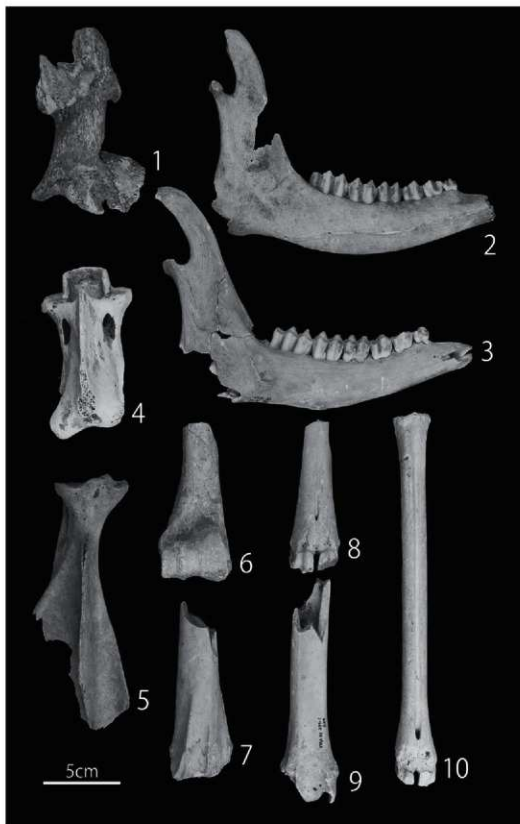


写真2. シカ

1:角と頭蓋骨 2・3:下顎骨 4:軸椎 5:肩甲骨 6:上腕骨 7:橈骨 8:中手骨
9:脛骨 10:中足骨(1・2・5・7・10は左側 3・6・8・9は右側)



写真3. オオヤマネコ

1:大腿骨右側 2:脛骨右側 3:距骨右側



写真4. 小型獣

1・2:テン下顎骨 3:カワウソ 4:テン上腕骨 5:テン尺骨 6:タヌキ橈骨 7:ウサギ大腿骨
 8~17:イヌ(8~10:頭蓋骨 11:上顎骨 12:下顎骨 13:仙椎 14・15:寛骨 16・17:大腿骨)
 (1・3・6・11・12・15・17は左側 2・4・5・7・14・16:右側)



写真5. 人骨

1:下顎骨 2:脛骨? 3:腓骨 4・5:大腿骨 6:脛骨 7:腓骨 8:大腿骨 9:踵骨 10:距骨 11:腓骨
 12:脛骨(1・6・10は右側、9・12は左側)

写 真 图 版



上境旭台貝塚出土土器



B·D区完掘状况



第3·4号住居跡
遺物出土状况



第3·4号住居跡
完掘状况

PL2



第5号住居跡
完掘状況



第8号住居跡
完掘状況



第12号住居跡
完掘状況



第5号住居跡P18 遺物出土状況



第108号土坑 遺物出土状況



第110号土坑 遺物出土状況



第128号土坑 完掘状況



第129号土坑 遺物出土状況



第129号土坑 完掘状況



第188号土坑 遺物出土状況



第4号ピット群P27 人骨出土状況

PL4



第1号貝層断面
(F4j4付近南西から)



第1号貝層
第122号土坑断面
(F4j3付近西から)



第1号貝層(Ⅰ-③層)
遺物出土状況



B 区 貝 層
確 認 状 況
(南 西 か ら)



第 2 号 焼 成 遺 構
確 認 状 況
(西 か ら)



第 2 号 焼 成 遺 構
土 層 断 面
(南 東 か ら)



第1号貝層（Ⅱ層）鹿角出土状況



西部包含層 遺物出土状況（F3i8付近）



西部包含層A層 遺物出土状況（F3h7付近）



西部包含層B層 遺物出土状況（F3h8付近）



東部包含層 遺物出土状況（F4j3付近）



東部包含層 遺物出土状況（F4g1付近）



東部包含層 遺物出土状況（F3h0付近）



東部包含層 遺物出土状況（F4i1付近）





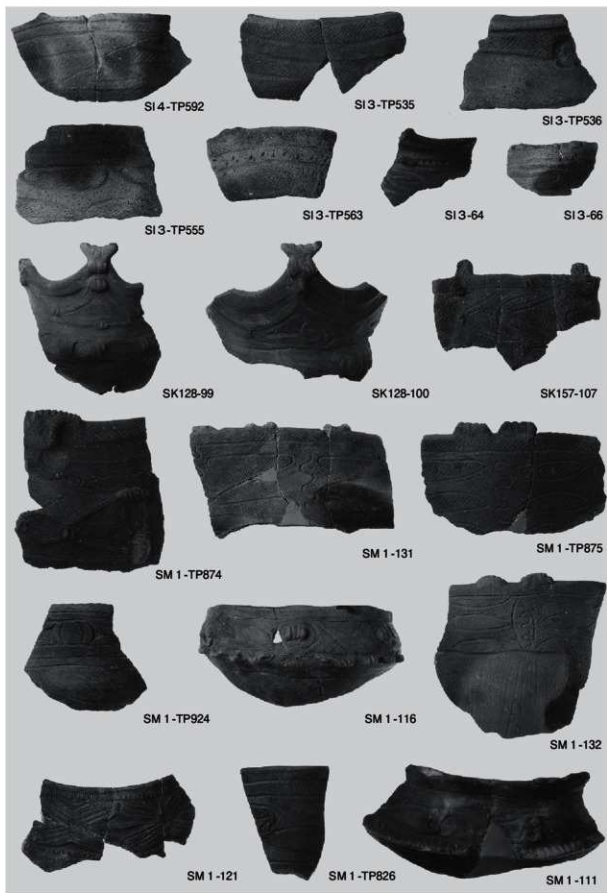
第110号土坑，第4号ピット群，第1号貝層，西部包含層，遺物集中地点出土土器



第12号住居跡，第1号貝層，東部包含層，西部包含層，遺物集中地点，第2号焼成遺構出土土器



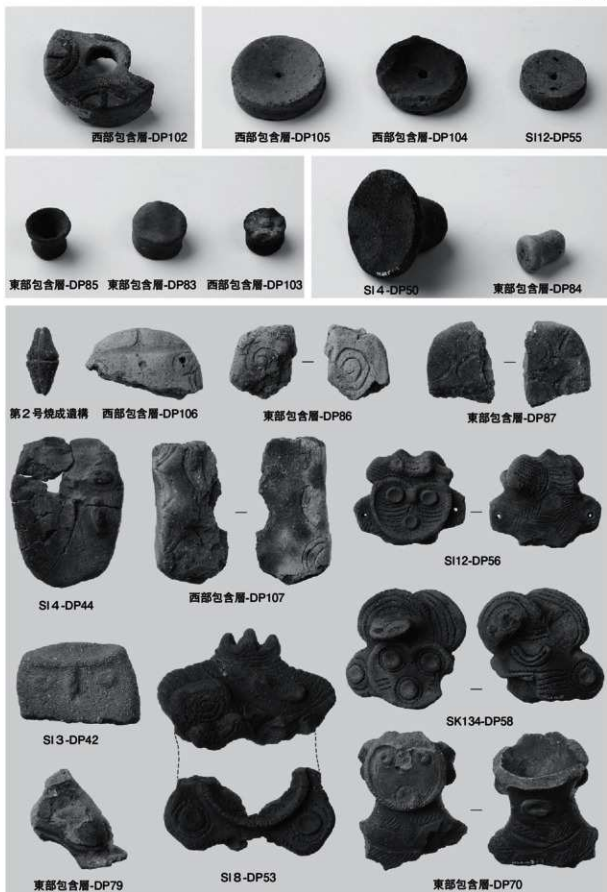
第12号住居跡，第128号土坑，東部包含層，西部包含層，遺物集中地点，第2号烧成遺構出土土器



第3・4号住居跡，第128・157号土坑，第1号貝層出土土器



第1号貝層，東部包含層，西部包含層出土土器



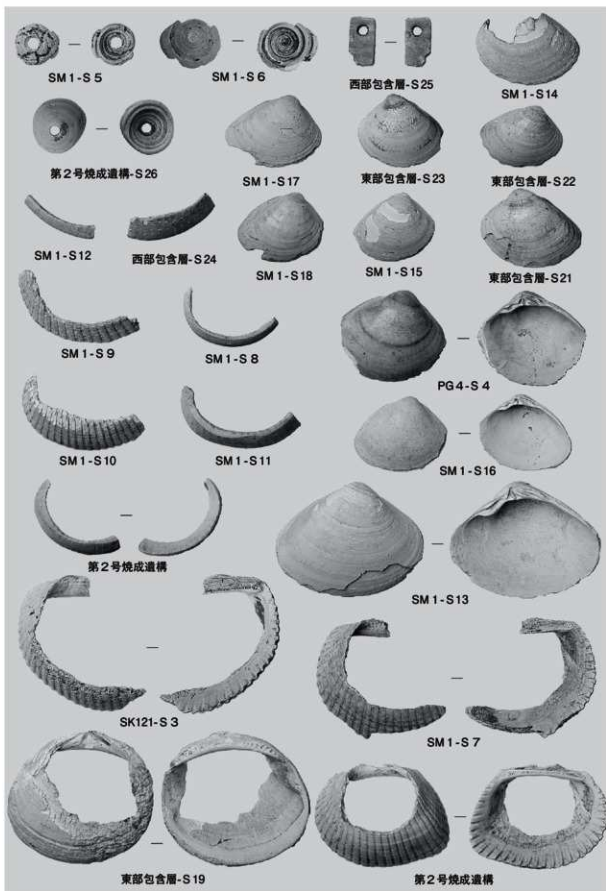
第3・4・8・12号住居跡，第134号土坑，東部包含層，西部包含層，第2号焼成遺構出土土製品



第3・12号住居跡，第133・135・157号土坑，第1号貝層，東部包含層，西部包含層，第2号烧成遺構
出土土製品・石器



第3号住居跡，第188号土坑，第1号貝層，東部包含層，遺物集中地点，第2号焼成遺構出土石器・石製品・骨角製品



第121号土坑，第4号ピット群，第1号貝層，東部包含層，西部包含層，第2号焼成遺構出土製品

抄 録

ふりがな	かみざかいあさひだいかいづか							
書名	上境旭台貝塚2							
副書名	中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅴ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第364集							
著者名	江原美奈子							
編集機関	財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310 - 0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2012(平成24)年3月16日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査積	調査原因
上境旭台 貝塚	茨城県つくば市栄 字見沙門439番地の 1ほか	08220 - 093	36度 6分 26秒	140度 7分 35秒	24 ~ 27m	20091001 ~ 20091231	2,898 m ²	中根・金田台 特定土地区画 整理事業に伴 う事前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上境旭台 貝塚	貝塚	縄文	2か所		縄文土器、土製品(耳飾り・土偶・土版・土器片円盤)、石器(石鏃・石錐・磨製石斧・打製石斧・敲石・凹石・石皿・磨石・石錘)、石製品(勾玉・小玉・石棒・石剣)、骨角製品(ヤス・ヘアピン)、貝製品(貝輪・貝刃・イモガイ製装身具)		第4号ピット群P27から人骨が出土しており、墓坑の可能性はある。	
	集落跡	縄文	竪穴住居跡	5軒	土師質土器(小皿・鍋類)、陶器(碗・甕)		第1号貝層、東部包含層から人骨片が出土しており、埋葬人骨の可能性はある。	
			炉跡	2基				
			墓坑	1基				
			粘土採掘坑	1か所				
			土坑	78基				
			流路跡	1条				
			ピット群	2か所				
			遺物包含層	1か所				
			焼成遺構	1か所				
		中世	井戸跡	1基				
		近世	粘土採掘坑	1か所				
要約	今回の調査では、調査区北東部の台地上で、縄文時代後期後葉から晩期中葉の竪穴住居跡や土坑などの集落跡が、斜面部では貝層2か所と遺物包含層が確認できた。貝層はヤマトシジミを主体とするもので、後期後葉から晩期前葉の多量の遺物のほか、埋葬されたと推測できる人骨も出土している。第2号貝層下では、焼土と灰層が広がる焼成遺構が確認できた。また、貝層や遺物包含層を掘り込んでいる竪穴住居跡や土坑が確認でき、台地上のみでなく台地斜面部への集落の展開が確認できた。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack 1
	編集	Adobe InDesign CS4・5
	図版作成	Adobe Illustrator CS4
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON ES-1000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第364集

上境旭台貝塚2

中根・金田台特定土地地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書XV

平成24(2012)年 3月14日 印刷

平成24(2012)年 3月16日 発行

発行 財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505